

活用編 もくじ

活用編 もくじ.....	1
はじめに	8

1章 使いはじめる前に..... 13

1 Windows 10の操作について	14
1 タブレットモードについて	14
2 スタートメニューについて	15
3 アクション センターについて.....	18
4 Windowsの操作でわからないことがあったら	19
2 「東芝サービスステーション」について.....	20
3 Windowsセットアップが終了したら	23
4 リカバリーメディアを作る – TOSHIBA Recovery Media Creator –	24
5 前のパソコンのデータを移行する – PC引越ナビ [®] –	29

2章 本製品の基本操作を覚えよう..... 35

1 電源を入れる／切る	36
1 電源コードとACアダプターを接続する	36
2 電源を入れる	38
3 電源を切る	40
4 再起動	43
5 スリープ.....	44
6 休止状態.....	48
7 簡単に電源を切る／本製品の使用を中断する.....	48
2 タッチ操作する	49
1 指でタッチして操作する.....	49
2 タッチキーボードについて	52

3	SSD	56
4	画面を調整する – ディスプレー	57
	1 画面の明るさを調整する	57
	2 画面の向きを設定する	58
5	サウンド	59
	1 スピーカーの音量を調整する	59
6	microSD メモリカードを使う – SD カードスロット	61
	1 使える microSD メモリカードについて	61
	2 カードのセットと取り出し	62
7	ペンを使う	65

3章 インターネットやネットワークに接続する..... 69

1	ネットワークで広がる世界	70
	1 LAN 接続はこんなに便利	70
2	無線 LAN を使う	71
	1 無線 LAN 機能を ON にする	71
	2 無線 LAN を設定する	72

4章 周辺機器を使って機能を広げよう 75

1	周辺機器を使う前に	76
2	USB 対応機器を使う	77
	1 USB の常時給電と高速充電	78
	2 USB 対応機器の取り付け／取りはずし	81
3	テレビや外部ディスプレイを接続する	83
	1 HDMI [®] ケーブルで接続する／取りはずす	83
	2 HDMI [®] ケーブルで接続時に表示を切り替える	86

4	マイクやヘッドホンを使う	89
1	マイク入力/ヘッドホン出力端子	89
2	マイクを使う	91
3	ヘッドホンを使う	92
4	マイク/ヘッドホンを選択する	93
5	Bluetooth[®]機能を使う	94

5章 バッテリー駆動で使う 97

1	バッテリーについて	98
1	バッテリー充電量を確認する	99
2	バッテリーを充電する	101

6章 キーボードドックを使用する 105

1	電源を入れる	106
1	電源コードとACアダプターを接続する	106
2	電源を入れる	108
2	タッチパッド	110
1	タッチパッドで操作する	110
3	キーボード	114
4	キーボードドックでUSB対応機器を使う	118
1	USB対応機器の取り付け/取りはずし	119
5	セカンドバッテリーについて	120
1	セカンドバッテリー充電量を確認する	121
2	セカンドバッテリーを充電する	123
6	キーボードドックにテレビや外部ディスプレイを接続する ...	125
7	有線LANで接続する	129

7章 アプリケーション..... 131

- 1 ウイルスバスター クラウド™を使う** 132
 - 1** ウイルスバスター クラウド™でウイルスをチェックする 134
 - 2** ウイルスバスター クラウド™のいろいろな機能 135
- 2 i-フィルター® 6.0を使う** 136
- 3 Microsoftアカウントについて** 138
- 4 インターネット上のサービスでバックアップする
ーバックアップナビ クラウドー** 140
- 5 Windowsのカメラ機能で撮影する** 141
- 6 Skypeで通話する** 142
- 7 映像、音楽、写真を再生する** 143
 - 1** TOSHIBA Media Player by sMedio TrueLink+で見る 143
 - 2** CyberLink Screen Recorder for TOSHIBAで録画する 144
 - 3** sMedio TrueLink+ Phoneを使う 145
 - 4** 思い出フォトビューアで写真を見る 146
- 8 録画したテレビ番組などを本製品で楽しむ** 148
 - 1** CyberLink SeeQVault Playerで見る 148
 - 2** TVコネクトスイートを使う 149
- 9 本製品の画面をテレビ／外部ディスプレイに
ワイヤレスで表示する** 151
- 10 スマートフォン／タブレットの
画面を本製品に表示する** 152
- 11 省電力の設定をする** 154
 - 1** 電源オプション 154
 - 2** TOSHIBA ecoユーティリティ 156
 - 3** ディスプレイ省電テクノロジー 158
- 12 本製品の動作状況を監視し、記録する** 159

13	サウンドを調整する	163
1	SmartAudio	163
2	DTS Studio Sound	164
14	デジタルメモを残す	165
1	撮影したホワイトボードの画像を補正する	165
2	手書きメモを作成する	166
3	手書きノートを共有する	167
4	音声を録音して確認する	168
15	アプリケーションを追加／削除する	169
1	アプリケーションの追加	169
2	アプリケーションの削除	170

8章 システム環境を設定する 173

1	パスワードセキュリティ	174
1	ユーザーパスワード	176
2	スーパーバイザーパスワード	187
3	パスワードの入力	190
4	HDDパスワード	191
2	起動ドライブの変更	196
3	東芝システムセッティング	197
4	BIOS セットアップを使う	198
1	起動と終了／BIOS セットアップの操作	199
2	設定項目	201
5	TPM を使う	215
6	Windows サインインを補助する	216
1	ペンで簡単にサインインする - 東芝サインログオン -	216

9章 本製品の動作がおかしいときは..... 219

1	トラブルを解消するまでの流れ	220
1	トラブルの原因をつき止めよう.....	220
2	トラブル対処法.....	221
2	「詳細オプション」で調べる	223
3	Q&A集	224
1	電源.....	227
2	画面／表示.....	228
3	システム／SSD.....	231
4	キーボード.....	233
5	タッチパネル	237
6	タッチパッド	238
7	サウンド.....	239
8	インターネット接続	241
9	インターネット閲覧	242
10	通信機能.....	243
11	microSDメモ리카ード	245
12	USB対応機器	246
13	TPM	248
14	メッセージ.....	248
15	その他	249
4	初期状態に戻した（リカバリー）あとの Windowsセットアップ.....	254

付録 263

1	お問い合わせ先 – OS／アプリケーション–	264
1	OSのお問い合わせ先.....	264
2	アプリケーションのお問い合わせ先	265
2	デイリーケアとアフターケア.....	269
3	お客様登録の手続き	276
1	東芝ID（TID）お客様登録のお願い	276

4	捨てるとき／人に譲るとき	278
5	ご使用にあたってのお願い	280
6	記録メディアについて	291
	1 microSD メモリカードを使うにあたって	291
	2 記録メディアの廃棄・譲渡について	292
7	CyberLink SeeQVault Player の使用にあたって	293
8	TOSHIBA Media Player by sMedio TrueLink+ の 使用にあたって	295
9	メディア／SSD への書き出し	297
10	各インターフェースの仕様	298
11	技術基準適合について	304
12	外形寸法図／仕様	307
13	無線 LAN／Bluetooth® について	308
14	BIOS について	320

はじめに

本書は、次の決まりに従って書かれています。

1 記載について

- 記載内容によっては、一部のモデルにのみ該当する項目があります。その場合は、「用語について」のモデル分けに準じて、「***モデルの場合」や「***シリーズのみ」などのように注記します。
- インターネット接続については、ブロードバンド接続を前提に説明しています。
- アプリケーションについては、本製品にプレインストールまたは本体のSSDや付属のCD/DVDからインストールしたバージョンを使用することを前提に説明しています。
- 本書に記載している画面やイラストは一部省略したり、実際の表示とは異なる場合があります。
- 本書では、コントロールパネルの操作方法について表示方法を「カテゴリ」に設定していることを前提に説明しています。表示方法が「大きいアイコン」または「小さいアイコン」になっている場合は、「カテゴリ」に切り替えてから操作説明を確認してください。
- 本書は、語尾をのぼすカタカナ語の表記において、語尾に長音（ー）を適用しています。画面の表示と異なる場合がありますが、読み替えてご使用ください。
- 本書では、付属のペン*¹による操作と、指で画面に触れる操作を、どちらも「タップ」や「スワイプ」などと表現しています。

* 1 ペン付属モデルのみ

2 プロセッサ (CPU) に関するご注意

本製品に使用されているプロセッサ (CPU) の処理能力は次のような条件によって違いが現れます。

- 周辺機器を接続して本製品を使用する場合
- ACアダプターを接続せずバッテリー駆動にて本製品を使用する場合
- マルチメディアゲームや特殊効果を含む映像を本製品にてお楽しみの場合
- 本製品を通常の電話回線、もしくは低速度のネットワークに接続して使用する場合
- 複雑な造形に使用するソフト (たとえば、運用に高性能コンピューターが必要に設計されているデザイン用アプリケーションソフト) を本製品上で使用する場合
- 気圧が低い高所にて本製品を使用する場合
目安として、標高1,000メートル (3,280フィート) 以上をお考えください。
- 目安として、気温5~30℃ (高所の場合25℃) の範囲を超えるような外気温の状態では本製品を使用する場合

本製品のハードウェア構成に変更が生じる場合、CPUの処理能力が実際には仕様と異なる場合があります。

また、ある状況下においては、本製品は自動的にシャットダウンする場合があります。



これは、当社が推奨する設定、使用環境の範囲を超えた状態で本製品が使用された場合、お客様のデータの喪失、破損、本製品自体に対する損害の危険を減らすための通常の保護機能です。なお、このようにデータの喪失、破損の危険がありますので、必ず定期的にデータを外部記録機器にて保存してください。また、プロセッサが最適の処理能力を発揮するように、当社が推奨する状態にて本製品をご使用ください。

本製品には64ビットプロセッサおよび64ビットOSが搭載されております。32ビットのデバイスドライバーやアプリケーションは動作しません。

3 リリース情報について

「リリース情報」には、本製品を使用するうえでの注意事項などが記述されています。

必ずお読みください。次の操作を行うと表示されます。

- ① [スタート] ボタン () をタップする
- ② [すべてのアプリ] → [ はじめに] → [リリース情報] をタップする

4 [ユーザーアカウント制御] 画面について

操作の途中で [ユーザーアカウント制御] 画面が表示された場合は、そのメッセージを注意して読み、開始した操作の内容を確認してから、画面の指示に従って操作してください。パスワードの入力を求められた場合は、管理者アカウントのパスワードで認証を行ってください。

5 環境依存文字について

- ユーザーアカウント名やフォルダー名に環境依存文字が含まれていると、ファイルの読み込みや保存などが正常に動作しないことがあります。
- コンピューター名に環境依存文字が含まれていると、アプリケーションが起動しないなど、正常に動作しないことがあります。
- ファイル名やファイル内の文字列に環境依存文字が含まれていると、ファイル名が「?」などのように正しく表示されず、正常に動作しないことがあります。
- アプリケーション上でファイルの編集集中に入力した文字列に環境依存文字が含まれていると、作成したファイル上で正しく表示されないことがあります。

このような場合には、環境依存文字を含まない文字列に変更してください。

microSDメモ리카ードなどの記録メディアにデータを書き込むときは、環境依存文字が含まれていないことをあらかじめ確認してから作業を行ってください。

6 電源を切った状態での操作について

一部の操作は、電源を切った状態で行うため、本マニュアルを参照しながら操作することはできません。

必要に応じて、本書の該当ページを印刷してから操作してください。


7 「Office」のライセンス認証について

* Office搭載モデルのみ

- Office Home & Business Premium プラス Office 365 サービス、またはOffice Personal Premium プラス Office 365 サービスを使用するには、Windowsのセットアップ後、インターネットに接続して、ライセンス認証を行ってください。
ライセンス認証には、プロダクトキーとMicrosoftアカウントが必要です。
プロダクトキーは、付属の「Office」のパッケージを確認してください。
Microsoftアカウントをお持ちでない場合は、あらかじめ取得しておいてください。

参照 ▶ 「7章 3 Microsoftアカウントについて」

- Office Home & Business 2016、またはOffice Personal 2016を使用するには、Windowsのセットアップ後、インターネットに接続して、ライセンス認証を行ってください。
ライセンス認証には、プロダクトキーが必要です。
プロダクトキーは、付属の「Office」のパッケージを確認してください。

- ① インターネットに接続し、[スタート] ボタン () → [すべてのアプリ] をタップする
- ② 「Excel」や「Word」など「Office」のいずれかのソフトをタップする
以降は、画面の指示に従ってください。

8 映像／音楽関連の機能を使用するにあたって

□映像を扱うアプリケーションについて

映像を扱うアプリケーションの使用中に、スリープ／休止状態への移行を行わないようにしてください。

エラーメッセージが表示されたり、アプリケーションが終了したりする場合があります。

その場合は、使用したいアプリケーションを再度起動してください。

9 H.264/AVC, VC-1 and MPEG-4ライセンスについて

本製品は、AVC、VC-1、MPEG-4 VISUAL 規格特許ライセンスのもとで、個人的利用および非商業利用目的に限り、お客様が以下のいずれか、または両方の使用を行うことが許諾されています。(i) AVC、VC-1、MPEG-4 VISUAL 標準規格に従いビデオをエンコードすること（以下「AVCビデオ」、「VC-1ビデオ」、「MPEG-4ビデオ」という）、(ii) 個人的、非商業的行為においてお客様によりエンコードされた、または／およびAVCビデオ、VC-1ビデオ、MPEG-4ビデオを提供するためにMPEG LAからライセンスを受けたビデオ提供者から取得した、AVCビデオ、VC-1ビデオ、MPEG-4ビデオをデコードすること。ほかの使用についてはライセンスを許諾されていません。上記以外の販売、社内利用および商業的利用など利用／許諾に関する情報については、MPEG LAのHP (<http://www.mpegla.com>) より入手いただけます。

● H.264/AVC, VC-1 and MPEG-4 License Notice

THIS PRODUCT IS LICENSED UNDER THE AVC, THE VC-1 AND MPEG-4 VISUAL PATENT PORTFOLIO LICENSE FOR THE PERSONAL AND NON-COMMERCIAL USE OF A CONSUMER FOR (i)ENCODING VIDEO IN COMPLIANCE WITH THE ABOVE STANDARDS ("VIDEO") AND/OR (ii)DECODING AVC, VC-1AND MPEG-4 VIDEO THAT WAS ENCODED BY A CONSUMER ENGAGED IN A PERSONAL AND NON-COMMERCIAL ACTIVITY AND/OR WAS OBTAINED FROM A VIDEO PROVIDER LICENSED BY MPEG LA TO PROVIDE SUCH VIDEO. NO LICENSE IS GRANTED OR SHALL BE IMPLIED FOR ANY OTHER USE. ADDITIONAL INFORMATION INCLUDING THAT RELATING TO PROMOTIONAL, INTERNAL AND COMMERCIAL USES AND LICENSING MAY BE OBTAINED FROM MPEG LA,L.L.C. SEE <http://www.mpegla.com>

10 電子マニュアルについて


本製品の電子マニュアルには、『オンラインマニュアル』（本書）以外にも、モデルによって「動画で学ぶシリーズ」や「おたすけナビ」が搭載されています。

□ 動画で学ぶシリーズ

* 動画で学ぶシリーズ搭載モデルのみ

「動画で学ぶシリーズ」では、ぱらちゃんが、本製品を楽しむためのいろいろな機能を動画でわかりやすく紹介しています。

■ 起動方法


- ① [スタート] ボタン () をタップする
- ② [すべてのアプリ] → [動画で学ぶシリーズ] をタップする

□ おたすけナビ

* おたすけナビ搭載モデルのみ

「おたすけナビ」は、本製品に用意されているアプリケーションの中から、目的のアプリケーションをすばやく探し出し、直接起動することができます。やりたいことはわかっているけれど、どのアプリケーションを使えばよいかわからないときに便利な機能です。

■ 起動方法

- ① [スタート] ボタン () をタップする
- ② [すべてのアプリ] → [東芝おたすけナビ] をタップする

1 章

■ 使いはじめる前に

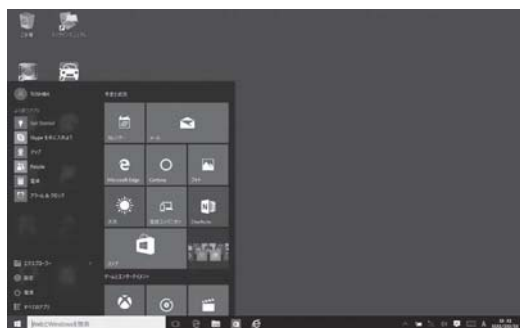
Windows セットアップ後に行うことや、リカバリーメディアの作成方法、前のパソコンで使っていたデータを移行する便利なソフト「PC引越ナビ[®]」について説明します。

1 タブレットモードについて

Windows 10では、「タブレットモード」がONかOFFかによって、表示される画面が異なります。

- タブレットモードが「ON」……タッチパネルの操作に適した表示になります。
- タブレットモードが「OFF」……マウスやキーボードでの操作に適した表示になります。

<タブレットモードが「OFF」の場合>



(表示例)

<タブレットモードが「ON」の場合>



(表示例)

本書では、タブレットモードが「OFF」であることを前提に説明しています。

1 タブレットモードのON/OFFを切り替える

1 通知領域の  アイコンをタップする

アクションセンターが表示されます。

2 [タブレットモード] () をタップして、ON/OFFを切り替える

[タブレットモード] をタップするたびに、ON/OFFが切り替わります。


ONになると、アイコンに色が付き、アクティブな状態になります。

OFFになると、アイコンがグレー表示になります。

 メモ

- キーボードドック付属モデルの場合、キーボードドックの接続の有無によって、自動的にタブレットモードのON/OFFを切り替えるかどうかを設定できます。

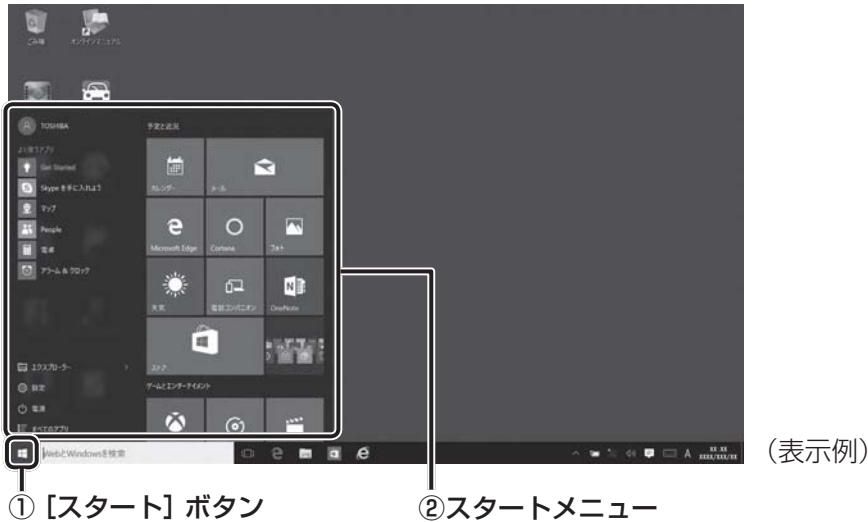
設定方法は次のとおりです。


- ① [スタート] ボタン () をタップする
- ② [設定] をタップする
- ③ [システム] → [タブレットモード] をタップする
- ④ [デバイスがタブレットモードのオンとオフを自動的に切り替えるとき] を設定する

2 スタートメニューについて



1 タブレットモードが「OFF」の場合

① [スタート] ボタンをタップすると、②スタートメニューが表示されます。



①	 ([スタート] ボタン)	タップするたびに、スタートメニューの表示／非表示が切り替わります。
②	スタートメニュー	よく使うアプリケーションのタイルや、メニューなどが集約されています。[すべてのアプリ] や、電源を切るときなどに使用する [電源] などのメニューも表示されます。

メモ

- キーボードの  キー*1 や本体の Windows ボタン () を押してもスタートメニューの表示／非表示を切り替えることができます。
*1 キーボードドック付属モデルのみ
- タスクバーに表示されているアプリケーションのボタンをタップしても、アプリケーションを切り替えることができます。

2 タブレットモードが「ON」の場合




アプリケーション画面が表示されている場合は、① [スタート] ボタンをタップすると、②スタートメニューが表示されます。

②スタートメニューが表示された状態で③ ≡ をタップすると、さらに詳細なメニューが表示されます。



1章

使いはじめる前に



①	 ([スタート] ボタン)	アプリケーションを起動している場合は、タップするたびに、スタートメニューの表示/非表示が切り替わります。
②	スタートメニュー	よく使うアプリケーションのタイルや、[すべてのアプリ] (≡)、電源を切るときなどに使用する [電源] (🔌) などのメニューが表示されています。
③		タップすると、さらに [設定]、[エクスプローラー] などのメニューが表示されます。
④	 ([タスク ビュー] ボタン)	タップすると、起動中のアプリケーションが一覧表示されます。起動中のアプリケーションの画面を切り替えることができます。

メモ

- アプリケーションを起動している場合は、キーボードの  キー*¹ や本体の Windows ボタン () を押してもスタートメニューの表示/非表示を切り替えることができます。

* 1 キーボードドック付属モデルのみ



役立つ操作集

タブレットモードが「ON」の状態でのアプリケーションの終了方法

ほとんどのアプリケーションの画面には、[閉じる] (X)*¹ ボタンがあり、タップするとアプリケーションが終了します。[閉じる] (X) ボタンが画面に表示されていない場合は、画面の上端から下に向かってスワイプしてください。[閉じる] (X) ボタンが表示されます。

* 1 アプリケーションによって、ボタンの形状は異なります。

タブレットモードが「ON」の状態、通知領域にすべてのアイコンを表示させるには


タスクバーを長押しし、表示されたメニューから [すべての通知アイコンを表示] をタップしてチェックを付けてください。

タブレットモードが「ON」の状態、タスクバーにアプリケーションのアイコンを表示させるにはタスクバーを長押しし、表示されたメニューから [アプリのアイコンを表示] をタップしてチェックを付けてください。

アプリケーションのアイコンが、タスクバーに表示されるようになります。

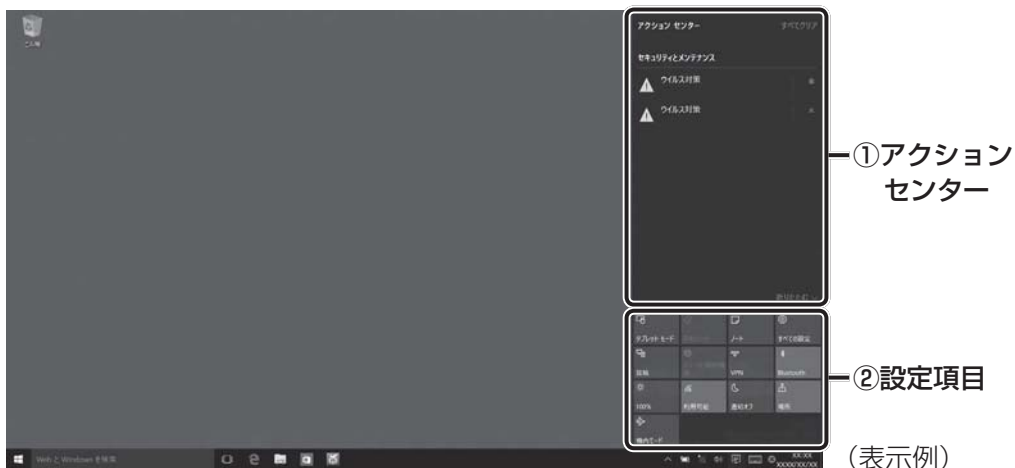
タスクバーのアプリケーションのアイコンをタップして、アプリケーションの画面を切り替えることができます。

3 アクションセンターについて

通知領域の  アイコンをタップすると、アクションセンターが表示されます。アクションセンターには、本製品に関するメッセージが一覧表示されます。アクションセンターの下側には、よく使う設定項目がまとめられています。

1章

使いはじめる前に



①	アクションセンター	本製品に関するメッセージが一覧表示されます。
②	設定項目	よく使う設定項目が配置されています。 設定がONの場合は、アイコンに色が付き、アクティブな状態になります。 設定がOFFの場合は、アイコンがグレー表示になります。

 メモ

- [折りたたむ] / [展開] をタップすると、設定項目の表示数を切り替えることができます。
[折りたたむ] をタップすると、一部の項目のみが表示されます。
[展開] をタップすると、すべての項目が表示されます。

4 Windowsの操作でわからないことがあったら

Windows 10の操作について調べるには、「Cortana」または「WebとWindowsを検索」を使用してください。

■ [Cortana] () で調べる

Cortanaは、さまざまな情報を検索できる機能です。

タスクバーの [Cortana] () ボタン、[WebとWindowsを検索] 画面の [Cortana] () ボタンなどから起動できます。

■ [WebとWindowsを検索] () で調べる

本製品に該当する名称の機能がある場合、代表的な項目が表示されます。

またインターネットに接続している場合は、インターネット上の情報を検索できます。

タスクバーには、  または [WebとWindowsを検索] 欄が表示されています。

① タスクバーに が表示されている ([WebとWindowsを検索] 欄が表示されていない) 場合は、 をタップする

[WebとWindowsを検索] 欄が表示されます。

② [WebとWindowsを検索] 欄に、検索したい文字列を入力する

[自分のコンテンツ] / [ウェブ] で、本製品内/インターネット上の検索を切り替えられます。




(表示例)

■ Windows について

Windowsの最新情報は次のホームページから確認できます。

URL : <http://www.microsoft.com/>



- 本書では、Windowsの操作について検索する方法として、[WebとWindowsを検索] () を用いて説明しています。

「東芝サービスステーション」(TOSHIBA Service Station) は、ソフトウェアのアップデートや重要なお知らせを自動的に提供するためのソフトウェアです。以降の説明をお読みのうえ、「東芝サービスステーション」を使用して、本製品を最新の状態に保つことを強くおすすめします。



メモ

- 「東芝サービスステーション」を使用するには、インターネットに接続できる環境が必要です。
- 「東芝サービスステーション」は、本製品に用意されているアプリケーション、ユーティリティ、ドライバーやBIOSのうち、一部についてアップデートをお知らせします。「あなたのdynabook.com」^{*1}や「dynabook.com」の「よくある質問 FAQ」やウイルス・セキュリティ情報と「Microsoft Update」などをあわせてご利用ください。


* 1 「あなたのdynabook.com」 対象モデルのみ

1 インストールと設定について

* 購入時の状態ではインストールされていないモデルのみ


モデルによっては、購入時の状態で「東芝サービスステーション」がインストールされていない場合があります。

「東芝サービスステーション」がインストールされているかどうかは、次の手順で確認できます。

- ① [スタート] ボタン () をタップする
 - ② [すべてのアプリ] → [TOSHIBA] をタップし、[Service Station] があるかどうかを確認する
- 「東芝サービスステーション」がインストールされていない場合は、次の手順でインストールと設定を行ってください。

インストール方法

「東芝サービスステーション」がインストールされていない場合は、次の手順でインストールしてください。

- 1 [スタート] ボタン () をタップする
- 2 [すべてのアプリ] → [アプリケーションの再インストール] をタップする
- 3 [セットアップ画面へ] をタップする
- 4 [ユーティリティ] タブをタップする
- 5 画面左側の [TOSHIBA Service Station] または [東芝サービスステーション] をタップし、[「TOSHIBA Service Station」のセットアップ] または [「東芝サービスステーション」のセットアップ] をタップする

6 表示されるメッセージに従ってインストールを行う

「XXXXXX（ファイル名）をXXXXXX（マシン名）から開きますか？」というメッセージが表示された場合は、[開く] ボタンをタップしてください。

設定方法

「東芝サービスステーション」がインストールされていない場合は、インストール後に次の手順で「東芝サービスステーション」を使用できるように設定してください。

このソフトウェアは本製品の識別情報などを当社のサーバーへ送信します。

使用できるように設定する前に、詳しい内容を説明した使用許諾書が表示されますので、よくお読みください。

1 [スタート] ボタン () をタップする

2 [すべてのアプリ] → [TOSHIBA] → [Service Station] をタップする

「東芝サービスステーション」が起動します。

初めて起動したときは、本ソフトウェアに関する詳しい説明（使用許諾書）が表示されます。

3 内容を確認し、[同意する] ボタンをタップする

使用許諾書に同意すると、以降は、ソフトウェアのアップデートや当社からのお知らせを検出する機能が、本製品を起動すると自動的に動作します。

2 使用方法

■ ソフトウェアのアップデートがある場合

本製品に用意されているアプリケーション、ユーティリティ、ドライバーやBIOSにアップデートがあることを検知すると、メッセージ「X件の新しいソフトウェアのアップデート（更新）があります。」が表示されます。


メッセージを確認し、画面の指示に従って操作してください。

■ 本製品に対するお知らせがある場合

本製品に対する当社からのお知らせが準備されたことを検出すると、メッセージ「X件の新しいお知らせがあります。」が表示されます。

メッセージを確認し、画面の指示に従って操作してください。

手動で、ソフトウェアのアップデート、またはお知らせを確認したい場合は、次の操作を行ってください。

- ① [スタート] ボタン () をタップする
- ② [すべてのアプリ] → [TOSHIBA] → [Service Station] をタップする
「東芝サービスステーション」が起動します。
- ③ [すべてのアップデートを確認] をタップする

Windows セットアップが終了したら（Windows が使えるようになったら）、次のことを行ってください。

参照 ▶ 初めて本製品の電源を入れて、Windows セットアップを行う『スタートアップガイド』

日付と時刻を確認する

日付と時刻は、画面右下の [通知領域] などに表示されています。

正しく設定されていることを確認してください。

正しく設定されていない場合は、日付と時刻を設定し直してください。

参照 ▶ 日付と時刻の設定について「9章 **3** - **3** - Q 内蔵時計が合っていない」

リカバリーメディアを作成する

リカバリーメディアを作成しておくことを強くおすすめします。

リカバリーメディアとは、システムやアプリケーションをご購入時の状態に復元（リカバリー）するためのものです。


参照 ▶ リカバリーメディアについて「本章 **4** リカバリーメディアを作る」

なお、リカバリーメディアを使って実際にリカバリーを行うときは、操作の流れをよくご確認ください。

参照 ▶ リカバリーについて『取扱説明書 2章 **8** 本製品を初期状態に戻す』

Windows を最新の状態にする

インターネットに接続して、「Windows Update」で更新プログラムをインストールしてください。

「Windows Update」については、タスクバーの [WebとWindowsを検索] () で、「Windows Update」と入力して検索してください。

参照 ▶ 「本章 **1** - **4**」 - [WebとWindowsを検索] で調べる」

定期的にバックアップをとる

作成したファイルを誤って削除してしまったり、突然の本製品のトラブルによって保存したファイルが使えなくなってしまうことがあります。

このような場合に備えて、あらかじめファイルを microSD メモリカードなどの記録メディアにコピーしておくことをバックアップといいます。

一度なくしたデータを復旧することはできません。

万が一のために、必ず定期的にバックアップをとりましょう。

* TOSHIBA Recovery Media Creator 搭載モデルのみ

本製品にトラブルが発生したときに、本製品を購入時の状態（初期状態）に戻すことを「リカバリー」といいます。

参照 ▶ リカバリーの詳細『取扱説明書 2章 8 本製品を初期状態に戻す』

本製品のSSDには、システムやアプリケーションを購入時の状態に戻すためのリカバリーツールが搭載されています。

しかし、トラブルの原因によっては肝心のリカバリーツールを起動できないおそれもあります。

このような場合に備え、リカバリーDVD-ROMが付属していない場合は、あらかじめリカバリーツールをDVDなどの記録メディアにコピーしておくこと（リカバリーメディアの作成）をおすすめします。

SSDからリカバリーができない場合でも、リカバリーメディアからリカバリーができます。

リカバリーメディアの作成は、トウシバ リカバリー メディア クリエイター「TOSHIBA Recovery Media Creator」で行います。
作成したリカバリーメディアは大切に保管してください。

メモ

- リカバリーメディアを作成しておらず、SSDからもリカバリーが行えない場合は、修理が必要になることがあります。
東芝PCあんしんサポート 修理相談窓口にご相談してください。

■ リカバリーを行うと

リカバリーを行うと、SSD内に保存されているデータ（文書ファイル、画像・映像ファイル、メールやアプリケーションなど）はすべて消去され、設定した内容（インターネットやメールの設定、Windowsパスワードなど）も購入時の状態に戻ります、つまり何も設定していない状態になります。

また、データのバックアップについては、普段から定期的に行っておくことをおすすめします。

1 リカバリーメディアに使用できる記録メディア

「TOSHIBA Recovery Media Creator」では、次の記録メディアのいずれかを使用できます。何もデータが書き込まれていないものを用意してください。

- USB フラッシュメモリ*¹
- 記録用のブルーレイディスクメディア*²
(BD-R、BD-R DL、BD-RE、BD-RE DL)
- 記録用のDVDメディア*²
(DVD-R、DVD-R DL、DVD-RW、DVD+R、DVD+R DL、DVD+RW)

*1 キーボードドックをお持ちの場合は、キーボードドックを接続すると、USB フラッシュメモリを使用できます。

キーボードドックをお持ちでない場合は、市販のUSBケーブル（USB Type-C コネクタ対応タイプのもの）で、USB フラッシュメモリを接続してください。ただし、すべてのUSBケーブルでの動作を保証するものではありません。

参照 USBケーブルについて「4章 2 USB対応機器を使う」

*2 外付けの書き込み可能なDVD/ブルーレイディスクドライブ（市販品）を接続すると、DVD/ブルーレイディスクを使用できます。

ただし、すべての外付けDVD/ブルーレイディスクドライブでの動作を保証するものではありません。

必要な記録メディアの枚数や容量は「TOSHIBA Recovery Media Creator」画面に表示されます。

DVD/ブルーレイディスクの場合は、必要な枚数が表示されます。複数枚使用するときは、同じ規格の記録メディアで統一してください。

USB フラッシュメモリの場合は、リカバリーメディアの作成に最低限必要な容量が表示されます。表示される容量より大きい容量のUSB フラッシュメモリを用意してください。

お願い DVD/ブルーレイディスクについてと使用推奨メーカー

- 推奨するメーカーのDVD/ブルーレイディスクを使用してください。規格に準拠したDVD/ブルーレイディスクを使用してください。

参照 『DVD/ブルーレイディスクドライブに付属している説明書』

お願い リカバリーメディアの作成にあたって

- 「TOSHIBA Recovery Media Creator」ではDVD-RAM、BD-R XL（3層）、BD-RE XL（3層）を使用できません。
- 「TOSHIBA Recovery Media Creator」を使ってリカバリーメディアを作成するときは、ほかのアプリケーションソフトをすべて終了させてから、行ってください。また、電源コードとACアダプターを使用して本製品を電源コンセントに接続した状態で作成してください。本製品の省電力機能が働かないようにしてください。電源OFF/スリープ/休止状態/再起動を実行しないでください。
- その他の注意事項については、あらかじめ、次の項目を確認してください。

参照 メディアへ書き込むときのご注意「付録 9 メディア/SSDへの書き出し」


参照 USB対応機器の使用上のご注意「付録 5 - 8 - USB対応機器の操作にあたって」

2 インストールについて


*購入時の状態ではインストールされていないモデルのみ

モデルによっては、購入時の状態で「TOSHIBA Recovery Media Creator」がインストールされていない場合があります。

「TOSHIBA Recovery Media Creator」がインストールされているかどうかは、次の手順で確認できます。

- ① [スタート] ボタン () をタップする
- ② [すべてのアプリ] → [TOSHIBA] をタップし、[リカバリーメディア作成ツール] があるかどうかを確認する

「TOSHIBA Recovery Media Creator」がインストールされていない場合は、次の手順でインストールしてください。

- 1 [スタート] ボタン () をタップする
- 2 [すべてのアプリ] → [アプリケーションの再インストール] をタップする
- 3 [セットアップ画面へ] をタップする
- 4 [ユーティリティ] タブをタップする
- 5 画面左側の [TOSHIBA Recovery Media Creator] をタップし、[「TOSHIBA Recovery Media Creator」のセットアップ] をタップする
- 6 画面の指示に従ってインストールする
「XXXXXX (ファイル名) をXXXXXX (マシン名) から開きますか？」というメッセージが表示された場合は、[開く] ボタンをタップしてください。

3 リカバリーメディアを作成する

あらかじめ、次の準備を行ってください。

- キーボードドックを使用して、USB フラッシュメモリのリカバリーメディアを作成する場合は、あらかじめキーボードドックを接続しておいてください。

参照 『取扱説明書 1章 本製品の準備』

- USB ケーブル（市販品）を使用して、USB フラッシュメモリのリカバリーメディアを作成する場合は、あらかじめ市販のUSB ケーブル（USB Type-C コネクタ対応タイプのもの）を、本製品のUSB Type-C コネクタに接続してください。

参照 「4章 2 USB 対応機器を使う」

- 外付けのDVD／ブルーレイディスクドライブ（市販品）でDVD／ブルーレイディスクのリカバリーメディアを作成する場合は、あらかじめDVD／ブルーレイディスクドライブを本製品に接続しておいてください。

参照 接続方法『DVD／ブルーレイディスクドライブに付属している説明書』

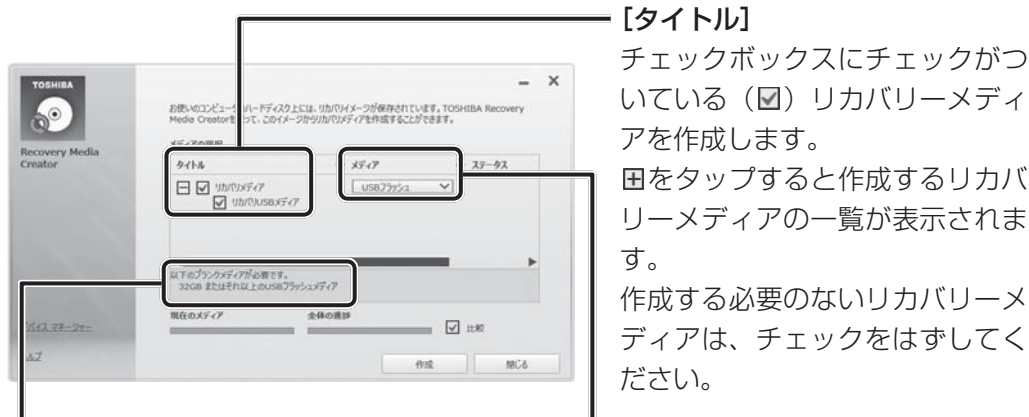
1 電源コードとACアダプターを接続する

2 [スタート] ボタン () をタップする

3 [すべてのアプリ] → [TOSHIBA] → [リカバリーメディア作成ツール] をタップする

4 [タイトル]、[メディア] を選択する

必要なDVD／ブルーレイディスクの枚数やUSB フラッシュメモリの容量が表示されるので、用意してください。



[タイトル]
 チェックボックスにチェックがついている () リカバリーメディアを作成します。
 田をタップすると作成するリカバリーメディアの一覧が表示されます。
 作成する必要のないリカバリーメディアは、チェックをはずしてください。

[メディア]
 作成する記録メディアの種類を選択します。

DVD／ブルーレイディスクの場合、画面に表示される枚数分が必要になります。
 USB フラッシュメモリの場合、画面に表示される容量が必要になります。

5 [作成] ボタンをタップする

作成するリカバリーメディアの確認と記録メディアのセットを求める画面が表示されます。

6 DVD、ブルーレイディスク、USBフラッシュメモリのいずれかをセットする

参照 ▶ DVD／ブルーレイディスクのセット
『DVD／ブルーレイディスクドライブに付属している説明書』

7 以降は、画面の指示に従って操作する

作成が開始されると、画面に、作成しているリカバリーメディアの進捗状況が表示されます。

作成を途中で中止する場合は、[キャンセル] ボタンをタップしてください。

DVD／ブルーレイディスクの場合、作成が終了すると、記録メディアが自動的に出てきます。

作成するメディアが複数枚ある場合は、メッセージに従って記録メディアを入れ替えてください。

作成したリカバリーメディアには、次のことがわかるように目印をつけてください。

- 「リカバリーメディア」であること
- 複数枚ある場合は、番号

たとえばDVD／ブルーレイディスクの場合、「リカバリーメディアXX（番号）」というように、レーベル面に油性のフェルトペンなどで記載してください。リカバリーをするとき、この番号の順にリカバリーメディアを使用しないと、正しくリカバリーされません。必ずリカバリーメディア番号がわかるようにして保管してください。

参照 ▶ リカバリーメディアからリカバリーをする操作手順
『取扱説明書 2章 **8** 本製品を初期状態に戻す』

「TOSHIBA Recovery Media Creator」の詳細は、ヘルプを参照してください。

ヘルプの起動方法**1** 「TOSHIBA Recovery Media Creator」を起動後、[ヘルプ] をタップする

* PC引越ナビ[®] 搭載モデルのみ

前のパソコンから本製品に買い替えたときは、それまでに使用していたパソコンと同じ環境にするために、設定やデータの移行といった準備が必要です。

「PC引越ナビ[®]」は、データや設定を一つにまとめ、本製品への移行の手間を簡略化することができるアプリケーションです。

本項目および「PC引越ナビ[®]」の画面上では、移行したい設定やデータが保存されているパソコンを「前のパソコン」、本製品を「新しいパソコン」として説明します。

環境を確認する

■ 前のパソコンの動作環境を確認する

「PC引越ナビ[®]」は、次のシステムに対応しています。

- Windows XP
- Windows Vista
- Windows 7
- Windows 8
- Windows 8.1
- Windows 10

* マイクロソフト社が提供している最新の Service Pack を適用してください。また、「Internet Explorer」のバージョンが「6 SP1」以上であることを確認してください。それ以下のバージョンの場合は、「6 SP1」を適用してください。

システムの正式名称は次のとおりです。

Windows XP Windows XP operating system 日本語版の全エディション

Windows Vista Windows Vista の全エディション

Windows 7 Windows 7 の全エディション

Windows 8 Windows 8 の全エディション

Windows 8.1 Windows 8.1 の全エディション

Windows 10 Windows 10 の全エディション

お願い 前のパソコンの動作環境について

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 「付録 5 - 2 「PC引越ナビ[®]」について」

■ 移行の方法を確認する

設定やデータの移行をするには、microSD メモリカード^{*1} を使用する方法があります。

microSD メモリカードが必要な場合は購入してください。また、フォーマットが必要な microSD メモリカードは、あらかじめフォーマットしてください。

- microSD メモリカードのみで移行する場合は、512MB 以上の容量が必要です。

移行するファイルや設定内容に比べて、microSD メモリカードの容量が小さいと、数回に分けてデータをコピーすることになりますので、大容量の microSD メモリカードを移行用に使用することをおすすめします。

- microSDメモ리카ードの代わりに、USBフラッシュメモリ*²を使用することもできます。本製品で利用できるUSBフラッシュメモリについては、「4章 2 USB対応機器を使う」で確認してください。

- * 1 前のパソコンでmicroSDメモ리카ードが使用できるかどうかは、『前のパソコンに付属している説明書』を確認してください。
- * 2 キーボードドックをお持ちの場合は、キーボードドックを接続すると、USBフラッシュメモリを使用できます。キーボードドックをお持ちでない場合は、市販のUSBケーブル（USB Type-Cコネクタ対応タイプのもの）で、USBフラッシュメモリを接続してください。ただし、すべてのUSBケーブルでの動作を保証するものではありません。

参照▶ USBケーブルについて「4章 2 USB対応機器を使う」

移行できる設定とデータ

「PC引越ナビ®」を起動したときの、ユーザーの設定とデータを移行できます。

- Internet Explorerの設定*¹
- Windows Live メール（Windows メール、Outlook Express）の設定*^{2*4}
- Microsoft Outlookの設定*^{3*4}
- [ドキュメント]（または[マイドキュメント]）フォルダーに保存されているファイル
- デスクトップ上のファイル
- 任意のフォルダーに含まれるファイル

* 1 Microsoft Internet Explorer 6 SP1 以上

* 2 移行できるデータは、「Microsoft Outlook Express（バージョンが6.0 SP1以上）」、「Windows メール」、「Windows Live メール」のデータです。

Windows 10をご利用の場合は、「Outlook Express」、「Windowsメール」から、直接「Windows Live メール」に、移行できません。前のパソコン側で、あらかじめ「Outlook Express」、「Windowsメール」を「Windows Live メール」へアップグレードしておく必要があります。

* 3 移行できるデータは、「Microsoft Outlook 2000」以降のデータです。

本製品には、Office搭載モデルにのみ、「Microsoft Outlook」が付属およびインストールされています。前のパソコンに保存されている「Microsoft Outlook」のデータをOfficeが搭載されていないモデルに移行したいときは、「PC引越ナビ®」をご使用前に、市販の「Microsoft Outlook」を新しいパソコン（本製品）にインストールする必要があります。

移行するためには、「Microsoft Outlook 2003」以降の「Microsoft Outlook」をインストールしてください。

* 4 新しいパソコン（本製品）にメールソフトがインストールされていない場合でも、「PC引越ナビ®」はパソコンにデータを保存します。

「Windows Live メール」および「Microsoft Outlook」は起動したときに、保存したデータのインポート（取り込み）を行います。

メールソフトによっては、違うソフトのデータを変換して取り込むことができます。

詳しくは、メールソフトのヘルプを確認してください。

メモ

- 移行できる設定やデータの詳細は、「PC引越ナビ®」のヘルプで確認してください。

1 操作の流れ

設定とデータの移行は、画面の指示に従って行います。

大まかな流れは次のとおりです。

新しいパソコン（本製品）と前のパソコンとで交互に作業を行いますので、近くに設置して行うとよいでしょう。

移行方法を決める

前のパソコンと新しいパソコン（本製品）の移行方法を選択する画面が表示されますが、[USBメモリで引っ越し] を選択します。「USBメモリ」をmicroSDメモ리카ードに読み替えて作業を進めてください。

本製品では、ほかの移行方法を行うことができません。

新しいパソコン
(本製品)



microSDメモ리카ード

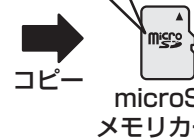


「こん包プログラム」をコピーする

「こん包プログラム」は複数のファイルを1つにまとめるプログラムです。

microSDメモ리카ードにコピーしてください。

新しいパソコン
(本製品)



コピー

microSD
メモ리카ード

「こん包プログラム」を実行する

コピーした「こん包プログラム」を前のパソコンで実行し、移行する複数のデータを1つのファイル（「こん包ファイル」）にまとめます。

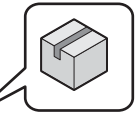


microSD
メモ리카ード*1

実行



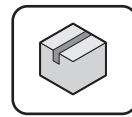
前のパソコン



作成

「こん包ファイル」をコピーする

作成した「こん包ファイル」をコピーします。移行するデータの容量によっては、「こん包ファイル」は複数作成されます。すべての「こん包ファイル」をコピーしてください。



microSD
メモ리카ード*1

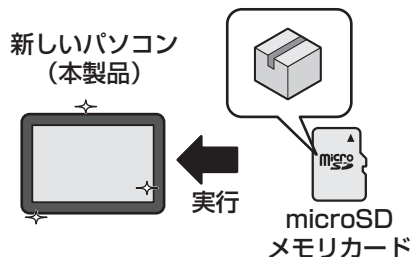
コピー



前のパソコン

「こん包ファイル」を開く

コピーした「こん包ファイル」を新しいパソコン（本製品）で開き、コピーします。



* 1 前のパソコンでmicroSDメモリカードが使用できるかどうかは、『前のパソコンに付属している説明書』を確認してください。

2 インストールについて

* 購入時の状態ではインストールされていないモデルのみ

モデルによっては、購入時の状態で「PC引越ナビ®」がインストールされていない場合があります。

「PC引越ナビ®」がインストールされているかどうかは、次の手順で確認できます。

- ① [スタート] ボタン () をタップする
- ② [すべてのアプリ] をタップし、[PC引越ナビ] があるかどうかを確認する

「PC引越ナビ®」がインストールされていない場合は、次の手順でインストールしてください。

1 [スタート] ボタン () をタップする

2 [すべてのアプリ] → [アプリケーションの再インストール] をタップする

3 [セットアップ画面へ] をタップする



4 [アプリケーション] タブをタップする

5 画面左側の [PC引越ナビ] をタップし、[「PC引越ナビ」のセットアップ] をタップする

6 画面の指示に従ってインストールする

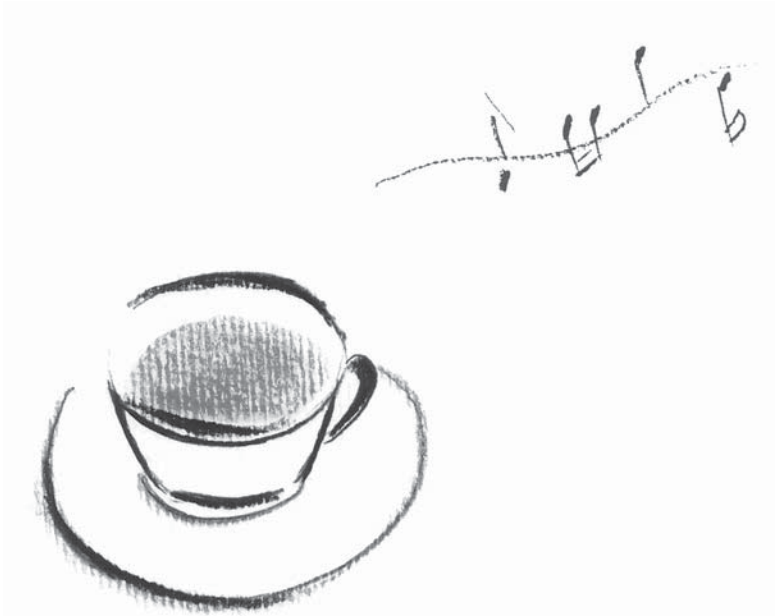
「XXXXX (ファイル名) をXXXXX (マシン名) から開きますか？」というメッセージが表示された場合は、[開く] ボタンをタップしてください。

3 起動方法

- 1 [スタート] ボタン () をタップする
- 2 [すべてのアプリ] → [PC引越ナビ] をタップする
「PC引越ナビ®」が起動します。
- 3 画面下の  ボタンをタップし、注意制限事項を確認する
「PC引越ナビ®」のヘルプが表示されます。
「PC引越ナビ®」の注意制限事項をお読みください。
目次で [注意制限事項とメッセージ] をタップし、画面右側に表示される各項目をよくお読みください。
- 4 [同意する] をチェックし、[次へ] ボタンをタップする
使用許諾契約に同意しないと、「PC引越ナビ®」を使用することはできません。
引き続き、説明画面が表示されますので、内容を確認しなから操作してください。

メモ

- 「PC引越ナビ®」の画面上では、「USBメモリ」としてUSBフラッシュメモリを使用した操作方法が説明されています。
microSDメモリカードはUSBフラッシュメモリと同様に使用できますので、「USBメモリ」と表示されている部分をmicroSDメモリカードに読み替えて、画面の指示に従ってください。



2章

■ 本製品の基本操作を覚えよう

本製品の各部について、基本の使いかたなどを説明しています。

1

電源を入れる／切る

1 電源コードとACアダプターを接続する

警告

- ACアダプターは本製品に付属のものを使用する
本製品付属以外のACアダプターを使用すると電圧や（+）（-）の極性が異なっていることがあるため、火災・破裂・発熱のおそれがあります。
- 本製品にACアダプターを接続する場合、本書に記載してある順番を守って接続する順番を守らないと、ACアダプターのプラグが帯電し、感電またはけがをする場合があります。
また、ACアダプターのプラグを本製品の電源コネクタ以外の金属部分に触れないようにしてください。

注意

- 付属の電源コードは、本製品付属のACアダプター以外には使用しない
付属の電源コードは、本製品付属のACアダプター専用です。

お願い 電源コード、ACアダプターの取り扱いについて

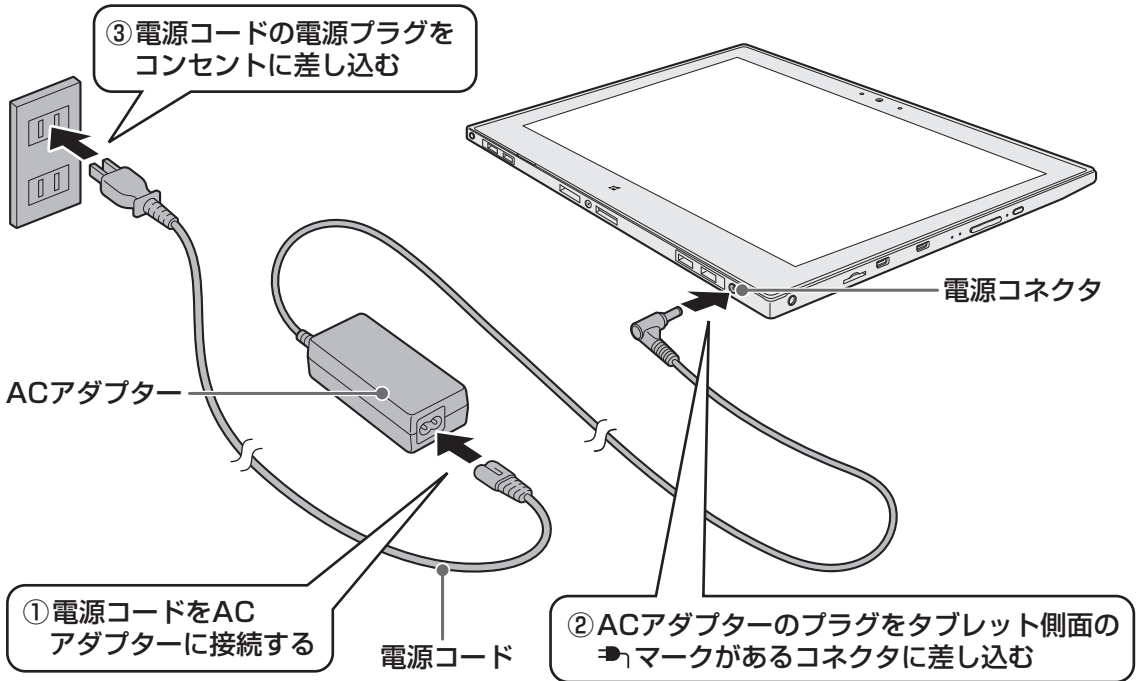
- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 『取扱説明書 2章 13 - 3 電源コード、ACアダプターの取り扱いについて』



2章

本製品の基本操作を覚えよう

次の図の①→②→③の順で行ってください。



接続すると

システムインジケータのBattery  LEDがオレンジ色に点灯し、バッテリーへの充電が自動的に始まります。Battery  LEDが白色に点灯したら、充電完了です。

参照 ▶ Battery  LED 「5章 **1** - **1** - **1** システムインジケータで確認する」

メモ

- バッテリー充電中でも本製品を使用することができます。

参照 ▶ 「5章 **1** - **2** バッテリーを充電する」

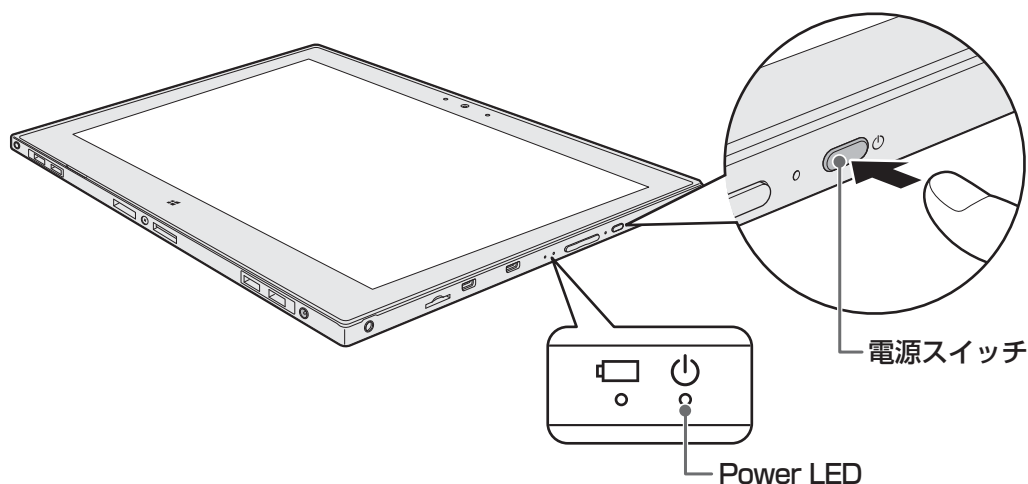
2 電源を入れる

お願い 電源を入れるときは

- プリンターなどの周辺機器を接続している場合は、本製品より先に周辺機器の電源を入れてください。
- ディスプレイ（画面）に触れたまま電源を入れないでください。ディスプレイ（画面）が一時的に反応しない場合があります。


1 電源スイッチを押し、指をはなす

確実に電源スイッチを押してください。Power LEDが白色に点灯することを確認してください。



Windowsが起動します。

■ 各種パスワードを設定している場合

パスワードを入力する画面が表示されます。パスワードを入力して **Enter** キー () をタップしてください。

■ ロック画面が表示された場合

ロック画面（画面左下に大きく日時が表示されている状態）が表示された場合は、画面の下側から上に向かってスワイプしてください。次の画面に進みます。

■ 複数のユーザーで1台を使用している場合

表示されているユーザーとは違うユーザーでサインインしたいときは、ユーザーを切り替えてください。

電源の状態を確認するには

電源の状態は Power  LED の点灯状態で確認できます。

	状態	本製品の状態
Power  LED	白色の点灯	電源 ON
	白色の点滅	スリープ中
	消灯	電源 OFF、休止状態

* 電源に関するトラブルについては、『取扱説明書 2 章 **5** Q&A 集』を参照してください。

3 電源を切る

本製品を使い終わったとき、電源を切る「シャットダウン」を行ってください。間違った操作を行うと、故障したり大切なデータを失ったりするおそれがあります。中断するときは、それまでの作業をメモリに保存して一時的に中断する「スリープ」があります。

参照 ▶ スリープについて「本節 5 スリープ」

2 章

本製品の基本操作を覚えよう

警告

● 電子機器の使用が制限されている場所では本製品の電源を切る

本製品を航空機や電子機器の使用が制限されている場所（病院など）に持ち込む場合は、無線通信機能を無効に設定したうえで、本製品の電源を切ってください。ほかの機器に影響を与えることがあります。

・ 無線通信機能は、次の手順でOFFにすることができます。

①通知領域の  アイコンをタップする

②「機内モード」をタップして、ONに切り替える

ONになると、通知領域に  アイコンが表示されます。

・ スリープや休止状態では、本製品が自動的に復帰することがあるため、飛行を妨げたり、ほかのシステムに影響を及ぼしたりすることがあります。

・ 電源を切った状態で待機中でも、本製品が自動的に起動するような設定のソフトウェアの場合は、あらかじめ設定を無効（解除）にしてください。

お願い 電源を切る前に

- 必要なデータは必ず保存してください。保存されていないデータは消失します。
- 起動中のアプリケーションは終了してください。
- SSDやメディアへのアクセス中は、電源を切らないでください。データが消失するおそれがあります。
- 記録メディア保護のため、記録メディアを取りはずしてください。

お願い 操作にあたって**中断する前に**

- スリープまたは休止状態を実行する前にデータを保存することを推奨します。
- スリープまたは休止状態を実行するときは、記録メディアへの書き込みが完全に終了していることを確認してください。
書き込み途中のデータがある状態でスリープまたは休止状態を実行すると、データの書き込みが正しく行われません。
- スリープまたは休止状態を実行するときは、記録メディアやUSB接続型の外付けハードディスクドライブなどとのデータの読み出し、保存（書き込み）が完全に終了していることを確認してください。
データのアクセス途中でスリープを実行すると、データの読み出し、保存が正しく行われません。

中断したときは

- スリープ中にバッテリー残量が減少した場合は、次回起動時にシステムが起動しないことがあります。
システムが起動しない場合は、電源スイッチを5秒間押しっぱなし電源を切ったあとで、再度電源を入れてください。この場合、スリープ前の状態は保持できていません（Windowsエラー回復処理で起動します）。
- スリープまたは休止状態を利用しないときは、データを保存し、アプリケーションをすべて終了させてから、電源を切ってください。保存されていないデータは消失します。

ハイブリッドスリープのときは

- ハイブリッドスリープを有効にしているとき、スリープを実行するとすぐに画面は真っ暗になりますが、しばらくの間はSSDへのデータ保存が行われています。SSDへのアクセス中は、本製品を動かさないでください。

1 [スタート] ボタン () をタップする


2 [電源] → [シャットダウン] をタップする




(表示例)

Windowsを終了したあと、本製品の電源が自動的に切れます。
本製品の電源が切れると、Power  LEDが消灯します。

メモ

- [スタート] ボタン () を長押しして、表示されるメニューから [シャットダウンまたはサインアウト] → [シャットダウン] をタップしても、電源を切ることができます。
- システムが操作できなくなり、電源を切ることができない場合は、電源スイッチを5秒以上押しすと、強制的に電源を切る(強制終了)ことができます。
強制終了は、システムが操作できなくなったとき以外には行わないでください。強制終了を行うと、スリープ/休止状態は無効になり、保存していないデータは消失します。

お願い 電源を切ったあとは

- 本製品に接続している機器(周辺機器)の電源は、本製品の電源を切ったあとに切ってください。
- 本製品や周辺機器の電源は、切ったあとすぐに入れないでください。故障の原因となります。
- 周辺機器の取り付け/取りはずし、BIOSセットアップの設定などを行うときは、以下の手順で電源を切ってください。
 - ① [スタート] ボタン () をタップする
 - ② [設定] をタップする
 - ③ [更新とセキュリティ] → [回復] をタップする
 - ④ [PCの起動をカスタマイズする] の [今すぐ再起動する] をタップする
 - ⑤ [オプションの選択] 画面で [PCの電源を切る] をタップする

4 再起動

Windowsを終了したあと、すぐにもう一度起動することを「再起動」といいます。本製品の設定を変えたときや本製品がスムーズに動かなくなってしまったときなどに行います。再起動するには、次のように操作してください。

1 [スタート] ボタン () をタップする


2 [電源] → [再起動] をタップする



(表示例)

本製品が再起動します。

メモ

- [スタート] ボタン () を長押しして、表示されるメニューから [シャットダウンまたはサインアウト] → [再起動] をタップしても、再起動することができます。

5 スリープ

本製品の使用中を中断する場合は、本製品を「スリープ」にしましょう。次に電源スイッチを押したときに、すばやく中断したときの状態を再現することができます。

スリープ中はバッテリーを消耗しますので、電源コードとACアダプターを取り付けて使用することを推奨します。作業を中断している間にバッテリーの残量が少なくなったときは、通常のスリープでは保存されていないデータは消失します。

参照 ▶ ハイブリッドスリープ「本項 **2** スリープ機能を強化する」

なお数日以上使用しないときや、付属している説明書で電源を切る手順が記載されている場合は、スリープではなく、必ず電源を切ってください。

1 スリープの実行方法

1 [スタート] ボタン () をタップする

2 [電源] → [スリープ] をタップする



(表示例)




スリープ状態から復帰させるときは、電源スイッチを押してください。

2 スリープ機能を強化する

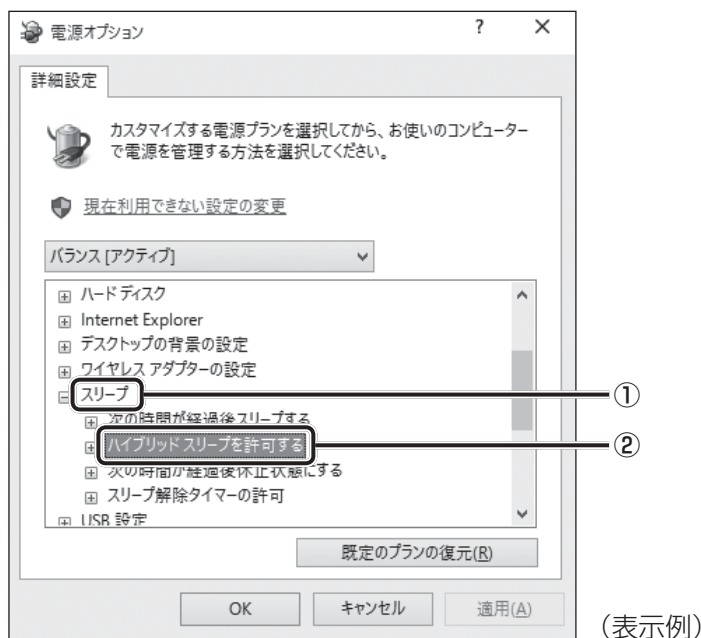
通常のスリープのほかに「ハイブリッドスリープ」という機能が用意されています。本製品の使用を中断したとき、それまでの作業をメモリに保存するスリープに対して、ハイブリッドスリープはメモリとSSDの両方に保存します。購入時の状態ではハイブリッドスリープは無効に設定されているため、作業を中断している間にバッテリーの残量が少なくなった場合などは、通常のスリープでは保存されていないデータは消失します。ハイブリッドスリープを有効にしておくことで、SSDから作業内容を復元できます。ハイブリッドスリープを有効にしている状態でスリープを実行すると、ハイブリッドスリープとして機能します。この場合は、スリープを実行してからスリープ状態になるまでの時間が長くなります。またスリープを実行してから一定時間が経過すると、自動的に休止状態に移行するようにも設定できます。

参照▶ 休止状態に移行する設定について「本項-「役立つ操作集」」

ハイブリッドスリープを有効にするには、次の手順で設定してください。

- 1 [スタート] ボタン () をタップする
- 2 [すべてのアプリ] → [Windowsシステムツール] → [コントロールパネル] をタップする
- 3 [ ハードウェアとサウンド] → [ 電源オプション] をタップする
- 4 選択している電源プランの [プラン設定の変更] をタップする
[プラン設定の変更] は、各電源プランの右端に表示されています。選択している電源プランの [プラン設定の変更] をタップしてください。
ハイブリッドスリープの設定は、電源プランごとに必要です。
[プラン設定の編集] 画面が表示されます。
- 5 [詳細な電源設定の変更] をタップする
[詳細設定] 画面が表示されます。

6 [スリープ] をダブルタップし①、表示される項目から [ハイブリッドスリープを許可する] をダブルタップする②



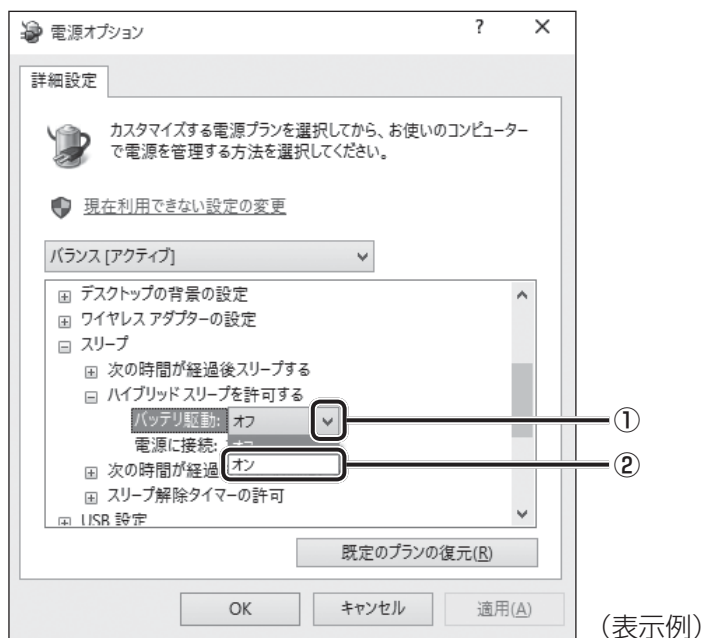
7 ハイブリッドスリープをONにしたい項目（[バッテリー駆動] / [電源に接続]）をタップする

それぞれの項目は、次のようになります。

[バッテリー駆動] : バッテリー駆動時の、ハイブリッドスリープ機能のON/OFFを設定できます。

[電源に接続] : 電源に接続しているときの、ハイブリッドスリープ機能のON/OFFを設定できます。

8 項目の横に表示された▼をタップし①、表示されたメニューから [オン] をタップする②



9 [OK] ボタンをタップする

これでハイブリッドスリープを有効にする設定は完了です。

この状態でスリープを実行すると、ハイブリッドスリープとして機能します。

役立つ操作集

一定時間の経過後、休止状態にする

スリープを実行してから一定時間が経過すると、自動的に休止状態に移行するよう設定できます。

[詳細設定] 画面で [次の時間が経過後休止状態にする] をダブルタップし、表示された項目を選択して▲▼で時間を設定してください。

スリープを実行してから設定した時間が経過すると、自動的に休止状態に移行します。

参照 ▶ 休止状態「本節 6 休止状態」

6 休止状態

本製品の使用を中断する場合、設定によって、自動的に休止状態にできます。

参照▶ 休止状態にするための設定「本節 **7** 簡単に電源を切る／本製品の使用を中断する」

休止状態になると、本製品の使用を中断したときの状態がSSDに保存されます。

なお数日以上使用しないときや、付属している説明書で電源を切る手順が記載されている場合は、休止状態ではなく、必ず電源を切ってください。

休止状態から復帰させるときは、電源スイッチを押してください。電源スイッチを押すと、中断時の状態が再現されます。


7 簡単に電源を切る／本製品の使用を中断する

本製品の電源スイッチを押したときに、電源を切る（電源OFF）、またはスリープ／休止状態などに移行することができます。

1 本製品の電源スイッチを押したときの動作の設定

1 [スタート] ボタン () をタップする

2 [すべてのアプリ] → [Windows システム ツール] → [コントロール パネル] をタップする

3 [ ハードウェアとサウンド] をタップする

4 [ 電源ボタンの動作の変更] をタップする

5 [電源ボタンを押したときの動作] で、移行する状態を選択する

[何もしない] に設定すると、特に変化はありません。

[バッテリー駆動] 時と「電源に接続」時のそれぞれについて設定してください。

6 [変更の保存] ボタンをタップする

本製品の電源スイッチを押すと、手順 **5** で設定した状態へ移行します。

本製品では、画面の表面を指でタッチして操作します。
画面上のキーボードを使って文字を入力することもできます。

お願い タッチ操作について

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照▶ 「付録 5 - 3 タッチ操作について」



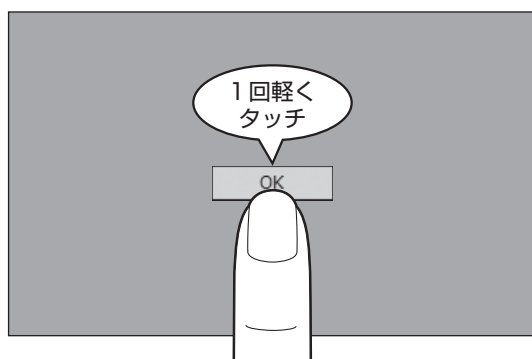
- アプリケーションや機能によっては、画面をタッチして操作できない場合があります。

1 指でタッチして操作する

本製品では、画面の表面を指でタッチすることによって、さまざまな操作を行うことができます。
ここでは、指を使った基本的な操作を説明します。

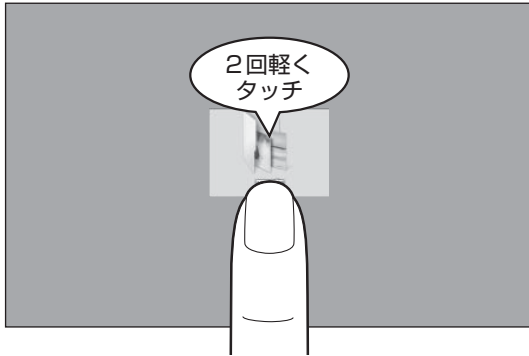
■ タップ

目的のアイコンやボタンなどを1回軽くタッチします。
ボタンの操作、アプリケーションの起動、文字の入力などが行えます。



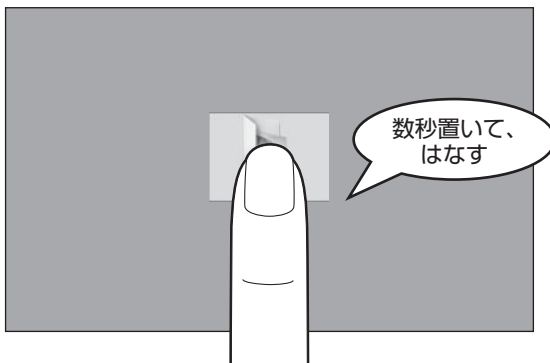
■ダブルタップ

目的のアイコンなどを2回軽くタッチします。
アプリケーションの起動などが行えます。



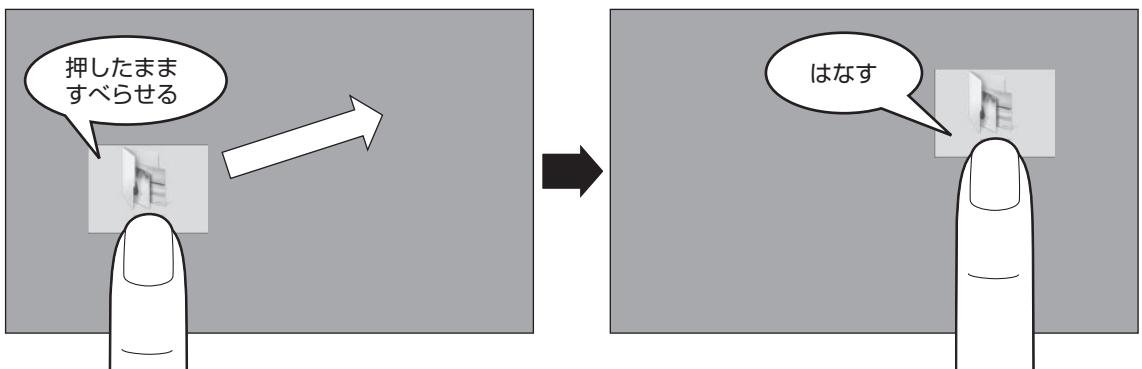
■長押し (ロングタップ)

アイコンなどの上に指を数秒置いて、はなします。
触れているアイコンに対して、メニューなどが表示されます。



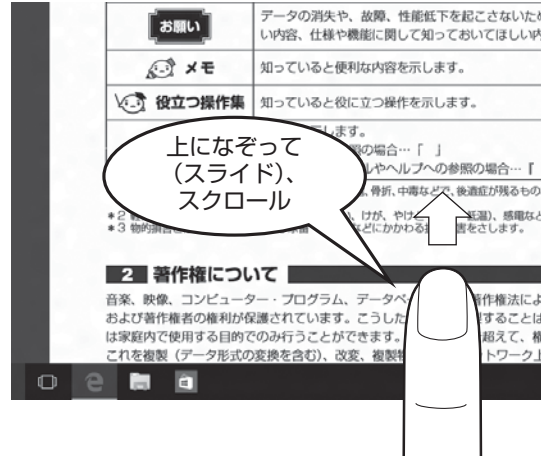
■ドラッグ

アイコンなどの上に指を置き、移動したい場所まですべらせませす。



■ スワイプ、スライド

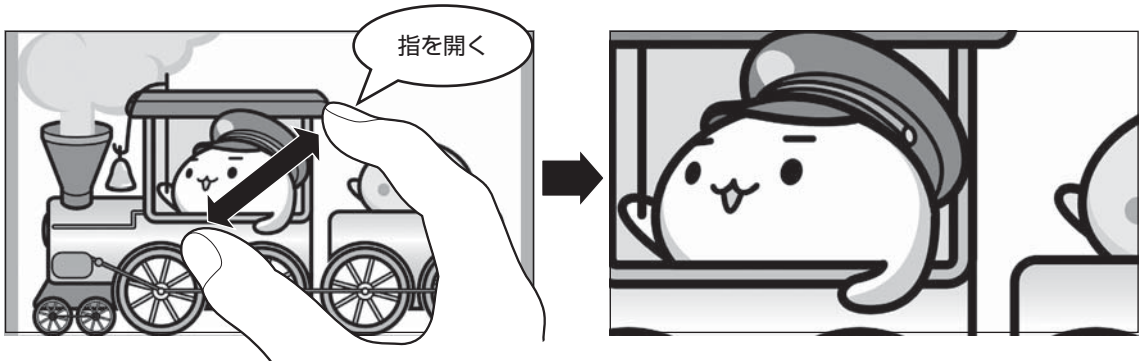
画面に指を置き、画面を軽くはらうように動かしたり（スワイプ）、なぞったり（スライド）します。画面を左右に切り替えたり、画面に表示しきれない一覧をスクロールする場合などに行います。



■ ピンチアウト、ピンチイン

画面に指を2本置き、指を開いたり閉じたりすることで、画面に表示している内容や、画像の表示サイズを変更できます。

指を開く（ピンチアウトする）と拡大され、閉じる（ピンチインする）と縮小されます。




メモ

- ダブルタップを行っても、画面に表示している内容などを拡大／縮小できます。

2 タッチキーボードについて

1 タッチキーボードの表示のしかた

タッチキーボードが自動的に表示されていない場合は、通知領域の [タッチキーボード] アイコン () をタップすると、タッチキーボードが表示されます。

通知領域に [タッチキーボード] アイコン () が表示されていない場合は、次の手順で表示させてください。

- ① タスクバーを長押しする
- ② [タッチキーボード ボタンを表示] をタップしてチェックを付ける

2 タッチキーボードの種類

タッチキーボードは、購入時の状態では用途に合わせて3種類のパターンがあります。キーボードの右下にある [キーボード] アイコンをタップし①、使用したいキーボードのアイコンをタップすると②、キーボードが切り替わります。



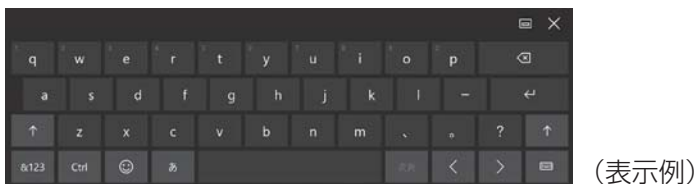
(表示例)

- *モデルによって、サポートしているキーボードの種類は異なります。
- *画像は表示例です。入力方法の変更などにより、キーの表示が変わります。



一般的なキー配列のキーボードです。

パソコンのキーボードの、ローマ字入力方式と同じ要領で文字を入力できます。



(表示例)



キーボードが左右に分かれています。

左側のキーボードでは、英数字や記号などを入力できます。右側のキーボードでは、ひらがなや漢字などを、「トグル入力」(「ケータイ入力」)と同じ要領で入力できます。



(表示例)



画面上をなぞって文字を入力します(手書き入力)。



(表示例)



メモ

- キーボードの右上の  をタップすると、キーボードを非表示にできます。

3 タッチキーボードの使いかた

ここでは、次のキーボードの例で説明します。選択しているキーボードによって、表示されるアイコンの種類や形状は異なります。

■「記号／数字キー」と「英字キー」を切り替えるには

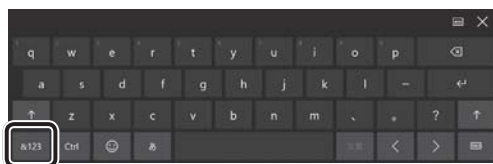
[&123] () をタップすると、表示を切り替えられます。

<記号／数字キー>






(表示例)

<英字キー>



(表示例)

■「英字キー」でひらがな／英字を切り替えるには

[あ] () と表示されている場合、ひらがな入力モードです。半角英字入力モードにするには、[あ] () をタップして [A] () に切り替えてください。



(表示例)

■キーをタップしても入力できないときは

キーをタップしても文字が表示されない場合は、入力欄に「|」(カーソル) が点滅しながら表示されていることを確認してください。表示されている位置から文字を入力できます。表示されていないときは、入力欄をタップしてください。

■入力を間違えたときは
























入力を間違えたときは次の操作で文字を削除して、もう一度入力しましょう。

・カーソルの左側の文字を削除する.....  をタップする

カーソルを左右に動かすには、  または  をタップします。

4 キーについて

タッチキーボードの一般的な機能キーについて説明します。
文字入力時に使用するアプリケーションやキーボードの種類、入力モードによって、表示されるキーは異なります。

キー	機能
	カーソルの左側の文字を削除します。
 、 	入力中の文字を確定します。 本書では、  を Enter キーと記載しています。
 、  、 	キーボードの種類を切り替えます。
 、 	カーソルを移動します。
 、 	入力モードを切り替えます。
	入力中の文字の、カタカナや英字の変換候補を表示します。
	顔文字キーや絵文字キーを表示します。
	ショートカットキーを表示します。
	記号キーと数字キーを表示します。
	英字の大文字／小文字を切り替えます。
	項目を移動するときなどに使用します。
 、 	表示されているキーを切り替えます。
	入力中の文字の変換候補の次ページを表示します。
	入力中の文字の変換候補の中から、次の候補を選択します。
 、 	キーボードの表示に合わせて一部のアプリケーションの画面サイズを変更します。 キーボードの横幅表示も切り替わります。

本製品には、補助記憶装置として、フラッシュメモリを記憶媒体とするドライブを搭載しています。SSD（ソリッドステートドライブ）とは、ハードディスクドライブの記憶媒体である磁気ディスクの代わりに、NANDフラッシュメモリを使用した大容量記憶媒体です。

SSDの補助記憶装置としての機能は、ハードディスクドライブと同等です。

以下の機能についてもご利用いただけます。

- **BIOSセットアップ**

BIOSセットアップ画面には「HDD/SSD」と表示されますが、SSDでも同様の動作をします。

- **HDDパスワード**

ハードディスクドライブ同様、登録可能です。

本体のSSDは、取りはずしできません。

USB接続型のハードディスクなどを使用して記憶容量を増やすことができます。

本書および付属している説明書に記載されている「本体のハードディスクドライブ」、「HDD」、「SSD」は、SSDを指します。

お願い 操作にあたって

- 本製品を激しく揺らしたり、強い衝撃を与えると、故障の原因となる場合があります。
- SSDに記録された内容は、故障や障害の原因にかかわらず保証できません。
万が一故障した場合に備え、バックアップをとることを推奨します。
- あらかじめ、次の説明を確認してください。


参照 ▶ 「付録 5 - 4 SSDについて」

本製品は表示装置としてTFTカラー液晶ディスプレイを搭載しています。

1 画面の明るさを調整する

本体ディスプレイの明るさ（輝度）を調整します。

□ 輝度の調整方法

- 1 [スタート] ボタン () をタップする
- 2 [設定] をタップする
- 3 [システム] → [ディスプレイ] をタップする
- 4 [明るさレベルの調整] のスライダーバーで輝度を調整する
画面の輝度を確認しながら、つまみを左右にドラッグして調整してください。

2 画面の向きを設定する

画面表示の向きは、次のいずれかに設定できます。

- 横向き（固定）
- 縦向き（固定）
- ディスプレーの向きに合わせて自動的に回転

設定方法は、次のとおりです。

1 [スタート] ボタン () をタップする

2 [設定] をタップする

3 [システム] → [ディスプレイ] をタップする

4 次の設定を行う

■ ディスプレーの向きに合わせて自動的に回転させる場合

① [この画面の回転をロックする] を [オフ] にする

■ 縦向き／横向きに固定する場合

① [この画面の回転をロックする] を [オン] にする

② [向き] で表示したい方向を選択する

③ [適用する] ボタンをタップする

④ [変更の維持] ボタンをタップする

 **メモ**

- アプリケーションによっては、画面を縦にした状態では適切に動作しない場合があります。その場合は、画面を横にした状態で使用してください。
- アプリケーションによっては、画面の向きの固定や自動回転に対応していない場合があります。
- 次の場合は、表示の向きを変更することはできません。
 - ・ノートPCスタイル、スタンドスタイルの場合*¹ など

* 1 キーボードドック付属モデルのみ

5 サウンド

スピーカーの音量やWindowsのシステム音を調整する方法について説明します。
また、マイクやヘッドホンを接続することができます。

1 スピーカーの音量を調整する

スピーカーの音量は、次の方法で調整できます。

音量はWindowsが制御しているため、Windows起動時や電源を切っているときは、音量変更はできません。





1 音量ボタンで調整する

1 本製品の音量ボタンを押す

音量ボタンの「-」を押すたびに音量が小さくなり、「+」を押すたびに音量が大きくなります。

参照▶ 音量ボタンの位置『取扱説明書 1章 **2** 各部の名称』

2 音量ミキサーから調整する

- 1 [スタート] ボタン () をタップする
- 2 [すべてのアプリ] → [Windows システムツール] → [コントロールパネル] をタップする
- 3 [ ハードウェアとサウンド] → [ システム音量の調整] をタップする
[音量ミキサー] 画面が表示されます。
- 4 各項目でつまみを上下にドラッグして調整する
[ミュート] ボタン () をタップすると消音 (ミュート) になります。



(表示例)

□ 音量ミキサーの各項目

音量ミキサーの各項目では、次の音量が調整できます。

スピーカー	スピーカーの音量を調整します。
システム音	Windows のプログラムイベント (メッセージの表示、システムエラーなどの動作) で再生されるサウンド設定の音量を調整します。

また、使用するアプリケーションにより異なる場合があります。

参照 ▶ 詳細について『アプリケーションに付属している説明書』

 **メモ**

- インテル® ハイ・デフィニション・オーディオ準拠。
- キャプチャソフトなどを使用して、本製品で再生中の音声を録音することはできません。

本製品ではmicroSDメモリカードをSDカードスロットに差し込んで、データの読み出しや書き込みができます。

1 使える microSD メモリカードについて

- microSDメモリカード（以降、microSDHCメモリカード、microSDXCメモリカードを含みます。）*1*2



* イラストは、実際のものとは異なる場合があります。

* 1 すべてのメディアの動作を保証するものではありません。

* 2 microSDIOカードには対応していません。

新品のmicroSDメモリカードは、microSDメモリカードの規格に合わせてフォーマットされた状態で販売されています。

フォーマットとは、microSDメモリカードを使えるようにすることです。

フォーマットされていないものを購入した場合や再フォーマットをする場合は、microSDメモリカードを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤーなど）で行ってください。

2 カードのセットと取り出し

お願い 操作にあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

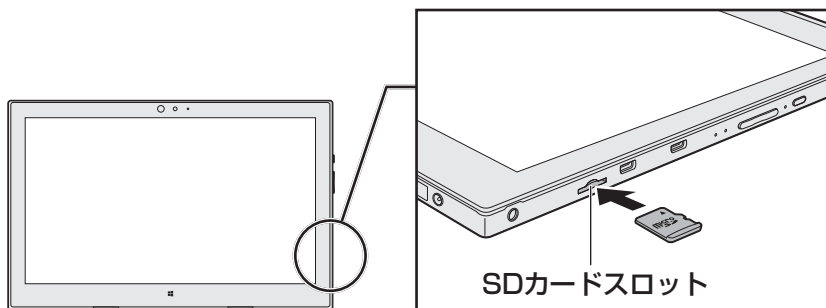
参照 「付録 6 - 1 microSD メモリカードを使うにあたって」

2 章

1 セットする

1 microSD メモリカードの表裏を確認し、表を上にして、SD カードスロットに挿入する

奥まで挿入します。



2 セットしたカードの内容を見る

著作権保護を必要としない画像や音声、テキストなどの一般的なファイルは、次の手順で見ることができます。

著作権保護されたファイルについては見ることはできない場合があります。

1 タスクバーの【エクスプローラー】ボタン () をタップする

「エクスプローラー」が起動します。

2 カードのアイコンを選択する

以下の名称は表示の一例です。異なる名称が表示される場合があります。

microSDメモリカード : リムーバブルディスク、セキュリティで保護された記憶域デバイス、SD Card、SD

セットしたmicroSDメモリカードの内容が表示されます。

メモ

- microSDメモリカードによっては、SDカードスロットにセットすると、自動的に内容が表示されたり、microSDメモリカードに対する操作を選択する画面が表示される場合があります。

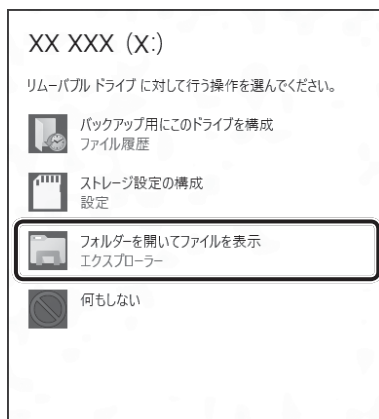
次のように操作してください。

① メッセージをタップする

xxxxx (X:)
タップして、リムーバブルドライブに対して行う操作を選んでください。

(表示例)

② 【フォルダーを開いてファイルを表示】を選択する



(表示例)

3 取り出す


microSD メモリカードに保存しているファイルを使用していたり、ウィンドウを開いたりしていると、取り出しができません。

ファイルやウィンドウを閉じてから、操作を行ってください。

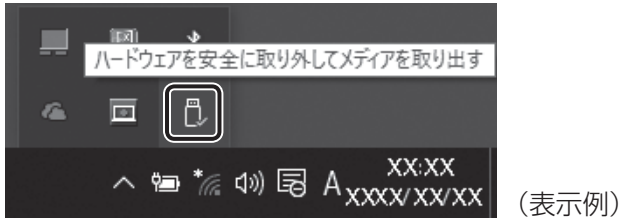
2 章

本製品の基本操作を覚えよう

1 microSD メモリカードの使用を停止する

- ① 通知領域の [ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す] アイコン () をタップする

* 通知領域にアイコンが表示されていない場合は、  をタップしてください。



- ② 表示されたメニューから [(取りはずす microSD メモリカード) の取り出し] をタップする

「ハードウェアの取り外し」のメッセージが表示されます。

2 microSD メモリカードを押す

カードが少し出てきます。そのまま手で取り出します。

7 ペンを使う

* ペン付属モデルのみ

* デジタイザーペンに関する説明は、デジタイザーペン付属モデルのみ

ペン付属モデルには、デジタイザーペンまたはリザーブペン、あるいは両方のペンが付属しています。デジタイザーペン／リザーブペンは、本体の画面上で、メニューの選択やデータの入力に使用できます。

お願い

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照▶「付録 5 - 6 ペンについて」

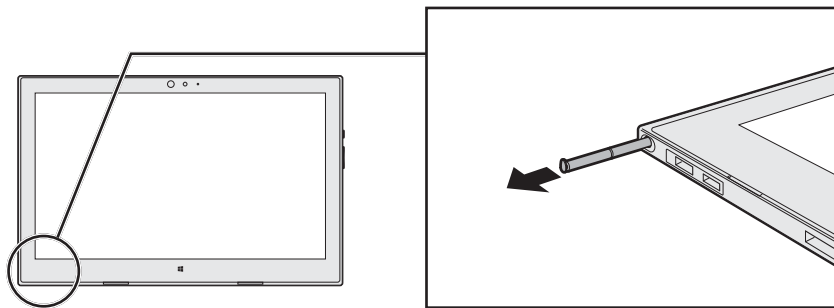
1 デジタイザーペン／リザーブペンを使う前に

■ デジタイザーペン

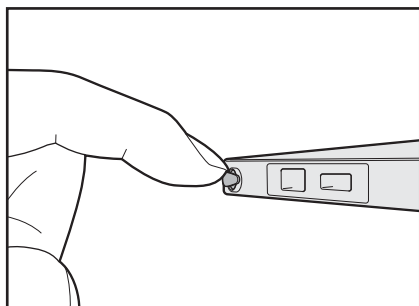
箱に、デジタイザーペン、替え芯、芯抜きが入っていますので取り出してください。替え芯、芯抜きはなくさないよう大切に保管してください。

■ リザーブペン

リザーブペンはタブレットの下側に収納されています。

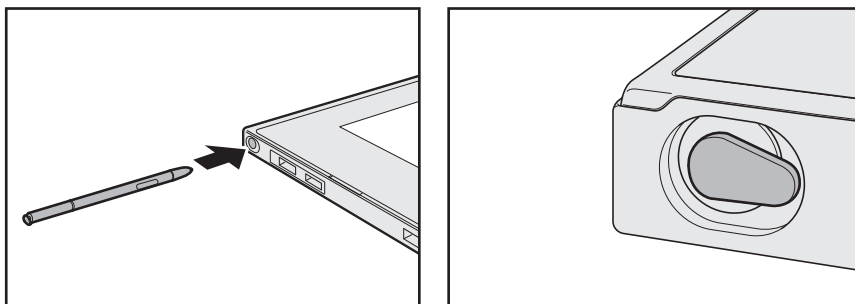


上記の方法でうまく取り出せない場合は、つめで引っかけてください。



7 ペンを使う

使用しないときはタブレットに収納してください。



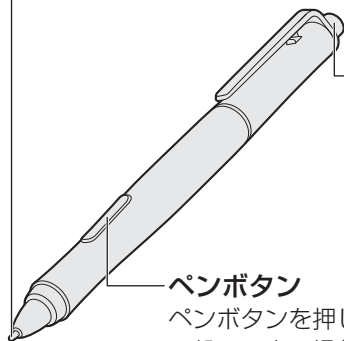
ペン尻をイラストのような向きにして、収納してください。
イラストのように収納しないと、収納部からペンが飛び出した状態になり、タブレットとキーボードドックの接続ができません。

2 デジタイザーペン／リザーブペンを使う

【デジタイザーペン】

ペン先

画面に近づけると画面上のポインタが反応し、一般のマウスと同等の操作ができます。



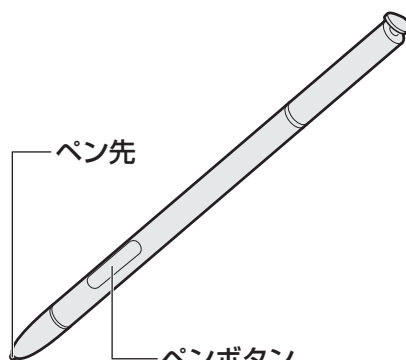
ペンボタン

ペンボタンを押しながら画面に触れると、一般のマウス操作の右クリックと同等の操作ができます。

テールスイッチ

消しゴム機能に対応したアプリケーションでは、消しゴムとしてお使いになれます*1。

【リザーブペン】



ペン先

ペンボタン


* 1 消しゴム機能に対応していないアプリケーションでは、ペン先と同等にお使いいただけます。

ペン先の操作は、指でのタッチ操作と同じように行います。
一部、指でのタッチ操作と同じように操作できないものがあります。

参照 ▶ 「本章 2 - 1 指でタッチして操作する」

タップ	ペン先でアイコンなどを1回軽くタッチします。
ダブルタップ	ペン先でアイコンなどをすばやく2回タッチします。
長押し（ロングタップ）	ペン先でアイコンなどをタッチしたまま数秒おいて、はなします。 タッチしたアイコンに対して、メニューなどが表示されます。
ドラッグ	ペン先でアイコンなどにタッチしたまま、目的の位置まで移動してからはなします。
スワイプ、スライド	ペン先で画面を軽くはらうように動かしたり（スワイプ）、なぞったり（スライド）します。
消去 * デジタイザーペンでのみ 操作できます。	対応しているアプリケーションのみ使用できます。 テールスイッチの先が引っ込む程度に、テールスイッチを画面上の消したい部分に軽く押しつけます。

メモ ペンボタンとテールスイッチの機能を無効にする

- ペンのペンボタンとテールスイッチの機能を、無効に設定することができます。
設定方法は、次のとおりです。
 - ① [スタート] ボタン () をタップする
 - ② [すべてのアプリ] → [Windowsシステムツール] → [コントロールパネル] をタップする
 - ③ [ハードウェアとサウンド] → [ペンとタッチ] をタップする
[ペンとタッチ] 画面が表示されます。
 - ④ [ペンのオプション] タブの [ペンボタン] で無効にしたい項目のチェックをはずす
ペンボタンの機能を無効にしたい場合は、[ペンボタンを使用して右クリックの操作をする] のチェックをはずしてください。
テールスイッチの機能を無効にしたい場合は、[ペンの上部を使用してインクを消去する（可能な場合）] のチェックをはずしてください。
 - ⑤ [OK] ボタンをタップする



3章

インターネットやネットワークに 接続する

ネットワークや無線LANの概要について説明しています。
また、本製品が無線LANアクセスポイントと通信するための設定方法を説明しています。

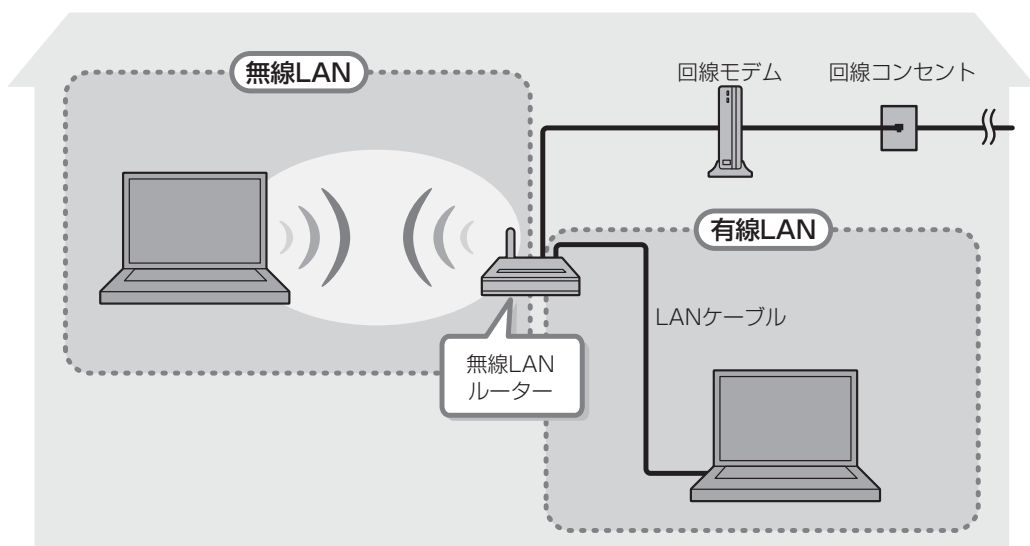
1 ネットワークで広がる世界

会社や家庭でそれぞれ自分専用のパソコンやタブレットを持っている場合、1つのプリンターを共有したいときや、インターネット接続を使いたいときは、ネットワークを使うと便利です。

1 LAN接続はこんなに便利

会社や家庭でそれぞれが自分専用のパソコンやタブレットを持っている場合や、ひとりで複数のパソコンやタブレットを持っている場合など、複数のパソコンやタブレットがあるときは、LAN (Local Area Network) を使うと便利です。

LAN機能にはケーブルを使った有線LANと、ケーブルを使わない無線LANがあります。



(接続例)

無線LAN機能搭載モデルでは、無線LANを使用することができます。

■ 無線LAN

無線LANとは、パソコンやタブレットにLANケーブルを接続していない状態でもネットワークに接続できる、ワイヤレスのLAN機能のことです。モデムやルーターの位置とは関係なく、無線通信のエリア内であればあらゆる場所からコンピューターをLANシステムに接続できます。無線LANルーターや無線LANアクセスポイント（市販品）を使用することによって、パソコンやタブレットからワイヤレスでネットワーク環境を実現できます。



ネットワークに接続したあとに、ファイルの共有の設定や、ネットワークに接続しているプリンターなどの機器の設定を行う必要があります。

ネットワークに接続している機器の設定は、各機器に付属している説明書を確認してください。また、会社や学校で使用する場合は、ネットワーク管理者に確認してください。

* 無線LAN機能搭載モデルのみ

1 無線LAN機能をONにする

警告

- 心臓ペースメーカーを装着しているかたは、心臓ペースメーカーの装着部位から22cm以上離す
電波によりペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。
- 電子機器の使用が制限されている場所では本製品の電源を切る
本製品を航空機や電子機器の使用が制限されている場所（病院など）に持ち込む場合は、無線通信機能を無効に設定したうえで、本製品の電源を切ってください。ほかの機器に影響を与えることがあります。
 - ・ 無線通信機能は、次の手順でOFFにすることができます。
 - ① 通知領域の  アイコンをタップする
 - ② [機内モード] をタップして、ONに切り替える
ONになると、通知領域に  アイコンが表示されます。
 - ・ スリープや休止状態では、本製品が自動的に復帰することがあるため、飛行を妨げたり、ほかのシステムに影響を及ぼしたりすることがあります。
 - ・ 電源を切った状態でも、本製品が自動的に起動するような設定のソフトウェアの場合は、あらかじめ設定を無効（解除）にしてください。

お願い

- あらかじめ、次の説明を確認してください。
 - 参照**▶ 「付録 5 - 7 無線LANについて」
- 本書に、セキュリティに関する注意事項や使用上の注意事項を説明しています。無線LANを使用する場合は記述をよく読んで、セキュリティの設定を行ってください。
 - 参照**▶ 「付録 2 デイリーケアとアフターケア」

1 通知領域の アイコンをタップする

* 通知領域にアイコンが表示されていない場合は、  をタップしてください。

2 [Wi-Fi] をタップして、ONに切り替える

ONにすると、[利用可能]（アイコンに色が付いた状態）となり、アクティブな状態になります。

2 無線LANを設定する

無線LANアクセスポイントと本製品が、無線LANで通信できるように設定を行います。

メモ

- 無線LAN機能を使用する場合、セキュリティ設定を行うことをおすすめします。セキュリティの設定を行っていない場合、さまざまな問題が発生する可能性があります。

参照 無線LAN製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意

「付録 2 デイリーケアとアフターケア」

これらの問題に対応するためには、無線LANアクセスポイントと本製品の双方で通信データの暗号化などのセキュリティが必要になります。

本製品には、無線LANを使用するにあたっての問題に対応するためのセキュリティ機能が用意されています。

次の設定を行い、セキュリティ機能を有効にして本製品を使用すれば、それらの問題が発生する可能性を低くすることができます。

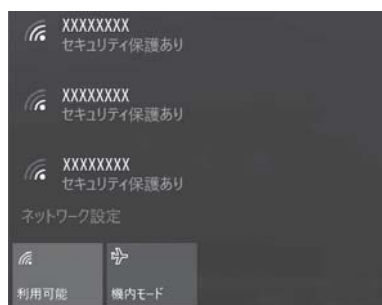
1 無線LANアクセスポイントの電源を入れ、無線通信機能をONにする

参照 無線LANアクセスポイントの操作の詳細について
『無線LANアクセスポイントに付属している説明書』

2 通知領域の アイコンをタップする

* 通知領域にアイコンが表示されていない場合は、 をタップしてください。

本製品の周囲にあるワイヤレス ネットワーク（無線LANアクセスポイント）のSSIDの一覧が表示されます。



(表示例)

3 接続するワイヤレスネットワークをタップし①、[自動的に接続] をチェックした状態で [接続] ボタンをタップする②



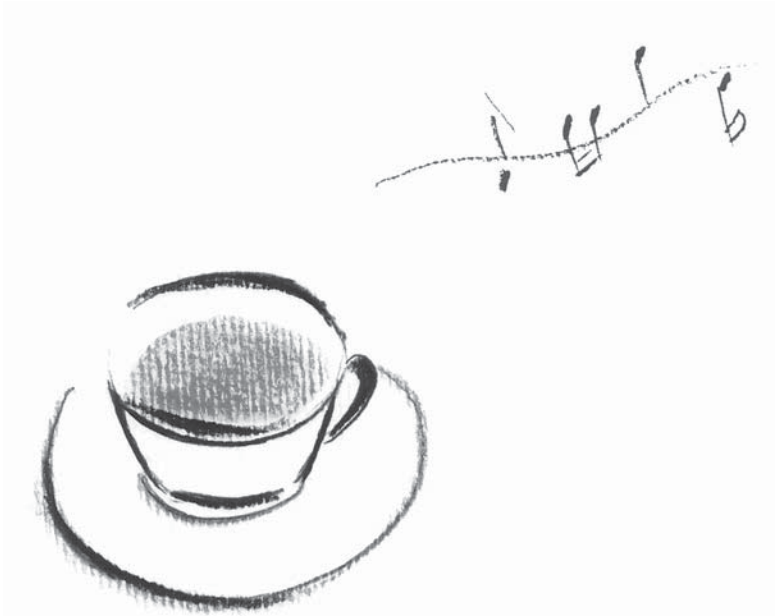
環境によっては、近隣で使用されているワイヤレスネットワークのSSIDが表示される場合もあるので、必ず目的のワイヤレスネットワークを選択してください。

4 ネットワークセキュリティ情報を入力して①、[次へ] ボタンをタップする②



以降は、画面の指示に従って操作してください。

選択する項目、データ暗号化の方式、セキュリティ キーなどの詳細は、お使いになる無線LANアクセスポイントに付属している説明書を確認のうえ、正しく設定してください。正しく設定していない場合、無線LANアクセスポイントに接続できない場合があります。



4章

■ 周辺機器を使って機能を広げよう

本製品でできることをさらに広げたい。

そのためには周辺機器を接続して、機能を拡張しましょう。

本製品に取り付けられるさまざまな周辺機器の紹介と、よく使う周辺機器の取り付けかたや各種設定、取り扱いについて説明しています。

1

周辺機器を使う前に

周辺機器とは、本製品に接続して使う機器のことで、デバイスともいいます。周辺機器を使うと、本製品の性能を高めたり、本製品が持っていない機能を追加することができます。

周辺機器は、本製品の周囲にあるコネクタや端子につながります。

本製品のインターフェースに合った周辺機器をご利用ください。

周辺機器によっては、インターフェースなどの規格が異なることがあります。インターフェースとは、機器を接続するときのケーブルの規格や、コネクタ／端子の形状などのことです。

購入される際には、目的に合った機能を持ち、本製品に対応している周辺機器をお選びください。

周辺機器が本製品に対応しているかどうかについては、その周辺機器のメーカーに確認してください。

お願い 周辺機器の取り付け／取りはずしにあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照▶ 「付録 5 - 8 周辺機器について」

次の周辺機器が使用できます。使用できる周辺機器の種類は、モデルによって異なります。

- USB対応機器（マウス、プリンター、USBフラッシュメモリなど）
- テレビ
- 外部ディスプレイ
- マイク、ヘッドホン
- Bluetooth[®]対応機器（マウス、キーボードなど）

* Bluetooth[®]機能搭載モデルのみ

参照▶ 「本章 2」以降

4章

周辺機器を使って機能を広げよう

USB Type-Cコネクタには、USB3.1 Gen1 (USB3.0) /USB2.0/USB1.1 対応機器を取り付けることができます。

参照 ▶ USB対応機器の詳細「USB対応機器に付属している説明書」

USBケーブルについて

市販のUSBケーブルで、タブレットに接続する側のプラグが、USB Type-Cタイプのもを使用してください。接続するUSB対応機器側のプラグについては、『USB対応機器に付属している説明書』を確認してください。

USB (Aタイプ) のケーブルの場合は、キーボードドックのUSBコネクタを使用してください。

参照 ▶ キーボードドックのUSBコネクタについて「6章 **4** キーボードドックでUSB対応機器を使う」

ユーザー USB対応機器は、電源を入れたまま取り付け／取りはずしができます。

また、新しい周辺機器を接続すると、システムがドライバーの有無をチェックし、自動的にインストールを行うプラグアンドプレイに対応しています。

USB対応機器には次のようなものがあります。

- USB対応マウス
- USB対応プリンター
- USB対応スキャナー
- USBフラッシュメモリ など

USB対応機器すべての動作を保証するものではありません。

ここでは、タブレットのUSB Type-CコネクタにUSB対応機器を取り付ける方法について説明します。

キーボードドックのUSBコネクタに、USB対応機器を取り付けることもできます。

参照 ▶ 「6章 **4** キーボードドックでUSB対応機器を使う」

お願い USB対応機器の操作にあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 ▶ 「付録 **5** - **8** - USB対応機器の操作にあたって」

1 USBの常時給電と高速充電

USBの常時給電

⚡アイコンが付いているUSBコネクタでは、本製品がスリープ状態、休止状態、シャットダウン状態でも、USBコネクタにUSBバスパワー（DC5V）を供給することができます（スリープアンドチャージ機能が有効の場合）。

本機能を利用して、USBに対応する携帯電話や携帯型デジタル音楽プレーヤーなどの外部機器の使用および充電ができます。

* USBケーブルは本製品に含まれていません。別途ご使用の機器に対応したケーブルを準備してください。

なお、本機能はすべてのUSB対応機器の使用および充電を保証するものではありません。


お願い USBの常時給電について

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照▶ 「付録 5 - 8 - USBの常時給電について」

本機能はご購入時の設定では無効になっていますので、使用するには「東芝システムセッティング」で本機能を有効にする必要があります。

□ 設定方法

- 1 [スタート] ボタン () をタップする
- 2 [すべてのアプリ] → [TOSHIBA] → [システムセッティング] をタップする
- 3 [スリープアンドチャージ] で [スリープアンドチャージ] を有効にする
- 4 [OK] ボタンをタップする

□「東芝スリープ情報」の表示方法


USBの常時給電について詳しくは、[東芝スリープ情報] 画面を確認してください。

- 1 USB 対応機器を、本製品のUSB Type-C コネクタに接続する
画面右下に、「スリープアンドチャージ」のメッセージが表示されます。
- 2 メッセージをタップする
[東芝スリープ情報] 画面が表示されます。

■ バッテリーモードの機能

バッテリー駆動しているときのスリープアンドチャージ機能を設定します。
バッテリー残量が指定した値以下になると、スリープアンドチャージは機能しません。
本機能を設定するには、あらかじめ [スリープアンドチャージ] を有効にしてください。

設定を変更するには、次のように操作してください。

- 1 [スタート] ボタン () をタップする
- 2 [すべてのアプリ] → [TOSHIBA] → [システムセッティング] をタップする
- 3 [スリープアンドチャージ] で [スリープアンドチャージ] を有効にする
- 4 [バッテリーモードの機能] で [有効] または [無効] を選択する
[有効] を設定すると、バッテリー駆動しているときにスリープアンドチャージが機能します。
[無効] を設定すると、電源コードとACアダプターを接続した場合に限り、スリープアンドチャージが機能します。
- 5 バッテリー残量の下限を指定する
[バッテリーモードの機能] が有効な状態で、スライダバーを移動し、スリープアンドチャージするバッテリー残量の下限を指定してください。スライダバーを動かすと、バッテリー残量の下限は、画面に「バッテリー残量がXX%以下になったら、この機能を無効にする」というメッセージで表示されます。
- 6 [OK] ボタンをタップする
設定が変更されます。

USBの高速充電

⚡ アイコンが付いているUSBコネクタでは、接続したUSB対応機器を高速に充電できます。

* USBケーブルは本製品には含まれていません。別途ご使用の機器に付属の高速充電に対応したケーブルを準備してください。

なお、本機能はすべてのUSB対応機器の使用および充電を保証するものではありません。

■ 電源OFF時の高速充電について

- 本機能はご購入時の設定では「自動モード」になっています。
接続するUSB対応機器とUSBケーブルが2.0A充電に対応している場合、本製品がスリープ状態、休止状態、シャットダウン状態のときにUSBコネクタにUSBバスパワー（DC5V）を最大2.0Aまで供給し、短時間で充電できます。

■ システムON CDPチャージモードについて

- 電源ON時にUSBコネクタにUSBバスパワー（DC5V）を最大1.5Aまで供給して短時間で充電することができます。


お願い USBの高速充電について

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照▶ 「付録 5 - 8 - USBの高速充電について」

本機能はご購入時の設定では有効になっています。バッテリー駆動時間を長くしたいなどの理由で、使用しない場合は「東芝システムセッティング」で本機能を無効にしてください。

□ 設定方法

- 1 [スタート] ボタン () をタップする
- 2 [すべてのアプリ] → [TOSHIBA] → [システムセッティング] をタップする
「東芝システムセッティング」が起動します。
- 3 [USB] で [システムON CDPチャージモード] を無効にする
設定後、再起動が必要な場合があります。
- 4 [OK] ボタンをタップする

2 USB 対応機器の取り付け／取りはずし

1 取り付け

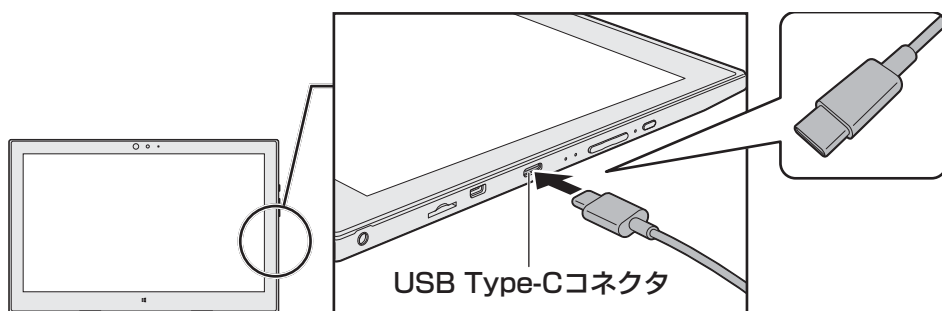
本製品やUSB 対応機器の電源が入っている状態でも、取り付けることができます。

1 USB ケーブルのプラグをUSB 対応機器に差し込む

USB 対応機器の詳細は、『USB 対応機器に付属している説明書』を確認してください。

2 USB ケーブルのもう一方のプラグを本製品のUSB Type-C コネクタに差し込む

プラグの向きを確認し、正しく差し込んでください。





4 章

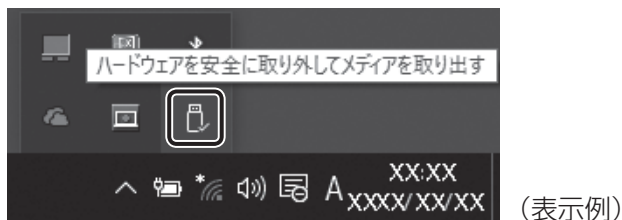
周辺機器を使って機能を広げよう

2 取りはずし

1 USB対応機器の使用を停止する

① 通知領域の「ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す」アイコン() をタップする

* 通知領域にアイコンが表示されていない場合は、  をタップしてください。
この操作を行ってもアイコンが表示されないUSB対応機器は、手順 **2** に進んでください。



② 表示されたメニューから取りはずすUSB対応機器の項目をタップする
「ハードウェアの取り外し」のメッセージが表示されます。

2 本製品とUSB対応機器に差し込んであるUSBケーブルのプラグを抜く

本製品とテレビ／外部ディスプレイを接続すると、本製品の画面を、接続したテレビ／外部ディスプレイの画面に表示させることができます。

本製品とテレビ／外部ディスプレイを接続するには、次の方法があります。

- HDMI[®]ケーブルで接続する
- ワイヤレスディスプレイ機能で接続する
*ワイヤレスディスプレイ機能搭載モデルのみ

ここでは、HDMI[®]ケーブルで接続する方法を説明します。

参照 ▶ ワイヤレスディスプレイ機能で接続する

「7章 **9** 本製品の画面をテレビ／外部ディスプレイにワイヤレスで表示する」

1 HDMI[®]ケーブルで接続する／取りはずす

本製品のHDMI[®] (mirco) 出力端子と、HDMI[®]入力端子があるテレビ／外部ディスプレイを、HDMI[®]ケーブルで接続します。

お願い テレビ／外部ディスプレイ接続の操作にあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 ▶ 「付録 **5** - **8** - テレビ／外部ディスプレイ接続の操作にあたって」



メモ

- HDMI[®]対応機器すべての動作を保証するものではありません。
- 接続するHDMI[®]ケーブルは、市販のものを使用してください。
- HDMI[®]ケーブルは、HDMI[®]ロゴ () の表示があるケーブルを使用してください。
- 表示可能な解像度はディスプレイにより異なります。
- テレビや外部ディスプレイへの出力形式の設定は変更できます。

参照 ▶ 「本節 **2** HDMI[®]ケーブルで接続時に表示を切り替える」

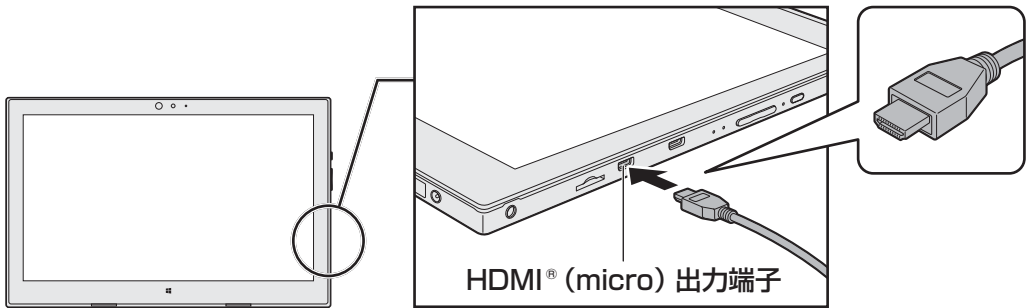
- 著作権保護された映像などをテレビや外部ディスプレイに表示するためには、HDCPに対応したテレビや外部ディスプレイを接続してください。

HDMI[®] (micro) 出力端子に接続する

- 1 HDMI[®] ケーブルのプラグをテレビまたは外部ディスプレイのHDMI[®] 入力端子に差し込む
- 2 テレビまたは外部ディスプレイの電源を入れる
- 3 HDMI[®] ケーブルのもう一方のプラグを HDMI[®] (micro) 出力端子に差し込む

プラグの向きを確認し、正しく差し込んでください。

誤った向きに差し込むと、HDMI[®] (micro) 出力端子やプラグが破損するおそれがあります。







メモ

- HDMI[®] 接続で、テレビまたは外部ディスプレイに映像を映しているとき、HDMI[®] ケーブルを抜いたあと、再度 HDMI[®] ケーブルを接続する場合は5秒以上間隔をあげてください。

□ 音声の出力を本製品のスピーカーからテレビなどに切り替える

HDMI[®]ケーブルでテレビや外部ディスプレイを接続すると、自動的に音声の出力先がテレビや外部ディスプレイに切り替わります。テレビや外部ディスプレイを接続しても音声が変わらない場合は、次の設定を行ってください。

- 1 [スタート] ボタン () をタップする
- 2 [すべてのアプリ] → [Windows システムツール] → [コントロールパネル] をタップする
- 3 [ ハードウェアとサウンド] → [ サウンド] をタップする
[サウンド] 画面が表示されます。
- 4 [再生] タブでテレビのアイコン () がある項目を選択し、[既定値に設定] ボタンをタップする
- 5 [OK] ボタンをタップする

この設定を行うと、本製品から音声が出力されなくなります。テレビや外部ディスプレイを取りはずし、本製品からの音声出力に戻す場合は、手順 **4** で [スピーカー] を選択し、[既定値に設定] ボタンをタップしてください。

HDMI[®] (micro) 出力端子から取りはずす

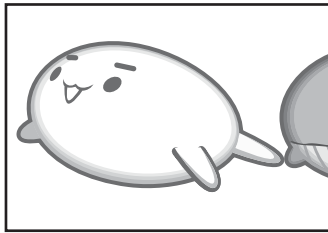
- 1 HDMI[®] (micro) 出力端子から HDMI[®] ケーブルのプラグを抜く

2 HDMI[®]ケーブルで接続時に表示を切り替える

テレビ／外部ディスプレイを接続した場合には、次の表示方法があります。
表示方法は、表示装置の切り替えを行うことで変更できます。

■ 本体ディスプレイ、またはテレビ／外部ディスプレイだけに表示

いずれかの表示装置にのみ、画面を表示します。



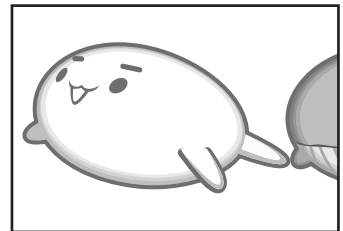
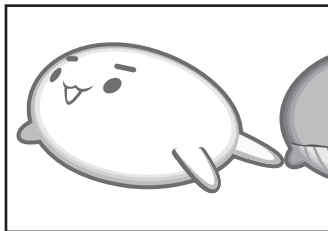
4 章

周辺機器を使って機能を広げよう

■ 本体ディスプレイとテレビ／外部ディスプレイの同時表示

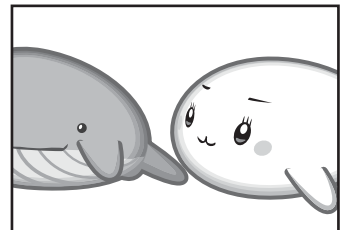
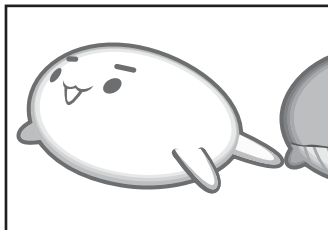
● 複製表示

表示装置それぞれに画面を表示します。



● 拡張表示

表示装置を1つの大きな画面として使用（拡張表示）します。






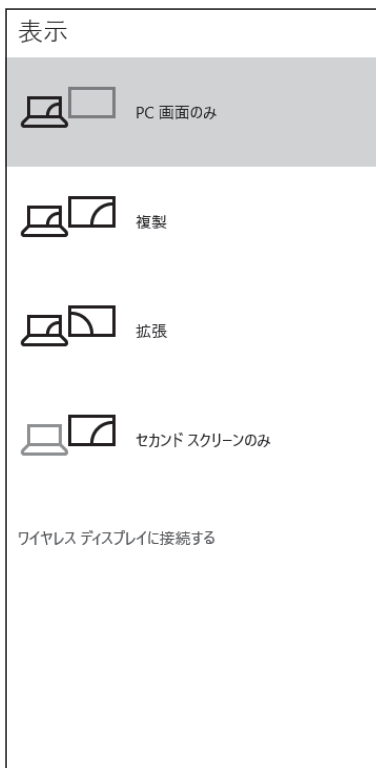
テレビ／外部ディスプレイに表示するには表示装置の設定を行ってください。

メモ

- テレビ／外部ディスプレイと本体ディスプレイを同時表示させる場合は、同時表示の種類や設定に合った色数／解像度で表示されます。
 - 表示を切り替えたとき、システムによって自動的に解像度を変更される場合があります。本体ディスプレイだけに表示を切り替えると、元の解像度に戻ります。
 - テレビ／外部ディスプレイに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。この場合は、テレビ／外部ディスプレイ側で、表示位置や表示幅を設定してください。
 - 拡張表示は、「タブレットモード」をOFFに設定している場合のみ有効です。
 - 映像を再生するアプリケーションを起動しているときは、表示装置を切り替えられません。使用する表示装置を変更したい場合、先に表示装置を切り替えてから、アプリケーションを起動してください。
- なお、ご使用の環境やアプリケーションにより複製表示、拡張表示での再生はサポートしていません。
- 著作権保護された映像を、HDMI[®] (micro) 出力端子に接続したテレビ／外部ディスプレイに表示したい場合は、テレビ／外部ディスプレイだけに表示するように設定してください。
 - 「電源オプション」で省電力機能を設定してテレビ／外部ディスプレイの表示が消えた場合、画面にタッチすると表示が復帰します。また、スリープに設定してある場合は、電源スイッチを押してください。表示が復帰するまで10秒前後かかる場合がありますが、故障ではありません。

表示装置を設定する

- 1 [スタート] ボタン () をタップする
- 2 [すべてのアプリ] → [Windows システムツール] → [コントロールパネル] をタップする
- 3 [ デスクトップのカスタマイズ] → [ ディスプレイ] をタップする
- 4 画面左側の [セカンド スクリーンに映す] をタップする
[表示] 画面が表示されます。



(表示例)

目的の項目をタップすると、表示装置が切り替わります。

各項目について説明します。

項目	概要
PC画面のみ	本体ディスプレイだけに表示します。
複製	本体ディスプレイと、テレビまたは外部ディスプレイに複製表示します。
拡張	本体ディスプレイと、テレビまたは外部ディスプレイに拡張表示します。
セカンド スクリーンのみ	テレビまたは外部ディスプレイだけに表示します (本体ディスプレイには何も表示されません)。

4章

周辺機器を使って機能を広げよう

1 複数の表示装置に表示する

本製品は、次の表示装置へ同時に本製品の画面を表示することができます。

- タブレットの本体ディスプレイ
- タブレットのHDMI[®] (micro) 出力端子に接続している表示装置
- キーボードドックのHDMI[®] 出力端子に接続している表示装置*¹
- キーボードドックのRGB コネクタに接続している表示装置*¹

*¹ キーボードドックのHDMI[®] 出力端子とRGB コネクタ両方に表示装置を接続している場合は、HDMI[®] 出力端子に接続した表示装置に表示されます。

4

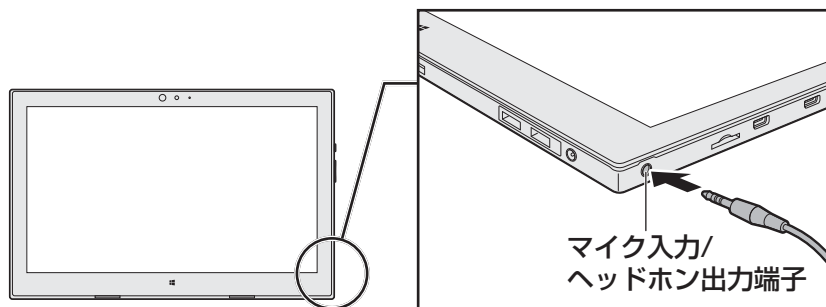
マイクやヘッドホンを使う

本製品には、マイクやヘッドホンを接続できます。

マイクやヘッドホンを使うと、音声ソフトや音声を使ったチャットを行うことができます。

1 マイク入力/ヘッドホン出力端子

本製品では、マイク入力端子とヘッドホン出力端子兼用の端子を搭載しています。

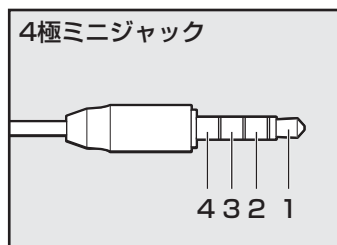


4章

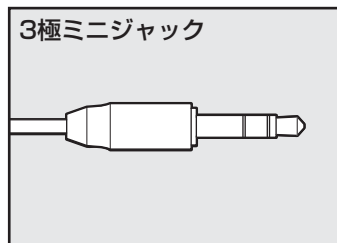
周辺機器を使って機能を広げよう

1 使用できる端子の種類

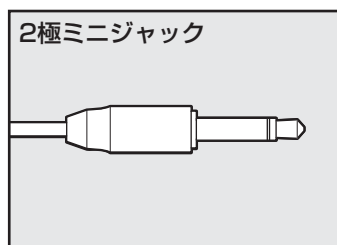
本製品で使用できる端子の種類は次のとおりです。



- プラグは直径3.5mm4極ミニジャックタイプが使用できます。
- 左図の数字は、次の内容を示します。
 - 1：ヘッドホン左
 - 2：ヘッドホン右
 - 3：グラウンド（マイク）
 - 4：マイク（グラウンド）



- プラグは直径3.5mm3極ミニジャックタイプが使用できます。
- マイク、ヘッドホンが使用できます。



- 直径3.5mm2極ミニジャックタイプのマイクでもマイク本体にバッテリーなどを搭載し、電源供給を必要としないマイクであれば使用できます。

音声認識ソフトとあわせて使用する場合は、各アプリケーションの取り扱い元が推奨するマイクを使用してください。

すべてのマイク、ヘッドホン、ヘッドセットに対応するものではありません。

2 マイクを使う

マイクを使うときは、マイク入力/ヘッドホン出力端子に接続します。

1 マイクの接続と取りはずし

- 1 マイクのプラグをマイク入力/ヘッドホン出力端子に差し込む
取りはずすときは、マイク入力/ヘッドホン出力端子からマイクのプラグを抜きます。

2 本製品上で録音するときの音量調整

接続したマイクから録音をする際の音量を調節できます。

- 1 [スタート] ボタン () をタップする
- 2 [すべてのアプリ] → [Windows システム ツール] → [コントロール パネル] をタップする
- 3 [ ハードウェアとサウンド] → [ SmartAudio] をタップする
[SMARTAudio] 画面が表示されます。
- 4 [内蔵マイク] () のつまみで音量を調節する
- 5 [閉じる] () ボタンをタップする

4 章

周辺機器を使って機能を広げよう

3 ヘッドホンを使う

マイク入力/ヘッドホン出力端子にヘッドホンを接続して、音楽や音声を聞くことができます。ヘッドホンのプラグは、直径3.5mmステレオミニジャックタイプを使用してください。

お願い ヘッドホンの操作にあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 ▶ 「付録 5 - 8 - ヘッドセットやヘッドホンの操作にあたって」

1 ヘッドホンの接続と取りはずし

1 ヘッドホンのプラグをマイク入力/ヘッドホン出力端子に差し込む

取りはずすときは、マイク入力/ヘッドホン出力端子からヘッドホンのプラグを抜きます。

2 ヘッドホンの音量調整

ヘッドホンの音量は、音量ボタン、またはWindowsの音量ミキサーで調節してください。

参照 ▶ 「2章 5 サウンド」

4 マイク／ヘッドホンを選択する

ご使用のマイク／ヘッドホンを選択します。

- 1 マイクまたはヘッドホンを接続する
- 2 [スタート] ボタン () をタップする
- 3 [すべてのアプリ] → [Windows システム ツール] → [コントロール パネル] をタップする
- 4 [ ハードウェアとサウンド] → [ SmartAudio] をタップする
[SMARTAudio] 画面が表示されます。
- 5 [ジャック構成] () をタップする
- 6 ▼ をタップする
- 7 デバイスを選択する
- 8 [閉じる] () ボタンをタップする

* Bluetooth[®]機能搭載モデルのみ

Bluetooth[®]機能搭載モデルの場合、Bluetooth[®]対応機器と接続して使用することができます。Bluetooth[®]ワイヤレステクノロジーは、本製品や周辺機器、携帯電話などの機器同士を相互に登録することで無線でデータをやりとりできる、世界標準の通信方式です。

お願い Bluetooth[®]機能の操作にあたって



- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 ▶ 「付録 5 - 8 - Bluetooth[®]について」

 メモ

- Bluetooth[®]のバージョンによっては本製品と通信できないBluetooth[®]対応機器があります。本製品に搭載されているBluetooth[®]機能のバージョンについては、次の説明を確認してください。
参照 ▶ 「付録 13 - 3 Bluetooth[®]の仕様」または「****（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ」
- 2.4GHz帯の無線LANまたはWiMAXが近距離で使用されていると通信速度の低下または通信エラーが発生する可能性があります。

1 Bluetooth[®]対応機器と接続する **警告**

- 心臓ペースメーカーを装着しているかたは、心臓ペースメーカーの装着部位から22cm以上離す
電波によりペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。
- 電子機器の使用が制限されている場所では本製品の電源を切る
本製品を航空機や電子機器の使用が制限されている場所（病院など）に持ち込む場合は、無線通信機能を無効に設定したうえで、本製品の電源を切ってください。ほかの機器に影響を与えることがあります。
 - ・ 無線通信機能は、次の手順でOFFにすることができます。
 - ① 通知領域の  アイコンをタップする
 - ② [機内モード] をタップして、ONに切り替える
ONになると、通知領域に  アイコンが表示されます。
 - ・ スリープや休止状態では、本製品が自動的に復帰することがあるため、飛行を妨げたり、ほかのシステムに影響を及ぼしたりすることがあります。
 - ・ 電源を切った状態でも、本製品が自動的に起動するような設定のソフトウェアの場合は、あらかじめ設定を無効（解除）にしてください。

1 Bluetooth®対応機器の電源を入れ、Bluetooth®機能をONにする

参照▶ Bluetooth®対応機器の操作方法の詳細『Bluetooth®対応機器に付属している説明書』

2 [スタート] ボタン () をタップする**3** [設定] をタップする**4** [デバイス] → [Bluetooth] をタップする**5** [Bluetooth] を [オン] に設定する

[オン] にすると、Bluetooth®機能がONになります。

6 Bluetooth®対応機器との接続設定を行う**4**
章

周辺機器を使って機能を広げよう



5章

■ バッテリー駆動で使う

本製品をモバイル使用する際に大事な存在であるバッテリーは、使いかたによっては長持ちさせることができます。

ここでは、充電や充電量の確認などについて説明しています。

1 バッテリーについて

本製品には、バッテリーパックが内蔵されています。

本製品を初めて使用するときは、電源コードとACアダプターを接続してバッテリーパックを充電してください。

バッテリーパックを充電すると、バッテリー駆動（電源コードとACアダプターを接続しない状態）で使うことができます。

バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめバッテリーパックの充電を完了（フル充電）させてください。

指定する方法・環境以外でバッテリーパックを使用した場合には、発熱、発火、破裂するなどの可能性があり、人身事故につながりかねない場合がありますので、十分ご注意ください。『安心してお使いいただくために』に、バッテリーパックを使用するときの重要事項が記述されています。バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめその記述をよく読み、必ず指示を守ってください。

5章

バッテリー駆動で使う

⚠ 危険

- 本製品に内蔵されているバッテリーパックを使用する
お客様ご自身でのバッテリーパックの取りはずしや交換はできません。
寿命などで交換する場合のお問い合わせ先は、『取扱説明書』を確認してください。バッテリーパックの交換は、保証期間内でも有料になります。

参照 ▶ お問い合わせ先『取扱説明書 2章 **12** サービス&サポートのご案内』

お願い バッテリーを使用するにあたって

- あらかじめ次の説明を確認してください。

参照 ▶ 「付録 **5 - 9** バッテリーの使用／充電について」


キーボードドック付属モデルの場合、キーボードドックの一部のモデルにセカンド バッテリーが内蔵されています。

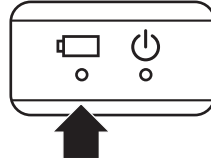
参照 ▶ セカンド バッテリーについて「6章 キーボードドックを使用する」

1 バッテリー充電量を確認する

バッテリー駆動で使う場合、バッテリーの充電量が減って作業を中断したりしないよう、バッテリーの充電量を確認しておく必要があります。

1 システムインジケータで確認する

電源コードとACアダプターを接続している場合、Battery  LEDが点灯します。



Battery  LEDは次の状態を示しています。

白色の点灯	充電完了
オレンジ色の点灯	充電中
オレンジ色の点滅	充電が必要
白色の点滅	故障の可能性がある 再度電源スイッチを押してください。点滅が続く場合、故障の可能性がある ので、東芝PCあんしんサポート 修理相談窓口ご連絡してください。
消灯	電源コードとACアダプターを接続していない 電源コードとACアダプターを接続していても消灯している場合は、 バッテリー異常の可能性があります。東芝PCあんしんサポート 使い かた相談窓口にご連絡してください。

メモ


- モデルによっては、ピークシフト期間中やeco充電モードで規定値以上充電されると、バッテリーへの充電は一時的に停止されます。

2 通知領域の【バッテリー】アイコンで確認する

通知領域の【バッテリー】アイコン (、) をタップすると、バッテリー充電量が表示されます。

3 バッテリー充電量が減少したとき

電源が入っている状態でバッテリーの充電量が少なくなると、次のように警告します。

- Battery  LED がオレンジ色に点滅する (バッテリーの残量が少ないことを示しています)
- バッテリーのアラームが動作する

「電源オプション」で設定すると、バッテリーの残量が少なくなったことを通知したり、自動的に対処する動作を行います。



「電源オプション」で [プラン設定の変更] → [詳細な電源設定の変更] をタップして表示される [詳細設定] タブの [バッテリー] → [低残量バッテリーの通知] や [低残量バッテリーの動作] で設定してください。

参照 省電力設定 (電源オプション) について「7章 **11** 省電力の設定をする」

上記のような警告が起こった場合はただちに本製品に電源コードと AC アダプターを接続し、充電してください。

購入時は、[バッテリー切れの動作] → [バッテリー駆動] が、休止状態に設定されています。バッテリー減少の警告が起こっても何も対処しなかった場合、本製品は自動的に休止状態になり、電源が切れます。

メモ

- 1ヵ月以上の長期にわたり、電源コードと AC アダプターを接続したまま本製品を使用してバッテリー駆動を行わないと、バッテリー充電量が少しずつ減少します。このような状態でバッテリー充電量が減少したときは、Battery  LED や [バッテリー] アイコンで充電量の減少が表示されないことがあります。1ヵ月に1度は再充電することを推奨します。
- 長時間使用しないでバッテリーが自然に放電しきってしまったときは、警告音も鳴らず、Battery  LED でも放電しきったことを知ることはできません。長時間使用しなかったときは、充電してから使用してください。

2 バッテリーを充電する

お願い バッテリーを充電するにあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照▶ 「付録 5 - 9 - バッテリーを充電するにあたって」

1 充電方法

1 本製品にACアダプターを接続し、電源コードの電源プラグをコンセントに差し込む

Battery LEDがオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。
電源のON/OFFにかかわらずフル充電になるまで充電されます。

2 Battery LEDが白色になるまで充電する

バッテリーの充電中はBattery LEDがオレンジ色に点灯します。
Battery LEDが消灯している場合は、電源が供給されていません。電源コード、ACアダプターの接続を確認してください。



メモ

- 本製品を長時間ご使用にならないときは、電源コードの電源プラグをコンセントから抜いてください。

■ 充電完了までの時間

バッテリー充電時間は、本製品の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。次の場合、充電完了まで時間がかかることがあります。

- 周囲の温度が低いとき
- バッテリーパックの温度が高くなっているとき
- 周辺機器を取り付けているとき
- アプリケーションを使用しているとき

詳しくは、『****（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

■ バッテリー駆動時間

バッテリー駆動時間は、本製品の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。

詳しくは、『****（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

■ バッテリー駆動時の処理速度

高度な処理を要するソフトウェア（3Dグラフィックス使用など）を使用する場合は、十分な性能を発揮するために電源コードとACアダプターを接続してご使用ください。

■ 使っていないときの充電保持時間

本製品を使わないで放置していても、バッテリー充電量は少しずつ減っていきます。

バッテリーの保持時間は、放置環境などによって異なります。

スリープを実行した場合、放電しきるまでの時間が非常に短いため、バッテリー駆動時は休止状態、またはハイブリッドスリープにすることをおすすめします。

参照 ▶ ハイブリッドスリープについて「2章 1 - 5 - 2 スリープ機能を強化する」

2 バッテリーを長持ちさせる

本製品のバッテリーをより有効に使うための工夫を紹介します。

バッテリーの機能低下を遅くする方法

次の点に気をつけて使用すると、バッテリーの機能低下を遅くすることができます。

- 本製品を長時間使用しないときは、電源コードの電源プラグをコンセントから抜いてください。
- おもに電源コードとACアダプターを接続して本製品を使用し、バッテリーパックの電力をほとんど使用しないなど、100%の残量近辺で充放電をくり返すとバッテリーの機能低下を早める場合があります。
- 「TOSHIBA ecoユーティリティ」で「eco充電モード」を有効にすると、バッテリー充電完了時の容量をフル充電より少なめにおさえて、バッテリーの機能低下を遅らせることができます。

参照▶ 「7章 11 - 2」 TOSHIBA ecoユーティリティ」

- 1カ月に1度は、電源コードとACアダプターをはずしてバッテリー駆動で本製品を使用してください。

バッテリー消費をおさえる方法

バッテリーの消費をおさえて、本製品をバッテリー駆動で長時間使用するには、次の方法があります。

- こまめに休止状態にする

参照▶ 「2章 1 - 6」 休止状態」

- 省電力の設定をする

参照▶ 「7章 11」 省電力の設定をする」

バッテリーの充電能力を調べる

バッテリーパックは、消耗品です。「東芝PCヘルスマニタ」を使用すると、バッテリーパックを交換する目安を調べることができます。

参照▶ 「東芝PCヘルスマニタ」について「7章 12」 本製品の動作状況を監視し、記録する」



6章

■ キーボードドックを使用する

* キーボードドック付属モデルのみ

キーボードドックの使用方法について説明しています。

キーボードドックを取り付けて使用するときのお願い事項や、取り付け／取りはずしなどの説明は、『取扱説明書』をご覧ください。

1

電源を入れる

1 電源コードとACアダプターを接続する

あらかじめ、タブレットをキーボードドックに接続してください。

参照▶ 接続方法『取扱説明書 1章 3 本製品のスタイルについて』

警告

- ACアダプターは本製品に付属のものを使用する
本製品付属以外のACアダプターを使用すると電圧や（+）（-）の極性が異なっていることがあるため、火災・破裂・発熱のおそれがあります。
- キーボードドックにACアダプターを接続する場合、本書に記載してある順番を守って接続する
順番を守らないと、ACアダプターのプラグが帯電し、感電またはけがをする場合があります。
また、ACアダプターのプラグをキーボードドックの電源コネクタ以外の金属部分に触れないようにしてください。

注意

- 付属の電源コードは、本製品付属のACアダプター以外には使用しない
付属の電源コードは、本製品付属のACアダプター専用です。

お願い 電源コード、ACアダプターの取り扱いについて

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

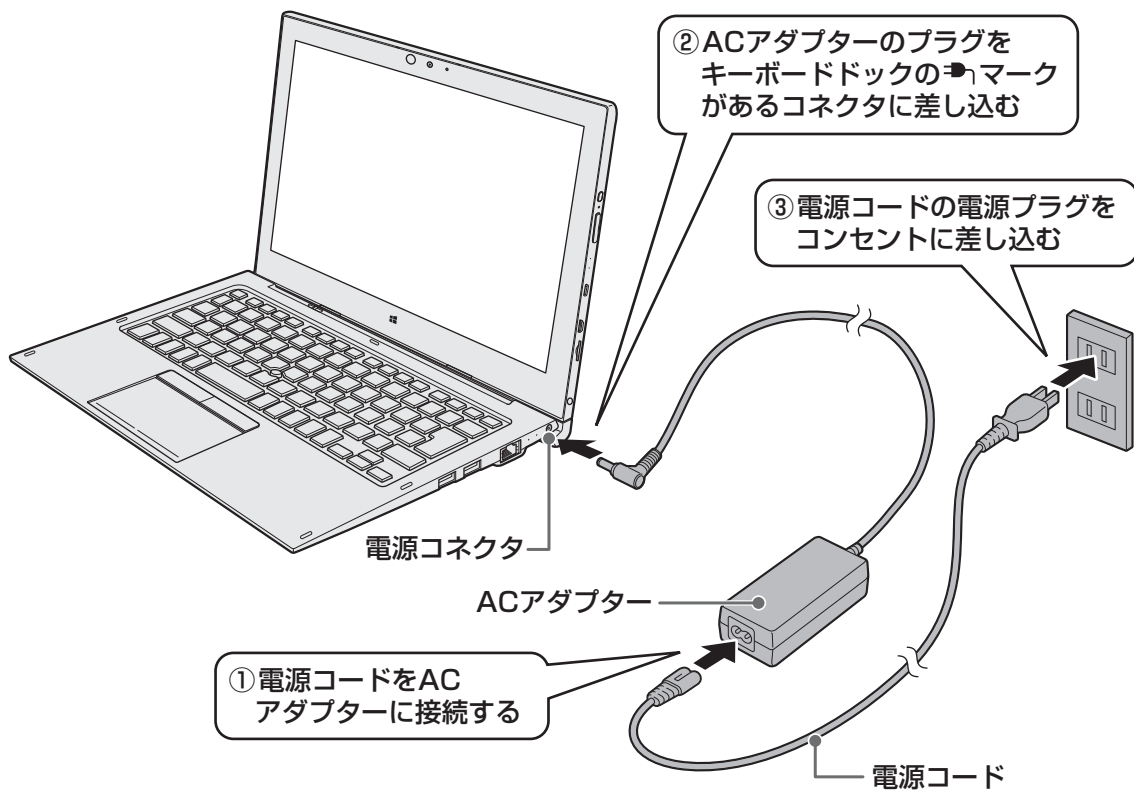
参照▶ 『取扱説明書 2章 13 - 3 電源コード、ACアダプターの取り扱いについて』

6章

キーボードドックを使用する

次の図の①→②→③の順で行ってください。

キーボードドックを取り付けた状態で初めて電源を入れるときには、電源コードとACアダプターを接続してください。



接続すると

タブレットのシステムインジケータのBattery LEDがオレンジ色に点灯し、バッテリーへの充電が自動的に始まります。Battery LEDが白色に点灯したら、充電完了です。

参照 Battery LED 「5章 1 - 1 - 1 システムインジケータで確認する」

メモ

- バッテリー充電中でも本製品を使用することができます。

参照 詳細について 「5章 1 - 2 バッテリーを充電する」

2 電源を入れる

次の手順で電源を入れます。

⚠ 注意

● ご使用場所に関する注意

ディスプレイを開くと、ディスプレイ下部を支点にしてキーボード部分が持ち上がります。材質が柔らかい机や床の上など、擦れやへこみで傷つきやすい場所では本製品を使用しないでください。

お願い ディスプレイを開けるときは

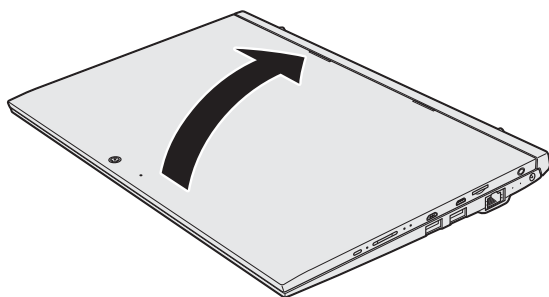
- ディスプレイを開き過ぎるとヒンジ（手順 2 参照）に力がかかり、破損や故障の原因となります。ヒンジに無理な力が加わらないよう開閉角度に注意してご使用ください。

お願い 電源を入れるときは

- プリンターなどの周辺機器を接続している場合は、本製品より先に周辺機器の電源を入れてください。
- ディスプレイ（画面）に触れたまま電源を入れないでください。ディスプレイ（画面）が一時的に反応しない場合があります。

1 本製品のディスプレイ（タブレット部分）を開ける

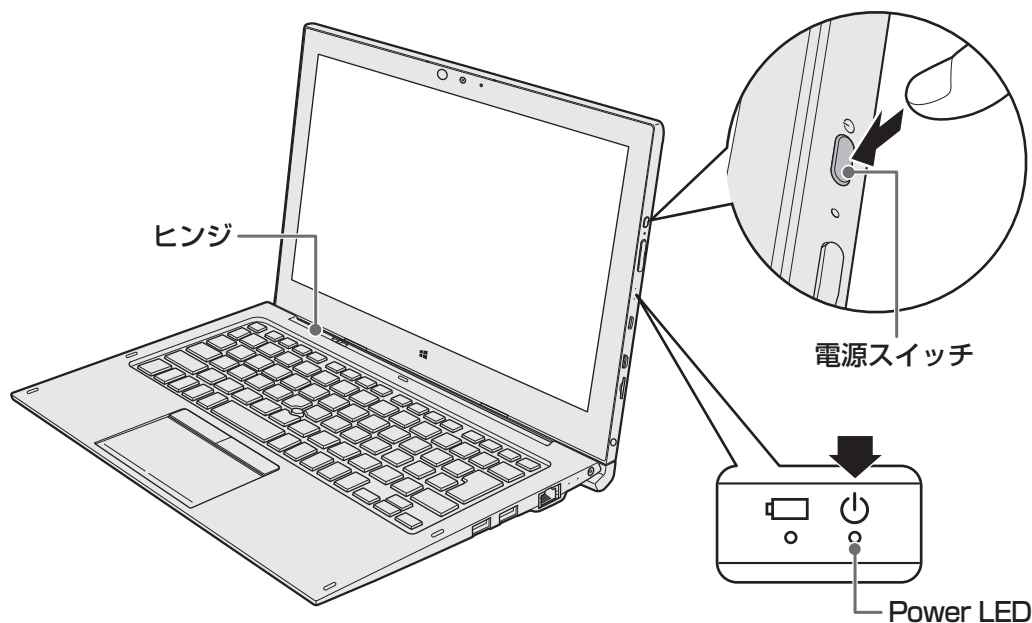
ディスプレイを開閉するときは、傷や汚れがつくのを防ぐために、液晶ディスプレイ（画面）部分には触れないようにしてください。



片手でパームレスト（キーボード手前部分）をおさえた状態で、ゆっくり起こしてください。

2 電源スイッチを押し、指をはなす

確実に電源スイッチを押してください。Power LEDが白色に点灯することを確認してください。



メモ ディスプレイを開くと、電源が入るようにする


- パネルオープンパワーオン機能を有効に設定した場合、ディスプレイを開くと、自動的に本製品の電源が入るようになります。
 - ① [スタート] ボタン () をタップする
 - ② [すべてのアプリ] → [TOSHIBA] → [システムセッティング] をタップする
 - ③ [起動オプション] をタップする
 - ④ [パネルオープン パワーオン] を有効にする
ボタンを左右にドラッグすることで、有効と無効を切り替えることができます。
 - ⑤ [OK] ボタンをタップする

メモ ディスプレイを閉じたときの動作の設定

- ディスプレイを閉じることによって [スリープ状態] [休止状態] [シャットダウン] のうち、あらかじめ設定した状態へ移行する機能を、パネルスイッチ機能といいます。
パネルスイッチ機能を有効にする場合、次の設定を行います。
 - ① [スタート] ボタン () をタップする
 - ② [すべてのアプリ] → [Windows システムツール] → [コントロールパネル] をタップする
 - ③ [ハードウェアとサウンド] をタップする
 - ④ [電源ボタンの動作の変更] をタップする
 - ⑤ [カバーを閉じたときの動作] で移行する状態を選択する
[何もしない] に設定すると、パネルスイッチ機能は動きません。
「バッテリー駆動」時と「電源に接続」時のそれぞれについて設定してください。
 - ⑥ [変更の保存] ボタンをタップする
ディスプレイを閉じると、手順⑤で設定した状態へ移行します。

2 タッチパッド

1 タッチパッドで操作する

電源を入れてWindowsを起動すると、本製品のディスプレイにが表示されます。この矢印を「ポインター」といい、操作の開始位置を示しています。この「ポインター」を動かしながら本製品を操作していきます。

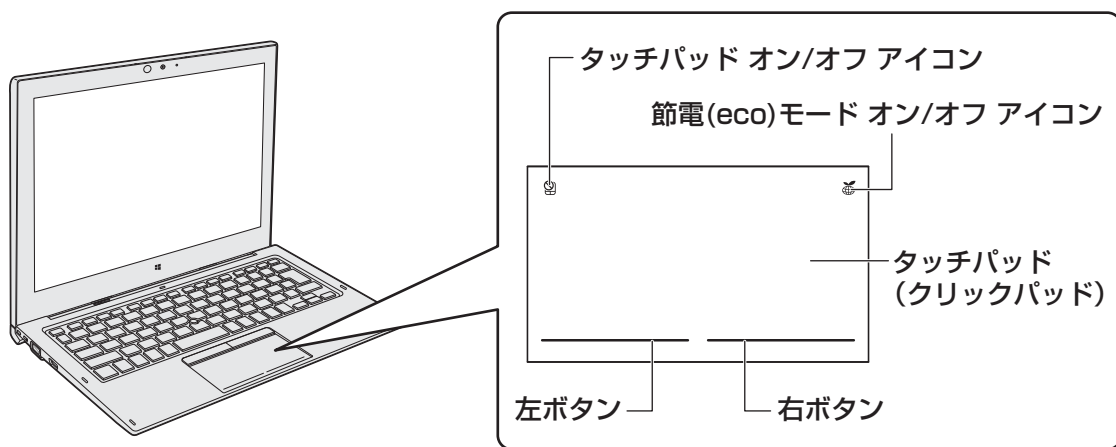
キーボードドックには、「ポインター」を動かすタッチパッドとアキュポイント、操作の指示を与える左ボタン／右ボタンがあります。

□ タッチパッド

お願い タッチパッドの操作にあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照▶ 「付録 5 - 11 - タッチパッドの操作にあたって」



- タッチパッド オン/オフ アイコン
すばやく2回たたくと、タッチパッドの有効／無効を切り替えることができます。
- 節電(eco)モード オン/オフ アイコン
すばやく2回たたくと、本製品の消費電力をおさえる機能（TOSHIBA ecoユーティリティ）・節電(eco)モードの有効／無効を切り替えることができます。

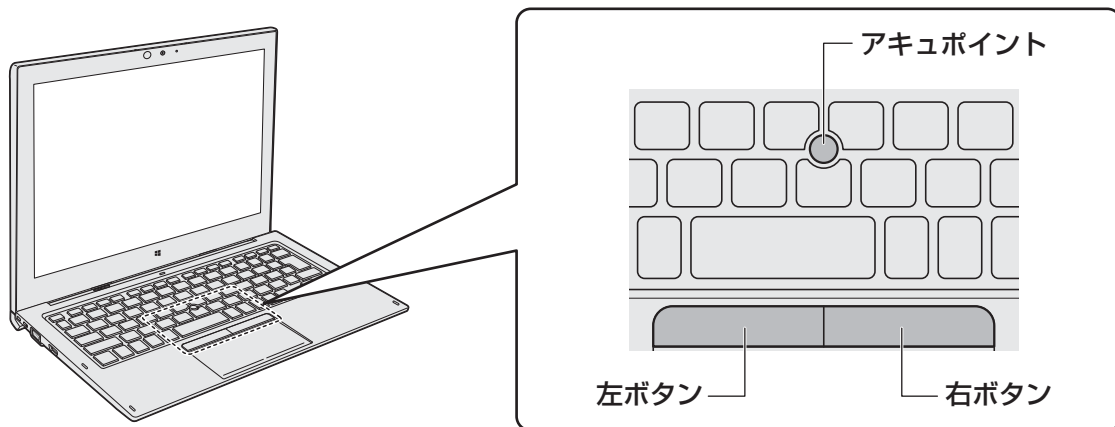
参照▶ 「TOSHIBA ecoユーティリティ」について「7章 11 - 2 TOSHIBA ecoユーティリティ」

□アキュポイント

お願い アキュポイントについて

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照▶「付録 5 - 11 - アキュポイントの操作にあたって」



アキュポイントに指を置き、押さえながら指を前後左右に動かすと、ポインターが指の方向にあわせて動きます。

1 タッピングの方法

タッチパッドを指で軽くたたくことを「タッピング」といいます。

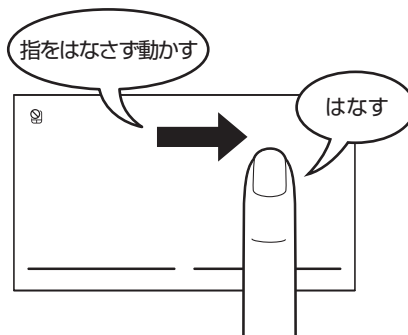
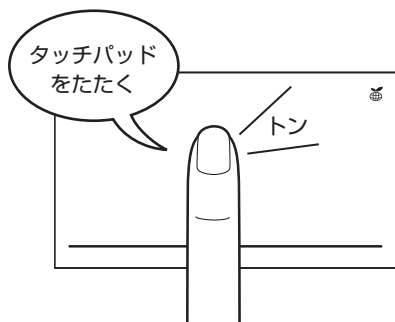
タッピング機能を使うと、左ボタンを使わなくても、次のような基本的な操作ができます。

□タップ/ダブルタップ

タッチパッドを1回軽くたたくとタップ、2回たたくとダブルタップができます。

□ドラッグアンドドロップ



タッチパッドを続けて2回たたき、2回目はタッチパッドから指をはなさずに目的の位置まで移動し、指をはなします。



2 タッチパッドの使用環境を設定する

タッチパッドやポインターの設定は、[マウスのプロパティ]で行います。

[マウスのプロパティ]の起動方法

- 1 [スタート] ボタン () をタップする
- 2 [すべてのアプリ] → [Windows システムツール] → [コントロールパネル] をタップする
- 3 [ ハードウェアとサウンド] → [マウス] をタップする
[マウスのプロパティ] 画面が表示されます。

設定方法

- 1 [マウスのプロパティ] 画面の各タブで機能を設定する
[マウスのプロパティ] では、タッチパッドやポインターなどの各種設定ができます。タッチパッドの設定をするには、次のように操作してください。
- 2 [マウスのプロパティ] 画面の [拡張] タブで [拡張機能の設定] ボタンをタップする
[拡張機能の設定] 画面が表示されます。
- 3 各タブで設定したい項目をタップする
画面下部の [説明] 欄に説明が表示されます。説明を確認して各項目を設定してください。
- 4 [OK] ボタンをタップする



役立つ操作集

タッチパッドを有効／無効にするには

次の方法でタッチパッドの有効／無効を切り替えることができます。

- ・ タッチパッド オン/オフ アイコン
タッチパッド オン/オフ アイコンは、すばやく2回たたくと、タッチパッドの有効／無効を切り替えることができます。
- ・ キー操作

キー操作の場合、**[FN]** + **[F9]** キーを押すたびにタッチパッドの有効／無効を切り替えます。

[FN] + **[F9]** キーでタッチパッドの有効／無効を切り替える場合は、タッチパッドから指をはなしてから行ってください。

[FN] + **[F9]** キーでタッチパッドの操作を有効にした瞬間、カーソルの動きが数秒不安定になることがあります。そのような場合は、一度タッチパッドから指をはなしてください。しばらくすると、正常に操作できるようになります。

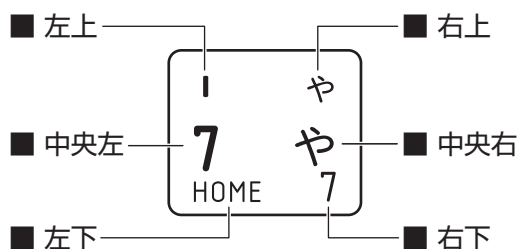
3

キーボード

各キーにはさまざまな機能が用意されています。いくつかのキーを組み合わせると、いろいろな操作が実行できます。

1 キーボードの文字キーの使いかた

文字キーは、文字や記号を入力するときに使います。キーボードの文字入力の状態によって、入力できる文字や記号が変わります。



左上	ほかのキーは使わず、そのまま押すと、アルファベットの小文字などが入力できます。 [SHIFT] キーを押しながら押すと、記号やアルファベットの大文字が入力できます。
中央左	ほかのキーは使わず、そのまま押すと、数字や記号が入力できます。
右上	かな入力ができる状態で [SHIFT] キーを押しながら押すと、記号、ひらがなの促音 <small>そくおん</small> (小さい「っ」、拗音 <small>ようおん</small> (小さい「ゃ、ゅ、ょ」) などが入力できます。
中央右	かな入力ができる状態で押すと、ひらがなや記号が入力できます。
左下	アロー状態のときに押すと、カーソル制御キーとして使えます。
右下	数字ロック状態のときに押すと、テンキーとして使えます。

6章

キーボードテクニックを使用する

2 **FN** キーを使った特殊機能キー

キー	内容
FN + ESC <スピーカーのミュート>	FN キーを押したまま、 ESC キーを押すたびに本体のスピーカーやヘッドホンの音量のミュート（消音）のON/OFFが切り替わります。
FN + SPACE <ディスプレイの解像度切り替え>	FN キーを押したまま、 SPACE キーを押すたびにディスプレイの解像度が切り替わります。
FN + E <イジェクト>	キーボードドックの使用を停止します。 参照 ▶『取扱説明書 1章 3 本製品のスタイルについて』
FN + Z <キーボードバックライトの点灯のON/OFF>	FN キーを押したまま、 Z キーを押すたびにキーボードバックライトの一定時間点灯（タイマー）／常時点灯（オン）／消灯（オフ）が切り替わります。
FN + S <検索画面の表示>	FN キーを押したまま、 S キーを押すと [WebとWindowsを検索] または [Cortana] の画面が表示されます。 参照 ▶ [1章 1 - 4 Windowsの操作でわからないことがあったら]
FN + F1 <インスタントセキュリティ機能>	コンピューターをロックします。 解除するには、 ENTER キーを押してください。Windowsパスワードを設定している場合は、パスワード入力欄にWindowsパスワードを入力し、 ENTER キーを押してください。
FN + F2 <電源プランの切り替え>	FN キーを押したまま、 F2 キーを押すたびに電源プランが切り替わります。
FN + F3 <スリープ機能の実行>	FN キーを押したまま、 F3 キーを押すと、スリープ機能が実行されます。
FN + F4 <休止状態の実行>	FN キーを押したまま、 F4 キーを押すと、休止状態になります。
FN + F5 <表示装置の切り替え>	FN キーを押したまま、 F5 キーを押すと、表示装置を選択する画面が表示されます。 FN キーを押したまま、 F5 キーを押すたびに項目の選択状態が移動します。目的の項目を選択したところで、 FN キーから指をはなして、 ENTER キーを押すと、表示装置が切り替わります。 参照 ▶ 詳細について [4章 3 - 2 HDMI [®] ケーブルで接続時に表示を切り替える]
FN + F6 <ディスプレイの輝度を下げる>	FN キーを押したまま、 F6 キーを押すたびにディスプレイの輝度が下がります。
FN + F7 <ディスプレイの輝度を上げる>	FN キーを押したまま、 F7 キーを押すたびにディスプレイの輝度が上がります。


キー	内容
FN + F8 <無線通信機能のON/OFF>	FN キーを押したまま、 F8 キーを押すたびに、無線通信機能（無線LAN機能* ¹ /Bluetooth [®] 機能* ²)のON/OFFが切り替わります。 [機内モード オフ] にすると無線通信機能はONになります。 [機内モード オン] にすると無線通信機能はOFFになります。
FN + F9 <タッチパッド ON/OFF>	FN キーを押したまま、 F9 キーを押すたびにタッチパッドの有効/無効を切り替えます。
FN + F10 <アローモードのON/OFF>	FN キーを押したまま、 F10 キーを押すと、アローモードになります。キー左下に灰色で印刷されているカーソル制御キー（↑、↓、←、→、HOME、PGUPなど）として使えます。アローモードを解除するには、もう一度 FN + F10 キーを押します。
FN + F11 <数字ロックモードのON/OFF>	FN キーを押したまま、 F11 キーを押すと、数字ロックモードになります。キー右下に灰色で印刷されているテンキー（1、2、3など）として使えます。数字ロックモードを解除するには、もう一度 FN + F11 キーを押します。アプリケーションによっては異なる場合があります。
FN + F12 <スクロールロックのON/OFF>	一部のアプリケーションで、 ↑ ↓ ← → キーを画面スクロールとして使用できます。ロック状態を解除するには、もう一度 FN + F12 キーを押します。
FN + ↑ <PGUP（ページアップ）>	一部のアプリケーションで、 FN キーを押したまま、 ↑ キーを押すと、前のページに移動できます。
FN + ↓ <PGDN（ページダウン）>	一部のアプリケーションで、 FN キーを押したまま、 ↓ キーを押すと、次のページに移動できます。
FN + ← <HOME（ホーム）>	一部のアプリケーションで、 FN キーを押したまま、 ← キーを押すと、カーソルが行または文書の最初に移動します。
FN + → <END（エンド）>	一部のアプリケーションで、 FN キーを押したまま、 → キーを押すと、カーソルが行または文書の最後に移動します。
FN + 1 <縮小>	一部のアプリケーションなどで、 FN キーを押したまま、 1 キーを押すと、画面やアイコンなどが縮小されます。
FN + 2 <拡大>	一部のアプリケーションなどで、 FN キーを押したまま、 2 キーを押すと、画面やアイコンなどが拡大されます。
FN + 3 <音量小>	FN キーを押したまま、 3 キーを押すたびに音量が小さくなります。
FN + 4 <音量大>	FN キーを押したまま、 4 キーを押すたびに音量が大きくなります。

* 1 無線LAN機能搭載モデルのみ

* 2 Bluetooth[®]機能搭載モデルのみ


「ファンクションキー」について

FNキーを使った特殊機能キーの一部では、キーを押したときにメッセージを表示するかどうかを、「東芝システムセッティング」で設定することができます。

- 1 [スタート] ボタン () をタップする
- 2 [すべてのアプリ] → [TOSHIBA] → [システムセッティング] をタップする
「東芝システムセッティング」が起動します。
- 3 [ファンクションキー] をタップする
- 4 各項目を設定し、[OK] ボタンをタップする

役立つ操作集

キーボードバックライトの輝度を設定する

- ① [スタート] ボタン () をタップする
- ② [すべてのアプリ] → [TOSHIBA] → [システムセッティング] をタップする
「東芝システムセッティング」が起動します。
- ③ [キーボード] をタップし、[キーボードバックライト輝度制御] でレベルを選択する
レベルの数字が大きいほど、輝度も大きくなります。
- ④ [OK] ボタンをタップする

3 特殊機能キー

特殊機能	キー	操作
タスクマネージャーの起動	CTRL + SHIFT + ESC	[タスク マネージャー] 画面が表示されます。アプリケーションやシステムの強制終了を行います。
画面コピー	PRTSC	現在表示中の画面をクリップボードにコピーします。
	ALT + PRTSC	現在表示中のアクティブな画面をクリップボードにコピーします。
	 + PRTSC	現在表示中の画面をPNG ファイルとして保存します。 PNG ファイルは、タスクバーの [エクスプローラー] ボタン () → [ピクチャ] → [スクリーンショット] に保存されています。

4

キーボードドックで USB対応機器を使う

ユーエスピー

USB対応機器は、電源を入れたまま取り付け／取りはずしができます。

また、新しい周辺機器を接続すると、システムがドライバーの有無をチェックし、自動的にインストールを行うプラグアンドプレイに対応しています。

USB対応機器には次のようなものがあります。

- USB対応マウス
- USB対応プリンター
- USB対応スキャナー
- USBフラッシュメモリ など

USB3.0規格に対応したコネクタには、USB3.0対応機器、USB2.0対応機器、USB1.1対応機器を取り付けることができます。

参照 ▶ USB対応機器の詳細『USB対応機器に付属している説明書』

使用しているUSB対応機器がUSB3.0規格に対応しているかどうかは、あらかじめ確認してください。

参照 ▶ 『USB対応機器に付属している説明書』

USB対応機器すべての動作を保証するものではありません。

お願い

USB対応機器の操作にあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 ▶ 「付録 5 - 8 - 周辺機器の取り付け／取りはずしについて」

参照 ▶ 「付録 5 - 8 - USB対応機器の操作にあたって」

6章

キーボードドックを使用する

1 USB対応機器の取り付け／取りはずし

1 取り付け

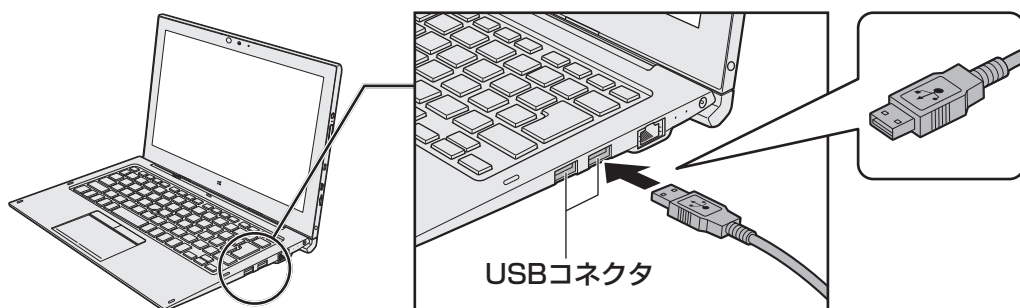
1 USBケーブルのプラグをUSB対応機器に差し込む

この手順が必要ない機器もあります。

参照▶ USB対応機器の詳細『USB対応機器に付属している説明書』


2 USBケーブルのもう一方のプラグをキーボードドックのUSBコネクタに差し込む


プラグの向きを確認して差し込んでください。

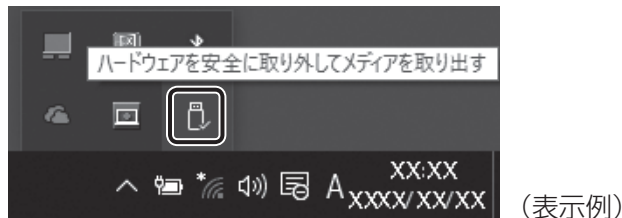


2 取りはずし

1 USB対応機器の使用を停止する

① 通知領域の「ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す」アイコン () をタップする

* 通知領域にアイコンが表示されていない場合は、  をタップしてください。
この操作を行ってもアイコンが表示されないUSB対応機器は、手順 **2** に進んでください。



② 表示されたメニューから取りはずすUSB対応機器の項目をタップする
「ハードウェアの取り外し」のメッセージが表示されます。

2 キーボードドックとUSB対応機器に差し込んであるUSBケーブルのプラグを抜く

*** セカンド バッテリー内蔵モデルのみ**

キーボードドックには、一部のモデルにセカンド バッテリー（バッテリーパック）が内蔵されています。

キーボードドックを初めて使用するときは、電源コードとACアダプターを接続してバッテリーパックを充電してください。

バッテリーパックを充電すると、バッテリー駆動（電源コードとACアダプターを接続しない状態）で使うことができます。

バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめバッテリーパックの充電を完了（フル充電）させてください。

指定する方法・環境以外でバッテリーパックを使用した場合には、発熱、発火、破裂するなどの可能性があり、人身事故につながりかねない場合がありますので、十分ご注意ください。『安心してお使いいただくために』に、バッテリーパックを使用するときの重要事項が記述されています。バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめその記述をよく読み、必ず指示を守ってください。

⚠ 危険

- キーボードドックに内蔵されているバッテリーパックを使用する
お客様ご自身でのバッテリーパックの取りはずしや交換はできません。
寿命などで交換する場合のお問い合わせ先は、『取扱説明書』を確認してください。バッテリーパックの交換は、保証期間内でも有料になります。

参照 お問い合わせ先『取扱説明書 2章 **12** サービス&サポートのご案内』

お願い バッテリーを使用するにあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

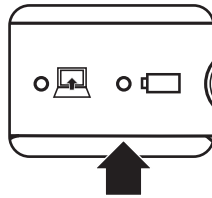
参照 「付録 **5** - **9** バッテリーの使用／充電について」

1 セカンド バッテリー 充電量を確認する

バッテリー駆動で使う場合、バッテリーの充電量が減って作業を中断したりしないよう、バッテリーの充電量を確認しておく必要があります。

1 システムインジケータで確認する

電源コードとACアダプターを接続している場合、セカンド Battery LEDが点灯します。



セカンド バッテリーを充電するときは、キーボードドックの電源コネクタを使用してください。また、タブレットとキーボードドックを接続している場合は、タブレットのバッテリーの充電が優先されます。充電能力に余力があるときは、タブレットと同時にキーボードドックのセカンド バッテリーも充電されます。

バッテリー駆動時は、キーボードドックのセカンド バッテリーから先に使用されます。

セカンド Battery LEDは次の状態を示しています。

白色の点灯	充電完了
オレンジ色の点灯	充電中
消灯	電源コードとACアダプターを接続していない 電源コードとACアダプターを接続していても消灯している場合は、バッテリー異常の可能性がります。東芝PCあんしんサポート 使いかた相談窓口ご連絡してください。

メモ

- モデルによっては、ピークシフト期間中やeco充電モードで規定値以上充電されると、バッテリーへの充電は一時的に停止されます。

2 通知領域の [バッテリー] アイコンで確認する

通知領域の [バッテリー] アイコン (、) をタップすると、バッテリー充電量を示した画面が表示されます。

キーボードドックにセカンド バッテリーを内蔵しているモデルの場合は、タブレットのバッテリーとキーボードドックのセカンド バッテリーのバッテリー充電量がそれぞれ表示されます。画面上部のバッテリー充電量の数値には、タブレットのバッテリーとキーボードドックのセカンド バッテリーの平均の数値が表示されます。

メモ

- 1ヵ月以上の長期にわたり、電源コードとACアダプターを接続したまま本製品を使用してバッテリー駆動を行わないと、バッテリー充電量が少しずつ減少します。このような状態でバッテリー充電量が減少したときは、セカンド Battery LED や [バッテリー] アイコンで充電量の減少が表示されないことがあります。1ヵ月に1度は再充電することを推奨します。
- 長時間使用しないでバッテリーが自然に放電しきってしまったときは、警告音も鳴らず、セカンド Battery LED でも放電しきったことを知ることはできません。長時間使用しなかったときは、充電してから使用してください。

6 章

キーボードドックを使用する

2 セカンド バッテリーを充電する

お願い バッテリーを充電するにあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 「付録 5 - 9 - バッテリーを充電するにあたって」

1 充電方法

1 キーボードドックの電源コネクタにACアダプターを接続し、電源コードの電源プラグをコンセントに差し込む

次の図の①→②→③の順で行ってください。

セカンド Battery LEDがオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。

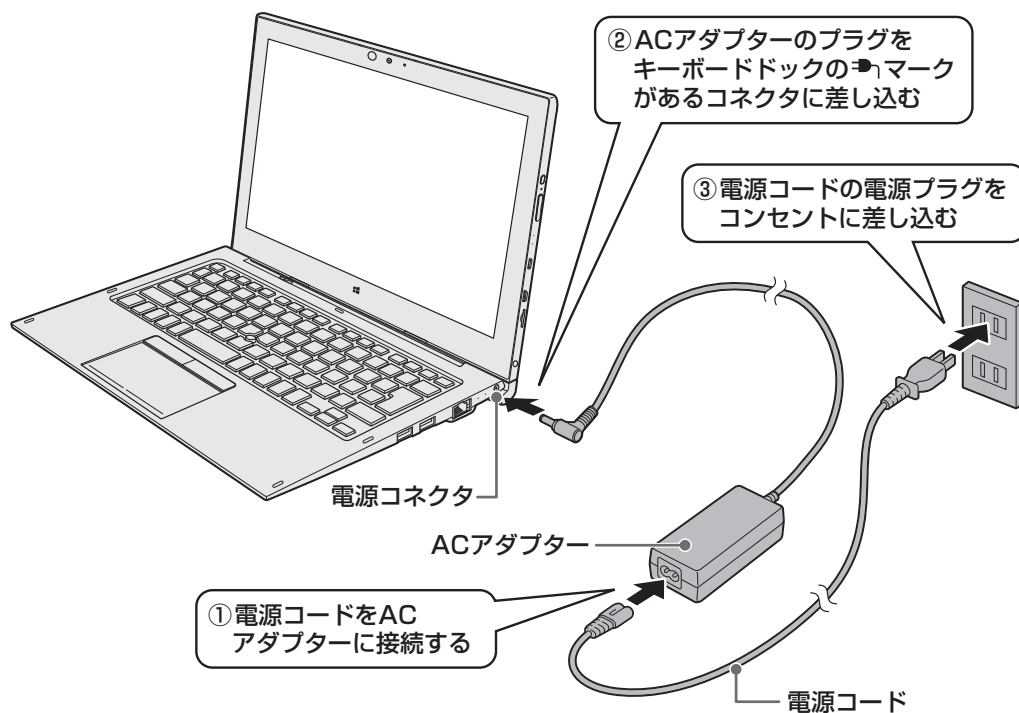
タブレットを接続していない状態では、セカンド バッテリーのみ充電します。

タブレットを接続している場合、タブレットのBattery LEDがオレンジ色に点灯すると、タブレットの充電も開始されます。

参照 タブレットのBattery LEDについて

「5章 1 - 1 - 1 システムインジケータで確認する」

電源のON/OFFにかかわらずフル充電になるまで充電されます。



* イラストは、タブレットをキーボードドックに接続した状態（ノートPCスタイル）の例です。

2 セカンド Battery LEDが白色になるまで充電する

バッテリーの充電中はセカンド Battery LEDがオレンジ色に点灯します。セカンド Battery LEDが消灯している場合は、電源が供給されていません。電源コード、ACアダプターの接続を確認してください。

メモ

- 本製品を長時間ご使用にならないときは、電源コードの電源プラグをコンセントから抜いてください。

■ 充電完了までの時間

バッテリー充電時間は、本製品の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。次の場合、充電完了まで時間がかかることがあります。

- 周囲の温度が低いとき
- バッテリーパックの温度が高くなっているとき
- 周辺機器を取り付けているとき
- アプリケーションを使用しているとき

■ バッテリー駆動時間

バッテリー駆動時間は、本製品の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。

■ バッテリー駆動時の処理速度

高度な処理を要するソフトウェア（3Dグラフィックス使用など）を使用する場合は、十分な性能を発揮するために電源コードとACアダプターを接続してご使用ください。

■ 使っていないときの充電保持時間

本製品を使わないで放置していても、バッテリー充電量は少しずつ減っていきます。バッテリーの保持時間は、放置環境などによって異なります。スリープを実行した場合、放電しきるまでの時間が非常に短いため、バッテリー駆動時は休止状態、またはハイブリッドスリープにすることをおすすめします。

参照 ▶ ハイブリッドスリープについて「2章 **1** - **5** - **2** スリープ機能を強化する」

メモ

- バッテリーパックは消耗品です。使いかたを工夫することで長持ちさせることができます。

参照 ▶ 詳細について「5章 **1** - **2** - **2** バッテリーを長持ちさせる」

- バッテリーパックの交換は、保証期間内でも有料になります。

キーボードドックの次のコネクタと、テレビや外部ディスプレイをケーブルで接続すると、接続した表示装置の画面に本製品の画面を表示させることができます。

- エイチディーイーエムアイ HDMI[®] 出力端子
- アールジービー RGB コネクタ

お願い テレビ／外部ディスプレイ接続の操作にあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 「付録 5 - 8 - テレビ／外部ディスプレイ接続の操作にあたって」

1 HDMI[®] 出力端子に接続する／取りはずす

HDMI[®] 入力端子があるテレビや外部ディスプレイを接続できます。



メモ

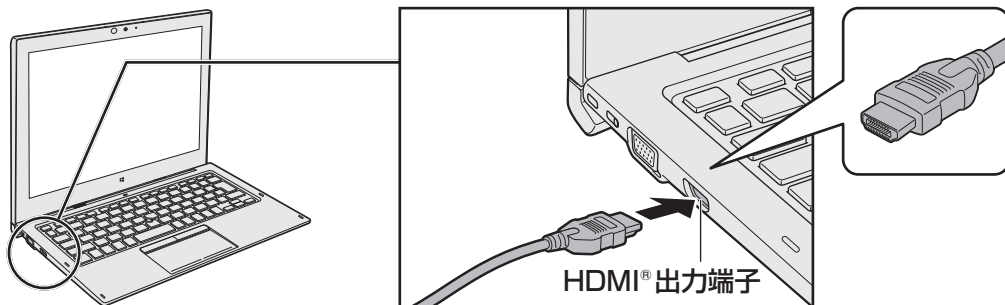
- 接続する HDMI[®] ケーブルは、市販のものを使用してください。
- HDMI[®] ケーブルは、HDMI[®] ロゴ (HIGH DEFINITION MULTIMEDIA INTERFACE HDMI[®]) の表示があるケーブルを使用してください。
- 表示可能な解像度はディスプレイにより異なります。
- テレビや外部ディスプレイへの出力形式の設定は変更できます。

参照 「本章 3 - 2 [FN] キーを使った特殊機能キー」、
「4章 3 - 2 - 表示装置を設定する」

- 著作権保護された映像などをテレビや外部ディスプレイに表示するためには、HDCP に対応したテレビや外部ディスプレイを接続してください。

HDMI[®] 出力端子に接続する

- 1 HDMI[®] ケーブルのプラグをテレビまたは外部ディスプレイのHDMI[®] 入力端子に差し込む
- 2 テレビまたは外部ディスプレイの電源を入れる
- 3 HDMI[®] ケーブルのもう一方のプラグをキーボードドックのHDMI[®] 出力端子に差し込む



6章

メモ

- HDMI[®] 接続で、テレビまたは外部ディスプレイに映像を映しているとき、HDMI[®] ケーブルを抜いたあと、再度HDMI[®] ケーブルを接続する場合は5秒以上間隔をあげてください。

HDMI[®] 出力端子から取りはずす

- 1 キーボードドックのHDMI[®] 出力端子からHDMI[®] ケーブルのプラグを抜く

2 RGB コネクタに接続する／取りはずす

RGB コネクタにはRGB 端子がある外部ディスプレイを接続できます。

メモ

- 接続するケーブルは、市販のものを使用してください。
- 表示可能な解像度はディスプレイにより異なります。
- 外部ディスプレイへの出力形式の設定は変更できます。

参照 「本章 3 - 2」 **FN** キーを使った特殊機能キー」、
「4章 3 - 2」 - 表示装置を設定する」

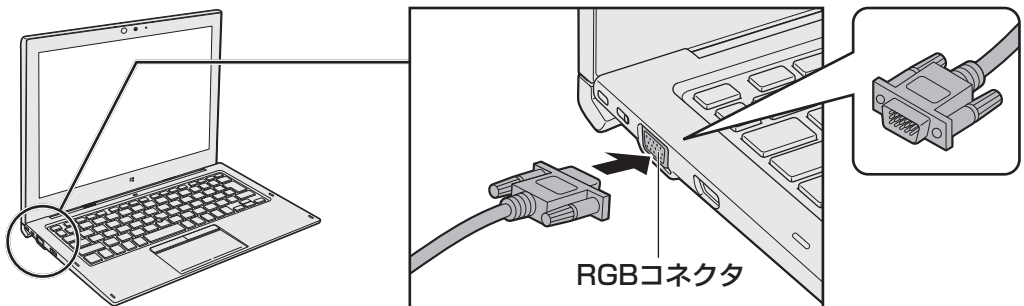
- RGB 端子を備えたテレビへは、外部ディスプレイのようにRGB ケーブルを使って表示することもできます。詳しくは、本項目の説明と『テレビに付属している説明書』を参照してください。

RGB コネクタに接続する

外部ディスプレイと本製品の電源を切った状態で接続してください。

1 外部ディスプレイのケーブルのプラグをキーボードドックのRGB コネクタに差し込む

本製品のRGB コネクタには固定用のネジ穴はありませんが、プラグに固定用のネジが付いているタイプの外部ディスプレイケーブルも使用できます。



2 外部ディスプレイの電源を入れる

3 本製品の電源を入れる

上記の手順で電源を入れると、本製品は自動的にその外部ディスプレイを認識します。

RGBコネクタから取りはずす

外部ディスプレイと本製品の電源を切った状態で取りはずしてください。

- 1 Windowsを終了させて本製品の電源を切る
参照▶ 電源の切りかた「2章 1 - 3」電源を切る
- 2 外部ディスプレイの電源を切る
- 3 キーボードドックのRGBコネクタから外部ディスプレイのケーブルのプラグを抜く

3 複数の表示装置に表示する

キーボードドックにタブレットを接続している場合、次の表示装置へ同時に本製品の画面を表示することができます。

- タブレットの本体ディスプレイ
- タブレットのHDMI[®] (micro) 出力端子に接続している表示装置
- キーボードドックのHDMI[®] 出力端子に接続している表示装置*¹
- キーボードドックのRGBコネクタに接続している表示装置*¹

* 1 キーボードドックのHDMI[®] 出力端子とRGBコネクタ両方に表示装置を接続している場合は、HDMI[®] 出力端子に接続した表示装置に表示されます。

キーボードドックのLAN機能は、Gigabit Ethernet (1000BASE-T) / Fast Ethernet (100BASE-TX)、Ethernet (10BASE-T) に対応しています。LANコネクタにLANケーブルを接続し、ネットワークに接続することができます。LANコネクタにLANケーブルを接続すると、Gigabit Ethernet / Fast Ethernet / Ethernetを自動的に検出して切り替えます。

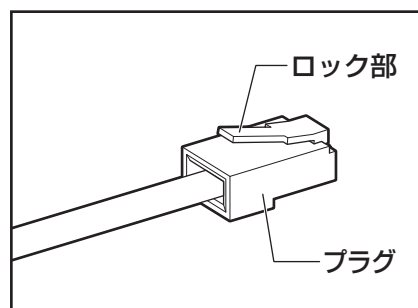
お願い LANケーブルの操作にあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照▶ 「付録 5 - 12 有線LANについて」

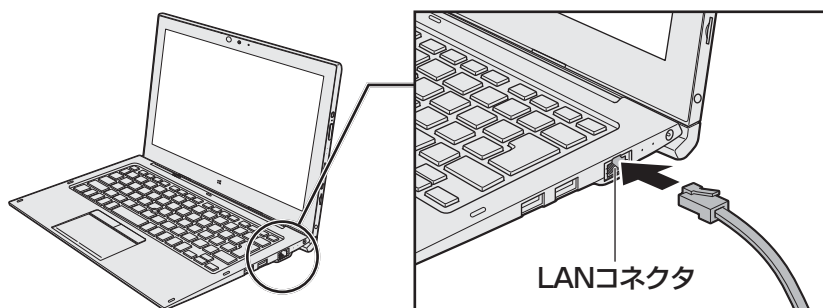
LANケーブルをはずしたり差し込むときは、プラグの部分を持って行ってください。また、はずすときは、プラグのロック部を押しながらずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。

LANケーブルは本製品には付属していません。市販のLANケーブルを購入してください。



1 本製品に接続されているすべての周辺機器の電源を切る

2 LANケーブルのプラグをキーボードドックのLANコネクタに差し込む
ロック部を上にして、「カチッ」と音がするまで差し込んでください。

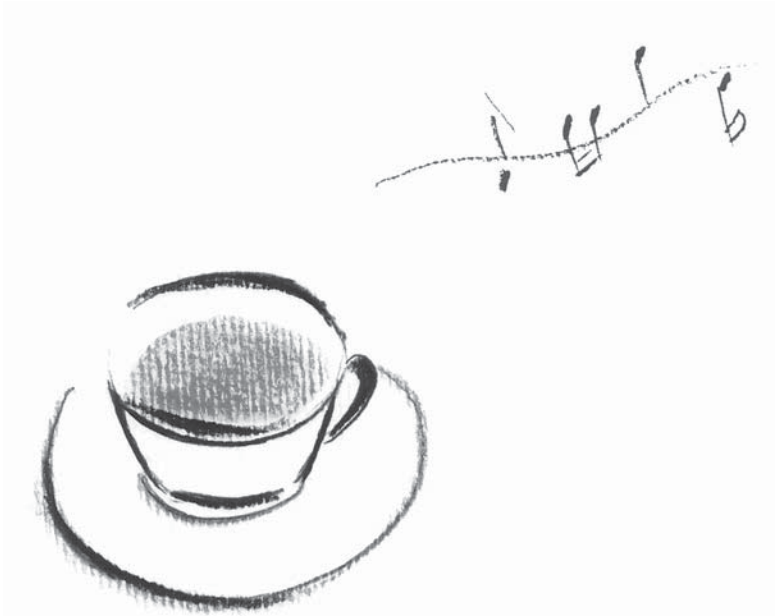


3 LANケーブルのもう一方のプラグを接続先のネットワーク機器のコネクタに差し込む

接続する機器により、以降の設定方法は異なります。

参照▶ 光回線終端装置、ADSLモデムの設定について
『プロバイダーなどから送られてくる資料』

参照▶ ブロードバンドルーターの設定について
『ブロードバンドルーターに付属している説明書』



7章

■ アプリケーション

本製品に用意されているアプリケーションについて説明しています。
用意されているアプリケーションは、ご購入のモデルにより異なります。

* ウイルスバスター クラウド™ 搭載モデルのみ

「ウイルスバスター クラウド™」は、個人情報保護、コンピューターウイルスの発見、駆除、ネットワークセキュリティ対策ができるアプリケーションです。

コンピューターウイルスは、次々と新しいものが出現します。「ウイルスバスター クラウド™」のウイルスチェックは、パターンファイルに基づいて行いますので、最新のコンピューターウイルスに対応したパターンファイルをインターネットから入手する必要があります。「ウイルスバスター クラウド™」は本製品をインターネットに接続していると、自動的にパターンを更新します。

「ウイルスバスター クラウド™」を使用するには、インターネットに接続してお申し込みを行っていただく必要があります。あらかじめインターネットに接続する設定を行ってから操作を始めてください。

お願い ウイルスバスター クラウド™ を使う

- 「ウイルスバスター クラウド™」を使用している場合、ウイルス定義ファイルなどは、新種のウイルスやワーム、スパイウェア、クラッキングなどからコンピューターを保護するためにも、常に最新の状態で使用する必要があります。本製品に用意されている「ウイルスバスター クラウド™」は、インターネットに接続していると自動的に最新の状態に更新されますが、90日間の使用期限があります。90日を経過するとウイルスチェック機能を含めて、すべての機能がご使用できなくなります。ウイルスチェックが全く行われない状態となりますので、必ず期限切れ前に有料の正規サービスへ登録するか、ほかのウイルスチェック／セキュリティ対策ソフトを導入してください。

1 体験版をインストールする

本製品に用意されている「ウイルスバスター クラウド™」は、90日間の使用期限がある体験版です。使用するには、インストールする必要があります。

Windows 10の場合

メモ

- Windows セットアップで「使用許諾契約に同意しウイルスバスターの利用を開始します。」が表示され、チェックを付けている場合、自動的に「ウイルスバスター クラウド™」がインストールされ、メールアドレスの入力画面が表示されます。メールアドレスをすでに持っている場合は入力し、「完了」ボタンをタップしてください。メールアドレスは登録しなくても使用できます。

自動的にインストールされない場合は、次の手順を参照してインストールしてください。

□ インストール手順

1 [スタート] ボタン () をタップする

2 [すべてのアプリ] → [ウイルスバスタークラウド] → [ウイルスバスターの表示] をタップする

以降は、画面の指示に従って操作してください。メールアドレスは登録しなくても使用できます。

Windows 10 Proの場合

次の手順を参照してインストールしてください。

□ インストール手順

1 デスクトップ画面の [ウイルスバスターのセットアップ] アイコン () をダブルタップする

2 [開始] ボタンをタップする

以降は、画面の指示に従って操作してください。メールアドレスは登録しなくても使用できます。

1 ウイルスバスター クラウド™でウイルスをチェックする

「ウイルスバスター クラウド™」のウイルスチェックの方法には、本製品で使用しているソフトウェアやファイルの動きを監視するリアルタイム検索や、定期的に検索を実行する予約検索などがあります。ここでは手動でウイルスを検索する手順について説明します。

1 通知領域の[ウイルスバスター]アイコン(🔍)をダブルタップする

* 通知領域にアイコンが表示されていない場合は、**▲**をタップしてください。

[ウイルスバスター クラウド™] 画面が表示されます。

2 [スキャン] ボタンをタップする



検索を開始します。

ウイルスのチェックが終わると、結果画面が表示されます。

ウイルスが発見された場合、初期設定ではウイルスやファイルの種類によって適切な処理が実行されるように設定されています。特別な理由がない限り設定を変更しないで使用することをおすすめします。

詳しくは、ヘルプを確認してください。

3 [閉じる] ボタン(✕)をタップする

2 ウイルスバスター クラウド™のいろいろな機能

「ウイルスバスター クラウド™」には、次のような機能があります。

- コンピューターウイルスを検出／除去する
- フィッシング詐欺への対策をする
- 迷惑メールや詐欺メールを判定して処理する
- スパイウェアを検出して処理する
- 有害サイトへのアクセスを制限する
- 個人情報の漏えいを防止する など

詳しくは、ヘルプを確認してください。

ヘルプの起動

ヘルプを見るためには、インターネットに接続する必要があります。

1 通知領域の[ウイルスバスター]アイコン(🔍)をダブルタップする

* 通知領域にアイコンが表示されていない場合は、**▲**をタップしてください。

[ウイルスバスター クラウド™] 画面が表示されます。

2 [ヘルプ] ボタン(🔍ヘルプ)をタップする



[どのアプリで開きますか?] 画面が表示された場合は、使用するアプリケーションを選択し、[OK] ボタンをタップしてください。

[ヘルプとサポート] 画面が表示されます。

参照 ▶ 「ウイルスバスター クラウド™」のお問い合わせ先「付録 1 お問い合わせ先」

2

i-フィルター[®] 6.0を使う

* i-フィルター[®] 6.0搭載モデルのみ

「i-フィルター[®] 6.0」は、特定のホームページへのアクセスを制限することができるアプリケーションソフトです。

子供の年齢に合わせた設定や、アクセスを制限したいカテゴリの指定、制限の強弱も設定できます。パスワードを使用すれば、簡単に設定を解除することもできるので、大人から子供まで家族で個別に設定することができます。

「i-フィルター[®] 6.0」の無料お試し版を使用するには、インターネットに接続してお申し込みを行っていただく必要があります。

設定方法の詳細は、「i-フィルター[®] 6.0」のヘルプを確認してください。

お願い i-フィルター[®]について

- 無料使用期間はご使用開始より30日間です。無料使用期間が過ぎますと、設定がすべて解除されフィルタリング機能が使用できなくなります。無料使用期間中に有料にて正規サービスをお申し込みいただくことで、継続して使用することができます。
- 一部の通信ソフトやフィルタリングソフトを併用できない場合があります。

1 インストールについて

* 購入時の状態ではインストールされていないモデルのみ

モデルによっては、購入時の状態で「i-フィルター[®] 6.0」がインストールされていない場合があります。

「i-フィルター[®] 6.0」がインストールされているかどうかは、次の手順で確認できます。

① [スタート] ボタン () をタップする

② [すべてのアプリ] をタップして、[i-フィルター6.0] があるかどうかを確認する

「i-フィルター[®] 6.0」がインストールされていない場合は、次の手順でインストールしてください。

1 [スタート] ボタン () をタップする


2 [すべてのアプリ] → [アプリケーションの再インストール] をタップする

3 [セットアップ画面へ] をタップする

4 [アプリケーション] タブをタップする

- 5 画面左側の [i-filter] をタップし、[[i-filter] のセットアップ] をタップする
- 6 画面の指示に従ってインストールする
「XXXXXX (ファイル名) をXXXXXX (マシン名) から開きますか？」というメッセージが表示された場合は、[開く] ボタンをタップしてください。

2 i-フィルター® 6.0の無料お試し版のお申し込み方法

- 1 [スタート] ボタン () をタップする
- 2 [すべてのアプリ] → [i-フィルター6.0] → [[i-フィルター6.0]] をタップする
- 3 [30日の無料お試し付き] ボタンをタップする
以降は、画面の指示に従って操作してください。

参照 ▶ 「i-フィルター® 6.0」のお問い合わせ先「付録 1 お問い合わせ先」

3

Microsoftアカウントについて

マイクロソフト社のサービスを利用したり、Officeのセットアップを行ったりするときに、Microsoftアカウントが必要になる場合があります。

Microsoftアカウントの取得方法などの詳細については、次のマイクロソフト社のアカウントに関するページをご覧ください。

<https://www.microsoft.com/ja-jp/msaccount/default.aspx>

ここでは、Windowsにサインインするアカウントを、ローカルアカウント（ユーザーアカウント）から、Microsoftアカウントに切り替える方法を説明します。


Microsoftアカウントを取得されていない場合は、この手順の途中で取得することができます。



メモ

- Microsoftアカウントの取得やサインインには、インターネットへ接続している必要があります。
- Microsoftアカウントを取得する場合は、メールアドレスやパスワードなどの個人情報が必要となります。取得時に入力した個人情報は、忘れないように控えておいてください。


1 Microsoftアカウントでのサインインに切り替える

- 1 [スタート] ボタン () をタップする
- 2 [設定] をタップする
- 3 [アカウント] → [メールとアカウント] をタップする
- 4 [Microsoftアカウントでのサインインに切り替える] をタップする
以降は、画面の指示に従って操作してください。

ローカルアカウントでのサインインに戻りたい場合は、次の項目を参照してください。

参照 ▶ 「本節- **2** ローカル アカウントでのサインインに戻す」

2 ローカル アカウントでのサインインに戻す

- 1 [スタート] ボタン () をタップする
- 2 [設定] をタップする
- 3 [アカウント] → [メールとアカウント] をタップする
- 4 [ローカル アカウントでのサインインに切り替える] をタップする
以降は、画面の指示に従って操作してください。

* バックアップナビ クラウド搭載モデルのみ

「バックアップナビ クラウド」は、簡単な操作で本製品の写真や動画、音楽、「Microsoft Office」のデータなどをオンラインストレージサービスの「OneDrive」または「Dropbox」にバックアップができるアプリケーションです。

ご利用にあたっては、「OneDrive」の場合はMicrosoftアカウントが、「Dropbox」の場合は「Dropbox」の登録が必要になります。

「バックアップナビ クラウド」を利用するには、インターネットに接続する必要があります。

1 [スタート] ボタン () をタップする

2 [すべてのアプリ] → [バックアップナビ クラウド] をタップする

「バックアップナビ クラウド」が起動します。

以降は、画面の指示に従って操作してください。

「バックアップナビ クラウド」の詳細は、ヘルプを参照してください。

ヘルプの起動方法

1 「バックアップナビ クラウド」を起動後、[ヘルプ] ボタンが表示されている画面で [ヘルプ] ボタンをタップする

Webカメラで写真を撮ったり、ビデオを録画するには、「カメラ」アプリケーションを使用します。

1 起動方法

1 [スタート] ボタン () をタップする

2 [すべてのアプリ] → [カメラ] をタップする

初回起動時はメッセージが表示されるので、[はい] または [いいえ] をタップしてください。



「カメラ」アプリケーションが起動します。

3 撮影の種類によって、次の操作を行う



■ 写真撮影の場合

①  をタップする

■ ビデオ録画の場合

① ビデオ録画を開始するには  をタップし、終了するには再度  をタップする

メモ

- 写真やビデオ録画のデータは、タスクバーの [エクスプローラー] ボタン () → [ピクチャ] → [カメラロール] に保存されています。
- 前面と背面のWebカメラを切り替えて撮影することができます。切り替えるときは、画面上部の  をタップしてください。

「Skype」を使用すると、インターネット回線を利用した音声通話やビデオ通話を行うことができます。

「Skype」を使用するには、Microsoft アカウントが必要です。

また、「Skype」で通話を行うには、インターネットに接続する必要があります。

- **通話する**

音声のみで通話を行います。通話には、本体のマイクを使用します。

参照 ▶ マイクの位置について『取扱説明書 1章 **2** 各部の名称』

- **ビデオ通話する**

ビデオ通話の場合は、本製品に搭載されている Web カメラまたは市販の Web カメラを使用します。

参照 ▶ Web カメラの位置について『取扱説明書 1章 **2** 各部の名称』

1 「Skype」をインストールする

1 [スタート] ボタン () をタップする

2 [すべてのアプリ] → [Skypeを手に入れよう] をタップする

「Skype」のダウンロードページが表示されます。

3 「Skype」をインストールする

ダウンロードページの記載に従ってインストールを行ってください。

「Skype」の詳細については、「Skype」のヘルプ、または「Skype」のホームページを参照してください。

映像、音楽、写真などの再生用アプリケーションについて説明します。

1 TOSHIBA Media Player by sMedio TrueLink+ で見る

* TOSHIBA Media Player by sMedio TrueLink+ 搭載モデルのみ

トウシバ メディア プレーヤー バイ エスメディオ トゥルーリンクプラス
「TOSHIBA Media Player by sMedio TrueLink+」を使うと、自分のライブラリー、ホームネットワーク、OneDriveの映像、音楽、写真データを再生できます。

「TOSHIBA Media Player by sMedio TrueLink+」を使う前に、次の説明をお読みください。


参照 ▶ 「付録 8 TOSHIBA Media Player by sMedio TrueLink+の使用にあたって」

- 1 [スタート] ボタン () をタップする
- 2 [すべてのアプリ] → [TOSHIBA Media Player by sMedio TrueLink+] をタップする
「TOSHIBA Media Player by sMedio TrueLink+」が起動します。

「TOSHIBA Media Player by sMedio TrueLink+」の詳細は、ヘルプを確認してください。

ヘルプの起動方法

ヘルプを使用するには、インターネットに接続する必要があります。

- 1 「TOSHIBA Media Player by sMedio TrueLink+」を起動後、画面左上の  をタップする
- 2 [設定] をタップする
画面右側に [設定] 画面が表示されます。
- 3 [ヘルプ] をタップする

2 CyberLink Screen Recorder for TOSHIBA で録画する

* CyberLink Screen Recorder for TOSHIBA 搭載モデルのみ

「CyberLink Screen Recorder for TOSHIBA」は表示中の画面を録画するためのアプリケーションです。

デスクトップ上に表示されている画面全体や任意に指定した部分の画面、または起動中のアプリケーションの画面などを選択して録画することができます。また、Skypeで通話中の画面を録画することもできます。

メモ

- コピープロテクトされている映像や一部のゲームなどは、録画できない場合があります。

1 [スタート] ボタン () をタップする

2 [すべてのアプリ] → [CyberLink Screen Recorder] → [CyberLink Screen Recorder for TOSHIBA] をタップする

[Screen Recorder] 画面が表示されます。

「CyberLink Screen Recorder for TOSHIBA」の詳細は、ヘルプを確認してください。

ヘルプの起動方法

1 [Screen Recorder] 画面で [ヘルプ] ボタン () をタップする

参照 ▶ 「CyberLink Screen Recorder for TOSHIBA」のお問い合わせ先「付録 **1** お問い合わせ先」

3 sMedio TrueLink+ Phoneを使う

* sMedio TrueLink+ Phone搭載モデルのみ

「sMedio TrueLink+ Phone」は、本製品からiOSやAndroidのスマートフォンをワイヤレスで管理するためのアプリケーションです。スマートフォンと本製品を無線LANで接続し、スマートフォンに保存されている写真、音楽、映像などを本製品で再生できます。

1 sMedio TrueLink+ Phone を使用するための準備

「sMedio TrueLink+ Phone」を使用するには、あらかじめ対応しているスマートフォンを本製品と同一のホームネットワークに接続しておいてください。

2 sMedio TrueLink+ Phone を起動する

1 [スタート] ボタン () をタップする

2 [すべてのアプリ] → [sMedio TrueLink+ Phone] をタップする

初めて起動したときは、ペアリング画面が表示されます。内容を確認し、画面の指示に従って操作してください。

[sMedio TrueLink+ Phone] 画面が表示されます。

「sMedio TrueLink+ Phone」の詳細は、ヘルプを確認してください。

ヘルプの起動方法

ヘルプを使用するには、インターネットに接続する必要があります。

1 「sMedio TrueLink+ Phone」を起動後、画面左上の  をタップする

2 [設定] をタップする
[設定] 画面が表示されます。

3 [ヘルプ] をタップする

4 思い出フォトビューアで写真を見る

* 思い出フォトビューア搭載モデルのみ

デジタルカメラで撮った写真のデータを本製品に取り込んで、さまざまに活用して楽しむことができます。

メモ

- 写真のデータを本製品に取り込むには、デジタルカメラを本製品に接続して取り込む方法や、記録メディアを本製品にセットしてデータをコピーする方法などがあります。デジタルカメラと本製品の両方が対応している方法で行ってください。

デジタルカメラの使いかたは、『デジタルカメラに付属している説明書』を確認してください。

参照 ▶ 記録メディアについて「付録 6 記録メディアについて」

ここでは、本製品に取り込んだ写真のデータを活用するための機能を紹介します。

「思い出フォトビューア」を使うと、[PC] の [ピクチャ] フォルダーの写真を自動で整理し、タイムライン表示やカレンダー表示、スライドショーや「おもいで小槌」機能などで思い出の写真を見ることができます。

「おもいで小槌」機能は、写真を全画面表示にしているとき、アプリバーの [おもいで小槌] ボタンをタップすると、タップするたびに写真を切り替えて画面に表示します。(写真が降ってくるように表示されるので、小槌のように振って次々と写真を出す、という感覚で操作ができます。)

表示される写真は、[PC] の [ピクチャ] フォルダーの写真からランダムに選ばれます。

メモ

- 本アプリケーションで利用できる写真データは、「jpeg」、「jpg」、「png」、「tif」、「tiff」、「bmp」形式のファイルです。

1 [スタート] ボタン () をタップする

2 [すべてのアプリ] → [思い出フォトビューア] をタップする

初めて起動したときは [エンドユーザ使用許諾契約書] 画面が表示されます。[同意する] ボタンをタップしてください。

使用許諾契約書の内容すべてを画面に表示しきれない場合は、スクロールして契約書の終わりまで確認すると、[同意する] ボタンをタップできます。

以降は、画面の指示に従って、操作してください。

「思い出フォトビューア」の詳細は、ヘルプを確認してください。

ヘルプの起動方法

- 1 「思い出フォトビューア」を起動後、画面左の「設定」をタップする
- 2 「ヘルプを表示」をタップする

ここでは、録画したテレビ番組などの映像を本製品で楽しむ色々な方法を説明します。

1 CyberLink SeeQVault Player で見ると

* CyberLink SeeQVault Player 搭載モデルのみ

シーキューボルト
SeeQVaultとは、強固なセキュリティを確保しながら、高画質のコンテンツを様々な機器で楽しむための技術です。

SeeQVaultに対応した東芝ブルーレイディスクレコーダーから、SDメモリーカード*¹*²や外付けハードディスクドライブ*¹に高画質のままダビングしたテレビ番組を、「サイバーリンク
シーキューボルト プレーヤー
SeeQVault Player」を使って本製品で再生できます。

* 1 SeeQVaultに対応しているメディアやハードディスクドライブのみ

* 2 お使いのバージョンにより、本製品のSDカードスロットにセットしたSDメモリーカードから再生することができません。本アプリケーションのアップデート情報を確認してください。

「CyberLink SeeQVault Player」を使う前に、次の説明をよくお読みください。

参照 ▶ 「付録 7 CyberLink SeeQVault Playerの使用にあたって」

1 対応している東芝ブルーレイディスクレコーダーの準備

「CyberLink SeeQVault Player」を使用するには、SeeQVaultに対応している機器を用意し、録画したテレビ番組を、SeeQVault対応メディアにダビングしておいてください。

2 CyberLink SeeQVault Player を起動する

1 テレビ番組をダビングしたSeeQVault対応メディアを本製品にセットする（外付けハードディスクドライブの場合、本製品に接続する）

2 [スタート] ボタン () をタップする

3 [すべてのアプリ] → [CyberLink SeeQVault Player] → [CyberLink SeeQVault Player] をタップする

「CyberLink SeeQVault Player」が起動します。

「CyberLink SeeQVault Player」の詳細は、ヘルプを参照してください。

ヘルプの起動方法

- 1 映像ウィンドウ右上の【CyberLink SeeQVault Playerヘルプを開く】ボタン（ アイコン）をタップする

参照 ▶ 「CyberLink SeeQVault Player」のお問い合わせ先「付録 1 お問い合わせ先」

2 TVコネクトスイートを使う

* TVコネクトスイート搭載モデルのみ

「TVコネクトスイート」を使うと、ホームネットワークに接続しているテレビ*¹やブルーレイディスクレコーダー*¹/レグザサーバー*¹（以下、メディアサーバー）で録画した番組や放送中の番組を、本製品で視聴することができます。また、メディアサーバーがリモート視聴に対応しているレグザサーバー/レグザブルーレイの場合は、外出先でインターネットに接続した本製品から自宅のレグザサーバー/レグザブルーレイに録画した番組を視聴することもできます。

「TVコネクトスイート」は、次の機能から構成されています。
メディアサーバーと本製品がホームネットワークに接続していることを前提として説明します。

■ 録画番組を見る

メディアサーバーに録画した番組を、本製品上の本アプリケーションで視聴したり、本製品へダビングしたりすることができます。メディアサーバーがリモート視聴対応している場合は、外出先でインターネットに接続した本製品から自宅のレグザサーバー/レグザブルーレイに録画した番組を視聴することもできます。

■ 放送中の番組を見る

メディアサーバーで受信している番組を、ライブ配信して本製品上の本アプリケーションで視聴することができます。メディアサーバーが放送中の番組をライブ配信するリモート視聴に対応している場合は、外出先でインターネットに接続した本製品から自宅のメディアサーバーが受信しているテレビ番組を視聴することもできます。

■ ダビングした番組を見る

メディアサーバーに録画して本製品にダビングした番組を、本アプリケーションで視聴することができます。

ダビングした番組は、外出先などのインターネットに接続していない場所でも視聴することができます。

■ 過去番組表を見る

タイムシフト機能搭載の対応レグザサーバー、対応レグザと連携し、過去番組表から番組を選択して本アプリケーションで視聴することができます。

* 1 「TVコネクトスイート」対応機種に限ります。

お願い

- 「TVコネクトスイート」で番組の視聴および番組をダビングする機能を初めて使用する際には、インターネットに接続してアクティベーションをする必要があります。
- リモート視聴機能を使用するためには、対応している機器と本製品をあらかじめ同じホームネットワークに接続し、さらにインターネットにも接続した状態でリモート視聴のための設定（メディアサーバーと本製品のペアリング設定）をする必要があります。ペアリング設定には有効期限があります。有効期限が過ぎた場合は、再度ペアリング設定をする必要があります。
- メディアサーバーの操作による番組のダビング機能を使用する場合は、「TVコネクトスイート ダビング設定ユーティリティ」でダビングの待ち受け機能を有効にする必要があります。「TVコネクトスイート ダビング設定ユーティリティ」をアンインストールすると、「TVコネクトスイート」が使用できなくなります。

1 TVコネクトスイートを使用するための準備

「TVコネクトスイート」を使用するには、あらかじめ対応している機器を用意し、ホームネットワークに接続しておいてください。

2 TVコネクトスイートを起動する

1 [スタート] ボタン () をタップする

2 [すべてのアプリ] → [ TVコネクトスイート] をタップする

3 使用する機能を選択する

「録画番組を見る」、「放送中の番組を見る」、「ダビングした番組を見る」、「過去番組表を見る」から選択してください。リモート視聴の設定を行う場合は「リモート視聴設定」を選択してください。選択後は、画面に従って、操作してください。

「TVコネクトスイート」の詳細は、ヘルプ（「TVコネクトスイート 操作説明書」）を確認してください。

ヘルプの起動方法

1 「TVコネクトスイート」を起動後、画面左上の  をタップする

2 [設定] をタップする

画面右側に [設定] 画面が表示されます。

3 [ヘルプ] をタップする

*ワイヤレスディスプレイ機能搭載モデルのみ

ワイヤレスディスプレイ機能を使って、本製品の表示画面をMiracast™に対応したテレビ／外部ディスプレイに表示することができます。

ただし、すべてのMiracast™対応機器との動作を保証するものではありません。

お願い ワイヤレスディスプレイ機能の使用にあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照▶ 「付録 5 - 10 ワイヤレスディスプレイ機能の使用にあたって」

- 「東芝スクリーンミラーリング for Windows PC／タブレット」の使用中は、ワイヤレスディスプレイ機能が使用できません。

参照▶ 「本章 10 スマートフォン／タブレットの画面を本製品の画面に表示する」

1 対応しているテレビや外部ディスプレイの準備

テレビ／外部ディスプレイを接続するときは、『テレビ／外部ディスプレイに付属している説明書』もあわせて確認してください。接続先のテレビ／外部ディスプレイは、Miracast™に対応している必要があります。

2 ワイヤレスディスプレイ機能で接続する

- 1 テレビ／外部ディスプレイの電源を入れ、ワイヤレスディスプレイ機能で接続するための準備を行う

参照▶ 各機器の操作方法の詳細『テレビ／外部ディスプレイに付属している説明書』

- 2 本製品の無線LAN機能をONにする

参照▶ 「3章 2 - 1 無線LAN機能をONにする」

- 3 [スタート] ボタン () をタップする

- 4 [設定] をタップする

- 5 [システム] → [ディスプレイ] をタップする

- 6 [ワイヤレス ディスプレイに接続する] をタップする

検出したテレビ／外部ディスプレイが表示されます。

- 7 接続するテレビ／外部ディスプレイをタップする

画面に従って設定してください。

*東芝スクリーンミラーリング for Windows PC／タブレット搭載モデルのみ

一部のスマートフォン／タブレットには、パソコンなどの外部機器に接続し、ワイヤレスで画面を表示させる機能があります。この機能と「東芝スクリーンミラーリング for Windows PC／タブレット」を使って、スマートフォン／タブレットの画面を本製品に表示できます。ただし、対応しているすべてのスマートフォン／タブレットとの動作を保証するものではありません。



メモ

- ワイヤレスディスプレイ機能の使用中は、「東芝スクリーンミラーリング for Windows PC／タブレット」が使用できません。

参照 ▶ ワイヤレスディスプレイ機能

「本章 9 本製品の画面をテレビ／外部ディスプレイにワイヤレスで表示する」

1 対応しているスマートフォンやタブレットの用意

スマートフォン／タブレットを接続するときは、『スマートフォン／タブレットに付属している説明書』もあわせて確認してください。

2 スマートフォン／タブレットの画面を表示する

1 [スタート] ボタン () をタップする

2 [すべてのアプリ] → [TOSHIBA] → [スクリーンミラーリング] をタップする

「東芝スクリーンミラーリング for Windows PC／タブレット」が起動します。
インターネットに接続していない場合、初回起動時にインターネットへの接続を求められます。インターネットに接続してください。

3 スマートフォン／タブレットで、[東芝スクリーンミラーリング for Windows PC／タブレット] 画面に表示する設定を行う

スマートフォン／タブレットによって、設定方法が異なります。

詳しくは『スマートフォン／タブレットに付属している説明書』で「スクリーンミラーリング」、「ワイヤレスディスプレイ」などの説明を確認してください。

スマートフォン／タブレットの設定画面で、[東芝スクリーンミラーリング for Windows PC／タブレット] 画面に表示されているデバイス名を選択してください。

[東芝スクリーンミラーリング for Windows PC／タブレット] 画面に、スマートフォン／タブレットの画面が表示されます。

スマートフォン／タブレットの操作は、スマートフォン／タブレットを使って行ってください。「東芝スクリーンミラーリング for Windows PC／タブレット」から一部のスマートフォン／タブレットを操作することもできます。

3 終了するときは

スマートフォン／タブレットの設定画面で、先に本製品との接続を切断してから、「東芝スクリーンミラーリング for Windows PC／タブレット」を終了してください。

1 電源オプション

「電源オプション」では本製品の電源を管理して、電力の消費方法を状況に合わせて変更することができます。

バッテリー駆動で本製品を使用しているときに、消費電力を減らして長い時間使用するように設定したり、電力を使ってパフォーマンスの精度を上げるように設定したりできます。

これらの電源設定を電源プランといいます。

「電源オプション」では、使用環境に合わせて設定された電源プランがあらかじめ用意されていますので、使用環境が変化したときに電源プランを切り替えるだけで、簡単に本製品の電源設定を変更することができます。

購入時には、次の電源プランが用意されています。

● バランス

必要なときは電力を使ってパフォーマンスを最大にし、動作させていないときは電力を節約します。

● eco

当社の推奨する設定により、消費電力をおさえます。

参照 ▶ 「本節 2 TOSHIBA eco ユーティリティ」

● 省電力

本製品の動作速度などのパフォーマンスを低下させ、消費電力をおさえます。

バッテリー駆動のときにこのプランを使用すると、バッテリーが通常より長くもちます。

● 高パフォーマンス

パフォーマンスと応答速度を最大にします。消費電力が増える可能性があります。




バッテリー駆動のときにこのプランを使用すると、バッテリーが通常よりも早く消費されま

* 「省電力」、「高パフォーマンス」は「追加プランの表示」の  をタップすると表示されます。

各電源プランの設定を変更したり、新しく電源プランを追加することもできます。

参照 ▶ 電源プランの設定変更、新規追加『「電源オプション」のヘルプ』

起動方法

- 1 [スタート] ボタン () をタップする
- 2 [すべてのアプリ] → [Windows システムツール] → [コントロールパネル] をタップする
- 3 [ システムとセキュリティ] → [ 電源オプション] をタップする
「電源オプション」が起動します。

メモ

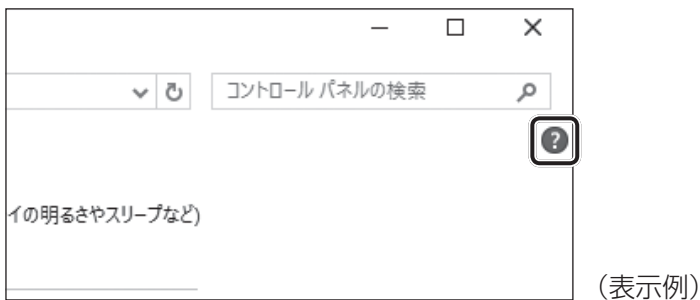
- 「電源オプション」は、「TOSHIBA ecoユーティリティ」からも起動できます。

参照 ▶ 本節 **2** TOSHIBA ecoユーティリティ

ヘルプの起動方法

ヘルプを使用するには、インターネットに接続する必要があります。

- 1 「電源オプション」を起動後、画面右上の  ボタンをタップする



- 2 表示された一覧から知りたい項目をタップする
該当するページが表示されます。

2 TOSHIBA ecoユーティリティ

「TOSHIBA ecoユーティリティ」では、本製品の消費電力をおさえるためのさまざまな設定が行えます。

■ecoモード

「ecoモード」を有効にすると、当社の推奨する設定によって、電源プランやディスプレイの明るさなどを自動的に調節して、消費電力をおさえます。

■貢献履歴

消費電力の低減によって、どれだけ環境の保護に貢献できたかが、イメージやグラフなどで表示されます。

一日ごと、または月ごとに確認できます。

■ピークシフト

昼間の電力消費の一部を夜間に移行させて電力を効果的に活用し、電力需要の平準化を実現します。たとえば夏期の日中など電力使用のピーク時間帯には自動的にAC電源からの電力供給を止め、電力需要の少ない時間帯（夜間など）に充電したバッテリーで本製品を動作させる電源管理機能を備えています。

ピークシフト機能は、本製品単体でも使用できますが、複数台数で同じ時間帯に制御することによってその効果を発揮します。制御するパソコンやタブレットの台数は多ければ多いほど効果が大きくなります。

お願い

- ピークシフトをご利用の場合、自動的にバッテリー駆動に切り替わり、CPUやグラフィックアクセラレーターの性能が十分に発揮されない場合があります。映像や音楽を視聴する場合、ピークシフトを一時的に無効にすることをおすすめします。

■バッテリーライフサイクル

バッテリーの充電方法の「eco充電モード」を有効にすると、バッテリーフル充電時の容量をおさえて、バッテリーの機能低下を遅くできます。本製品の電源コードとACアダプターをコンセントに接続したまま使用される方におすすめです。ただし、バッテリーのフル充電の容量が少なくなるため、バッテリーでの駆動時間は短くなります。

キーボードドックを接続している場合、タブレットのバッテリーとキーボードドックのセカンドバッテリー*¹にそれぞれ「eco充電モード」を設定できます。

* 1 キーボードドックにセカンドバッテリーが内蔵されている場合のみ

メモ

- 表示されるメニューは、モデルにより異なります。

起動方法

1 [スタート] ボタン () をタップする

2 [すべてのアプリ] → [TOSHIBA] → [eco ユーティリティ] をタップする

初回起動時は、[はじめにお読みください] 画面が表示されますので、[同意する] をチェックし、[OK] ボタンをタップしてください。

[TOSHIBA eco ユーティリティ] 画面が表示されます。



(表示例)

3 画面左側から設定するメニューをタップする

「TOSHIBA ecoユーティリティ」の詳細は、ヘルプを参照してください。

ヘルプの起動方法

1 [TOSHIBA eco ユーティリティ] 画面で [ヘルプ] をタップする

「TOSHIBA eco ユーティリティ」のヘルプが表示されます。

メモ

- モデルによっては、ピークシフト期間中やeco充電モードで規定値以上充電されると、バッテリーへの充電は一時的に停止されます。

3 ディスプレイ省電テクノロジー

* ディスプレイ省電テクノロジー搭載モデルのみ

「ディスプレイ省電テクノロジー機能」は、本体ディスプレイに表示する映像のコントラストと明るさを自動的に調整することにより、本製品の電力消費を低減させるものです。

バッテリー駆動で使用中にこの機能が使用できます。

本機能は購入時の状態では、有効に設定されています。本機能を無効にする場合には、次の手順で設定してください。

1 デスクトップ画面上で、ウィンドウやアイコンなどが表示されていない場所で、長押しする

2 [グラフィックス・プロパティ] をタップする

3 [電源] をタップし、[バッテリー駆動] をタップする

モデルによって、搭載されるディスプレイ省電テクノロジー機能が異なり、表示される画面や操作が異なる場合があります。

4 [ディスプレイ省電力テクノロジー] で [オフ] または [無効] をタップする

5 [適用] をタップする

メッセージが表示されます。確認して [はい] ボタンをタップしてください。

本機能を有効にする場合は、[ディスプレイ省電力テクノロジー] で [オン] または [有効] をタップしてください。

* 東芝PCヘルスマニタ搭載モデルのみ

「東芝PCヘルスマニタ」は、消費電力や冷却システムなどを監視し、システムの状態をメッセージなどでお知らせします。また、本製品および各種デバイスの使用状況を、収集管理します。

「東芝PCヘルスマニタ」の機能は、ヘルプで確認できます。

お願い

- 「東芝PCヘルスマニタ」は、いかなる場合も当社の標準的な保証の範囲を広げるものでも変更するものでもありません。当社の標準的な保証が適用されます。

メモ

- 収集管理される本製品や各種デバイスの情報、および使用状況の情報は、本製品のハードディスクに保存されます。これらの情報には以下の内容が含まれます（モデルによって内容は異なります）。

本製品の基本情報	モデル名、型番、製造番号、BIOSバージョンなど
各種デバイスの基本情報	ディスプレイ、サウンド、ネットワーク、ハードディスクドライブ* ¹ 、SSD* ¹ 、内蔵フラッシュメモリ* ¹ 、ドライブ* ¹ など
オペレーティングシステム情報	OSバージョン、OSをインストールした日時、Direct Xのバージョン、Internet Explorerのバージョン、修正プログラムのリストなど
各種デバイスの操作時間／回数	電源スイッチ、キーコンビネーション、ACアダプター、バッテリーパック* ¹ 、ディスプレイ、ファン* ¹ 、ハードディスクドライブ* ¹ 、SSD* ¹ 、内蔵フラッシュメモリ* ¹ 、USBコネクタなど
本製品の使用開始日付	—
本製品や各種デバイスの使用状況	省電力設定、バッテリーパック* ¹ の温度や放充電容量、CPU、メモリ、バックライトの点灯時間、各種デバイスの温度など

* 1 搭載／内蔵モデルでのみ情報が保存されます。

ハードディスクに保存されるデータの量は1年間で10MB以下であり、ハードディスクの全体容量のわずかしが使用しません。

- これらの情報は、システム状態の監視と通知、および、本製品が東芝PCあんしんサポートに持ち込まれたときの不具合の診断に使用します。また、当社はそれらの情報を品質保証適用の判断に使用することもあります。
- 「東芝PCヘルスマニタ」は、一度有効にした場合でも、「コントロールパネル」の「プログラムのアンインストール」からアンインストールすることで、本機能を動作しないようにすることができます。その際、ハードディスクに記録されている「東芝PCヘルスマニタ」が採取したデータは自動的に削除されます。

1 東芝PCヘルスマニタを起動する

ここでは、「東芝PCヘルスマニタ」の起動方法について説明します。

1 [スタート] ボタン () をタップする

2 [すべてのアプリ] → [TOSHIBA] → [PCヘルスマニタ] をタップする

[東芝PCヘルスマニタ] 画面が表示されます。


本製品の機能の監視と使用状況の情報収集管理を開始します。システムの状態は表示される画面で確認できます。

不調の原因となりうる変化が検出された場合、メッセージが表示されます。メッセージの内容に従って操作してください。

また、冷却メッセージが表示された場合には、次の説明を確認してください。

参照▶ 「本節 2 冷却メッセージが表示された場合」

メモ


- 「東芝PCヘルスマニタ」の画面を閉じても、本製品の機能の監視と使用状況の情報収集管理は続行されます。この場合、不調の原因となりうる変化が検出されたときは、通知領域の「東芝PCヘルスマニタ」アイコン () からメッセージが表示されます。

7章

アプリケーション

「東芝PCヘルスマニタ」の詳細は、ヘルプを参照してください。

ヘルプの起動方法

1 通知領域の「東芝PCヘルスマニタ」アイコン () を長押しし、表示されたメニューから「ヘルプ」をタップする

* 通知領域にアイコンが表示されていない場合は、 をタップしてください。

2 冷却メッセージが表示された場合

不調の原因となりうる変化が検出された場合、冷却メッセージが表示されることがあります。メッセージの内容に従って操作してください。

次のメッセージが表示された場合は、「東芝冷却診断（東芝冷却性能診断ツール）」を実行してください。

「PCの冷却性能が低下している可能性があります。冷却診断を実行してください。」

「東芝冷却診断（東芝冷却性能診断ツール）」を実行する

1 メッセージ画面で [OK] ボタンをタップする

「東芝冷却診断（東芝冷却性能診断ツール）」が起動します。

2 電源コードとACアダプターを接続していない場合は接続し、実行中のすべてのアプリケーションを終了する




3 画面の指示に従って操作する

診断の結果、次のメッセージが表示された場合は、東芝PCあんしんサポート 使いかた相談窓口へお問い合わせください。

「PCの冷却性能が低下している可能性があります。安心してお使いいただくために、東芝PCあんしんサポートへお問い合わせください。」

一時的に本製品を使用する場合は、省電力の設定を変更することをおすすめします。

省電力の設定を変更する

- 1 [スタート] ボタン () をタップする
- 2 [すべてのアプリ] → [Windows システムツール] → [コントロールパネル] をタップする
- 3 [ システムとセキュリティ] → [ 電源オプション] をタップし、選択している電源プランの [プラン設定の変更] をタップする
- 4 [詳細な電源設定の変更] をタップする
[詳細設定] 画面が表示されます。
- 5 [東芝省電力設定] をダブルタップし、表示される項目の [熱制御の設定] をダブルタップする
- 6 表示された項目から優先する設定を選択する
[バッテリー駆動] と [電源に接続] をそれぞれ設定してください。
- 7 [OK] をタップする

7章

アプリケーション

東芝冷却診断は、いかなる場合も当社の標準的な保証の範囲を広げるものでも変更するものでもありません。当社の標準的な保証が適用されます。

音響補正技術を利用したさまざまな機能について説明しています。

1 SmartAudio

* SmartAudio 搭載モデルのみ

音響補正技術を利用して、オーディオ機能のいろいろな設定を変更することができます。

- 1 [スタート] ボタン () をタップする
- 2 [すべてのアプリ] → [Windows システムツール] → [コントロールパネル] をタップする
- 3 [ ハードウェアとサウンド] → [ SmartAudio] をタップする
[SMARTAudio] 画面が表示されます。
- 4 オーディオ機能を調整する
- 5 [閉じる] ボタン () をタップする

ヘルプの起動方法

- 1 SmartAudio を起動後、画面右上の  ボタンをタップする

2 DTS Studio Sound

* DTS Studio Sound 搭載モデルのみ

音響補正技術「DTS Studio Sound™」(DTS スタジオ サウンド)は、音量補正、低音強化、明瞭感のあるボーカル、迫力あるサラウンドサウンドなどにより、音楽・動画再生・ゲームなどのコンテンツ再生をより豊かなものとするDTS社のオーディオ技術です。

音響補正技術を利用して、お客様のお好みの音に調整できます。

1 [スタート] ボタン () をタップする

2 [すべてのアプリ] → [DTS, Inc] → [DTS Studio Sound] をタップする

[DTS Studio Sound] 画面が表示されます。

お願い

- DTS Studio Soundは、本製品のスピーカーとヘッドホン出力端子に接続したヘッドホンに効果があります。
その他のスピーカーやヘッドホンはサポートしておりません。

1 撮影したホワイトボードの画像を補正する


* TruCapture 搭載モデルのみ

「TruCapture」は、ホワイトボードや印刷物、ノートなどを撮影して電子化するアプリケーションです。領域の色と形を自動的に補正した画像ファイルを作成します。

- 1 [スタート] ボタン () をタップする
- 2 [すべてのアプリ] → [TruCapture] をタップする
「TruCapture」が起動します。

「TruCapture」の詳細は、ヘルプを確認してください。

ヘルプの起動方法

- 1 「TruCapture」を起動後、画面右上の  をタップする
- 2 [設定] をタップする
画面右側に [設定] 画面が表示されます。
- 3 [ヘルプ] をタップする


2 手書きメモを作成する

* TruNote搭載モデルのみ

「TruNote」は、メモしたいときにすぐに使える、本格的な手書きノートアプリケーションです。「TruNote」には、次のような機能があります。

- 手書きした文字や記号で、書き留めたノートから探したい情報を検索する機能
- 手書きした文字からのインターネット検索機能
- さまざまなファイル形式への変換機能
- 「TruCapture」、「TruRecorder」などで作成したデータを自動的に取り込む機能

メモ

- 購入されたモデルによって、使用できる機能が制限されることがあります。制限された機能（有料）はWindowsストアから購入できます。詳細は、「TruNote」を起動後、 → [設定] → [ライセンスの状態] で確認してください。

ペンを使用すると、より多くの機能を活用できるようになります。

参照 ▶ ペンについて「2章 7 ペンを使う」

1 [スタート] ボタン () をタップする

2 [すべてのアプリ] → [TruNote] をタップする
「TruNote」が起動します。


「TruNote」の詳細は、ヘルプを確認してください。

ヘルプの起動方法

1 「TruNote」を起動後、 をタップする

2 [ヘルプ] をタップする

役立つ操作集

- 「TruNote Clip」を使って、表示している画面の一部を切り取って手書きメモを追加し、「TruNote」に保存することができます。
 - ① [スタート] ボタン () をタップする
 - ② [すべてのアプリ] → [TruNote Clip] をタップする
 - ③ 切り取りたい画面を表示する
 - ④ 表示された画面で [はい] をタップする
以降は、画面のメッセージに従って操作してください。画面の切り取りとメモの追加が終了したら [保存] をタップしてください。

3 手書きノートを共有する

* TruNote Share 搭載モデルのみ

「TruNote Share」は、手書きノートを、ネットワークを使用して複数人（複数のパソコンやタブレット）で共有することができるアプリケーションです。

「TruNote Share」には、次のような機能があります。

- 同じノートを複数人で共有し、手書きの文字や絵を同時に書き込むことができる
- 「TruNote Share」で作成したデータは、「TruNote」で自動的に取り込むことができる

ペンを使用すると、より多くの機能を活用できるようになります。

参照 ▶ ペンについて「2章 7 ペンを使う」

1 [スタート] ボタン () をタップする

2 [すべてのアプリ] → [TruNote Share] をタップする

「TruNote Share」が起動します。

「TruNote Share」の詳細は、ヘルプを確認してください。

ヘルプの起動方法

1 「TruNote Share」を起動後、  をタップする

2 [ヘルプ] をタップする

4 音声を録音して確認する

* TruRecorder 搭載モデルのみ

「TruRecorder」は、本体のマイクを使用して音声を録音し、録音した内容を確認できるボイスレコーダーアプリです。

話し手を自動的に識別し、大切な発言などにマークを付けることで、振り返りたいポイントを簡単・短時間に確認できます。

お願い

- 録音するときは、話し手全員の発言を均等に録音できるように、本体のマイクを話し手のほうに向けてください。
- 録音中は本体を動かさないでください。

1 [スタート] ボタン () をタップする

2 [すべてのアプリ] → [TruRecorder] をタップする

初めて起動したときはメッセージが表示されます。内容を確認して操作してください。「TruRecorder」が起動します。

「TruRecorder」の詳細は、ヘルプを確認してください。

ヘルプの起動方法

1 「TruRecorder」を起動後、画面右上の  をタップする

2 [設定] をタップする

画面右側に [設定] 画面が表示されます。

3 [ヘルプ] をタップする

1 アプリケーションの追加

必要なファイルなどを本製品に追加して、アプリケーションを使えるようにすることをインストールといいます。

また、ご購入時にすでにインストール済みであることをプレインストールといいます。アプリケーションのインストールは、コンピューターの管理者アカウントで行います。

本製品に用意されているアプリケーション

ご購入時にプレインストールされている場合は、インストールの必要はありません。インストールが必要なアプリケーションの場合は、マニュアルの説明に従ってインストールを行ってください。



メモ

- 本製品に用意されているアプリケーションは、いったん削除した場合でも、再インストールして使用することができます。

参照 ▶ アプリケーションの再インストール

『取扱説明書 2章 9 プレインストールのアプリケーションを再インストールする』

お客様が用意したアプリケーション

新規に購入したものなど、お客様が用意したアプリケーションを本製品に追加するには、インストールが必要です。

参照 ▶ インストール方法『アプリケーションのヘルプ』、『アプリケーションに付属している説明書』

お願い

- アプリケーションの追加や削除を行う前に必ずデータを保存し、その他のアプリケーションを終了させてください。アプリケーションを終了しないで、追加や削除を行うと、データが消失するおそれがあります。

ここでは、一般的なインストール方法を紹介します。

1 インストールしたいアプリケーションのCD/DVD^{*1}などをセットする

インストールのプログラムが起動します。

参照 ▶ 画面に何も表示されない場合

『アプリケーションのヘルプ』、『アプリケーションに付属している説明書』

画面に従って操作してください。

* 1 本製品でCD/DVDなどを使用する場合は、外付けのCD/DVD/ブルーレイディスクドライブ（市販品）が必要です。ただし、すべての外付けCD/DVD/ブルーレイディスクドライブでの動作を保証するものではありません。

2 アプリケーションの削除

アプリケーションを削除することを、アンインストールといいます。

本製品に用意されているアプリケーションは、いったん削除した場合でも、再インストールして使用することができます。

参照 ▶ アプリケーションの再インストール

『取扱説明書 2章 9 プレインストールのアプリケーションを再インストールする』

アプリケーションを削除する方法を説明します。

アプリケーションの削除は、コンピューターの管理者アカウントで行います。

削除しても問題ないアプリケーションかどうかをよく確認してから、削除を行ってください。

お願い

- アプリケーションの追加や削除を行う前に必ずデータを保存し、その他のアプリケーションを終了させてください。アプリケーションを終了しないで、追加や削除を行うと、データが消失するおそれがあります。

1 スタートメニューから削除する

1 [スタート] ボタン () をタップする


2 [すべてのアプリ] → 削除したいアプリケーションを長押しして、表示されたメニューから [アンインストール] をタップする

メモ

- [プログラムと機能] 画面が表示された場合は、一覧からアプリケーションを選択して削除してください。

参照 ▶ 「本項 2 [プログラムと機能] 画面から削除する」

2 【プログラムと機能】画面から削除する

- 1 【スタート】 ボタン () をタップする
- 2 【すべてのアプリ】 → 【Windows システム ツール】 → 【コントロールパネル】 をタップする
- 3 【プログラムのアンインストール】 をタップする
- 4 現在インストールされているプログラムの一覧から削除したいアプリケーションをタップする
- 5 【アンインストール】 または 【アンインストールと変更】 ボタンをタップする
表示されるメッセージに従って操作してください。

メモ

- アプリケーションによっては、アンインストールするためのユーティリティ（アンインストーラ）が用意されています。
削除したいアプリケーションが一覧にないときは、アンインストーラを使用して削除できる場合があります。

参照 ▶ アンインストーラの詳細
『アプリケーションのヘルプ』、『アプリケーションに付属している説明書』



8章

■ システム環境を設定する

本製品を使用するときの、システム上のさまざまな環境を設定する方法について説明しています。

1 パスワードセキュリティ

パスワードとは、本製品やWindowsの起動時などに入力する、認証用の文字列のことです。パスワードが設定されている場合、あらかじめ決めた文字列を正しく入力しないと起動できません。

このため、自分にしかわからないパスワードを設定しておけば、ほかの人が本製品やWindowsを起動できなくなるため、データを見られたり、誤って消されてしまう心配が少なくなります。一度設定したパスワードは、後から変更したり、削除したりすることができます。

パスワードにはいろいろな種類があります。

- **Windowsパスワード**

Windowsを起動するときやスクリーンセーバーから復帰するときに、パスワードを入力しないと起動しません。

使用者として登録しているユーザーが、それぞれ別々に設定できます。

- **ユーザーパスワード (BIOSパスワード)**

電源を入れるときや休止状態から復帰するときに、パスワードを入力しないと起動しません。

- **スーパーバイザーパスワード (BIOSパスワード)**

BIOSセットアップの設定を変更できないようにするなど、いくつかの本製品の設定について制限をかけられます。スーパーバイザーが使用します。

- **HDDパスワード**

本体のSSDを保護します。電源を入れるときにHDDパスワードを入力しないと起動しません。万が一パスワードを忘れた場合、永久にSSDを使用できなくなる、非常に強固なセキュリティです。

メモ

- ユーザーパスワードとスーパーバイザーパスワードでは、違う文字列を使用してください。
- パスワードを登録した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えてください。
- パスワードを入力するときは、コード入力や貼り付け（ペースト）などの操作は行わず、キーボードの文字キーを押して直接入力してください。

お願い

- パスワードを忘れてしまって、パスワードを解除できなくなった場合は、使用している機種（型番）を確認後、次のサポート窓口にご連絡してください。
 - ・ Windowsパスワードを忘れたとき： 東芝PCあんしんサポート 使いかた相談窓口
 - ・ その他のパスワードを忘れたとき： 東芝PCあんしんサポート 修理相談窓口
- HDDパスワードを忘れてしまった場合は、SSDは永久に使用できなくなりますので、有料にてSSDを交換します。
- それ以外のパスワードの場合は、有料にてパスワードを解除します。その際、パスワードの種類によっては、お客様のデータが失われる場合があります。
- またどちらの場合も、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要です。

パスワードに使用できる文字

ユーザーパスワード、スーパーバイザーパスワード、HDDパスワードに使用できる文字は次のとおりです。

アルファベットの大文字と小文字は区別されません。

使用できる文字	アルファベット（半角）	abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
	数字（半角）	0123456789
	記号の一部（半角）	;. ,.（スペース）など
使用できない文字	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全角文字（2バイト文字） ・ 日本語入力システムの起動が必要な文字 【例】 漢字、カタカナ（全角／半角）、ひらがな、日本語入力システムが供給する記号 など ・ 記号の一部（半角） 【例】 ¡（バーチカルライン） _（アンダーバー） ¥（エン）など 	

パスワード登録時に警告メッセージが表示された場合は、登録しようとした文字列に使用できない文字が含まれています。この場合、もう一度別の文字列を入力し直してください。警告が表示されない場合も、上記「使用できない文字」に該当する文字は使用しないでください。また文字列は必ずタッチキーボードから1文字ずつ直接入力してください。

1 ユーザーパスワード

「ユーザーパスワード」は、電源を入れるときや休止状態から復帰するときに、決まった文字を入力しなければ起動できなくする機能です。

ユーザーパスワードの登録は、「東芝パスワードユーティリティ」で設定します。また、登録した文字列は、パスワードファイルを作成して確認することをおすすめします。

1 東芝パスワードユーティリティでの設定

ユーザーパスワードの登録

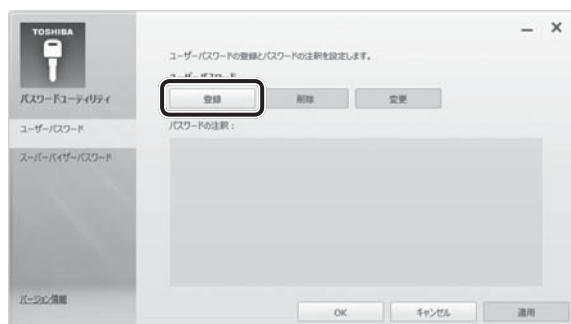
ユーザーパスワードを登録する手順を説明します。HDDパスワードもあわせて登録できます。

1 [スタート] ボタン () をタップする

2 [すべてのアプリ] → [TOSHIBA] → [パスワードユーティリティ] をタップする

「東芝パスワードユーティリティ」が起動します。

3 [ユーザーパスワード] タブで [登録] ボタンをタップする

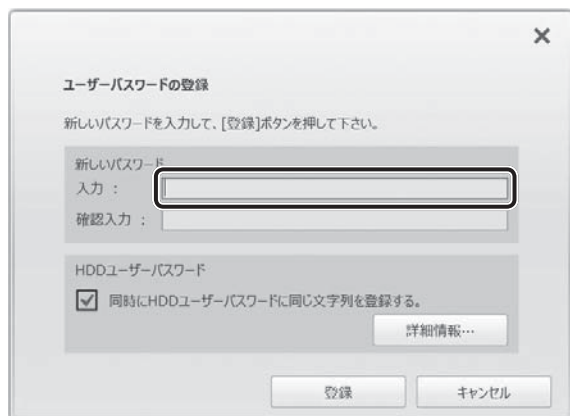


(表示例)

[ユーザーパスワードの登録] 画面が表示されます。

4 [入力:] にパスワードを入力する

パスワードは50文字以内で入力します。



(表示例)

参照 ▶ パスワードに使用できる文字「本節 - パスワードに使用できる文字」

パスワードは1文字ごとに「*」(アスタリスク)で表示されますので、画面で確認できません。間違えないよう、気をつけて入力してください。

パスワードを入力するときは、コード入力や貼り付け(ペースト)などの操作を行わず、タッチキーボードの文字キーを押して直接入力してください。

5 [確認入力:]にもう一度パスワードを入力する

モデルによっては、[同時にHDDユーザーパスワードに同じ文字列を登録する。]項目が表示されます。

[同時にHDDユーザーパスワードに同じ文字列を登録する。]にチェックがついている場合、ここで設定したユーザーパスワードがHDDパスワードとしても登録されます。

参照 ▶ HDDパスワードについて「本節 4 HDDパスワード」

ユーザーパスワードのみ登録する場合は、チェックをはずしてください。

6 [登録] ボタンをタップする

入力エラーのメッセージが表示された場合は、[OK] ボタンをタップして画面を閉じ、手順 4 から操作をやり直してください。

手順 5 で [同時にHDDユーザーパスワードに同じ文字列を登録する。] にチェックをしていない場合は、手順 8 に進んでください。

チェックをしている場合は、「HDDユーザーパスワードを登録しようとしています。」という画面が表示されます。

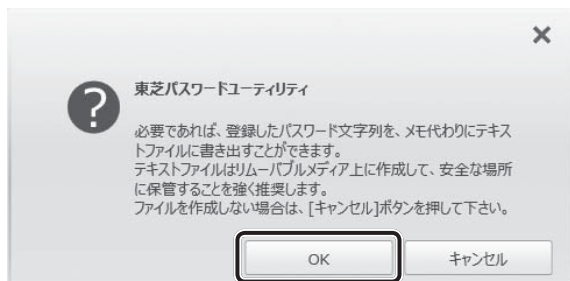
7 メッセージの内容を確認し、[はい] ボタンをタップする

8 パスワードファイルを作成する場合は [OK] ボタンをタップする

パスワードの文字列をファイルとして保存しておくことを推奨するメッセージが表示されます。

このファイルをパスワードファイルと呼びます。

パスワードファイルを保管しておけば、パスワードを忘れた場合、本機または本機以外の機器でパスワードを確認することができます。



(表示例)

パスワードファイルを作成しない場合は [キャンセル] ボタンをタップしてください。[OK] ボタンをタップすると、[名前を付けて保存] 画面が表示されます。

9 パスワードファイルを作成する

パスワードファイルの保存先は、USBフラッシュメモリなどの記録メディアを推奨します。あらかじめ用意しておいてください。

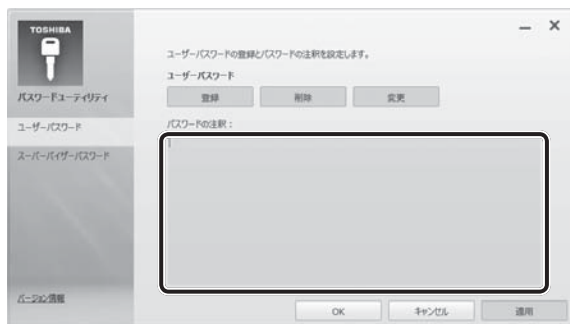
- ① 記録メディアをセットする
- ② 保存先を選択する
- ③ [ファイル名] にファイル名を入力する
- ④ [保存] ボタンをタップする

パスワードファイルが選択した保存先に作成されます。

手順 **5** で [同時にHDDユーザーパスワードに同じ文字列を登録する。] をチェックしている場合、「今すぐコンピューターを再起動しますか?」という画面が表示されるので、[いいえ] ボタンをタップします。

[東芝パスワードユーティリティ] 画面が表示されます。

10 必要に応じて、[パスワードの注釈:] を入力する



(表示例)

[パスワードの注釈] にはパスワードのヒントとなる文字列を登録できます。登録すると、パスワードの入力が必要なときに、登録した文字列が表示されます。使用できる文字列はユーザーパスワードと同様です。

参照 ▶ パスワードに使用できる文字について「本節 - パスワードに使用できる文字」パスワード文字列そのものを登録しないでください。

11 [OK] ボタンをタップする

手順 **5** で [同時にHDDユーザーパスワードに同じ文字列を登録する。] にチェックをした場合は、必ず電源を切る、または再起動してください。

お願い

- パスワードファイルを保存した記録メディアは、安全な場所に保管してください。

メモ

- パスワードを忘れてしまったときのために、必ずパスワードを控えてください。

ユーザーパスワードの削除

ユーザーパスワードを削除するには、次の手順を実行してください。

1 [スタート] ボタン () をタップする

2 [すべてのアプリ] → [TOSHIBA] → [パスワードユーティリティ] をタップする

「東芝パスワードユーティリティ」が起動します。
認証画面が表示されるので、パスワードで認証を行ってください。

参照▶ 認証について「本節 **3** パスワードの入力」

3 [ユーザーパスワード] タブで [削除] ボタンをタップする

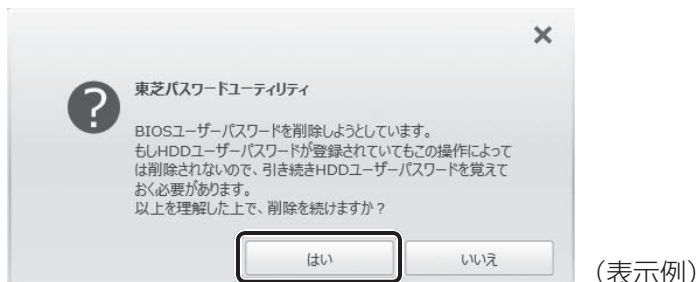


[ユーザーパスワードの削除] 画面が表示されます。

4 [削除] ボタンをタップする



確認のメッセージが表示されます。

5 メッセージの内容を確認し、[はい] ボタンをタップする

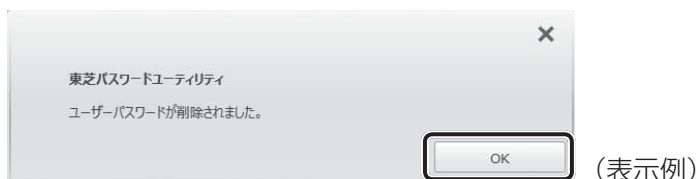
認証画面が表示されます。

パスワードで認証を行ってください。

参照▶ 認証について「本節 **3** パスワードの入力」

認証は、「東芝パスワードユーティリティ」を起動したときと同じユーザー権限で行ってください。

確認のメッセージが表示されます。

6 メッセージの内容を確認し、[OK] ボタンをタップする

パスワードが削除されます。

ユーザーパスワードの変更

ユーザーパスワードを変更するには、次の手順を実行してください。

1 [スタート] ボタン () をタップする

2 [すべてのアプリ] → [TOSHIBA] → [パスワードユーティリティ] をタップする

「東芝パスワードユーティリティ」が起動します。
認証画面が表示されるので、パスワードで認証を行ってください。

参照▶ 認証について「本節 **3** パスワードの入力」

3 [ユーザーパスワード] タブで [変更] ボタンをタップする



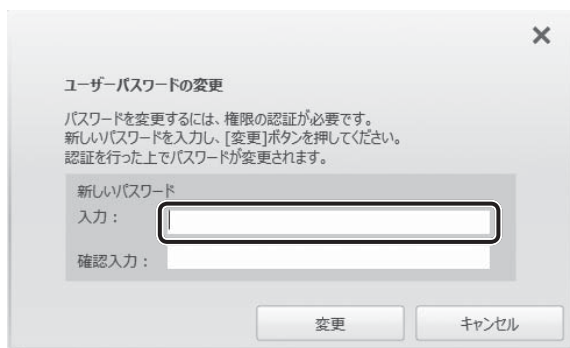
(表示例)

[ユーザーパスワードの変更] 画面が表示されます。

4 [入力:] に新しいパスワードを入力する

パスワードは50文字以内で入力します。

参照▶ パスワードに使用できる文字「本節 - パスワードに使用できる文字」



(表示例)

パスワードは1文字ごとに「*」(アスタリスク)で表示されますので、画面で確認できません。間違えないよう、気をつけて入力してください。

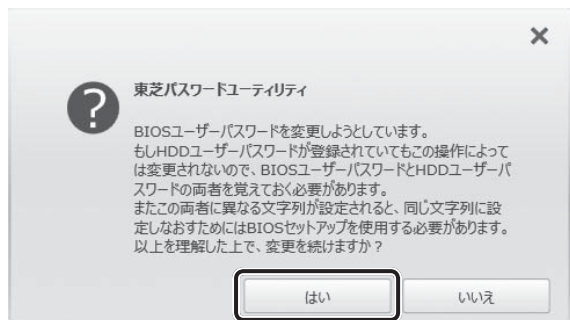
パスワードを入力するときは、コード入力や貼り付け(ペースト)などの操作を行わず、タッチキーボードの文字キーを押して直接入力してください。

5 [確認入力:]にもう一度新しいパスワードを入力する

6 [変更] ボタンをタップする

確認のメッセージが表示されます。

7 メッセージの内容を確認し、[はい] ボタンをタップする



(表示例)

認証画面が表示されます。

パスワードで認証を行ってください。

ここでは、まだパスワードは変更されていないので、本手順 **4**、**5** で入力したのではなく、その前に登録しておいたパスワードを入力してください。

参照▶ 認証について「本節 **3** パスワードの入力」

認証は、「東芝パスワードユーティリティ」を起動したときと同じユーザー権限で行ってください。

パスワードが変更されます。

変更したパスワードの文字列をファイルとして保存しておくことを推奨するメッセージが表示されます。

8 パスワードファイルを作成する場合は [OK] ボタンをタップする

パスワードファイルを作成しない場合は [キャンセル] ボタンをタップしてください。

参照▶ パスワードファイルの作成方法「本項 **1** - ユーザーパスワードの登録」の手順 **9**


2 BIOS セットアップでの設定

BIOS セットアップでの設定は、「Security」メニューにある「BIOS Password」の「User」で行います。

ユーザーパスワードの登録

* この操作は、本マニュアルを参照しながら実行することはできません。
必ず本項目のページを印刷してから実行してください。

1 データを保存し、次の方法で電源を切る

- ① [スタート] ボタン () をタップする
- ② [設定] をタップする
- ③ [更新とセキュリティ] → [回復] をタップする
- ④ [PCの起動をカスタマイズする] の [今すぐ再起動する] をタップする
- ⑤ [オプションの選択] 画面で [PCの電源を切る] をタップする

2 音量小 (-) ボタンを押し続けながら、電源スイッチを押し続ける (製品ロゴが表示されるまで)

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力して **Enter** キーをタップしてください。

3 画面左側の [Security] をタップし、[BIOS Password] の [User] をタップして選択後、再度タップする

パスワードが入力できる状態になります。

4 パスワードを入力する

パスワードは50文字以内で入力します。パスワードに使用できる文字は、「東芝パスワードユーティリティ」の場合と同様です。

パスワードは1文字ごとに「*」(アスタリスク) で表示されますので、画面で確認できません。間違えないよう、気をつけて入力してください。

5 **Enter** キーをタップする

確認入力の画面が表示されます。

6 もう一度パスワードを入力する

確認のため、手順 **4** と同じパスワードをもう一度入力してください。

7 **Enter** キーをタップする

パスワードが登録されます。


2回目のパスワードが1回目のパスワードと異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。 **Enter** キーをタップし、手順 **3** からやり直してください。

参照 ▶ BIOS セットアップの終了方法「本章 **4** - **1** - **2** 終了」

ユーザーパスワードの削除

* この操作は、本マニュアルを参照しながら実行することはできません。
必ず本項目のページを印刷してから実行してください。

1 データを保存し、次の方法で電源を切る

- ① [スタート] ボタン () をタップする
- ② [設定] をタップする
- ③ [更新とセキュリティ] → [回復] をタップする
- ④ [PCの起動をカスタマイズする] の [今すぐ再起動する] をタップする
- ⑤ [オプションの選択] 画面で [PCの電源を切る] をタップする

2 音量小 (－) ボタンを押し続けながら、電源スイッチを押し続ける (製品ロゴが表示されるまで)

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力して **Enter** キーをタップしてください。

3 [Security] をタップし、[BIOS Password] の [User] をタップして選択後、再度タップする

パスワードが入力できる状態になります。

4 登録してあるパスワードを入力する

入力すると1文字ごとに「*」(アスタリスク)が表示されます。

5 **Enter** キーをタップする

新しいパスワードを入力する画面が表示されます。
入力したパスワードが登録したパスワードと異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。**Enter** キーをタップし、手順 **3** からやり直してください。

6 何も入力しないで、**Enter** キーをタップする

確認入力の画面が表示されます。

7 何も入力しないで、**Enter** キーをタップする

パスワードが削除されます。


購入時の設定では、入力エラーが3回続いた場合は、以後パスワードの項目を操作できなくなります。この場合は、本製品の電源を入れ直し、もう一度設定を行ってください。

参照 BIOSセットアップの終了方法「本章 **4** - **1** - **2** 終了」

ユーザーパスワードの変更

* この操作は、本マニュアルを参照しながら実行することはできません。
必ず本項目のページを印刷してから実行してください。

1 データを保存し、次の方法で電源を切る

- ① [スタート] ボタン () をタップする
- ② [設定] をタップする
- ③ [更新とセキュリティ] → [回復] をタップする
- ④ [PCの起動をカスタマイズする] の [今すぐ再起動する] をタップする
- ⑤ [オプションの選択] 画面で [PCの電源を切る] をタップする

2 音量小 (－) ボタンを押し続けながら、電源スイッチを押し続ける (製品ロゴが表示されるまで)

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力して **Enter** キーをタップしてください。

3 [Security] をタップし、[BIOS Password] の [User] をタップして選択後、再度タップする

パスワードが入力できる状態になります。

4 登録してあるパスワードを入力する

入力すると1文字ごとに「*」(アスタリスク) が表示されます。

5 **Enter** キーをタップする

新しいパスワードを入力する画面が表示されます。

入力したパスワードが登録したパスワードと異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。**Enter** キーをタップし、手順 **3** からやり直してください。

6 新しいパスワードを入力する

パスワードは1文字ごとに「*」(アスタリスク) で表示されますので、画面で確認できません。間違えないよう、気をつけて入力してください。

7 **Enter** キーをタップする

確認入力の画面が表示されます。

8 手順 **6** で入力したパスワードをもう一度入力する

9 **Enter** キーをタップする

パスワードが変更されます。

2回目のパスワードが1回目のパスワードと異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。**Enter** キーをタップし、手順 **3** からやり直してください。

購入時の設定では、入力エラーが3回続いた場合は、以後パスワードの項目を操作できなくなります。この場合は、本製品の電源を入れ直し、もう一度設定を行ってください。

参照 ▶ BIOS セットアップの終了方法「本章 4 - 1 - 2 終了」

2 スーパーバイザーパスワード

「スーパーバイザーパスワード」は、BIOS セットアップの設定を変更できないようにするなど、いくつかの本製品の設定について制限をかける機能です。

「東芝パスワードユーティリティ」で、Windows 上からスーパーバイザーパスワードの設定や設定の変更ができます。なお、BIOS セットアップでも設定できます。

メモ

- 先にユーザーパスワードが登録されている場合は、スーパーバイザーパスワードの登録はできません。スーパーバイザーパスワードとユーザーパスワードを両方登録する場合は、一度ユーザーパスワードを削除し、スーパーバイザーパスワードを登録してからもう一度ユーザーパスワードを登録してください。
- スーパーバイザーパスワードを登録すると、ユーザーポリシーを設定できます。ユーザーポリシーとは、複数のユーザーで本製品を使用している場合の、各ユーザーの権限を設定する機能です。
- スーパーバイザーパスワードとユーザーパスワードでは、違うパスワードを使用してください。
- パスワードを登録した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。

1 東芝パスワードユーティリティでの設定

起動方法

1 [スタート] ボタン () をタップする

2 [すべてのアプリ] → [TOSHIBA] → [パスワードユーティリティ] をタップする

「東芝パスワードユーティリティ」が起動します。

パスワードを登録している場合は、スーパーバイザーパスワードで認証を行ってください。

参照 ▶ 認証について「本節 3 - 東芝パスワードユーティリティを起動したとき」

3 [スーパーバイザーパスワード] タブで設定する

操作方法

■ スーパーバイザーパスワードの登録、削除、変更

スーパーバイザーパスワードの登録、削除、変更などの設定方法は、「東芝パスワードユーティリティ」でのユーザーパスワードの設定方法と同様です。

ユーザーパスワードの設定を確認し、画面の指示に従って操作してください。

参照 ユーザーパスワード「本節 1 - 1 東芝パスワードユーティリティでの設定」

なお、スーパーバイザーパスワードを削除すると、ユーザーパスワードも同時に削除されます。

■ 一般ユーザーの操作を制限する

スーパーバイザーパスワードを登録すると、スーパーバイザーパスワードを知らないユーザーに対して、BIOS セットアップの管理などに制限を加えることができます。

スーパーバイザーパスワードを登録した状態で、次の手順を実行してください。

1 「東芝パスワードユーティリティ」を起動する

認証画面が表示されるので、スーパーバイザーパスワードで認証を行ってください。

参照 認証について「本節 3 - 東芝パスワードユーティリティを起動したとき」

2 [スーパーバイザーパスワード] タブで [ユーザーポリシー] の [設定] ボタンをタップする

3 必要に応じて項目をチェックする

4 [設定] ボタンをタップする

5 表示されたメッセージの内容を確認し、[はい] または [OK] ボタンをタップする

認証画面が表示されます。

スーパーバイザーパスワードで認証を行ってください。

参照 認証について「本節 3 - 東芝パスワードユーティリティを起動したとき」

6 メッセージが表示された場合は内容を確認し、[OK] ボタンをタップする

2 BIOS セットアップでの設定

* この操作は、本マニュアルを参照しながら実行することはできません。
必ず本項目のページを印刷してから実行してください。

BIOS セットアップでも、スーパーバイザーパスワードを登録することができます。

操作方法

■ スーパーバイザーパスワードの登録、削除、変更

BIOS セットアップの「Security」メニューで、「BIOS Password」の「Supervisor」を選択して設定できます。

登録、削除、変更などの設定方法は、BIOS セットアップでのユーザーパスワードの設定方法と同様です。

ユーザーパスワードの設定を確認してください。

参照▶「本節 1 - 2 BIOS セットアップでの設定」

また、BIOS セットアップで、いったんスーパーバイザーパスワードを登録してしまうと、スーパーバイザーパスワードを知らないユーザーの場合、次の操作が一部制限されたり、設定ができなくなったりします。

- ・ BIOS セットアップ画面での設定変更
- ・ 東芝システムセッティングでの設定変更
- ・ 音量大 (+) ボタンを使って起動ドライブを変更する

参照▶「本章 2 起動ドライブの変更」

3 パスワードの入力

お願い

- パスワード入力画面で自動的に電源が切れると、LAN、USB、スリープ解除タイマーからの許可によるWake-upができませんので、電源を入れ直してください。

電源を入れたとき／休止状態から復帰するとき

パスワードを登録している場合、電源を入れるとパスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。

この場合は、次の方法で本製品を起動します。

1 登録したとおりにパスワードを入力し、**Enter** キーをタップする

パスワードの入力ミスが3回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。

パスワードを入力せずに約1分経過した場合も、自動的に電源が切れます。

その場合は電源を入れ直してください。

東芝パスワードユーティリティを起動したとき

ユーザーパスワード／スーパーバイザーパスワードを登録している場合、「東芝パスワードユーティリティ」を起動すると、認証を求める画面が表示されます。次の方法で認証を行います。

■ パスワードを入力する

1 認証を求める画面が表示されたら、パスワードを入力する

2 【確認】 ボタンをタップする

1 パスワードを忘れてしまった場合

ユーザーパスワード／スーパーバイザーパスワードを忘れてしまった場合は、次の方法で確認または解除してください。

● パスワードファイルを確認する

電源を入れるときにパスワードが必要になった場合は、本機以外の機器でパスワードファイルを確認してください。

上記の方法でパスワードの確認ができなかった場合は、東芝PCあんしんサポート 修理相談窓口にご相談ください。パスワードの解除を依頼する場合は、有料です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要です。

4 HDDパスワード

HDDパスワードは、SSDを保護するセキュリティ機能です。
HDDパスワードの登録、削除、変更などの設定は、BIOSセットアップで行います。

1 注意事項

登録したパスワードの内容は、メモをとるなどして、安全な場所に保管しておくことを強くおすすめします。

お願い

- 万が一、登録したパスワードを忘れた場合、修理・保守対応ではパスワードを解除できません。この場合、SSDは永久に使用できなくなり、交換対応となります。この場合、有料での交換となります。
SSDが使用できなくなったことによる、お客様またはその他の個人や組織に対して生じた、いかなる損失に対しても、当社はいっさい責任を負いません。
HDDパスワードの設定については、この点を十分にご注意いただいたうえでご使用ください。

2 HDDパスワードの種類

HDDパスワードは、HDDユーザーパスワードとHDDマスターパスワードの2つを設定することが可能です。

■ HDDユーザーパスワード

各本製品の使用者自身が設定することを想定したパスワードです。
HDDマスターパスワードを削除すると、同時にHDDユーザーパスワードも削除されます。


■ HDDマスターパスワード

管理者などが本製品の環境設定を管理／保守するために設定することを想定したパスワードです。
HDDマスターパスワードはHDDユーザーパスワードの代わりに使えます。HDDユーザーパスワードを忘れた場合でも、HDDマスターパスワードを入力してSSDにアクセスできます。
なお、HDDマスターパスワードのみを登録することはできません。
組織などでHDDマスターパスワードを用いた運用を検討した場合、各本製品のユーザーに対して本製品を配付する前に、あらかじめ管理者がBIOSセットアップでHDDマスターパスワードと仮のHDDユーザーパスワードを設定しておく必要があります。

3 HDDパスワードの登録

* この操作は、本マニュアルを参照しながら実行することはできません。
必ず本項目のページを印刷してから実行してください。

1 データを保存し、次の方法で電源を切る

- ① [スタート] ボタン () をタップする
- ② [設定] をタップする
- ③ [更新とセキュリティ] → [回復] をタップする
- ④ [PCの起動をカスタマイズする] の [今すぐ再起動する] をタップする
- ⑤ [オプションの選択] 画面で [PCの電源を切る] をタップする

2 音量小 (-) ボタンを押し続けながら、電源スイッチを押し続ける (製品ロゴが表示されるまで)

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力して **Enter** キーをタップしてください。

3 画面左側の [Security] をタップして、[HDD/SSD Password] の [User] をタップして選択後、再度タップする

HDD マスターパスワードの場合は、[Master] をタップして選択後、再度タップしてください。

パスワードが入力できる状態になります。

4 パスワードを入力する

パスワードは50文字以内で入力します。

参照 ▶ パスワードに使用できる文字「本節 - パスワードに使用できる文字」

パスワードは1文字ごとに「*」(アスタリスク)で表示されますので、画面で確認できません。間違えないよう、気をつけて入力してください。

5 **Enter** キーをタップする

確認入力の画面が表示されます。

6 もう一度パスワードを入力する

7 **Enter** キーをタップする

パスワードが登録されます。

2回目のパスワードが1回目のパスワードと異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。**Enter** キーをタップし、手順 **3** からやり直してください。


HDD マスターパスワードを登録する場合は、BIOS セットアップの「HDD/SSD Password」の「Mode」で「Master + User」を選択します。表示された「Master」にHDD マスターパスワードを設定し、続けてHDD ユーザーパスワードの設定を行います。

参照 ▶ BIOS セットアップの終了方法「本章 **4** - **1** - **2** 終了」

4 HDDパスワードの削除

* この操作は、本マニュアルを参照しながら実行することはできません。
必ず本項目のページを印刷してから実行してください。

1 データを保存し、次の方法で電源を切る

- ① [スタート] ボタン () をタップする
- ② [設定] をタップする
- ③ [更新とセキュリティ] → [回復] をタップする
- ④ [PCの起動をカスタマイズする] の [今すぐ再起動する] をタップする
- ⑤ [オプションの選択] 画面で [PCの電源を切る] をタップする

2 音量小 (-) ボタンを押し続けながら、電源スイッチを押し続ける (製品ロゴが表示されるまで)

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力して **Enter** キーをタップしてください。

3 画面左側の [Security] をタップして、[HDD/SSD Password] の [User] をタップして選択後、再度タップする

HDD マスターパスワードの場合は、[Master] をタップして選択後、再度タップしてください。

パスワードが入力できる状態になります。

4 登録してあるパスワードを入力する

入力すると1文字ごとに「*」(アスタリスク)が表示されます。

5 **Enter** キーをタップする

新しいパスワードを入力する画面が表示されます。

入力したパスワードが登録したパスワードと異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。**Enter** キーをタップし、手順 **3** からやり直してください。

6 何も入力しないで、**Enter** キーをタップする

確認入力の画面が表示されます。

7 何も入力しないで、**Enter** キーをタップする

パスワードが削除されます。

HDD マスターパスワードを削除する場合は、HDD マスターパスワードの削除を行うと、同時にHDD ユーザーパスワードも削除されます。


HDD ユーザーパスワードのみを削除することはできません。

参照 ▶ BIOS セットアップの終了方法「本章 **4** - **1** - **2** 終了」

5 HDDパスワードの変更

* この操作は、本マニュアルを参照しながら実行することはできません。
必ず本項目のページを印刷してから実行してください。

1 データを保存し、次の方法で電源を切る

- ① [スタート] ボタン () をタップする
- ② [設定] をタップする
- ③ [更新とセキュリティ] → [回復] をタップする
- ④ [PCの起動をカスタマイズする] の [今すぐ再起動する] をタップする
- ⑤ [オプションの選択] 画面で [PCの電源を切る] をタップする

2 音量小 (－) ボタンを押し続けながら、電源スイッチを押し続ける (製品ロゴが表示されるまで)

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力して **Enter** キーをタップしてください。

3 画面左側の [Security] をタップして、[HDD/SSD Password] の [User] をタップして選択後、再度タップする

HDD マスターパスワードの場合は、[Master] をタップして選択後、再度タップしてください。

パスワードが入力できる状態になります。

4 登録してあるパスワードを入力する

入力すると1文字ごとに「*」(アスタリスク) が表示されます。

5 **Enter** キーをタップする

新しいパスワードを入力する画面が表示されます。

入力したパスワードが登録したパスワードと異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。**Enter** キーをタップし、手順 **3** からやり直してください。

6 新しいパスワードを入力する

パスワードは1文字ごとに「*」(アスタリスク) で表示されますので、画面で確認できません。間違えないよう、気をつけて入力してください。

7 **Enter** キーをタップする

確認入力の画面が表示されます。

8 もう一度新しいパスワードを入力する

9 **Enter** キーをタップする

パスワードが変更されます。

2回目のパスワードが1回目のパスワードと異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。**Enter** キーをタップし、手順 **3** からやり直してください。

参照 BIOS セットアップの終了方法「本章 **4** - **1** - **2** 終了」

6 **HDD パスワードの入力**

HDDパスワードが設定されている場合、電源を入れるとHDDパスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。

この場合は、次の方法で本製品を起動します。

お願い

- パスワード入力画面で自動的に電源が切れると、LAN、USB、スリープ解除タイマーからの許可によるWake-upができませんので、電源を入れ直してください。

1 登録したとおりにHDDパスワードを入力し、**Enter** キーをタップする

HDDパスワードの入力ミスを経験した場合は、自動的に電源が切れます。

パスワードを入力せずに約1分経過した場合も、自動的に電源が切れます。

その場合は、電源を入れ直してください。


ご購入時の設定では、本体のSSDからシステムを起動します。起動するドライブを変更したい場合、次の方法で変更できます。

1 一時的に変更する

* この操作は、本マニュアルを参照しながら実行することはできません。
必ず本項目のページを印刷してから実行してください。

電源を入れたときに表示されるメニューから、起動するドライブを選択できます。

1 データを保存し、次の方法で電源を切る

- ① [スタート] ボタン () をタップする
- ② [設定] をタップする
- ③ [更新とセキュリティ] → [回復] をタップする
- ④ [PCの起動をカスタマイズする] の [今すぐ再起動する] をタップする
- ⑤ [オプションの選択] 画面で [PCの電源を切る] をタップする

2 音量大(+)ボタンを押し続けながら、電源スイッチを押し続ける ([Boot Menu] 画面が表示されるまで)

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力して **Enter** キーをタップすると、[Boot Menu] 画面が表示されます。

3 起動したいドライブをタップして選択後、再度タップする

一時的にそのドライブが起動最優先ドライブとなり、起動します。

お願い

- [HDD Recovery] は選択しないでください。HDD Recovery (HDDリカバリー) を実行すると、SSD内に保存されているデータはすべて消去されます。


参照 HDDリカバリー (SSDから本製品を初期状態に戻す) について
『取扱説明書 2章 **8** 本製品を初期状態に戻す』

3

東芝システムセッティング

「東芝システムセッティング」を使い、Windows上でシステムの設定を変更できます。複数のユーザーで使用する場合も、設定内容は全ユーザーで共通になります。

設定方法

- 1** [スタート] ボタン () をタップする
- 2** [すべてのアプリ] → [TOSHIBA] → [システムセッティング] をタップする
「東芝システムセッティング」が起動します。
- 3** 各機能を設定し、[OK] ボタンをタップする
[キャンセル] ボタンをタップした場合は、設定が変更されません。

再起動が必要な項目の設定を変更すると、本製品の再起動を行うようメッセージが表示されます。この場合、すぐに再起動を行って設定を有効にしてください。

* この操作は、本マニュアルを参照しながら実行することはできません。
必ず本項目のページを印刷してから実行してください。

バイオス
BIOS セットアップとは、本製品のシステム構成を本製品から設定するプログラムのことです。
次のような設定ができます。

- ハードウェア環境（本製品、周辺機器接続ポート）の設定
- セキュリティの設定
- 起動方法の設定



メモ BIOS セットアップを使用する前の注意

- 通常、システム構成の変更はWindows上の「東芝システムセッティング」、「東芝パスワードユーティリティ」、「電源オプション」、「デバイス マネージャー」などで行ってください。
「デバイス マネージャー」については、[WebとWindowsを検索] () で、「デバイス マネージャー」と入力して検索してください。

参照 ▶ 「本章 **3** 東芝システムセッティング」

参照 ▶ 「東芝パスワードユーティリティ」について「本章 **1** - **1** ユーザーパスワード」


参照 ▶ 「電源オプション」について「7章 **11** - **1** 電源オプション」

- 使用しているシステムによっては、システム構成を変更しても、変更が反映されない場合があります。
- BIOS セットアップで設定した内容は、電源を切っても消えません。バッテリーが消耗した場合は、日付と時刻（[Main] メニューの [System Date] と [System Time]）のみが標準設定値に戻ります。

1 起動と終了／BIOS セットアップの操作

1 起動

1 データを保存し、次の方法で電源を切る

- ① [スタート] ボタン () をタップする
- ② [設定] をタップする
- ③ [更新とセキュリティ] → [回復] をタップする
- ④ [PCの起動をカスタマイズする] の [今すぐ再起動する] をタップする
- ⑤ [オプションの選択] 画面で [PCの電源を切る] をタップする

2 音量小 (–) ボタンを押し続けながら、電源スイッチを押し続ける (製品ロゴが表示されるまで)

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力して **Enter** キーをタップまたは押ししてください。

参照 ▶ パスワードについて「本章 **1** パスワードセキュリティ」

BIOS セットアップが起動します。

起動できなかった場合は、手順 **1** の終了操作を行って本製品の電源を切り、手順 **2** をやり直してください。

2 終了

1 画面右列から、終了方法を選択する

2 画面の指示に従ってBIOS セットアップを終了する

途中で終了する方法

設定内容がよくわからなくなったり、途中で設定を中止する場合には行います。この場合、変更した内容は、一部の設定を除き無効になります。

設定値は変更前の状態のままです。

各種パスワード、[Main] メニューの [System Time] と [System Date] の各設定については、変更前の状態に戻りません。

1 画面右列の [Close] をタップして選択後、再度タップする

画面にメッセージが表示されます。

2 [Yes] をタップする

BIOS セットアップが終了します。

3 基本操作

基本操作は次のとおりです。

操作	画面右列のメニュー
設定内容を標準値にする	[Setup Defaults] メッセージが表示されます。[Yes] をタップしてください。 各種パスワードなど一部の設定については、標準値に戻りません。
設定を保存し、BIOS セットアップを終了する	[Save and Exit] メッセージが表示されます。[Yes] をタップしてください。 BIOS セットアップ終了後、Windows が起動します。 保存しない場合は [No] をタップしてください。
設定を保存しないで、BIOS セットアップを終了する	[Close] メッセージが表示されます。[Yes] をタップしてください。 サブメニュー表示中は1つ前の画面に戻ります。 各種パスワード、TPM、[Main] メニューの [System Time] と [System Date] の各設定については、変更前の状態に戻りません。

役立つ操作集

スーパーバイザーパスワードについて

スーパーバイザーパスワードを設定すると、BIOS セットアップの設定を変更できないようにしたりなど、本製品の設定について制限をかけられます。

参照 ▶ 「本章 **1** - **2**」スーパーバイザーパスワード」

制限をかけた設定を変更したい場合は、「東芝パスワードユーティリティ」でスーパーバイザーパスワードの解除、または設定の変更を行ってください。

2 設定項目

1 Main

■ System Time (システム時刻)

時刻表示部分をタップして選択後、再度タップすると、時刻設定画面が表示されます。時と分と秒を、それぞれ [+] [-] をタップして設定し、[OK] ボタンをタップしてください。

■ System Date (システム日付)

日付表示部分をタップして選択後、再度タップすると、日付設定画面が表示されます。月と日と年を、それぞれ [+] [-] をタップして設定し、[OK] ボタンをタップしてください。

■ CPU Type

本体に搭載されているCPUのタイプが表示されます。

■ CPU Speed

本体に搭載されているCPUのスピードが表示されます。

■ HDD/SSD

本体に搭載されているSSDのタイプが表示されます。

■ Total Memory Size

本体に取り付けられているメモリのメモリ総容量が表示されます。

■ System BIOS Version

搭載されているBIOSのバージョンが表示されます。

■ EC Version

ECのバージョンが表示されます。

■ Dock EC Version

*キーボードドックを接続している場合、表示されます。
キーボードドックのECのバージョンが表示されます。

■ Language

BIOSで使用する言語を選択します。

- ・ English (標準値).....英語
- ・ Français.....フランス語

2 Security

■ BIOS Password

ユーザーパスワードやスーパーバイザーパスワードを登録／削除／変更します。

● User

ユーザーパスワードを登録すると、起動時のシステムへのアクセスを制限できます。

ユーザーパスワードの登録／削除／変更は「東芝パスワードユーティリティ」で行うことを推奨します。

参照 詳細について「本章 1 - 1 ユーザーパスワード」

- ・ Not Registered (標準値)...ユーザーパスワードが登録されていないときに表示される
- ・ Registered.....ユーザーパスワードが登録されているときに表示される

〈ユーザーパスワードを忘れてしまったとき〉

ユーザーパスワードを忘れてしまった場合は、東芝PCあんしんサポート 修理相談窓口にご相談してください。

ユーザーパスワードの解除を依頼する場合は、有料です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

● Supervisor

スーパーバイザーパスワードを登録すると、セットアップへのアクセスを制限できます。

スーパーバイザーパスワードの登録／削除／変更は「東芝パスワードユーティリティ」で行うことを推奨します。スーパーバイザーパスワードをBIOSセットアップで登録すると、操作が一部制限されます。

参照 詳細について「本章 1 - 2 スーパーバイザーパスワード」

- ・ Not Registered (標準値)...スーパーバイザーパスワードが登録されていないときに表示される
- ・ Registered.....スーパーバイザーパスワードが登録されているときに表示される

〈スーパーバイザーパスワードを忘れてしまったとき〉

スーパーバイザーパスワードを忘れてしまった場合は、東芝PCあんしんサポート 修理相談窓口にご相談してください。スーパーバイザーパスワードの解除を依頼する場合は、有料です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

■ HDD/SSD Password

HDD/SSDのHDDユーザーパスワードやHDDマスターパスワードを登録／削除／変更します。

● Mode

HDD/SSDのHDDパスワードモードを設定します。

- ・ User Only (標準値).....HDD/SSDのHDDユーザーパスワードのみを登録する
- ・ Master+User.....HDD/SSDのHDDマスターパスワードとHDDユーザーパスワードを登録する

● User

HDD/SSDのHDDユーザーパスワードを登録／削除／変更します。

参照▶ 詳細について「本章 **1** - **4** HDDパスワード」

- ・ Not Registered (標準値) ...HDDユーザーパスワードが登録されていないときに表示される
- ・ Registered.....HDDユーザーパスワードが登録されているときに表示される

● Master

HDD/SSDのHDDマスターパスワードを登録／削除／変更します。

「Mode」が「Master + User」の場合のみ表示されます。

参照▶ HDDパスワードの設定方法「本章 **1** - **4** HDDパスワード」

- ・ Not Registered (標準値) ...HDDマスターパスワードが登録されていないときに表示される
- ・ Registered.....HDDマスターパスワードが登録されているときに表示される

■ Secure Boot

Secure Boot 機能を設定します。

「Advanced」メニューの「System Configuration」で、「Boot Mode」を「UEFI Boot」に設定した場合のみ表示されます。

- ・ DisabledSecure Boot 機能を無効にする
- ・ Enabled (標準値).....Secure Boot 機能を有効にする

● Clear Secure Boot keys

スーパーバイザーパスワードを登録すると、設定できるようになります。また、「Secure Boot」を「Disabled」に設定した場合のみ設定できます。

Secure Boot 機能に関するキー情報を削除し、Secure Boot 機能をセットアップモードにします。



- 「Boot Mode」を「CSM Boot」または「UEFI Boot (Legacy)」に設定している場合、「Secure Boot」は表示されません。
- 「Boot Mode」を「UEFI Boot」に設定している場合、「Secure Boot」を「Enabled」に設定すると、「Boot Mode」を変更できなくなります。
- 「Secure Boot」を「Enabled」に設定している場合、「Clear Secure Boot keys」は設定できません。

■ TPM

● Clear TPM Owner

* TPM搭載モデルのみ表示されます。

所有者登録とユーザー登録を削除します。

本製品を廃棄するときや、譲渡などにより使用者（管理者）を変更するというように、TPMの使用を中止する場合に行ってください。

①「Clear TPM Owner」をタップして選択後、再度タップする

お願い 操作にあたって

- 所有者登録とユーザー登録を削除すると、TPMに関するセキュリティ機能が使用できなくなります。このため、管理者の権限を持たないユーザーが「TPM」を操作できないように設定することをおすすめします。

参照 管理者以外のユーザーの制限について

「本章 **1** - **2** - **1** 東芝パスワードユーティリティでの設定」

- 所有者登録とユーザー登録を削除したあとに、TPMの使用を再開する場合は、もう一度TPMへ所有者登録やユーザー登録を行う必要があります。

● Hide TPM

* TPM搭載モデルのみ表示されます。

TPMの表示をシステム上で確認できないようにするときに使用します。

- ・ No（標準値）.....TPMをシステム上で確認できるようにする
- ・ Yes.....TPMをシステム上で確認できないようにする

8 章

システム環境を設定する

■ BIOS Access Rights

スーパーバイザーパスワードを登録すると、設定できるようになります。

スーパーバイザーパスワードを知らないユーザーに対し、BIOS セットアップの設定の変更を制限することができます。

- ・ Full.....BIOS セットアップのすべての設定を変更できる
- ・ Restricted（標準値）.....変更できる設定が制限される
- ・ Read Only.....設定の表示のみで、変更はできない

■ Boot Menu

スーパーバイザーパスワードを登録すると、設定できるようになります。

スーパーバイザーパスワードを知らないユーザーに対し、音量大 (+) ボタンを使ったドライブの起動を制限することができます。

参照 ▶ 「本章 2 起動ドライブの変更」

- ・ Disabled (標準値) 無効にする
- ・ Enabled 有効にする

■ USB Provisioning of AMT

* AMT 搭載モデルのみ表示されます。

スーパーバイザーパスワードを登録すると、設定できるようになります。

USB Provisioning 機能を設定します。

- ・ Disabled (標準値) 無効にする
- ・ Enabled 有効にする

■ Device Access Control / Device Boot Control

スーパーバイザーパスワードを登録すると、設定できるようになります。

スーパーバイザーパスワードを知らないユーザーに対し、デバイスの使用やデバイスからの起動を制限することができます。

タップして選択後、再度タップすると、画面が切り替わります。元の画面に戻るには [Previous Page] をタップします。

設定後は本製品の電源を切る必要があります。また、設定後にスーパーバイザー認証が必要になることがあります。

「東芝デバイスアクセスコントロール」でデバイスの使用やデバイスからの起動の制限を設定している場合、設定を変更するときも「東芝デバイスアクセスコントロール」で行ってください。

【Device Access Control】画面

デバイスごとに、使用制限を設定します。

- ・ Enabled (標準値) デバイスを使用可能にする
- ・ Disabled デバイスを使用禁止にする

【Device Boot Control】画面

デバイスごとに、デバイスからの起動制限を設定します。

すべてのデバイスからの起動を禁止にすることはできません。また、「Device Access Control」で「Disabled」に設定しているデバイスからの起動を可能にすることはできません。

- ・ Enabled (標準値) デバイスからの起動を可能にする
- ・ Disabled デバイスからの起動を禁止にする

3 PowerManagement

■ Wake-up on LAN

電源OFF状態からのLANによるWake-up機能を設定します。




ネットワークで接続された管理者の本製品からの呼び出しにより、自動的に電源を入れます。

Wake-up on LAN機能を使用する場合は、必ず電源コードとACアダプターを接続してください。電源を切っている状態でも、バッテリーを使っていないときの充電保持時間が『****（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』の表記よりも短くなります。

- ・ Enabled有効にする
- ・ Disabled（標準値）無効にする

スリープ状態、および休止状態からのWake-up on LAN機能を有効にするためには、「デバイスマネージャー」の[ネットワークアダプター]でネットワークアダプター名をダブルタップし、表示されたプロパティ画面の[電源の管理]タブで[このデバイスで、コンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする]および[Magic Packetでのみ、コンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする]の項目にチェックをつける必要があります。

正常に機能しない場合は、次のように設定を変更してください。

- ① [スタート] ボタン () をタップする
- ② [すべてのアプリ] → [Windows システムツール] → [コントロールパネル] をタップする
- ③ [ システムとセキュリティ] → [ 電源ボタンの動作の変更] をタップする
- ④ [現在利用可能ではない設定を変更します] をタップする
- ⑤ [高速スタートアップを有効にする (推奨)] のチェックをはずす
- ⑥ [変更の保存] ボタンをタップする

■ Wake-up on LAN on Battery

バッテリー駆動の際のWake-up on LAN機能を設定します。

- ・ Enabledバッテリー駆動の際にWake-up on LAN機能を有効にする
- ・ Disabled（標準値）バッテリー駆動の際にWake-up on LAN機能を無効にする

■ Wake on Keyboard

キーボードによるWake-up機能を設定します。



- ・ Enabled有効にする
- ・ Disabled（標準値）無効にする

■ Critical Battery Wake-up

「Critical Battery Wake-up 機能」を設定します。「Critical Battery Wake-up 機能」とは、スリープ状態の間にバッテリーの残量が少なくなった場合、自動的に休止状態になり、データを SSD に保存します。

- ・ Enabled (標準値).....Critical Battery Wake-up 機能を有効にする
- ・ DisabledCritical Battery Wake-up 機能を無効にする

「Critical Battery Wake-up 機能」を有効にするには、Windows 上でも設定が必要です。次の操作を行って、設定してください。

- ① [スタート] ボタン () をタップする
- ② [すべてのアプリ] → [Windows システムツール] → [コントロールパネル] をタップする
- ③ [ システムとセキュリティ] → [電源オプション] をタップする
- ④ 利用するプランを選択し、[プラン設定の変更] をタップする
- ⑤ [詳細な電源設定の変更] をタップする
- ⑥ [電源オプション] 画面の [詳細設定] タブで、[バッテリー] をダブルタップする
- ⑦ [バッテリー切れの動作] をダブルタップし、表示された項目で「バッテリー駆動」を [休止状態] に設定する
- ⑧ [OK] ボタンをタップする

■ Panel Open - Power On

* キーボードドックを接続している場合、有効になります。

パネルオープンパワーオン機能を設定します。

ディスプレイを開くと自動的に本製品の電源が入るようになります。

- ・ Enabled有効にする
- ・ Disabled (標準値)無効にする

■ Power on by AC

本製品の電源を切っているときに、本製品に電源コードと AC アダプターを接続して電源コードの電源プラグをコンセントに差し込むと、システムが自動的に起動できるように設定します。

- ・ Enabled有効にする
- ・ Disabled (標準値)無効にする

■ Dynamic CPU Frequency Mode

- ・ Dynamic Switch (標準値)...CPU の消費電力・周波数自動切り替え機能を有効にし、使用状況に応じて CPU 周波数を自動的に切り替える
- ・ Always LowCPU の消費電力・周波数自動切り替え機能を無効にし、CPU 周波数を低い周波数にして本製品のバッテリー駆動時間を優先する

■ Core Multi-Processing

CPU の動作モードを設定します。

- ・ Enabled (標準値).....Dual Core モードに設定する
- ・ DisabledSingle Core モードに設定する

■ Intel Turbo Boost Technology

* 対応しているCPUのみで表示されます。

インテル® ターボ・ブーストを設定します。

- ・ Enabled (標準値).....有効にする
- ・ Disabled無効にする

■ Intel Display Power Management

* 対応しているCPUのみで表示されます。

Intel® Display Power Management を設定します。

- ・ Enabled (標準値).....有効にする
- ・ Disabled無効にする

■ SATA Interface setting

SATA デバイスの性能とバッテリー駆動時間の優先度を設定します。

- ・ Performance (標準値).....SATA デバイスの性能を優先する
- ・ Battery life.....バッテリー駆動時間を優先する

■ Keyboard Backlight Control Mode

* キーボードドックを接続している場合、有効になります。

キーボードバックライトの設定をします。

- ・ TIMER (標準値).....キーボードのキーを押してから、キーボードバックライトが一定時間点灯するように設定します。
- ・ ONキーボードバックライトをオンにします。
- ・ OFF.....キーボードバックライトをオフにします。

■ Backlight Lighting Time

* キーボードドックを接続している場合、有効になります。

キーボードのキーを押してから、キーボードバックライトが点灯する秒数 (1~60) を設定します。初期設定は、「15」です。

秒数の設定は [<] [>] をタップして行います。

■ BIOS Power Management

OS以外の省電力機能を設定します。タップして選択後、再度タップすると、画面が切り替わります。元の画面に戻るには [Previous Page] をタップします。

【BIOS Power Management 画面】

■ Battery Save Mode

バッテリーセーブモードを設定します。

「Battery Save Mode」の設定項目は次のように表示されます。

	Full Power	Low Power	User Setting
Processing Speed	High	Low	項目ごとに設定を変更できます。
CPU Sleep Mode	Enabled	Enabled	
Cooling Method	High Performance	Power Saver	

「Battery Save Mode」の項目について説明します。

● Processing Speed

処理速度を設定します。使用するアプリケーションソフトによっては設定を変更する必要があります。

- ・ High.....処理速度を高速に設定する
- ・ Low.....処理速度を低速に設定する

● CPU Sleep Mode

CPUが処理待ち状態のとき、電力消費を低減します。

一部のアプリケーションソフトでは「Enabled」に設定すると処理速度が遅くなることがあります。その場合は「Disabled」に設定してください。

- ・ Enabled.....電力消費を低減する
- ・ Disabled.....電力消費を低減しない

● Cooling Method (熱制御方式)

本製品の熱をおさえる方法を設定します。本製品が高熱を帯びると故障の原因になります。

- ・ High Performance.....本製品の処理能力を優先する
消費電力が増えた場合や、ファンを搭載している場合は積極的にファンを使用します。
- ・ Balanced.....本製品の処理能力と省電力のバランスをとる
- ・ Power Saver.....省電力を優先する
この場合、本製品の処理能力は低下します。

4 Advanced

■ Virtualization Technology

インテル® バーチャライゼーション・テクノロジーを設定します。

- ・ Disabled 使用しない
- ・ VT-x & VT-d (標準値) VT-x & VT-d 機能を有効にする
- ・ VT-x Only VT-x を有効にする
- ・ VT-d Only VT-d 機能を有効にする
(CPUによっては表示されない項目があります)

■ Trusted Execution Technology

* Trusted Execution Technology 対応 CPU 搭載モデルのみ表示されます。

Trusted Execution Technology を設定します。

Trusted Execution Technology とは、Virtualization Technology を使って TPM と連携させるセキュリティ技術です。

- ・ Enabled Trusted Execution Technology を許可に設定する
- ・ Disabled (標準値) Trusted Execution Technology を禁止に設定する

Trusted Execution Technology を許可に設定する場合、事前に「Advanced」メニューの「Virtualization Technology」を「VT-x & VT-d」に設定し、「Security」メニューの「TPM」を「Enabled」に設定し、「PowerManagement」メニューの「Core Multi-Processing」を「Enabled」に設定してください。

■ SW Guard Extensions (SGX)

インテル® ソフトウェア ガード エクステンションズ機能 (以下 SGX) を設定します。

- ・ Disabled 使用しない
- ・ Enabled 使用する
- ・ Software Controlled (標準値) SGX を使用するソフトウェアから設定する

■ Select Owner EPOCH input type

SGX で使用するキー情報を設定します。

- ・ No Change in Owner EPOCHs (標準値) キー情報を変更しない
- ・ Change to New Random Owner EPOCHs キー情報を自動生成で変更する
- ・ Manual User Defined Owner EPOCHs キー情報を手動で変更する*¹

* 1 「Manual User Defined Owner EPOCHs」を選択した場合、表示される「Software Guard Extensions Epoch 0」、「Software Guard Extensions Epoch 1」からキー情報を入力してください。

■ Beep Sound

Windows OS 以外でのビーブ音を設定します。

OFF、Low、Medium (標準値)、High のいずれかを選択できます。

■ Sleep and Charge

USB の常時給電を設定します。

- ・ Disabled (標準値) 使用しない
- ・ Auto Mode USB の常時給電を有効にし、Auto Mode で使用する
- ・ Alternate Mode USB の常時給電を有効にし、Alternate Mode で使用する

■ System ON CDP Charge Mode

⚡ アイコンが付いているUSBコネクタへ電源ON状態のときにUSBバスパワー（DC5V）を最大1.5Aまで供給します。

- ・ Enabled（標準値）.....有効にする
- ・ Disabled無効にする

■ USB Power in Off State

電源OFF、スリープ、休止状態でも、USBコネクタにUSBバスパワー（DC5V）を供給します。

- ・ Enabled有効にする
- ・ Disabled（標準値）無効にする

■ USB Legacy Emulation

USBキーボード、マウスなどのレガシーサポートを設定します。

USBレガシーをサポートをすると、ドライバーなしでUSBキーボード/USBマウスなどが使用できます。

- ・ Cold Boot only（標準値）.....通常の電源オン時のみレガシーサポートを行う
- ・ Always高速スタートアップ時を含め、常にレガシーサポートを行う

■ Change Boot Order

タップして選択後、再度タップすると、画面が切り替わります。

【Boot Priority Options画面】

システムを起動するディスクドライブの順番を [Move Up] ボタンまたは [Move Down] ボタンをタップして設定します。設定終了後に [OK] ボタンをタップしてください。

通常は次の順番（標準値）に設定してください。

- 1 Windows Boot Manager
- 2 HDD/SSD
- 3 USB Memory
- 4 USB ODD
- 5 FDD
- 6 LAN1
- 7 LAN2

■ System Configuration

タップして選択後、再度タップすると、画面が切り替わります。元の画面に戻るには [Previous Page] をタップします。

【System Configuration 画面】

■ Built-in LAN

LAN コネクタを設定します。

- ・ Enabled (標準値).....使用する
- ・ Disabled使用しない

■ Wireless LAN

* 無線LAN機能搭載モデルのみ表示されます。

無線LANを設定します。

- ・ Enabled (標準値).....使用する
- ・ Disabled使用しない*¹

* 1 「Disabled」を設定した場合、Windows上での無線通信機能のON/OFF設定はできなくなります。

■ Bluetooth

* Bluetooth[®]機能搭載モデルのみ表示されます。

Bluetooth[®]を設定します。

- ・ Enabled (標準値).....使用する
- ・ Disabled使用しない*¹

* 1 「Disabled」を設定した場合、Windows上での無線通信機能のON/OFF設定はできなくなります。

■ Web Camera

* Webカメラ搭載モデルのみ表示されます。

Webカメラを設定します。

- ・ Enabled (標準値).....使用する
- ・ Disabled使用しない

■ SD Host Controller

SDカードスロットを設定します。

- ・ Enabled (標準値).....使用する
- ・ Disabled使用しない

■ Memory Performance Mode

メモリの使用方法を設定します。

- ・ Enabled (標準値).....バッテリー駆動時間よりシステム処理能力を優先させる
- ・ Disabledシステム処理能力よりバッテリー駆動時間を優先させる

■ Boot Mode

Boot Mode を設定します。

- ・ UEFI Boot.....Windows 10/Windows 8.1 向けの起動モード
- ・ UEFI Boot (Legacy)UEFI 対応でインストールされた Windows 7 (64bit) 向けの起動モード
- ・ CSM BootCSM Boot でインストールされた Windows 7 (32bit/64bit) や UEFI Boot に対応していない OS で使用する起動モード



- 「Boot Mode」を「UEFI Boot」に設定している場合、「Security」メニューの「Secure Boot」を「Enabled」に設定すると、「Boot Mode」を変更できなくなります。

■ Power On Display

起動時の Windows ロゴを表示する表示装置を設定します。

- ・ Auto-Selected (標準値).....本体ディスプレイを閉じているときは、接続しているテレビまたは外部ディスプレイを自動的に検出し、テレビまたは外部ディスプレイにのみ画面を表示する
- ・ System LCD only本体ディスプレイにのみ表示する
- ・ Ext.Monitor (System Built-in)タブレットで接続しているテレビまたは外部ディスプレイにのみ画面を表示する
- ・ Ext.Monitor (Dock)キーボードドックで接続しているテレビまたは外部ディスプレイにのみ画面を表示する

■ Boot Up NumLock Status

外付け USB キーボードなどを使用している場合、起動時のテンキーの入力状態を設定します。

- ・ ON (標準値).....テンキーを Numeric Mode (ニューメリックモード) で起動し、テンキーの数字などの文字を入力できる状態にする (数字ロックモード)
- ・ OFF.....テンキーを Arrow Mode (アローモード) で起動し、テンキーをカーソル制御キーとして使用できる状態にする (アローモード)

起動後は、OS の設定に従って入力状態が設定されます。

また、外付け USB キーボードの **NUM LOCK** キーを押すことで、Numeric Mode と Arrow Mode を切り替えます。



- 本設定は、外付け USB キーボードにも反映されます。ただし、すべての外付け USB キーボードに対する動作を保証するものではありません。

■ Diagnostic

タップして選択後、再度タップすると、画面が切り替わります。
BIOS セットアップには戻れません。

【TOSHIBA Diagnostic 画面】

HDD/SSD Test

■ Start HDD/SSD Test

SSDのチェックを行います。

■ HDD/SSD Test Mode

SSDのチェック方法を選択します。

- ・ Simple Mode簡易的なチェックを行う
- ・ Full Mode.....標準的なチェックを行う
データ容量の大きさによっては数時間かかることがあります。

Memory Test

■ Start Memory Test

メモリのチェックを行います。

Exit

■ Exit TOSHIBA Diagnostic

Diagnosticを終了します。

5 Exit

■ Exit Saving Changes

変更を保存してBIOSセットアップを終了します。

■ Exit Discarding Changes

変更を保存しないでBIOSセットアップを終了します。

各種パスワード、TPM、「Main」メニューの「System Time」と「System Date」の各設定については、変更前の状態に戻りません。

■ Load Setup Defaults

すべての設定項目を標準値にします。

各種パスワードなど一部の設定については、標準値に戻りません。

■ Save Changes and Power Off

変更を保存して本製品の電源を切ります。

* TPM搭載モデルのみ

1 TPMとは

TPMは、TCG (Trusted Computing Group) が策定した仕様により、データの盗難を防止することができます。

一般的に、電子データの保護は暗号処理方式 (暗号アルゴリズム) によるものなので、SSD、メモリなどに保存されている暗号鍵が、暗号解読の攻撃対象になる可能性があります。

TPMではこれらの暗号鍵を、メイン基板に保存するので、より安全にデータが保護されます。また、TPMは公開されている標準化された仕様のため、それに対応したセキュリティソリューションを使用することにより、より強固なPC環境を構築できます。

お願い TPMの操作にあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照▶ 詳細について「付録 **5** - **15** TPMについて」

6

Windows サインインを補助する

1 ペンで簡単にサインインする – 東芝サインログオン –

* 東芝サインログオン搭載モデルのみ

「東芝サインログオン」は、デジタイザーペンを使って簡単にWindowsにサインインするためのアプリケーションです。

「東芝サインログオン」を使用した場合、次の方法でWindowsにサインインできるようになります。

- デジタイザーペンでアクセスコードを手書きしてサインインする
- デジタイザーペンで画面にタッチしてサインインする（*対応モデルのみ）

お願い 東芝サインログオンについて

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照▶ 「付録 5 - 16 東芝サインログオンについて」

1 デジタイザーペンでアクセスコードを手書きしてサインインする場合

アクセスコードは、あらかじめ登録しておく必要があります。

メモ

- アクセスコードは、手書きする文字や記号の形状、デジタイザーペンで手書きするときの速度、筆圧、および文字や記号の間隔などで登録します。
- アクセスコードを登録するときは、画面の指示に従ってください。
- アクセスコードを適切に登録するには、同じコードを何回か手書きする必要があります。
- 単純な形状のアクセスコードや、第三者が想像しやすいアクセスコードを登録すると、不正にサインインされる可能性があります。
より安全にご利用いただくために、登録するアクセスコードには複数の文字を使用して、第三者に想像されにくい形状で登録してください。

2 デジタイザーペンで画面にタッチしてサインインする場合

* 対応モデルのみ

デジタイザーペンを認証する設定を有効にする必要があります。

また、デジタイザーペンで画面にタッチしてサインインする場合でも、事前にアクセスコードの登録が必要です。

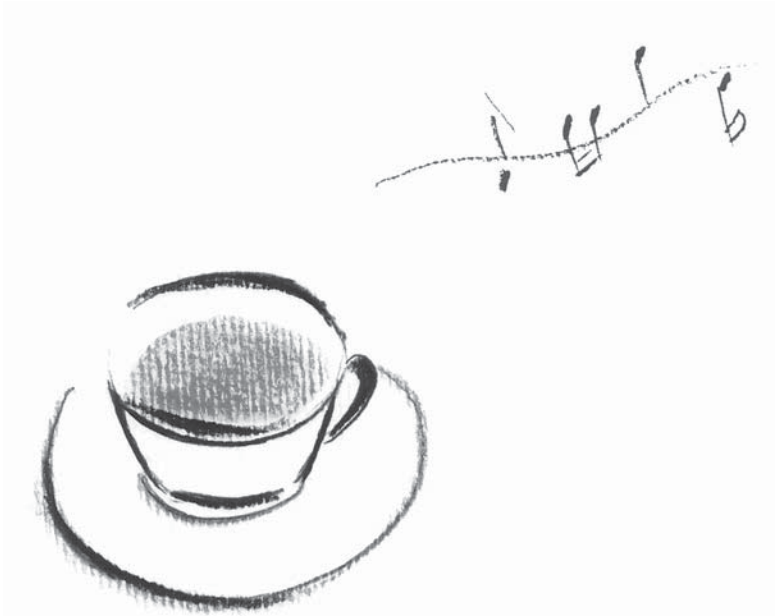
お願い

- デジタイザーペンで画面にタッチしてサインインする場合、デジタイザーペンを第三者に使用されないよう、取り扱いに十分注意してください。
- セキュリティをより重視する場合は、デジタイザーペンでアクセスコードを手書きしてサインイン、または、「東芝サインログオン」を使用せずにWindowsパスワードを入力してサインインすることをおすすめします。

3 起動方法

1 [スタート] ボタン () をタップする

2 [すべてのアプリ] → [TOSHIBA] → [東芝サインログオン] または [サインログオン] をタップする



9章

■ 本製品の動作がおかしいときは

本製品の操作をされていて困ったときに、どうしたら良いかを説明しています。

トラブルが起こったときは、あわてずに、この章を読んで、解消方法を探してみてください。

1

トラブルを解消するまでの流れ

本製品のトラブルについて、解決方法を見つけていきましょう。

1 トラブルの原因をつき止めよう

本製品に起こるトラブルは、その原因がどこにあるかによって解決策が異なります。そのため、本製品の構造をある程度知っておく必要があります。ここでは、本製品の構成とトラブル対処法を紹介します。

■ 本製品を構成する3つの部分



● アプリケーションソフトウェアとは

メールやインターネットは、アプリケーションソフトウェアの機能です。Word（文書作成ソフト）や Excel（表計算ソフト）、ウイルスチェックソフトもアプリケーションソフトウェアの代表的なものです。それぞれ製造元が異なります。

● システム、ドライバーとは

システムは、オペレーティングシステム、OSオーエスともいい、本製品を動かすための基本的な働きをします。本製品のシステムはWindows 10です。

ドライバーは、周辺機器とシステムを連携する役割をします。ドライバーがないと、周辺機器は使用できません。代表的なドライバーに、ディスプレイドライバーやサウンドドライバーなどがあります。基本的なドライバーはシステムが標準装備していますが、周辺機器製品に専用のドライバーが付属している場合もあります。

● ハードウェアとは

バッテリー、ACアダプター、ディスプレイ、SSD、CPUなどの、本体や接続する機器を指します。

本製品はこれらの高度な技術の集合体です。トラブルの原因がそれぞれの製造元にしかかわからない場合も多くあります。トラブルの症状に合わせた対処をすることが解決への早道です。トラブルの解決には、最初に原因の切り分けを行います。一般的にはアプリケーションソフトウェア→システム（OS）、ドライバー→ハードウェア（本体）の順にチェックします。

2 トラブル対処法

トラブルが発生したときの解決手順を紹介します。

STEP1 『取扱説明書』や本書の「Q&A集」から探す

『取扱説明書』や本書の「Q&A集」では、トラブルが発生した場合の解決方法を説明しています。


参照▶「本章 3 Q&A集」


STEP2 「Q&A集」以外から探す

- 『オンラインマニュアル』で検索してみる

トラブルの解決方法を「Q&A集」から探せないときは『オンラインマニュアル』でキーワード検索してみるのも一つの方法です。

 - 『オンラインマニュアル』の検索方法

[スタート] ボタン () → [すべてのアプリ] → [オンラインマニュアル] をタップして起動します。


ツールバーの  → [ページ内の検索] をタップしてください。


検索ウィンドウが表示されます。
- 「おたすけナビ」で探してみる

*「おたすけナビ」搭載モデルのみ

「おたすけナビ」を使うと、本製品に用意されているアプリケーションの中から、目的にあったアプリケーションを探し出すことができます。また、アプリケーションのヘルプやマニュアルを表示することもできます。

「おたすけナビ」の詳細は、「おたすけナビ」のヘルプをご覧ください。

 - 「おたすけナビ」の起動方法
 - ① [スタート] ボタン () をタップする
 - ② [すべてのアプリ] → [東芝おたすけナビ] をタップする
 - 「おたすけナビ」のヘルプの起動方法

「おたすけナビ」画面で  をタップします。

STEP3 サポートのサイトで調べる

インターネットに接続している場合は、次のサポートサイトをご覧ください。

- **東芝PC総合情報サイト「dynabook.com」** (<http://dynabook.com/>)
「dynabook.com」では、お問い合わせの多い質問や最新のQ&Aが掲載されています。

- **「あなたのdynabook.com」**

*「あなたのdynabook.com」対象モデルのみ

「dynabook.com」の「サポート情報」にある「あなたのdynabook.com」には、ご利用の製品の「よくあるご質問 FAQ」、デバイスドライバーや修正モジュールのダウンロード、ウイルス・セキュリティ情報などが掲載されています。ご利用の製品に関する情報だけが表示されるので、目的の情報を簡単に探すことができます。

また、サポート窓口や修理についても案内しています。

サポートサイトの説明を読んでもトラブルが解決しない場合は、お問い合わせ専用フォームから質問メールを出すこともできます。

STEP4 それでもトラブルが解決しない場合は問い合わせる

- **本体のトラブルの場合**

東芝PCあんしんサポートにご連絡ください。

- **OSやアプリケーションのトラブルの場合**

本製品に用意されているOS、アプリケーションのトラブルの場合は、各アプリケーションのサポート窓口にお問い合わせください。

参照▶ OSやアプリケーションのお問い合わせ先「付録 1 お問い合わせ先」

- **周辺機器のトラブルの場合**

各周辺機器のサポート窓口にお問い合わせください。

参照▶ 周辺機器のお問い合わせ先『周辺機器に付属している説明書』

2

「詳細オプション」で調べる

「詳細オプション」とは、Windowsが正常に起動しなくなった場合に、問題を解決して起動できるようにするメニューが集まったものです。「システムの復元」機能もあります。

1 起動方法

1 [スタート] ボタン () をタップする

2 [設定] をタップする

3 [更新とセキュリティ] → [回復] をタップする

4 [PCの起動をカスタマイズする] の [今すぐ再起動する] をタップする

[オプションの選択] 画面が表示されます。

5 [トラブルシューティング] をタップする

[トラブルシューティング] 画面が表示されます。

6 [詳細オプション] をタップする

[詳細オプション] 画面が表示されます。

7 使いたいメニュー名をタップする

この後の操作は、メニューによって異なります。表示された画面の指示に従って操作してください。

9章

本製品の動作がおかしいときは

ここに掲載しているQ&A集のほかに、『取扱説明書』にもQ&A集があります。
目的の項目が見つからないときは、『取扱説明書』も参照してください。

1	電源	227
	Q 不定期に勝手に電源が入ることがある.....	227
2	画面/表示	228
	Q しばらく放置したら、画面が真っ暗になった.....	228
	Q テレビまたは外部ディスプレイを接続した状態で、 本製品をスリープや休止状態から復帰したとき、 本体ディスプレイに何も表示されない.....	228
	Q テレビまたは外部ディスプレイを取りはずしたときに、 画面が表示されなくなった.....	228
	Q 画面が薄暗く、よく見えない.....	229
	Q 本体ディスプレイを閉じると、電源が切れる、 またはスリープ/休止状態になる.....	230
	Q 画面表示が回転してしまった.....	231
3	システム/SSD	231
	Q 内蔵時計が合っていない.....	231
	Q しばらく本製品を使用しないでいたら、時計と日付が変更されてしまった.....	232
	Q Windowsがセーフモードで起動した.....	232
	Q 再起動や電源を入れ直しても、トラブルが解消しない.....	232
4	キーボード	233
	Q ポインターが輪の形をしている間にキーを押しても反応がない.....	233
	Q キーボードに飲み物をこぼしてしまった.....	233
	Q キーボードから文字を入力しているときにカーソルがとんでしまう.....	233
	Q キーボードで入力できない文字がある（バックslashなど）.....	233
	Q 日本語の入力ができない.....	234
	Q キーボードで入力モードを切り替えたい.....	234
	Q 記号や特殊な文字を入力したい.....	234
	Q キーを押しても刻印された文字と異なる文字が入力される.....	235
	Q キーの反応スピードを変更したい.....	236
	Q ファンクションキーの使いかたは？.....	236

5	タッチパネル	237
	Q ダブルタップがうまくいかないのに、速度を変更したい.....	237
	Q 電源を入れたあと、タッチパネルが反応しない.....	237
	Q 画面にタッチしても反応しない.....	237
6	タッチパッド	238
	Q タッチパッドをタップしても反応がない.....	238
	Q ダブルタップがうまくいかないのに、速度を変更したい.....	238
	Q ポインターの速度を調節したい.....	239
7	サウンド	239
	Q スピーカーから音が聞こえない.....	239
	Q スピーカーの音量を調整したい.....	241
8	インターネット接続	241
	Q インターネットに接続できない.....	241
	Q 「接続ができませんでした」、 「このドメインにアクセスできませんでした」、 「サーバーは要求したアドレスを拒否しました」と表示された.....	241
9	インターネット閲覧	242
	Q Microsoft Edgeで「ネットワークに接続していません」 と表示された.....	242
	Q Internet Explorerで「ネットワークに接続されていません」 と表示された.....	242
	Q 「このWebページはスクリプトやActiveX コントロールを 実行しないように制限されています」という内容の [情報バー] 画面が表示された.....	242
	Q Internet Explorerでページを開くと文字化けして見られない.....	242
10	通信機能	243
	Q LANに接続できない.....	243
	Q 無線LANに接続したい.....	243
	Q 無線LANに接続できない.....	244
	Q MACアドレスを確認したい.....	244

11 microSD メモリカード.....245

- Q microSD メモリカードが使えない.....245
- Q microSD メモリカードに書き込み（データの保存）ができない.....245
- Q microSD メモリカードをセットしても自動的に起動しない.....246
- Q microSD メモリカードに保存している曲を再生できない.....246
- Q microSD メモリカードで読み込みエラー、
または書き込みエラーが発生した.....246

12 USB 対応機器246

- Q USB 対応機器が使えない.....246
- Q 休止状態から復帰後、USB 対応機器が正常に動作しない.....247

13 TPM248

- Q TPM を使用している本製品を、修理・保守に出したい.....248

14 メッセージ248

- Q パスワード（Password）の入力をうながすメッセージが
表示された.....248

15 その他.....249

- Q キーボードドックまたは外付けUSBキーボード（市販品）を
接続しておらず、キーボードが使用できないときに、
[CTRL] + [ALT] + [DEL] キーを押したい.....249
- Q キーボードドックのキーボードやタッチパッド、
アキュポイントに触っても反応がない.....249
- Q SSD から本製品を初期状態に戻せなくなったときは.....249
- Q 異常なおいや過熱に気づいた！.....250
- Q 操作できない原因がどうしてもわからない.....250
- Q 本製品の近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい.....250
- Q 引っ越したときの手続きは？.....251
- Q 海外で本製品を使いたいときは？.....252

1 電源

Q 不定期に勝手に電源が入ることがある

A▶ パネルオープンパワーオン機能が設定されている可能性があります。

* パネルオープンパワーオン機能搭載モデルのみ


* キーボードドック付属モデルで、キーボードドックを接続している場合のみ

ディスプレイを閉じると、あらかじめ設定した状態（スリープ状態／休止状態／シャットダウン）へ移行する機能をパネルスイッチ機能といいます。

スリープ状態／休止状態から、ディスプレイを開いたり、電源スイッチを押すと、自動的にディスプレイを閉じる前の状態が再現されます。

パネルオープンパワーオン機能が有効な場合、シャットダウン状態から、ディスプレイを開くと、自動的に電源が入ります。

次の手順で、パネルスイッチ機能の設定を解除できます。

- ① [スタート] ボタン () をタップする
- ② [すべてのアプリ] → [Windows システムツール] → [コントロールパネル] をタップする
- ③ [システムとセキュリティ] をタップする
- ④ [電源オプション] をタップする
- ⑤ 画面左側で [カバーを閉じたときの動作の選択] をタップする
- ⑥ [カバーを閉じたときの動作] で [何もしない] を選択する
[バッテリー駆動] と [電源に接続] にそれぞれ設定してください。
- ⑦ [変更の保存] ボタンをタップする

9 章

本製品の動作がおかしいときは

2 画面／表示

Q しばらく放置したら、画面が真っ暗になった

A▶ 省電力機能が働いた可能性があります。

しばらく操作しないと、画面に表示される内容が見えなくなる場合があります。これは省電力機能が動作したためで、故障ではありません。実際には電源が入っていますので電源スイッチを押さないでください。

画面にタッチすると表示が復帰します。

テレビまたは外部ディスプレイを接続している場合、表示が復帰するまでに10秒前後かかることがあります。

Q テレビまたは外部ディスプレイを接続した状態で、本製品をスリープや休止状態から復帰したとき、本体ディスプレイに何も表示されない

A▶ テレビまたは外部ディスプレイに、画面表示が切り替わっている可能性があります。

テレビまたは外部ディスプレイの電源を入れて確認してください。本製品の画面が表示されていた場合は、本体ディスプレイに表示を切り替えてください。

参照▶ 詳細について「4章 3 - 2 HDMI[®]ケーブルで接続時に表示を切り替える」

Q テレビまたは外部ディスプレイを取りはずしたときに、画面が表示されなくなった

A▶ テレビまたは外部ディスプレイを接続してください。


テレビまたは外部ディスプレイをメインディスプレイに指定して拡張表示の設定をした場合、スリープや休止状態のときにテレビまたは外部ディスプレイを取りはずすと、スリープや休止状態から復帰したときに画面が表示されないことがあります。

テレビまたは外部ディスプレイの取りはずしは、スリープや休止状態のときに行わないでください。

Q 画面が薄暗く、よく見えない

A▶ 本体ディスプレイ（画面）を明るくしてください。

次の手順で本体ディスプレイの輝度を調整することができます。*1

- ① [スタート] アイコン () をタップする
- ② [設定] をタップする
- ③ [システム] → [ディスプレイ] をタップする
- ④ [明るさレベルの調整] のスライダーバーで輝度を調整する

画面の輝度を確認しながら、つまみを左右にドラッグして調整してください。


*1 この設定は、テレビと外部ディスプレイには反映されません。

A▶ 本体ディスプレイの輝度が低く設定されている可能性があります。

「電源オプション」には、本体ディスプレイの輝度を落として消費電力を節約する機能があります。この機能で画面の明るさレベルを下げると、画面が暗くなります。

詳しくは、「電源オプション」のヘルプを参照してください。

次の手順で設定を変更してください。*1

- ① [スタート] ボタン () をタップする
 - ② [すべてのアプリ] → [Windows システムツール] → [コントロールパネル] をタップする
 - ③ [システムとセキュリティ] → [電源オプション] をタップする
 - ④ [プラン設定の変更] をタップする
 - ⑤ [プランの明るさを調整] を設定する
- [バッテリー駆動] と [電源に接続] をそれぞれ設定してください。
- ⑥ [変更の保存] ボタンをタップする

*1 この設定は、テレビと外部ディスプレイには反映されません。

A▶ キーボードドックを接続している場合は、**FN** + **F7** キーを押して、本体ディスプレイ（画面）を明るくしてください*1。

* キーボードドック付属モデルのみ


FN + **F6** キーを押すと、逆に、本体ディスプレイは暗くなります。

*1 この設定は、テレビと外部ディスプレイには反映されません。

A➡ TOSHIBA ecoユーティリティで節電（eco）モードが【オン】に設定されている可能性があります。

*** TOSHIBA ecoユーティリティ搭載モデルのみ**

次の手順で、設定を変更してください。

- ① [スタート] ボタン () をタップする
- ② [すべてのアプリ] → [TOSHIBA] → [ecoユーティリティ] をタップする
初回起動時は、[はじめにお読みください] 画面が表示されますので、[同意する] をチェックし、[OK] ボタンをタップしてください。
[TOSHIBA eco ユーティリティ] 画面が表示されます。
- ③ [ecoモード] をタップする
- ④ 表示された画面で、[ecoモード] を [オン] から [オフ] にする
- ⑤ [閉じる] ボタンをタップする

Q

本体ディスプレイを閉じると、電源が切れる、またはスリープ／休止状態になる

*** パネルスイッチ機能搭載モデルのみ**

*** キーボードドック付属モデルで、キーボードドックを接続している場合のみ**


A➡ パネルスイッチ機能が設定されている可能性があります。

ディスプレイを閉じると、あらかじめ設定した状態（スリープ状態／休止状態／シャットダウン）へ移行するパネルスイッチ機能が有効になっている可能性があります。Power LEDが点滅（色は限定しません）している場合は、スリープ状態になっています。Power LEDが消灯している場合は、休止状態またはシャットダウン状態になっています。

スリープ状態／休止状態から、ディスプレイを開いたり、電源スイッチを押すと、自動的にディスプレイを閉じる前の状態が再現されます。

パネルオープンパワーオン機能が有効な場合、シャットダウン状態から、ディスプレイを開くと、自動的に電源が入ります。


次の手順で、パネルスイッチ機能の設定を解除できます。

- ① [スタート] ボタン () をタップする
- ② [すべてのアプリ] → [Windows システムツール] → [コントロールパネル] をタップする
- ③ [システムとセキュリティ] → [電源オプション] をタップする
- ④ 画面左側で [カバーを閉じたときの動作の選択] をタップする
- ⑤ [カバーを閉じたときの動作] で [何もしない] を選択する
[バッテリー駆動] と [電源に接続] にそれぞれ設定してください。
- ⑥ [変更の保存] ボタンをタップする

Q 画面表示が回転してしまった

A▶ 画面の設定が変更されている可能性があります。

次の手順で元に戻すことができます。

- ① [スタート] ボタン () をタップする
- ② [設定] をタップする
- ③ [システム] → [ディスプレイ] をタップする
- ④ [この画面の回転をロックする] をONにする
画面表示の向きが固定されます。
- ⑤ 画面表示の向きを縦向き (固定) / 横向き (固定) に変更する場合は、次の設定を行う
 1. [向き] で表示したい方向を選択する
 2. [適用する] ボタンをタップする
 3. [変更の維持] ボタンをタップする

A▶ タブレットを持ち上げて、表示したい方向に傾けて調節してください。

画面表示の向きが、ディスプレイの向きに合わせて自動的に回転する設定になっています。

画面表示が回転しないように設定することもできます。

参照▶ 「2章 4 - 2」画面の向きを設定する」

3 システム/SSD

Q 内蔵時計が合っていない

A▶ 次の手順で [日付と時刻の変更] 画面で修正してください。

- ① 通知領域の日付・時刻表示をタップする
- ② [日付と時刻の設定] をタップする
- ③ [日付と時刻] をタップする
- ④ [時刻を自動的に設定する] がONの場合はOFFにする
- ⑤ [日付と時刻を変更する] の [変更] をタップする
- ⑥ 日付と時刻を修正して [変更] をタップする
- ⑦ [時刻を自動的に設定する] をONに戻す

Q しばらく本製品を使用しないでいたら、時計と日付が変更されてしまった**A**▶ バッテリーの充電量が不足しています。

電源コードとACアダプターを接続して、バッテリーを充電してください。その後に、日付と時刻を設定してください。

日付と時刻の設定方法は、「本項 - Q 内蔵時計が合っていない」を参照してください。

Q Windowsがセーフモードで起動した**A**▶ 本製品を再起動してください。

参照▶ 「2章 1 - 4 再起動」

Q 再起動や電源を入れ直しても、トラブルが解消しない**A**▶ アプリケーションをインストールしてから、この問題が発生するようになった場合は、インストールしたアプリケーションがWindowsの動作に影響している可能性があります。

アプリケーションをアンインストールしてください。

参照▶ 『アプリケーションのヘルプ』

A▶ 周辺機器を接続してから、この問題が発生するようになった場合は、接続した周辺機器がWindowsの動作に影響している可能性があります。

周辺機器を取りはずしてください。周辺機器によっては、周辺機器に付属のドライバーやアプリケーションを本製品にインストールしている場合があります。これらのドライバーやアプリケーションもアンインストールしてください。


参照▶ 周辺機器の取り扱いについて『周辺機器に付属している説明書』

4 キーボード

- * キーボードドック付属モデルのみ
- * 「タッチキーボード」を除く

Q ポインターが輪の形をしている間にキーを押しても反応がない

A システムが処理中の可能性があります。

ポインターが輪の形 () をしている間は、システムが処理をしている状態のため、操作を受け付けないときがあります。システムの処理が終わるまで待ってから操作してください。

Q キーボードに飲み物をこぼしてしまった

A 飲み物など液体がこぼれて内部に入ると、感電、本体の故障、作成データの消失などのおそれがあります。

もし、液体が本製品内部に入ったときは、ただちに電源を切り、電源コードとACアダプター、キーボード*¹を取りはずして、東芝PCあんしんサポート 修理相談窓口にご相談ください。

* 1 キーボードドック付属モデルのみ

Q キーボードから文字を入力しているときにカーソルがとんでしまう

A 文字を入力しているときに誤ってタッチパッドに触れると、カーソルがとんだり、アクティブウィンドウが切り替わってしまうことがあります。

次の手順でタッチパッドを無効に切り替えてください。

■ キーボードで操作する場合


- ① **FN** + **F9** キーを押す
有効／無効が切り替わります。

■ タッチパッド オン/オフ アイコンで操作する場合

- ① タッチパッド オン/オフ アイコンをすばやく2回たたく
有効／無効が切り替わります。

Q キーボードで入力できない文字がある (バックslashなど)

A 日本語フォントでは「\」は入力できません。

 キーを押すと「¥」が表示されますが、「\」と同じ機能を持ちます。

Q 日本語の入力ができない

A▶ 日本語入力システムの入力モードが対応していない状態になっています。

[半/全] キーを押して、入力モードを切り替えてください。

参照▶ 日本語入力システム『「Microsoft IME」のヘルプ』


Q キーボードで入力モードを切り替えたい

A▶ 次のショートカットキーを利用して入力モードを変更できます。

- [SHIFT] + [CAPS LOCK 英数] キー : 大文字ロック状態
- [ALT] + [カナ/かな] キー : ローマ字入力/かな入力

Q 記号や特殊な文字を入力したい

A▶ 次の手順で文字コード表から希望の文字を探してください。

- ① [スタート] ボタン () をタップする
- ② [すべてのアプリ] → [Windows アクセサリ] → [文字コード表] をタップする
[文字コード表] 画面が表示されます。
- ③ [フォント] を選択し、[文字コード表] の使用したい文字をタップして [選択] ボタンをタップする
[コピーする文字] の欄に指定した文字が入力されます。
- ④ [コピー] ボタンをタップする
- ⑤ 文書を開いているアプリケーションのメニューから [貼り付け] をタップする
文書に手順③で指定した文字が挿入されます。挿入された文字には、手順③で選択したフォントを指定してください。


A▶ Microsoft IME には [IMEパッド] という機能があります。

この一覧から希望の文字を探することができます。

Q キーを押しても刻印された文字と異なる文字が入力される


A キーボードドライバーの設定が正しくない可能性があります。

次の手順でドライバーを再設定してください。

- ① [スタート] ボタン () をタップする
- ② [すべてのアプリ] → [Windows システムツール] → [コントロールパネル] をタップする
- ③ [ハードウェアとサウンド] をタップする
- ④ [デバイス マネージャー] をタップする
[デバイス マネージャー] 画面が表示されます。
- ⑤ [キーボード] をダブルタップする
キーボードドライバーが複数表示されている場合は、1つずつ、以降の手順を行ってください。
- ⑥ 表示されたキーボードドライバー名をダブルタップする
キーボードのプロパティ画面が表示されます。
- ⑦ [ドライバー] タブで [ドライバーの更新] ボタンをタップする
[ドライバー ソフトウェアの更新] 画面が表示されます。
- ⑧ [コンピューターを参照してドライバー ソフトウェアを検索します] をタップする
- ⑨ [コンピューター上のデバイス ドライバーの一覧から選択します] をタップする
- ⑩ [互換性のあるハードウェアを表示] のチェックをはずす
[製造元] と [モデル] の一覧が表示されます。
- ⑪ [製造元] から [(標準キーボード)] を選択する
- ⑫ 手順⑥で選択したキーボードドライバーに合わせて、[モデル] から [日本語PS/2 キーボード (106/109キー Ctrl+英数)] または [HIDキーボードデバイス] を選択する
- ⑬ [次へ] ボタンをタップする
[ドライバーの更新警告] 画面が表示された場合は、[はい] ボタンをタップしてください。
ドライバーがインストールされ、「ドライバー ソフトウェアが正常に更新されました。」という画面が表示されます。
- ⑭ [閉じる] ボタンをタップする
- ⑮ キーボードのプロパティ画面で [閉じる] ボタンをタップする
[システム設定の変更] 画面が表示され、「今コンピューターを再起動しますか？」というメッセージが表示された場合は、[はい] ボタンをタップしてください。
起動中のプログラムがある場合などは、メッセージが表示されます。メッセージの内容を確認し、[強制的に再起動] ボタンをタップしてください。

Q キーの反応スピードを変更したい

A▶ 次の手順で【キーボードのプロパティ】の設定を変更してください。

- ① [スタート] ボタン () をタップする
- ② [すべてのアプリ] → [Windows システムツール] → [コントロールパネル] をタップする
- ③ 「表示方法」の [カテゴリ▼] をタップし、[大きいアイコン] または [小さいアイコン] をタップする
- ④ [キーボード] をタップする
[キーボードのプロパティ] 画面が表示されます。
- ⑤ [速度] タブの [表示までの待ち時間] や [表示の間隔] のつまみを左右にドラッグして調節する
- ⑥ [OK] ボタンをタップする

Q ファンクションキーの使いかたは？

A▶ キーボードの上段にあるファンクションキーには便利な機能があります。ただし、割り振られている機能の多くはアプリケーションごとに違いがあります。

参照▶ 『各アプリケーションに付属している説明書』


多くのアプリケーションでは、次のように割り振られています。

- **F1** キー : ヘルプの呼び出し
- **F2** キー : ファイル名の変更
- **F3** キー : ファイルの検索
- **F5** キー : 最新の状態に更新
- **F6** キー : ひらがなに変換
- **F7** キー : 全角カタカナに変換
- **F8** キー : 半角カタカナに変換
- **F9** キー : 全角アルファベットに変換
- **F10** キー : 半角アルファベットに変換

5 タッチパネル

Q ダブルタップがうまくいかないのに、速度を変更したい

A 次の手順で、指でのダブルタップの速度を調節してください。

- ① [スタート] ボタン () をタップする
- ② [すべてのアプリ] → [Windows システムツール] → [コントロールパネル] をタップする
- ③ [ハードウェアとサウンド] → [タッチ入力設定の変更] をタップする
[ペンとタッチ] 画面が表示されます。
- ④ [タッチ] タブの [ダブルタップ] を選択し、[設定] ボタンをタップする
[ダブルタップの設定] 画面が表示されます。
- ⑤ [スピード] のスライダーバーを左右にドラッグして調整する
- ⑥ [OK] ボタンをタップする
- ⑦ [OK] ボタンをタップする


Q 電源を入れたあと、タッチパネルが反応しない

A タッチパネルに触れたまま電源を入れると、タッチパネルが一時的に反応しない場合があります。

タッチパネルに触れないで、しばらく待ってからお使いください。

Q 画面にタッチしても反応しない

A システムが処理中の可能性があります。

システム処理中は、操作を受け付けない場合があります。操作によっては、システム処理中はポインターが輪の形 () になっています。システムの処理が終わるまで待つてから操作してください。

A つめの先では操作できません。

指で操作してください。

A 手袋を着けたままでは操作できません。

手袋をはずして操作してください。

A 指が汗や水でぬれている状態では操作できません。

水分をふき取ってから操作してください。

A 画面に異物が付着している可能性があります。


保護フィルムを貼っている場合は、フィルムをはがしてください。

6 タッチパッド

*キーボードドック付属モデルのみ

Q タッチパッドをタップしても反応がない

A システムが処理中の可能性があります。

ポインターが輪の形 () をしている間は、システムが処理をしている状態のため、操作を受け付けないときがあります。システムの処理が終わるまで待ってから操作してください。

A タッチパッドのみ操作を受け付けない場合、タッチパッドが無効に設定されている可能性があります。

次の手順でタッチパッドを有効に切り替えてください。

■キーボードで操作する場合


- ① **FN** + **F9** キーを押す
有効/無効が切り替わります。

■タッチパッド オン/オフ アイコンで操作する場合

- ① タッチパッド オン/オフ アイコンをすばやく2回たたく
有効/無効が切り替わります。


Q ダブルタップがうまくいかないで、速度を変更したい

A 次の手順で、ダブルタップの速度を調節してください。

- ① [スタート] ボタン () をタップする
- ② [すべてのアプリ] → [Windows システムツール] → [コントロールパネル] をタップする
- ③ [ハードウェアとサウンド] → [マウス] をタップする
[マウスのプロパティ] 画面が表示されます。
- ④ [ボタン] タブで [ダブルクリックの速さ] または [ダブルクリックの速度] のスライダーバーを左右にドラッグして調整する
- ⑤ [OK] ボタンをタップする

Q ポインターの速度を調節したい

A▶ 次の手順でポインターの速度を変更してください。

- ① [スタート] ボタン () をタップする
- ② [すべてのアプリ] → [Windows システムツール] → [コントロールパネル] をタップする
- ③ [ハードウェアとサウンド] → [マウス] をタップする
[マウスのプロパティ] 画面が表示されます。
- ④ [ポインター オプション] タブで [速度] のスライダバーを左右にドラッグして調整する
- ⑤ [OK] ボタンをタップする

7 サウンド

Q スピーカーから音が聞こえない

A▶ ヘッドホン出力端子にヘッドホンを接続したままになっていませんか？
ヘッドホン出力端子からヘッドホンを取りはずしてください。

A▶ 本製品の音量ボタン、音量ミキサー、またはキーボードドック接続時は **FN** + **3** キー / **FN** + **4** キーで音量を調節してください。
モデルによって、音量の調整方法は異なります。





参照▶ スピーカーの音量調整「2章 **5** - **1** スピーカーの音量を調整する」

A → **スピーカーの設定が【ミュート】になっている可能性があります。**
次の手順で変更してください。


■方法1（キーボードドック付属モデルのみ）

① **FN** + **ESC** キーを押す

■方法2

- ① [スタート] ボタン () をタップする
- ② [すべてのアプリ] → [Windows システムツール] → [コントロールパネル] をタップする
- ③ [ハードウェアとサウンド] をタップする
- ④ [システム音量の調整] をタップする
[音量ミキサー] 画面が表示されます。
- ⑤ [スピーカー] の [ミュート] アイコンが  になっている場合は、タップして  にする
- ⑥ つまみを上下にドラッグして調整する
つまみを画面上部にスライドさせるとスピーカーの音量が上がります。
- ⑦ [閉じる] () ボタンをタップする

A → **標準の【優先するデバイス】が変更されている可能性があります。**
次の手順で設定を変更してください。

- ① [スタート] ボタン () をタップする
- ② [すべてのアプリ] → [Windows システムツール] → [コントロールパネル] をタップする
- ③ [ハードウェアとサウンド] をタップする
- ④ [オーディオ デバイスの管理] をタップする
[サウンド] 画面が表示されます。
- ⑤ [再生] タブで [スピーカー] をタップする
本製品のスピーカーから音を出す場合は、[スピーカー] を選択してください。
- ⑥ [既定値に設定] ボタンをタップする
- ⑦ [OK] ボタンをタップする

A → **以上の操作を行っても音量が変わらなければ、標準のサウンド用デバイスドライバが壊れているか、誤って消去された可能性があります。**
サウンド用デバイスドライバを再インストールしてください。

参照 ▶ 「7章 **15** アプリケーションを追加／削除する」

Q スピーカーの音量を調整したい

A▶ 本製品の音量ボタン、音量ミキサー、またはキーボードドック接続時は **FN** + **3** キー / **FN** + **4** キーで音量を調整してください。

モデルによって、音量の調整方法は異なります。

参照▶ スピーカーの音量調整「2章 **5** - **1** スピーカーの音量を調整する」

A▶ 音量はWindowsで制御しているため、Windows起動時や電源を切っているときは、音量を調整できません。

8 インターネット接続

Q インターネットに接続できない

A▶ 「Windows ファイアウォール」にはインターネットに接続できるアプリケーションソフトを制限する機能があります。

制限されているアプリケーションをインターネットに接続するには、設定が必要です。Windows ファイアウォールの設定方法については、タスクバーの「WebとWindowsを検索」(🔍)で、「ファイアウォール」と入力して検索してください。

参照▶ [検索] について「1章 **1** - **4** Windowsの操作でわからないことがあったら」

Q 「接続ができませんでした」、 「このドメインにアクセスできませんでした」、 「サーバーは要求したアドレスを拒否しました」と表示された

A▶ 契約しているプロバイダーにお問い合わせください。

会社などで本製品をお使いの場合にドメインにアクセスできなかったときは、システム管理者にお問い合わせください。

9 インターネット閲覧

Q Microsoft Edgeで「ネットワークに接続していません」と表示された

- A** ネットワーク接続に何らかの問題がある可能性があります。
[ネットワーク設定に移動する] ボタンをタップして、ネットワーク接続の設定を確認してください。

Q Internet Explorerで「ネットワークに接続されていません」と表示された

- A** ネットワーク接続に何らかの問題がある可能性があります。
[接続の問題を修正] ボタンをタップして、ネットワーク診断を行ってください。

Q 「このWebページはスクリプトやActiveX コントロールを実行しないように制限されています」という内容の【情報バー】画面が表示された

- A** 「Internet Explorer」を使用するアプリケーションを起動しているとき、セキュリティ保護のためブロックされていると、【情報バー】画面が表示され、画面が正常に表示されない場合があります。
この場合、アプリケーションで使用しているコンテンツがセキュリティ保護のためブロックされています。
[ブロックされているコンテンツを許可] をタップすると、ブロックされていたコンテンツが許可されます。

Q Internet Explorerでページを開くと文字化けして見られない

- A** 文字コードの設定が合っていない可能性があります。
- ① 画面上部のタブやボタンが表示されていない部分で長押しして、表示されたメニューから [メニューバー] をタップする
 - ② [表示] → [エンコード] → [日本語 (自動選択)] を選択する
[表示] → [エンコード] → [自動選択] にチェックがついていると、日本語の文字コード選択の精度が落ち、文字化けの原因となるのではまずしてください。
外国語のページの場合は [表示] → [エンコード] → [その他] をタップし、表示されたメニューから表示させたい外国語を選択します。

10 通信機能

Q LANに接続できない

A ネットワークの設定が正しくない可能性があります。




次の点を確認してください。

- LAN機能を使用する場合は、ケーブルの状態を確認する*¹
- Windowsのネットワーク設定を確認する
- ネットワーク機器の設定を確認する

* 1 キーボードドック付属モデルのみ

A LAN機能が無効に設定されている可能性があります。

次の手順で設定を変更してください。

- ① [スタート] ボタン () をタップする
- ② [すべてのアプリ] → [Windows システムツール] → [コントロールパネル] をタップする
- ③ [ハードウェアとサウンド] → [デバイス マネージャー] をタップする
[デバイス マネージャー] 画面が表示されます。
- ④ [ネットワーク アダプター] をダブルタップする
ネットワーク アダプター名が表示されます。
デバイスの左に () が付いている場合は、無効に設定されています。
次の手順で設定を変更してください。
- ⑤ デバイスを長押しし、表示されたメニューから [有効] をタップする
- ⑥ [デバイス マネージャー] 画面で [閉じる] () ボタンをタップする

Q 無線LANに接続したい

A 無線LAN機能を使用するときは、次の説明を確認してください。

- 無線LANを使用するにあたっての、セキュリティに関する注意事項や使用上の注意事項について
- 無線LAN機能のON/OFFについて
- Windowsの機能を使用した、無線LANの接続設定について
- 無線LANの規格やモジュールについて


参照 ▶ 「付録 13 無線LAN/Bluetooth[®]について」

アクセスポイントの操作や設定についても確認してください。

参照 ▶ 『アクセスポイントに付属している説明書』

公衆無線LAN接続サービスを使用する場合は、サービスを使用する前に契約時の資料をあらかじめ確認してください。各サービスによって、設定方法や接続方法が異なります。

Q 無線LANに接続できない

A▶ 無線通信機能がOFFになっている可能性があります。
通知領域の  アイコン→ [Wi-Fi] をタップして [利用可能] に切り替え、無線通信機能をONにしてください。

参照▶ 「3章 **2** - **2** 無線LANを設定する」

A▶ 無線LAN機能を使用するにあたってのお願いや、無線LANについて、接続設定については、「Q：無線LANに接続したい」を確認してください。
無線LANに接続できない場合は、これらの説明を改めて確認してください。

A▶ 本製品とアクセスポイントの電源を切り、もう一度電源を入れ直してください。

参照▶ アクセスポイントの電源の切りかたと入れかた
『アクセスポイントに付属している説明書』

A▶ 無線LANのアクセスポイントの設定が正しくない可能性があります。



参照▶ アクセスポイントの設定方法『アクセスポイントに付属している説明書』

A▶ 無線LANのアクセスポイントには接続できているが、インターネットに接続できない場合や、メールの送受信ができない場合は、インターネットやメールの設定が正しくない可能性があります。

インターネットやメールの設定を確認してください。

Q MACアドレスを確認したい

A▶ 「コマンドプロンプト」でMACアドレスを確認します。

- ① [スタート] ボタン () をタップする
- ② [すべてのアプリ] → [Windows システム ツール] → [コマンドプロンプト] をタップする
- ③ [コマンドプロンプト] 画面が表示されたら、「ipconfig /all」と入力し  キーをタップする
[説明] にネットワークアダプターの名称が表示され、[物理アドレス] にMACアドレスが表示されます。

11 microSD メモリカード

Q microSD メモリカードが使えない

A タスクバーの[エクスプローラー] ボタンをタップしても、microSD メモリカードのドライブのアイコンが表示されない場合は、microSD メモリカードが正しくセットされていない可能性があります。

microSD メモリカードをスロットから取り出して向きを確認後、もう一度セットし直してください。

参照 ▶ microSD メモリカードのセット/取り出し「2章 6 - 2 カードのセットと取り出し」

A microSD メモリカードをセットしているドライブが認識されなくなったときは、いったん電源を切ったあと、再度電源を入れてください。

Q microSD メモリカードに書き込み（データの保存）ができない

A microSD メモリカードの空き容量が少ないと、書き込み（データの保存）ができません。

次の操作を行ってください。

- 不要なファイルやフォルダーを削除して空き容量を増やし、やり直してください。
microSD メモリカードから削除したファイルを元に戻すことはできません。よく確かめてから削除を行ってください。
- 空き容量が十分にある別のmicroSD メモリカードを使用してください。

A 使用するアプリケーションでは対応していないフォーマットのmicroSD メモリカードを挿入している可能性があります。

フォーマットし直してから、microSD メモリカードを使用してください。

フォーマットは、microSD メモリカードを使用する機器（デジタルビデオカメラやオーディオプレーヤーなど）で行ってください。

フォーマットを行うと、microSD メモリカードに保存されていた情報はすべて消去されます。よく確かめてからフォーマットを行ってください。

Q microSD メモリカードをセットしても自動的に起動しない

A 自動起動に対応している microSD メモリカードでも、自動的に起動しない場合があります。

起動しているすべてのアプリケーションを終了し、microSD メモリカードをセットし直してください。

それでも起動しない場合は次の手順で起動できます。

- ① タスクバーの [エクスプローラー] ボタンをタップする
- ② microSD メモリカードのアイコンを選択する

Q microSD メモリカードに保存している曲を再生できない

A microSD メモリカードに、再生できる曲が保存されていない可能性があります。よく確認してください。

A ほかのパソコンなどで microSD メモリカードに書き込んだ音楽データが著作権保護されている場合は、本製品でコピー、再生することはできません。また、再生しようとしたデータが、使用するアプリケーションでは対応していないファイル形式の可能性があります。よく確認してください。

Q microSD メモリカードで読み込みエラー、または書き込みエラーが発生した

A データが壊れている可能性があります。

エラーが発生したファイルを削除してください。

読み込みエラー、書き込みエラーが多発する場合は、microSD メモリカードをフォーマットしてください。

フォーマットは、microSD メモリカードを使用する機器（デジタルビデオカメラやオーディオプレーヤーなど）で行ってください。

フォーマットを行うと、microSD メモリカードに保存されていた情報はすべて消去されます。よく確かめてからフォーマットを行ってください。

12 USB 対応機器

Q USB 対応機器が使えない

A ケーブルが正しく接続されていない可能性があります。


ケーブルを正しく接続し直してください。

A▶ 何らかの原因で、システム（OS）が正しくUSB対応機器を認識していない可能性があります。

本製品を再起動してください。




A▶ ドライバーが正しくインストールされていない可能性があります。

次の手順で [デバイスを追加します] ウィザードを実行してください。

- ① [スタート] ボタン () をタップする
- ② [すべてのアプリ] → [Windows システムツール] → [コントロールパネル] をタップする
- ③ [デバイスの追加] をタップする
[デバイスを追加します] ウィザードが起動します。
画面の指示に従って操作してください。

A▶ ドライバーが [デバイスマネージャー] で無効に設定されている可能性があります。

次の手順で設定を確認してください。

- ① [スタート] ボタン () をタップする
- ② [すべてのアプリ] → [Windows システムツール] → [コントロールパネル] をタップする
- ③ [ハードウェアとサウンド] をタップする
- ④ [デバイス マネージャー] をタップする
[デバイス マネージャー] 画面が表示されます。
- ⑤ [USB (Universal Serial Bus) コントローラー] または [ユニバーサル シリアルバス コントローラー] をダブルタップする
ドライバー名が表示されます。
ドライバー名の左に () が付いている場合は、無効に設定されています。
次の手順で設定を変更してください。
- ⑥ 無効になっているドライバー名を長押しする
- ⑦ 表示されたメニューから [有効] をタップする
[デバイス マネージャー] で [閉じる] () ボタンをタップする

Q 休止状態から復帰後、USB対応機器が正常に動作しない

A▶ 休止状態に対応していないUSB対応機器を接続している可能性があります。

USB対応機器を取りはずし、もう一度接続してください。

それでもUSB対応機器が正常に動作しない場合は、本製品を再起動してください。

13 TPM

* TPM搭載モデルのみ

Q TPMを使用している本製品を、修理・保守に出したい

A▶ TPMを使用している場合、修理・保守に出す前に、バックアップしてください。なお、修理・保守に出すと、TPMに故障がなくても、TPMが交換される場合があります。修理・保守については、東芝PCあんしんサポート 修理相談窓口にご相談してください。

参照▶ 修理のお問い合わせについて『取扱説明書 2章 12 サービス&サポートのご案内』

14 メッセージ

Q パスワード (Password) の入力をうながすメッセージが表示された

A▶ パスワードの入力による認証が必要です。次の操作を行ってください。

■方法1

①パスワードを入力し、**Enter** キーをタップする

■方法2

①あらかじめ「東芝パスワードユーティリティ」でパスワードファイルを作成してある場合は、パスワードファイルで確認したパスワードを入力し、**Enter** キーをタップする

あらかじめ「東芝パスワードユーティリティ」でパスワードファイルを外部記憶メディア上に保存しておく、パスワードを忘れた場合に確認できます。ほかのパソコンの「メモ帳」などでパスワードファイルを開き、確認したパスワードを入力してください。

パスワードを入力するときは、CAPS LOCK (キャプスロック) や NUM LOCK (数字ロック) などが、パスワード設定時と同じ状態になっていることを確認してください。

パスワードを忘れてしまって、パスワードを解除できなくなった場合は、使用している機種 (型番) を確認後、東芝PCあんしんサポート 修理相談窓口にご連絡してください。モデルによってはSSDにHDDパスワードを設定できますが、HDDパスワードを忘れてしまった場合は、SSDは永久に使用できなくなりますので、有料にてSSDを交換します。それ以外のパスワードの場合は、有料にてパスワードを解除します。その際、パスワードの種類によっては、お客様のデータが失われる場合があります。

またどちらの場合も、身分証明書 (お客様自身を確認できる物) の提示が必要となります。

参照▶ パスワードの詳細「8章 1 パスワードセキュリティ」

15 その他

Q キーボードドックまたは外付けUSBキーボード（市販品）を接続しておらず、キーボードが使用できないときに、**CTRL + ALT + DEL** キーを押したい

A Windows ボタンと電源スイッチを同時に押してください。

参照 Windows ボタンの位置『取扱説明書 1 章 本製品の準備』

Q キーボードドックのキーボードやタッチパッド、アキュポイントに触っても反応がない

*キーボードドックを接続している場合のみ

A キーボードドックが正しく認識されていない可能性があります。

キーボードドックのキーボードやタッチパッド、アキュポイントなどを操作しても反応しない場合があります。次の手順でキーボードドックをリセットしてください。

- ① 電源を切る
- ② 電源コードとACアダプターを取りはずす
- ③ キーボードドックからタブレットを取りはずす
- ④ セカンドバッテリー内蔵モデルの場合、キーボードドックのリセットボタンを押す（セカンドバッテリーを内蔵していないモデルの場合は、手順⑤に進んでください）
- ⑤ タブレットをキーボードドックに接続し、電源を入れる

参照 キーボードドックの取り扱い、キーボードドックのリセットボタンなどについて『取扱説明書 1 章 本製品の準備』

Q SSD から本製品を初期状態に戻せなくなったときは

A SSDに搭載されている初期状態に戻すためのツール（システムを復元するためのもの）のデータが破損、もしくは誤って消去されている可能性があります。また、市販のソフトウェアを使用してパーティションの構成を変更すると、本製品を初期状態に戻せなくなることがあります。

「TOSHIBA Recovery Media Creator」で作成したリカバリーメディア、または付属のリカバリーDVD-ROM（付属しているモデルのみ）を使って、リカバリーしてください。

参照 リカバリーの操作方法『取扱説明書 2 章 8 本製品を初期状態に戻す』

リカバリーメディアがない場合は、修理が必要になる可能性があります。東芝PCあんしんサポート 修理相談窓口にご相談してください。

参照 修理のお問い合わせについて『取扱説明書 2 章 12 サービス&サポートのご案内』

Q 異常なおいや過熱に気づいた！

A▶ 本製品、周辺機器の電源を切り、電源コードの電源プラグをコンセントから抜いてください。安全を確認してから東芝PCあんしんサポート 修理相談窓口にご相談してください。

なお、お問い合わせの際には次のことを伝えてください。

- 使用している機器の名称
- 購入年月日
- 現在の状態（できるだけ詳しく連絡してください）

参照▶ 修理のお問い合わせについて『取扱説明書 2章 12 サービス&サポートのご案内』

Q 操作できない原因がどうしてもわからない

A▶ 「トラブルを解消するまでの流れ」を確認してください。

本書の「トラブルを解消するまでの流れ」では、トラブルを解決するための対処手順を説明しています。ご確認ください。

参照▶ 「本章 1 - 2」トラブル対処法

A▶ 本製品のトラブルの場合は、東芝PCあんしんサポートに連絡してください。

A▶ OSやアプリケーションのトラブルの場合は、各アプリケーションのサポート窓口にお問い合わせください。

参照▶ OSやアプリケーションのお問い合わせ先「付録 1 お問い合わせ先」

A▶ 周辺機器のトラブルの場合は、各周辺機器のサポート窓口にお問い合わせください。

参照▶ 周辺機器のお問い合わせ先『周辺機器に付属している説明書』

Q 本製品の近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい

A▶ 次の操作を行ってください。

- テレビ、ラジオの室内アンテナの方向を変える
- テレビ、ラジオに対する本製品の方向を変える
- 本製品をテレビ、ラジオから離す
- テレビ、ラジオのコンセントとは別のコンセントを使う
- 受信機に屋外アンテナを使う
- 平行フィーダを同軸ケーブルに変える

Q 引っ越したときの手続きは？

A 次の変更を行ってください。

■ インターネットに接続する設定を変更する

インターネットに接続する設定を、引っ越し後にお使いになる環境に合わせて変更してください。

詳しくは、契約しているプロバイダーにお問い合わせください。

■ 東芝ID (TID) お客様登録した住所、電話番号などを変更する

ホームページまたは電話で登録情報の変更の手続きをしてください。

● ホームページから変更する

* 東芝ID (TID) をお持ちの場合はこちらからお願いいたします。

① インターネットで (<http://toshibadirect.jp/room1048/>) に接続する

② [ログイン] ボタンをタップする

③ 東芝ID (TID) またはメールアドレスと、パスワードを入力し、[ログインする] ボタンをタップする

[マイページ] 画面が表示されます。

※ システムの仕様上、ご登録メールアドレスにてログインできない場合があります。その場合は、お手数ですが、東芝ID (TID) でログインしてください。

④ [会員情報変更] をタップする

[会員情報変更] 画面が表示されます。

変更する情報を修正してください。

東芝ID (TID) やメールアドレス、パスワードを変更する場合は、各マイメニューから [メールアドレス変更]、[パスワード変更]などをタップし、画面の指示に従って操作してください。

● 電話で変更する

「東芝ID事務局 (お客様情報変更)」までご連絡ください。

東芝ID事務局 (お客様情報変更)

TEL : 0570-09-1048 (ナビダイヤル)

受付時間：10：00～17：00 (土、日、祝日、当社特別休日を除く)

紹介しているホームページや電話番号は、お客様登録の内容変更や削除に関するお問い合わせ窓口です。

■ プロバイダーやアプリケーションのユーザー登録情報を変更する

契約しているプロバイダーや各アプリケーションのユーザー登録情報などを変更することを推奨します。

詳しくは、各登録先にお問い合わせください。

Q 海外で本製品を使いたいときは？

A モデルによっては、海外で使用できませんので、あらかじめ確認してください。『****（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』に、日本国外での使用ができないと記載されているモデルの場合は、海外で使用できません。海外で使用できるモデルの場合は、使用にあたって、次の点に気をつけてください。

■ お使いになる国／地域の電源プラグの形状を確認する

● ACアダプター

本製品のACアダプターは、100～240Vの電圧に対応しているので、この範囲内の電圧の国／地域で使用できます。

本製品付属のACアダプターは基本的に世界中の国／地域*¹で使用できます。

*¹ 一部の国の特定地域では、使用できない場合があります。

● 電源コード

電源コード（電源プラグからACアダプターまでのケーブル）は、日本の法令、安全規格に適合しています。

海外でお使いになる場合は、使用電圧や電源プラグの形状が異なりますので、お使いになる国／地域の法令・安全規格に適合する電源コード（市販品）をご用意ください。

■ 通信関係の確認をする

● 無線LAN

国／地域によっては、無線LAN装置の使用に認可が必要です。本製品は出荷時に認可を受けていますが、すべての国／地域の認可は受けていません。使用できる国／地域については、「dynabook.com」を参照してください。

それ以外の国／地域で本製品を使用する場合は、その国／地域に対応した機器（市販品）を使用するか、無線LAN機能の使用はお控えください。当社製オプションはありません。各国／地域に適合した機器をご購入ください。

■ 必要なものを準備する

- 付属の説明書
- Office製品のパッケージ式
- 保証書

Office搭載モデルの場合、本製品を初期状態に戻すと、「Office」のライセンス認証が必要になります。そのためのために、あらかじめプロダクトキーを控えておくか、Office製品のパッケージ式をお持ちください。

参照▶ 「Office」のライセンス認証について「はじめに」

ILW (International Limited Warranty) の対象モデルの場合は、故障したときのために、保証書と購入時のレシート*¹をお持ちください。

ILW (International Limited Warranty) は海外の所定の地域*²で、ILWの制限事項・確認事項の範囲内で、修理サービスがご利用いただける、当社の制限付海外保証制度です。本製品の保証書がILWの保証書を兼ねています。

ILWについての詳細は、次のホームページも参照してください。

参照▶ http://dynabook.com/assistpc/ilw/index_j.htm

* 1 保証書に購入店の押印と購入日が明記されていれば、必要ありません。

* 2 ILW対象地域の一部地域では、法律により輸出入が規制されている部品・役務があります。規制に該当する場合は、サービス対象外となりますので、あらかじめご了承ください。

■ 必要な書類など

海外に持ち出す物によっては、「輸出貿易管理令および外国為替令に基づく規制貨物の該非判定書」という書類が必要な場合がありますが、本製品を、旅行や短期出張で自己使用する目的で持ち出し、持ち帰る場合、該非判定書は基本的には必要ありません。ただし、本製品を他人に使わせたり譲渡する場合には、輸出許可が必要となる場合があります。

また、本製品を米国政府の定める輸出規制国に持ち出す場合は、米国政府の輸出許可が必要となる場合があります。

本製品を海外で使用する場合のより詳細な情報は、下記のホームページを参照してください。

参照▶ http://dynabook.com/assistpc/export/index_j.htm

4

初期状態に戻した（リカバリー） あとのWindowsセットアップ

トラブルを解消するために、本製品を初期状態に戻す（リカバリー）ことがあります。

参照 ▶ 『取扱説明書 2章 8 本製品を初期状態に戻す』

本製品を初期状態に戻した（リカバリー）あとは、Windowsのセットアップを行います。Windowsのセットアップは、本製品を使えるようにするために必要な操作です。

お願い セットアップをするときの注意


■ 周辺機器は接続しないでください

- セットアップを開始する前に、本製品に電源コードとACアダプター以外のものが接続されていないことを確認してください。
セットアップは電源コードとACアダプターのみを接続して行います。セットアップが完了するまでは、プリンター、マウスなどの周辺機器は接続しないでください。

■ 途中で電源を切らないでください

- セットアップの途中で電源スイッチを押したり電源コードを抜くと、故障や起動できない原因になり、修理が必要となることがあります。

■ 操作は時間をあけないでください

- セットアップ中にタッチキーボードの操作が必要な画面があります。時間をあけないで操作を続けてください。
しばらく操作しないと、画面に表示される内容が見えなくなる場合があります。これは省電力機能が動作したためで、故障ではありません。
もう一度表示するには、画面をさわってください。
画面をさわっても復帰せず、Power  LEDが点滅または消灯している場合は、電源スイッチを押してください。

9章

本製品の動作がおかしいときは

1 Windows のセットアップ

- * この操作は、本マニュアルを参照しながら実行することはできません。
必ず本項目のページを印刷してから実行してください。
- * この操作は、『スタートアップガイド』でも説明しています。

リカバリー終了後、ライセンス条項の画面が表示されます。
セットアップには約 10～20 分かかります。

1 ライセンス条項の内容を最後まで確認し、[承諾する] をタップする



[接続する] 画面が表示された場合は手順 **2** に進んでください。

[すぐに使い始めることができます] 画面が表示された場合は手順 **3** に進んでください。



- タッチキーボードは、入力欄をタップすると表示されます。

2 無線LAN（Wi-Fi®）の設定を省略するので、[この手順をスキップする]をタップする

無線LAN機能を使ったインターネットへの接続は、セットアップ完了後に行えるので、ここでは省略した場合について説明します。



[すぐに使い始めることができます] 画面が表示されます。

3 [簡単設定を使う] をタップする

本製品を使用するうえでの基本的な設定は、セットアップ完了後に変更できるので、ここでは「簡単設定」を選択した場合について説明します。



[このPC用のアカウントの作成] 画面が表示されます。

次の手順の前に「ユーザー名」とは

ユーザー名は、本製品がユーザーを識別するための名前です。必ず入力してください。次の手順で入力するユーザー名は、管理者として識別されます。管理者は、ネットワークや本製品を管理する権限があります。

管理者以外のユーザーは、Windowsのセットアップ後に登録できます。

4 ユーザー名を入力する

[ユーザー名] 欄に、管理者ユーザーの名前を入力してください。ユーザー名は、半角英数字で入力してください。

「|」（カーソル）が表示されている位置から文字の入力ができます。

「dynabook」と入力するときは、キーボードで **d y n a b o o k** とタップします。



■ ユーザー名に使えない文字列

ユーザー名を入力するとき、次の文字列を使用しないでください。

CON、PRN、AUX、NUL、COM1、COM2、COM3、COM4、COM5、COM6、COM7、COM8、COM9、LPT1、LPT2、LPT3、LPT4、LPT5、LPT6、LPT7、LPT8、LPT9、@、(スペース)



次の手順の前に「パスワード」（Windowsパスワード）とは

パスワードとは、それを入力しないと次のステップに進めないようにできる、特定の文字列です。

ここでは、Windowsを起動するときに入力しないと、Windowsを起動できないようにするためのパスワードを設定します。これを「Windowsパスワード」と呼びます。

お願い

- パスワードを忘れると、Windowsを起動するためには、「リカバリー」という、購入時の状態に戻す処理をしなくてはなりません。その場合、購入後に本製品に保存したデータやアプリケーションなどはすべて消失するので、パスワードは忘れないようにしてください。

5 パスワードを入力する

[パスワードを入力してください] 欄に、Windowsパスワードとして設定したい文字を入力してください。

Windowsパスワードは半角英数字で127文字まで設定できます。8文字以上で設定することを推奨します。英字の場合、大文字と小文字は区別されます。

Windowsパスワードを入力しないでそのまま次の画面へ進むこともできますが、セキュリティ上、設定することを強くおすすめします。

入力した文字は「●●●●●●」で表示されるため、画面を見て確認することはできません。入力を間違えても画面ではわからないので、気をつけて入力してください。

6 パスワードをもう一度入力する

[もう一度パスワードを入力してください] 欄に、手順 **5** で入力したWindowsパスワードを、もう一度入力してください。



次の手順の前に「パスワードのヒント」とは

設定したWindowsパスワードを忘れてしまったときのために、あらかじめヒントを設定しておく、パスワード入力画面で表示させることができます。

7 パスワードのヒントを入力し、[次へ] をタップする

[パスワードのヒント] 欄に、自分だけがパスワードを思い出せるようなヒントを入力してください。

[情報提供・サービスのご案内] 画面が表示された場合は手順 **8** に進んでください。本製品を準備している画面が表示された場合は、手順 **11** に進んでください。

8 ウィルスチェックソフトを使用するかどうか選択する

安全に本製品を使用するために、ウィルスチェックソフトの使用を強くおすすめします。本製品に用意されている「ウィルスバスター クラウド™」を使用する場合は のまま、「ウィルスバスター クラウド™」を使用しない場合は をタップして にしてください。

「ウィルスバスター クラウド™」はあとからでも使用を開始できます。



9 当社のサービス情報メール用アドレスを入力する

すでにメールアドレスを持っていて、当社からサービス情報メールを希望する場合は入力してください。

メールアドレスは間違えないよう、気をつけて入力してください。

メモ

- メールアドレスが間違っていると、メールでのご案内ができなくなります。[次へ] をタップする前に、もう一度ご確認ください。

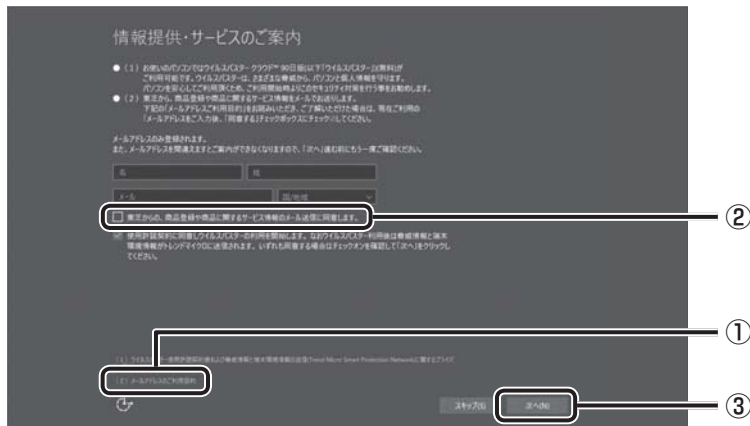


メールアドレスをまだ持っていない、またはサービス情報メールを受け取りたくない場合は、何もしないで [次へ] をタップし、手順 **11** に進んでください。

当社からのサービス情報メールは、あとでメールアドレスを取得してから、お客様登録を行い、受け取ることもできます。

9 章

10 画面下部の [(2) メールアドレスのご利用目的] をタップして説明をよく読んでから① (もう一度タップすると、説明が消えます)、[メール送信に同意します。] の左にある をタップして にし②、[次へ] をタップする③




本製品の動作がおかしいときは

11 しばらくお待ちください

本製品の準備をしている画面が表示されるので、そのまま電源を切らずにお待ちください。

ロック画面（画面左下に大きく日時が表示されている状態）が表示された場合は、画面の下側から上に向かってスワイプしてください。次の画面に進みます。


パスワードを入力する画面が表示された場合は、パスワードを入力して **Enter** キー（）をタップしてください。

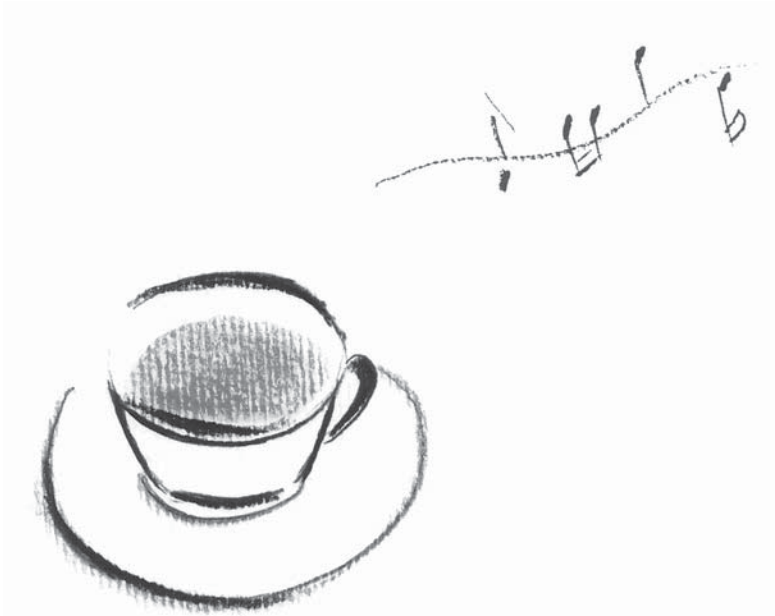
Windowsが起動します。

参照▶ 「ウイルスバスター クラウド™」の画面が表示された場合
「7章 **1** - **1** ウイルスバスター クラウド™でウイルスをチェックする」

参照▶ 「東芝サービスステーション」のメッセージが表示された場合
「1章 **2** 「東芝サービスステーション」について」

メモ

- しばらく操作しないと、画面に表示される内容が見えなくなる場合があります。これは省電力機能が動作したためで、故障ではありません。
もう一度表示するには、画面をさわってください。
画面をさわっても復帰せず、Power  LEDが点滅または消灯している場合は、電源スイッチを押しってください。



付録

本製品の機能を使用するにあたってのお願いや技術基準適合などについて記載しています。

1

お問い合わせ先

－ OS / アプリケーション －

本製品に用意されているOS、アプリケーションのお問い合わせ先を紹介しています。
各アプリケーションを使っていて困ったときは、こちらに連絡してください。

* 2016年4月現在の内容です。

各社の事情で、受付時間などに変更になる場合があります。

1

OSのお問い合わせ先

Windows 10に関する一般的なお問い合わせ先は、東芝PCあんしんサポート 使いかた相談窓口になります。

Windows 10に関する一般的なサポート情報は、以下のホームページでもご確認いただくことができます。

<http://support.microsoft.com>

2 アプリケーションのお問い合わせ先

各アプリケーションのユーザー登録については、それぞれのお問い合わせ先までお問い合わせください。用意されているアプリケーションはご購入のモデルにより異なります。

Office Home & Business Premium プラス Office 365 サービス

Office Personal Premium プラス Office 365 サービス

上記 Office 製品を初めてご利用する際、インターネット接続環境および Microsoft アカウントでのサインインが必要になります。

Office 製品についてご不明な点は、下記までお問い合わせください。

事情により、電話番号や受付時間などが変更になる場合があります。事前に下記サポート Web サイトもご覧ください。

マイクロソフト Answer Desk 窓口

フリーダイヤル : 0120-54-2244

受付時間 : 月曜～金曜 9:00～18:00、土曜～日曜 10:00～18:00
(祝日、日本マイクロソフト株式会社指定休業日を除く)

サポート有効期間 : サポートライフサイクル期間内

※ サポートライフサイクルについては、

<http://support.microsoft.com/lifecycle/search/> をご確認ください。

<サポートWebサイト>

Office 製品に関する情報やお問い合わせ情報などにつきましては、下記 Web サイトもご確認ください。

下記アドレスをワン ボックス (アドレスバー) に直接入力いただければ、Web サイトにアクセスできます。

● Office 製品情報 :

製品の機能や使いかたなどの製品情報

office.microsoft.com

● Microsoft アカウントについて :

Microsoft アカウントの登録方法や便利な使いかたなどについては下記のサイトをご確認ください。

microsoft.com/ja-jp/msaccount

● Office 365 サービス :

Office 365 サービスの詳細や更新の方法は下記のサイトをご確認ください。

office.com/service

● マイ アカウント ページ :

Office 365 サービスの管理や再インストールは、初回のインストール時に作成したマイ アカウント ページから行うことができます。マイ アカウント ページにアクセスするには、インストールの際に使用した Microsoft アカウントが必要になります。

office.com/myaccount

● サポート情報 :

製品に関するお問い合わせやサポート情報については、下記のサイトをご確認ください。

office.com/jppipcsupport

Excel 2016/OneNote 2016/Outlook 2016/PowerPoint 2016/Word 2016

マイクロソフト Answer Desk 窓口

Office 製品についてご不明な点は、下記までお問い合わせください。
事情により、電話番号や受付時間などが変更になる場合があります。事前に下記サポート Web サイトもご覧ください。

●基本操作に関するお問い合わせ

フリーダイヤル : 0120-54-2244
受付時間 : 月曜～金曜 9:00～18:00、土曜～日曜 10:00～18:00
(祝日、日本マイクロソフト株式会社指定休業日を除く)

●サポート有効期間 : サポートライフサイクル期間内
※サポートライフサイクルについては、
<http://support.microsoft.com/lifecycle/search/> をご確認ください。

お問い合わせに関する詳細は、本体に同梱されている冊子『Office お使いになる前に』をご覧ください。

ウイルスバスター クラウド™ 90日版

ウイルスバスター™ サービスセンター

受付時間 : 9:30～17:30
TEL : 0570-008326
03-6738-6062 (IP電話・光電話からのお問い合わせ)
E-mail : <http://tmqa.jp/r924/>
ホームページ : <http://tmqa.jp/toshiba/>

CyberLink Screen Recorder for TOSHIBA

CyberLink SeeQVault Player

サイバーリンクカスタマーサポート

受付時間 : 10:00～13:00、14:00～17:00 (土日祝日、休業日を除く)
TEL : 0570-080-110 (ナビダイヤル)
03-5205-7670
(PHS、一部電話などナビダイヤルをご利用いただけない場合)
ホームページ : <http://jp.cyberlink.com/support/>
(ウェブフォームからのお問い合わせは、ユーザー登録が必要です。)

i-フィルター®

デジタルアーツ株式会社 サポートセンター

受付時間 : 10:00~18:00
(デジタルアーツ指定休業日を除く)

TEL : 0570-00-1334

E-mail : p-support@daj.co.jp

ホームページ : 【お問い合わせTOP】 <http://www.daj.jp/cs/support/multidevice/>
 【お問い合わせフォーム】 http://www.daj.jp/ask_md/

月額版をお申し込みの場合、お申し込み初日が無償となります。

筆ぐるめ for TOSHIBA

筆ぐるめ インフォメーションセンター

受付時間 : 9:30~12:00、13:00~17:00 (土・日・祝祭日・休業日を除く)
 11月1日から12月30日までは無休
 (受付時間9:30~17:00 12/30のみ12:00まで)

TEL : 0570-550-211 (ナビダイヤル)
 03-5638-6139 (PHS、IP電話ご使用の場合)

E-mail : users@fsi.co.jp

ホームページ : <http://fudegurume.jp/>

その他のアプリケーション

※本製品を購入後に追加したアプリケーションに関しては、製造元各社へお問い合わせください。

東芝PCあんしんサポート 使いかた相談窓口

[固定電話から] 0120-97-1048 (フリーダイヤル: 通話料無料)

[携帯電話から] 0570-66-6773 (ナビダイヤル: 通話料お客様負担)

海外からのお電話や一部のIP電話などで、上記電話番号(フリーダイヤル、ナビダイヤル)をご利用になれない場合は、043-298-8780(通話料お客様負担)へおかけください。

※電話番号はお間違えないよう、ご確認のうえおかけください。

[受付時間] 9:00~19:00 (年中無休)

システムメンテナンスのため、サポートを休止させていただく場合があります。日程は、サポートサイト (http://dynabook.com/assistpc/index_j.htm)にてお知らせいたします。

[ご注意]

1. お問い合わせの前に、お買い上げの製品を東芝ID (TID) にご登録ください。
使いかた相談窓口のご利用には、東芝ID (TID) へのご登録 (お客様登録) が必要です。

参照▶ 東芝ID (TID) への登録方法「付録 3 お客様登録の手続き」

2. ご購入日から5年経過後のお問い合わせは有料です。
ご購入日から5年間、サポート料金は無料でお問い合わせいただけます。ご購入日から5年経過後のご利用は有料になります。
 - ・ご購入日から5年以内のサポート料金 : 無料
 - ・ご購入日から5年経過後のサポート料金: 1件あたり 2,000円 (税抜き、予定価格)
1件はお電話での回数ではなく、1つのご質問内容を1件といたします。1回のお電話の中に複数ご質問が含まれる場合、ご質問内容ごとに料金がかかります。
お電話をいただいた際には、まずご質問の概要を確認後、必ず料金を事前に提示させていただきます。お客様のご同意をいただいた上でサービスを提供させていただきます。
なお、詳細は、有料サポート開始前に、ホームページ上でご案内いたします。
3. お電話いただく際、「発信者番号通知」をお願いいたします。
4. おかけいただくと、ガイダンスが流れます。ガイダンスに従って操作してください。
使いかた相談窓口は、ガイダンスの後で **1** を押ししてください。

お客様の個人情報の取り扱い全般に関する当社の考えかたをご覧になりたいかたは、当社の個人情報保護方針のページ (<http://www.toshiba-tcs.co.jp/privacy.html>) をご覧ください。

1 日常の取り扱いとお手入れ

『安心してお使いいただくために』の「安全上のご注意」、「ご使用上のお願い」に、日常の取り扱いとお手入れをするときに守ってほしいことが記述されています。あらかじめその記述をよく読んで、指示を守ってください。

日常の取り扱いでは、次のことも守ってください。

本体および付属品について

- 『安心してお使いいただくために』の「安全上のご注意」、「ご使用上のお願い」に、本体、ACアダプター、電源コードを使用するときに守ってほしいことが記述されています。あらかじめその記述をよく読んで、指示を守ってください。
- 機器の汚れは、柔らかくきれいな乾いた布などでふき取ってください。汚れがひどいときは、水に浸した布を固くしぼってからふきます。中性洗剤、揮発性の有機溶剤（ベンジン、シンナーなど）、化学ぞうきんなどは使用しないでください。
- 薬品や殺虫剤などをかけないでください。
- 可燃性ガスのエアゾールやスプレーを使用しないでください。
- 使用できる環境は次のとおりです。^{*1}
温度5～35℃、湿度20～80%
^{*1} 使用環境条件は、本製品の動作を保証する温湿度条件であり、性能を保証するものではありません。
- 高温になる場所や湿度の高い場所には置かないでください。
- 水をかけたり、湿気の多いものの上に置かないでください。
- 落としたり、衝撃を与えないでください。
- 分解しないでください。
- 次のような場所で使用や保管をしないでください。
直射日光の当たる場所／非常に高温または低温になる場所／急激な温度変化のある場所（結露を防ぐため）／強い磁気を帯びた場所（スピーカーなどの近く）／ほこりの多い場所／振動の激しい場所／薬品の充満している場所／薬品に触れる場所
- 使用中に本体やACアダプターが熱くなることがあります。本体の動作状況により発熱しているだけで、故障ではありません。
- ケーブル類は折り曲げたり、巻き付けたりしないでください。故障の原因となることがあります。
- 電源プラグを長期間にわたってコンセントに接続したままにしていると、電源プラグにほこりがたまることがあります。定期的にほこりをふき取ってください。

液晶ディスプレイ

□画面のお手入れ

- 液晶ディスプレイは指紋やほこりがつきやすいので、いつもきれいな状態でお使いください。
- 液晶ディスプレイの表面が汚れた場合は、柔らかくきれいな布で軽くふき取ってください。水や中性洗剤、揮発性の有機溶剤、化学ぞうきんなどは使用しないでください。
- 無理な力の加わる扱いかた、使いかたをしないでください。
液晶ディスプレイは、ガラス板間に液晶を配向処理して注入してあります。強い力を加えると配向が乱れ、発色や明るさが変わって元に戻らなくなる場合があります。また、ガラス板を破損するおそれもあります。
- 水滴などが長時間付着すると、変色やシミの原因になるので、すぐにふき取ってください。ふき取る際は、力を入れないで軽く行ってください。

□残像防止について

長時間同じ画面を表示したままにしていると、画面表示を変えたときに前の画面表示が残ることがあります。この現象を残像といいます。残像は、画面表示を変えることで徐々に解消されますが、あまり長時間同じ画面を表示すると画像が消えなくなりますので、同じ画面を長時間表示するような使いかたは避けてください。

また、次の機能を利用すると、残像防止ができます。

- スクリーンセーバーを設定する
スクリーンセーバーの設定については、タスクバーの [WebとWindowsを検索] (🔍) で、「スクリーンセーバー」と入力して検索してください。
- 「電源オプション」で「ディスプレイの電源を切る」を設定する

□表示について

TFTカラー液晶ディスプレイは非常に高度な技術を駆使して作られております。非点灯、常時点灯などの画素（ドット）が存在することがあります（有効ドット数の割合は99.99%以上です。有効ドット数の割合とは、「対応するディスプレイの表示しうる全ドット数のうち、表示可能なドット数の割合」です）。また、見る角度や温度変化によって色むらや明るさのむらが見える場合があります。これらは、故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

キーボード

* キーボードドック付属モデルのみ

柔らかい乾いた素材のきれいな布でふいてください。

汚れがひどいときは、水に浸した布を固くしぼってふきます。

キーのすきまにゴミが入ったときは、エアーで吹き飛ばすタイプのクリーナーで取り除きます。ゴミが取れないときは、使用している機種名を確認してから、東芝PCあんしんサポート 修理相談窓口または保守サービスに相談してください。

飲み物など液体をこぼしたときは、ただちに電源を切り、ACアダプターを取りはずして、東芝PCあんしんサポートまたは保守サービスに相談してください。

タッチパッド

* キーボードドック付属モデルのみ

乾いた柔らかい素材のきれいな布でふいてください。

汚れがひどいときは、水かぬるま湯に浸した布を固くしぼってからふきます。

アキュポイント

* キーボードドック付属モデルのみ

乾いた柔らかい素材のきれいな布でふいてください。

汚れがひどいときは、水かぬるま湯に浸した布を固くしぼってからふきます。

ハンドクリームや油などのついた手で操作したり、油性の液体をつけたりしないでください。操作時にすべりやすくなったり、アキュポイントキャップが劣化する（溶ける）おそれがあります。

□アキュポイントキャップの交換について

長期間使用し、すり切れたら交換してください。交換方法は次のとおりです。

①アキュポイントキャップをしっかりとつまみ、垂直に引き上げて取りはずす

②新しいアキュポイントキャップを切り込みにあわせてアキュポイントにはめる

アキュポイントキャップをお買い求めになる場合は、東芝PC工房にご相談ください。

参照 ▶ 「2 - 東芝PC工房」

2 アフターケアについて

修理サービスについて

修理サービスのご相談は、東芝PCあんしんサポートまたは保守サービスへお問い合わせください。

参照 ▶ 『取扱説明書 2章 12 サービス&サポートのご案内』

修理や点検の際に、HDD/SSDの交換、初期インストール作業（標準出荷状態）など、お客様が記憶装置内に記録されたデータやインストールされたソフトウェアは消去される場合があります。

必ず、定期的にもまたは修理や点検を依頼される前に、バックアップをとり、重要な内容は紙などに控えておいてください。

記録内容が変化・消失したことによる損失・損害などの請求につきましては、いっさいその責任を負いかねます。

有寿命部品について

本製品には、有寿命部品が含まれています。有寿命部品の交換時期の目安は、使用頻度や使用環境（温湿度など）などの条件により異なりますが、本製品を通常使用した場合、1日に約8時間、1ヵ月で25日のご使用で約5年です。上記目安はあくまで目安であって、故障しないことや無料修理をお約束するものではありません。

なお、24時間を超えるような長時間連続使用など、ご使用状態によっては早期にあるいは製品の保証期間内でも部品交換（有料）が必要となります。

□対象品名

本体液晶ディスプレイ*¹*²、ハードディスクユニット*²、ソリッドステートドライブ (SSD) *²、内蔵フラッシュメモリ*²、CD/DVD/ブルーレイディスクドライブ*²、キーボード*²、タッチパッド*²、マウス*³、冷却用ファン*²、ディスプレイ開閉部 (ヒンジ)*²*⁴、ACアダプター

* 1 工場出荷時から画面の明るさが半減するまでの期間。

* 2 搭載されているモデルが対象です。

* 3 付属しているモデルが対象です。

* 4 ディスプレイを開いたときに固定するための内部部品です。

一般社団法人電子情報技術産業協会「パソコンの有寿命部品の表記に関するガイドライン」について

http://home.jeita.or.jp/page_file/20110511155520_FuLZW1JpDj.pdf

消耗品について

□バッテリーパック

バッテリーパック（充電式リチウムイオン電池）は消耗品です。

長時間の使用により消耗し、充電機能が低下します。

充電機能が低下した場合の対処方法は、モデルによって異なります。

ご使用のモデルについては、『****（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を確認してください。

■バッテリーパック搭載モデルの場合

充電機能が低下した場合は、別売りのバッテリーパックと交換してください。

参照 ▶ バッテリーパックの購入について『取扱説明書 2章 12 サービス&サポートのご案内』

参照 ▶ バッテリーパックの交換方法『取扱説明書』

■バッテリーパック内蔵モデルの場合

充電機能が低下した場合は、バッテリーパックの交換を依頼してください。バッテリーパックの交換は、保証期間内でも有料になります。

参照 ▶ バッテリーパックの交換の依頼について『取扱説明書 2章 12 サービス&サポートのご案内』

付属品について

付属品（ACアダプター、アキュポイントキャップ*¹ など）については、「東芝PC工房」でご購入いただけます。

* 1 付属モデルのみ

東芝PC工房（東京：秋葉原）

TEL : 03-3252-6274

営業時間 : 10:00～18:30

受付時間 : 10:00～12:00 13:00～18:30

休館日 : 毎週日曜日、祝日、当社指定の休日

URL : http://dynabook.com/assistpc/pckobo/index_j.htm

※ 型番がPZで始まるモデル、または2011年6月以降発売され、型番の12桁目（左から数えて）がZのモデルについては、「東芝海外PCリペアセンタ（http://dynabook.com/assistpc/repaircenter/kaigai_repair.htm）」へご相談ください。

ハードウェアの保証とアフターサービスについて

修理について

【無料修理（保証修理）】

各種説明書、本体貼付ラベルなどの注意書きに記載された正常なご使用をされている場合であって、お買い上げ日から保証期間中に故障したときに、保証書に記載の「無料修理規定」に従い、ハードウェアの無料修理をいたします（詳しくは、保証書に記載の「無料修理規定」をご覧ください）。

【有料修理】

「保証書」に記載の保証期間が終了している場合、または、保証書に記載の「無料修理規定」の範囲外の作業（詳しくは、保証書に記載の「無料修理規定」をご覧ください）については、有料修理をいたします。

参照▶ 修理依頼『取扱説明書 2章 **12** サービス&サポートのご案内』

部品について

【部品の交換について】

保守部品（補修用性能部品）は、機能・性能が同等な新品部品あるいは新品と同等に品質保証された部品（再利用部品）を使用し、故障した部品と交換します。なお、有料修理でユニット修理を適用した場合および無料修理の交換元（取りはずした）部品の所有権は、当社または当社の認める各保守会社に帰属します。

【保守部品（補修用性能部品）の最低保有期間】

保守部品（補修用性能部品）とは、本製品の機能を維持するために必要な部品です。本製品の保守部品の最低保有期間は、製品発表月から6年6ヵ月です。

最新情報について

東芝PC総合情報サイト「dynabook.com」では、常に最新のサポート情報を提供しています。定期的に最新情報をご確認ください。

サポート情報：http://www.dynabook.com/assistpc/index_j.htm

3 無線LANやインターネットの使用に関するお願い

無線LAN製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意

(お客様の権利(プライバシー保護)に関する重要な事項です!)

無線LANでは、LANケーブルを使用する代わりに、電波を利用して本製品などと無線LANアクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由にLAN接続が可能であるという利点があります。

その反面、電波はある範囲内であれば障害物(壁など)を超えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、次のような問題が発生する可能性があります。

- ・ 通信内容を盗み見られる
 - 悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、
 - IDやパスワードまたはクレジットカード番号などの個人情報
 - メールの内容
 - などの通信内容を盗み見られる可能性があります。
- ・ 不正に侵入される
 - 悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、
 - 個人情報や機密情報を取り出す(情報漏えい)
 - 特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す(なりすまし)
 - 傍受した通信内容を書き換えて発信する(改ざん)
 - コンピューターウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する(破壊)
 - などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線LANアクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っているので、無線LAN製品のセキュリティに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。

セキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を十分理解したうえで、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをおすすめします。

セキュリティ機能

セキュリティ機能を使用しないと、無線LAN経由で部外者による不正アクセスが容易に行えるため、不正侵入や盗聴、データの消失、破壊などにつながる危険性があります。不正アクセスを防ぐために、暗号化機能(WEP、WPA™)を設定されることを強くおすすめします。また、お使いの無線LANアクセスポイントで、登録したMACアドレスのみ接続可能にする設定などの対策も有効です。公共の無線LANアクセスポイントなどで使用される場合は、「Windowsファイアウォール」やファイアウォール機能のあるウイルスチェックソフトを使用して、不正アクセスを防止してください。

青少年がおられる家庭の皆様へ～ 重要なお知らせとお願い

インターネットの発展によって、世界中の人と容易にメールのやりとりをしたり、個人や企業が開設しているインターネット上のサイトを活用したりすることによって、必要なときに必要とする情報を瞬時に検索することが可能となっています。しかしながら、インターネットには違法情報や有害情報という負の側面があります。特に青少年にとって、下記のようなインターネット上のサイトは、情報入手の容易化や機会遭遇の増大などによって、青少年の健全な発育を阻害し、犯罪や財産権侵害、人権侵害などの社会問題の発生を助長していると見られています。

- アダルトサイト（ポルノ画像や風俗情報）
- 出会い系サイト
- 暴力残虐画像を集めたサイト
- 他人の悪口や誹謗中傷を載せたサイト
- 犯罪を助長するようなサイト
- 毒物や麻薬情報を載せたサイト

アダルトサイトが青少年にとっていかに有害であっても、他人のサイトの公開を止めさせることはできません。情報を発信する人の表現の自由を奪うことになるからです。また、日本では非合法であっても、海外に存在しその国では合法のサイトもあり、それらの公開を止めさせることはできません。

有害なインターネット上のサイトを青少年に見せないようにするための技術が、「フィルタリング」といわれるものです。フィルタリングは、情報発信者の表現の自由を尊重しつつ、情報受信者の側で閲覧の制御を行う技術的手段で、100%万全ではありませんが、多くの有害な情報へのアクセスを自動的に制限することができる有効な手段です。特に青少年がおられるご家庭では、ご自宅の本製品やタブレットにフィルタリング機能を持つソフトウェアを購入しインストールするか、インターネット事業者のフィルタリング・サービスの利用をご検討されることをおすすめします。

「フィルタリング」は、ソフトウェアあるいはサービス事業者によって、「有害サイトブロック」「Webフィルタ」「インターネット利用管理」などと表現される場合もあり、それぞれ、機能、利用条件が異なります。ソフトウェア提供会社あるいは、お客様が契約されているインターネット事業者に、事前にご確認されることをおすすめします。

【参考資料】

- 一般社団法人電子情報技術産業協会のユーザー向け啓発資料
「パソコンサポートとつきあう方法」
<http://home.jeita.or.jp/cgi-bin/page/detail.cgi?n=372&ca=14>

3

お客様登録の手続き

本製品やアプリケーションを使用するときは、自分が製品の正規の使用者（ユーザー）であることを製品の製造元へ連絡します。これを「お客様登録」または「ユーザー登録」といいます。お客様登録は、本製品、使用するアプリケーションごとに行い、方法はそれぞれ異なります。

1 東芝ID（TID）お客様登録のお願い

当社では、お客様へのサービス・サポートのご提供の充実をはかるために東芝ID（TID）のご登録をお願いしております。

東芝PCあんしんサポート 使いかた相談窓口や電話サポート予約サービスのご利用にあたっては、事前に東芝ID（TID）に登録していただくことが必要です。

詳しくは、次のアドレス「Room1048（TID）会員サイトについて」をご覧ください。

https://toshibadirect.jp/supportguide/about_sight.aspx

1 インターネットに接続して、東芝ID（TID）を登録する

インターネットに接続して、次の手順で東芝ID（TID）を登録してください。インターネットに接続している間の通信料金やプロバイダー使用料などの費用はお客様負担となりますので、あらかじめご了承ください。

参照 インターネット接続「3章 インターネットやネットワークに接続する」



- インストールしているウイルスチェックソフトの設定によって、インターネット接続を確認する画面が表示される場合があります。インターネット接続を許可する項目を選択し、操作を進めてください。

付録

1 [スタート] ボタン () をタップする

2 [すべてのアプリ] → [東芝お客様登録] をタップする

登録用のホームページが表示されます。

以降は、画面の指示に従って操作してください。



- 次のURLから、登録用のホームページにアクセスすることもできます。
登録用ホームページ： <http://toshibadirect.jp/room1048/>
商品の追加登録も、登録用のホームページから行えます。

2 インターネットをご利用されていない場合

インターネットをご利用されていないお客様のパソコン／タブレットの東芝ID（TID）登録につきましては、東芝PCあんしんサポート 使いかた相談窓口へご相談ください。

本製品を捨てたり人に譲ったりする前に、お客様登録を削除したり、SSDの内容を消去してください。

参照 ▶『取扱説明書 2章 10 捨てるとき／人に譲るとき』

本製品の廃棄・譲渡時のデータ消去に関するご注意

最近、パソコンやタブレットは、オフィスや家庭などで、いろいろな用途に使われるようになってきています。これらのパソコンやタブレットに使われているハードディスクドライブ、SSDの記憶装置に、お客様の重要なデータが記録されています。

したがって、パソコンやタブレットを譲渡あるいは廃棄するときには、これらの重要なデータ内容を消去するということが必要となります。

ところが、このハードディスクドライブ、SSDに書き込まれたデータを消去するのは、それほど簡単ではありません。

「データを消去する」という場合、一般に

- ◆データを「ごみ箱」に捨てる
- ◆「削除」操作を行う
- ◆「ごみ箱を空にする」コマンドを使って消す
- ◆ソフトウェアで初期化（フォーマット）する
- ◆添付のリカバリーDVD-ROM、または作成したリカバリーメディアを使い、購入時の状態に戻す

などの作業をしますが、これらの作業では、ハードディスクドライブ、SSD上に記録されたデータのファイル管理情報が変更されるだけで、実際はデータが見えなくなっているだけの状態です。つまり、一見消去されたように見えますが、WindowsなどのOSのもとで、それらのデータを呼び出す処理ができなくなっただけで、実際のデータは、まだ残っているのです。

したがって、特殊なデータ回復のためのソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読みとることが可能な場合があります。このため、悪意のある人により、ハードディスクドライブ、SSD内の重要なデータが読みとられ、予期しない用途に利用されるおそれがあります。

お客様が、廃棄・譲渡などを行う際に、ハードディスクドライブ、SSD内の重要なデータが流出するというトラブルを回避するためには、ハードディスクドライブ、SSDに記録された全データを、お客様の責任において消去することが非常に重要となります。消去するためには、専用ソフトウェアあるいはサービス（共に有料）を利用するか、ハードディスクドライブの場合は金槌や強磁気により物理的・磁氣的に破壊して、読めなくすることをおすすめします。

なお、ハードディスクドライブ、SSD上のソフトウェア（OS、アプリケーションソフトなど）を削除することなくパソコンやタブレットを譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合がありますため、十分な確認をする必要があります。

データ消去については、次のホームページも参照してください。

URL <http://dynabook.com/pc/eco/haiki.htm>

1 TPMの内容を消去する

* TPM搭載モデルのみ

TPMを使用している場合、ハードディスク、SSDだけでなく、TPM内部のデータを削除する必要があります。登録情報など、セキュリティに関する重要な情報が含まれるため、必ずデータを削除してください。

2 本体について

本体の廃棄／リサイクルについては、『取扱説明書 2章 10 捨てるとき／人に譲るとき』、『取扱説明書 2章 12 サービス&サポートのご案内』をご覧ください。

3 バッテリーパックについて

バッテリーパックの廃棄／リサイクル方法は、モデルによって異なります。ご使用のモデルについては、『****（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を確認してください。

■ バッテリーパック搭載モデルの場合

貴重な資源を守るために、不要になったバッテリーパックは廃棄しないで、各自治体の条例または規制に従ってリサイクルするか、充電式電池リサイクル協力店へ持ち込んでください。

その場合、ショート防止のため電極にセロハンテープなどの絶縁テープを貼ってください。

【バッテリーパック（充電式電池）の回収、リサイクルについてのお問い合わせ先】

一般社団法人 JBRC
TEL : 03-6403-5673
ホームページ : <http://www.jbrc.com>



Li-ion



Ni-MH

■ バッテリーパック内蔵モデルの場合

本製品の廃棄時に、お客様ご自身でバッテリーパックの取りはずしはしないでください。本製品といっしょに廃棄をお願いします。

参照 廃棄について『取扱説明書 2章 12 サービス&サポートのご案内』

5

ご使用にあたってのお願い

本書で説明している機能のご使用にあたって、知っておいていただきたいことや守っていただきたいことがあります。次のお願い事項を、本書の各機能の説明とあわせて必ずお読みください。搭載されている機能やアプリケーションは、ご購入のモデルにより異なります。

ご購入のモデルの仕様については、『* * * * (お使いの機種名) シリーズをお使いのかたへ』を確認してください。

1 本製品を使用する場所について

人間にとって住みやすい温度と湿度の環境が、本製品にも最適な環境です。

次の点に注意して置き場所、使う場所を決めてください。

- 安定した場所に置きましょう。
不安定な場所に置くと、本製品が落ちたり倒れたりするおそれがあり、故障やけがにつながります。
- 温度や湿度が高いところは避けましょう。
暖房や加湿器の送風が直接あたる場所はよくありません。
- 強い磁気を発するものの近くで使用しないでください。
磁石はもちろん、スピーカー、テレビの近くは磁気の影響を受けます。磁気ブレスレットなども本製品を使用するときははずすようにしましょう。
- 照明や日光があたる位置も考慮しましょう。
照明や日光が直接ディスプレイにあたると、反射して画面が見づらくなります。
- ラジオやテレビの近くで使用しないでください。
ラジオやテレビの受信障害を引き起こすことがあります。
- 無線通信装置から離してください。
携帯電話、スマートフォン、タブレット、パソコンなども無線通信装置の一種です。

2 「PC引越ナビ®」について

前のパソコンの動作環境について

- すべてのパソコンでの動作を保証するものではありません。

操作にあたって

- 「PC引越ナビ®」のヘルプで、注意制限事項を確認してください。
- 「PC引越ナビ®」をご利用の際は、前のパソコンおよび新しいパソコン（本製品）で、電源コードとACアダプターを接続した状態で、ご利用ください。
また、「PC引越ナビ®」の実行中は、スリープまたは休止状態にしないでください。
- こん包プログラムが作成するこん包ファイルを分割する場合、分割するこん包ファイルの大きさは、最大2GBとなります。
- 「PC引越ナビ®」がこん包ファイルで同時に移行できるファイル数は、最大2,147,483,647ファイルです。
- こん包プログラムからこん包ファイルを作成するには、作成される予定のこん包ファイルの大きさ以上の空き容量が、保存先の装置に必要です。

3 タッチ操作について

画面のタッチ操作にあたって

- 画面をタッチするときは、強く押さないでください。
- 画面上に物を置かないでください。
- 画面は指または付属のペンで操作してください。先のとがったものや硬いもの（つめ、鉛筆、ボールペンなど）で画面をタッチしたり押さえつけたりしないでください。画面を傷つけるおそれがあります。
- 画面に保護フィルムを貼った場合、タッチ操作が正しく認識されないことがあります。

4 SSDについて

操作にあたって

- 本製品を激しく揺らしたり、強い衝撃を与えると、故障の原因となる場合があります。
- SSDへのアクセス中は、本製品を動かしたりしないでください。SSDが故障したり、データが消失するおそれがあります。
- SSDに保存しているデータや重要な文書などは、万が一故障が起こったり、変化／消失した場合に備えて、定期的にUSBフラッシュメモリなどに保存しておいてください。記憶内容の変化／消失など、SSD、USBフラッシュメモリなどに保存した内容の損害については、当社はいっさいその責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- 磁石、スピーカー、テレビ、磁気ブレスレットなど磁気を発するものの近くに置かないでください。記憶内容が変化／消失するおそれがあります。
- 本製品を落とす、ぶつけるなど強い衝撃を与えないでください。

5 Webカメラについて

Webカメラを使用するにあたって

- Webカメラに保護シートが貼ってある場合には、Webカメラを使用する前に、必ず保護シートをはがしてください。
- Webカメラを太陽に直接向けないでください。
- Webカメラのレンズ部分に触れたり、強く押ししたりしないでください。画質が低下する原因となります。
レンズ部分が汚れた場合は、眼鏡ふきなどの柔らかい布でふいてください。

6 ペンについて

* ペン付属モデルのみ

取り扱いについて

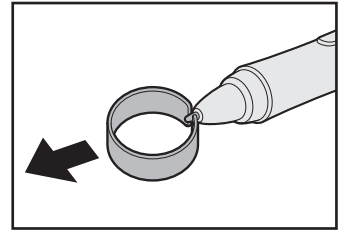
- 誤った使いかたをすると画面に傷がつくおそれがありますので、次のことを守ってください。
 - ・ 付属のペン以外（特に先端の鋭いもの）で画面を押さない
 - ・ つめや、指輪などの金属が画面に触れないようにする
 - ・ 画面をむやみに強く押さない
- ペン先をディスプレイ上に強く押しつける、たたきつけるような使いかたをしないでください。また、ペンを使用する前に芯が短くなっていないかをご確認ください。
- 湿度変化の激しい場所や直射日光の当たる車の中での使用、保管はお避けください。また、スイッチに荷重を加え続けると、誤動作したり特性劣化につながりますので、スイッチに荷重が加わらないように保管してください。
- ペンは精密部品によって構成されています。強い衝撃が加わると誤動作したり特性劣化につながりますので、落下などしないように取り扱いにご注意ください。
- 磁石、スピーカー、テレビ、磁気プレスレットなど磁気を発するものの近くで使用しないでください。
- ペン先およびペンボタンに必要以上の荷重を加えると寿命が短くなったり特性劣化につながりますので、無理な力を加えないでください。
ペン内部に水が入ったり、結露させると、誤動作の原因となりますのでご注意ください。
- 調整がずれたり、寿命が縮まる可能性がありますのでペンを分解しないでください。
- 化粧品や薬品がペンに付くと、外観や品質の劣化につながりますのでご注意ください。お手入れの際はアルコール、シンナー、ベンジンなど揮発性の液体は避け、シリコンクロスや乾いた布を使用してください。
- 曲がったり変形した芯を使いますとペンが誤動作することがありますので、芯に無理な力を加えたり曲げたりしないでください。
- 芯や芯抜きなどの小さな部品が、幼児などの口に入らないようにご注意ください。
- 不特定多数のユーザーが使用するなど、上記内容を管理できないような環境で使用されて品質問題が発生した場合は、当社としては責任を負いかねます。

- デジタイザーペンの芯先端部の丸みがなくなってきたら、付属の芯抜きか毛抜きのようなもので芯を抜いて交換してください。

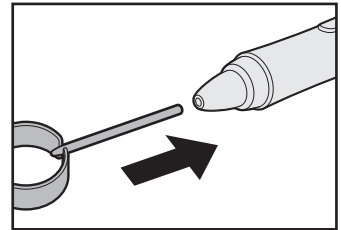
芯がすり減って短くなり過ぎると、引き抜くのが難しくなります。

芯が短くなり過ぎないうちに交換してください。

- ① 芯の先を芯抜きの丸いくぼみに合わせ、芯抜きではさむ
- ② 芯抜きを矢印の方向にまっすぐ引く



- ③ 替え芯を、丸くなっている方がペン先から外に出るような向きで、ペンにまっすぐ挿入する



- デジタイザーペン、デジタイザーペンの替え芯は消耗品です。
デジタイザーペンを破損した場合、替え芯を使い切った場合は、別売りのデジタイザーペンと替え芯をご購入ください。
- リザーブペンは消耗品です。
リザーブペンを破損した場合、芯を使い切った場合は、別売りのリザーブペンをご購入ください。

7 無線LANについて

無線LANを使用するにあたって

- 無線LANの無線アンテナは、障害物が少なく見通しのきく場所で最も良好に動作します。無線通信の範囲を最大限有効にするには、本や厚い紙の束などの障害物で本製品を覆わないようにしてください。
また、無線LANアクセスポイントと本製品との間を金属板などで遮へいしたり、無線アンテナの周囲を金属製のケースなどで覆わないようにしてください。
- Bluetooth®と無線LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いのBluetooth®、無線LANのいずれかの使用を中止してください。
- 無線LANは無線製品です。各国／地域で適用される無線規制については、次の説明を確認してください。

参照▶「本章 13 無線LAN/Bluetooth®について」

- 本製品の無線LANを使用できる国／地域については、「dynabook.com」を確認してください。

8 周辺機器について

周辺機器の取り付け／取りはずしについて

- 取り付け／取りはずしの方法は周辺機器によって違います。4章の各節を読んでから作業をしてください。またその際には、次のことを守ってください。守らなかった場合、故障するおそれがあります。
 - ・ ホットインサクションに対応していない周辺機器を接続する場合は、必ず本製品の電源を切ってから作業を行ってください。ホットインサクションとは、電源を入れた状態で機器の取り付け／取りはずしを行うことです。
 - ・ 適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
 - ・ ほこりが少なく、直射日光のあたらない場所で作業をしてください。
 - ・ 極端に温度や湿度の高い／低い場所では作業しないでください。
 - ・ 静電気が発生しやすい環境（乾燥した場所やカーペット敷きの場所など）では作業をしないでください。
 - ・ 本書および各種説明書で説明している場所のネジ以外は、ゆるめたり、取りはずしたりしないでください。
 - ・ 作業時に使用するドライバーは、ネジの形、大きさに合ったものを使用してください。
 - ・ 本製品を分解、改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。
 - ・ 本製品のコネクタにケーブルを接続するときは、コネクタの上下や方向を合わせてください。
 - ・ ケーブルのコネクタに固定用ネジがある場合は、本製品のコネクタに接続したあと、ケーブルがはずれないようにネジを締めてください。
 - ・ 本製品のコネクタにケーブルを接続した状態で、接続部分に無理な力を加えないでください。

USB対応機器の操作にあたって

- 電源供給を必要とするUSB対応機器を接続する場合は、USB対応機器の電源を入れてから本製品に接続してください。
- USB対応機器を使用するには、システム（OS）が対応しており、機器用ドライバーがインストールされている必要があります。
- すべてのUSB対応機器の動作を保証するものではありません。
- USB対応機器を接続したままスリープまたは休止状態にすると、復帰後USB対応機器が使用できない場合があります。その場合は、USB対応機器を接続し直すか、本製品を再起動してください。

□ USB接続の外部ディスプレイを使用するにあたって

- USB接続の外部ディスプレイを接続した場合、著作権保護機能に対応していないドライバーがインストールされることにより、一部の映像を再生するアプリケーションなどが動作しなくなる場合があります。
これらのアプリケーションを使用される場合は、USB接続の外部ディスプレイの接続やドライバーのインストールを行わないようにお願いします。

□ 取りはずす前に確認しよう

- 取りはずすときは、USB 対応機器をアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。
- USB フラッシュメモリや USB 接続のハードディスクドライブなど、記憶装置の USB 対応機器を取りはずす場合は、データを消失するおそれがあるため、必ずシステム上で使用停止の手順を行ってください。

□ USB の常時給電について

- 本機能を「東芝システムセッティング」で有効にした際、⚡ アイコンが付いている USB コネクタに接続している USB 周辺機器が正しく動作しない場合があります。この場合、ほかの USB コネクタを使用するか、本機能を「東芝システムセッティング」で無効にしてください。
- 本機能を利用しての充電は、専用充電器で充電する場合と比較して、より多くの充電時間が必要になることがあります。
- 常時給電を有効にしている場合は、電源 OFF の状態でもバッテリーが消費されます。バッテリー駆動時間や休止状態の保持時間が短くなるので、電源コードと AC アダプターを接続して使用することをおすすめします。
- USB 対応機器の給電中に本製品の電源を入れると、USB 対応機器が正常に認識されない場合があります。この場合は、一度 USB 対応機器を取りはずしてから再接続してください。
- USB 対応機器の給電中に本製品の電源を切ると、正常に充電できない場合があります。この場合は、一度 USB 対応機器を取りはずしてから再接続してください。
- 本製品の電源 ON/OFF と連動する USB バスパワー (DC5V) 連動機能を持つ外部機器は、常に動作状態になることがあります。
- 常時給電に対応した USB コネクタに接続された外部機器の使用電流が過大の場合、安全性確保のため USB バスパワー (DC5V) の供給を停止させることがあります。この場合、外部機器の仕様を確認し、常時給電に対応した USB コネクタに接続する外部機器の使用電流全体の合計を 2.1A 以下にしてください。その後、本製品の電源を ON/OFF することで復帰します。
- 本機能を「東芝システムセッティング」で有効にした場合は、⚡ アイコンが付いている USB コネクタでは「USB WakeUp 機能」*1 が機能しない場合があります。この場合、ほかの USB コネクタを使用するか、本機能を「東芝システムセッティング」で無効にしてください。

* 1 USB WakeUp 機能とは、USB コネクタに接続した外部機器によって本製品をスリープ状態から復帰させる機能です。本機能は、すべての USB コネクタで有効です。

□ USB の高速充電について

■ 電源 OFF 時の高速充電について

- [自動モード] で正しく充電できない場合は、本機能を「東芝システムセッティング」で [代替モード] に変更するか、無効にしてください。
- 接続する USB 対応機器および USB ケーブルが 2.0A 充電に対応していない場合は、[自動モード] には設定しないでください。この場合は、[代替モード] に設定してください。

■システムON CDPチャージモードについて

- ⚡アイコンが付いているUSBコネクタに接続しているUSB周辺機器が正常に認識されない場合があります。この場合、ほかのUSBコネクタを使用するか、本機能を「東芝システムセッティング」で無効に設定してください。
- システムON CDPチャージモードで高速充電している場合は、バッテリー駆動時間が短くなるので、電源コードとACアダプターを接続して使用することをおすすめします。
- バッテリー残量が10%以下では、システムON CDPチャージモードは機能しません。この場合は、通常の給電となります。

本機能を使用する場合は、バッテリーを充電してから本製品を起動してください。使用中にバッテリー残量が10%以下になった場合に、再び本機能を使用するには、バッテリーを充電後、本製品の再起動が必要になります。

- ⚡アイコンが付いているUSBコネクタでは「USB WakeUp機能」*¹が機能しない場合があります。この場合、ほかのUSBコネクタを使用するか、本機能を「東芝システムセッティング」で無効にしてください。

* 1 USB WakeUp機能とは、USBコネクタに接続した外部機器によって本製品をスリープ状態から復帰させる機能です。本機能は、すべてのUSBコネクタで有効です。

■テレビ／外部ディスプレイ接続の操作にあたって

- すべてのテレビまたは外部ディスプレイへの表示を保証するものではありません。テレビまたは外部ディスプレイによっては正しく表示されない場合があります。
- 必ず、映像を再生するアプリケーションを起動する前に、表示装置の切り替えを行ってください。アプリケーションによっては、起動中に表示装置を切り替えられない場合があります。
- 次のようなときには、表示装置を切り替えしないでください。
 - ・ データの読み出しや書き込みをしている間
 - ・ 通信を行っている間
- 複製表示にしているときに映像を再生させると、画像がコマ落ちをすることがあります。この場合は表示解像度を下げるか、複製表示にしないで1つの表示装置に表示するか、拡張表示に設定してください。
- 拡張表示でテレビまたは外部ディスプレイをメインディスプレイに設定した場合、スリープまたは休止状態のときにテレビまたは外部ディスプレイをはずさないでください。スリープまたは休止状態から復帰したときにサインイン画面が表示されずに、操作ができなくなることがあります。
- HDMI[®]出力端子にテレビまたは外部ディスプレイを接続しているときに、ほかのコネクタにテレビまたは外部ディスプレイや外部サウンド機器が接続されている場合、画面表示を切り替えたりHDMI[®]ケーブルを抜き差ししたりすると、システムによって自動的に画面表示または音声の出力が切り替わることがあります。
- テレビまたは外部ディスプレイに表示したときに、画面の周りに黒い帯が表示され、画面がテレビまたは外部ディスプレイの中央に小さく表示されることがあります。その場合は『テレビに付属している説明書』または『外部ディスプレイに付属している説明書』を参照して、テレビまたは外部ディスプレイがサポートしている画面モードに設定してください。適切なサイズと適切なアスペクト比で表示されます。
- キーボードドックのHDMI[®]出力端子とRGBコネクタを、同時に使用することはできません。

ヘッドセットやヘッドホンの操作にあたって

- 次のような場合にはヘッドセットやヘッドホンを装着しないでください。雑音が発生する場合があります。
 - ・ 本製品の電源を入れる／切るとき
 - ・ ヘッドセットやヘッドホンの取り付け／取りはずしをするとき

Bluetooth[®] について

- 本製品は、すべてのBluetooth[®] 対応機器との接続動作を保証するものではありません。
- 本製品のBluetooth[®] 機能を使用できる国／地域については、「dynabook.com」を確認してください。

9 バッテリーの使用／充電について

バッテリーを使用するにあたって

- バッテリー駆動で使用しているときは、バッテリーの残量に十分注意してください。バッテリーを使いきってしまうと、スリープが効かなくなり、電源が切れて、メモリに記憶されていた内容はすべて消えます。また、時刻や日付に誤差が生じます。バッテリーを使い切る前に、電源コードとACアダプターを接続してバッテリーを充電してください。

バッテリーを充電するにあたって

- バッテリーパックの温度が極端に高いまたは低いと、正常に充電されないことがあります。バッテリーは5～35℃の室温で充電してください。

一般社団法人 電子情報技術産業協会の「PC用バッテリー関連Q&A」について
<http://home.jeita.or.jp/cgi-bin/page/detail.cgi?n=121&ca=14>

10 ワイヤレスディスプレイ機能の使用にあたって

- すべてのテレビまたは外部ディスプレイとの接続を確認したものではありません。詳しくは東芝PCあんしんサポート 使いかた相談窓口へお問い合わせください。
- 周囲の電波状況によっては、テレビまたは外部ディスプレイとの接続に失敗したり、途中で接続が切れたりすることがあります。また、テレビまたは外部ディスプレイの映像が乱れることがあります。
- テレビまたは外部ディスプレイと正常に接続できない場合は、本製品とテレビまたは外部ディスプレイ双方を再起動してください。
- 本製品は、スリープ中でもテレビまたは外部ディスプレイとの接続が解除されません。バッテリーの消耗を防ぐため、本機能を使用しないときはテレビまたは外部ディスプレイとの接続を切断してください。

11 キーボードドックについて

タッチパッドの操作にあたって

- タッチパッドを強く押さえたり、ボールペンなどの先の鋭いものを使ったりしないでください。タッチパッドが故障するおそれがあります。
- タッチパッドの上に、ものを置いた状態で使用しないでください。

アキュポイントの操作にあたって

- アキュポイントを強く押さえたり、ボールペンなどの先の鋭いものを使わないでください。アキュポイントが故障するおそれがあります。
- 次の場合、アキュポイントを操作しなくても、画面上のポインターが移動することがあります。
 - ・ 電源を入れたとき
 - ・ 一定の力で一定方向にポインターを移動し続け、指を離したとき
 - ・ 温度が急激に変化したときこの場合は、10 秒以上待ってから、アキュポイントを使用してください。
- 携帯電話、無線機など電波を発生する機器が近くにあると、ポインターが移動することがあります。この場合、電波が発生する機器を離してください。

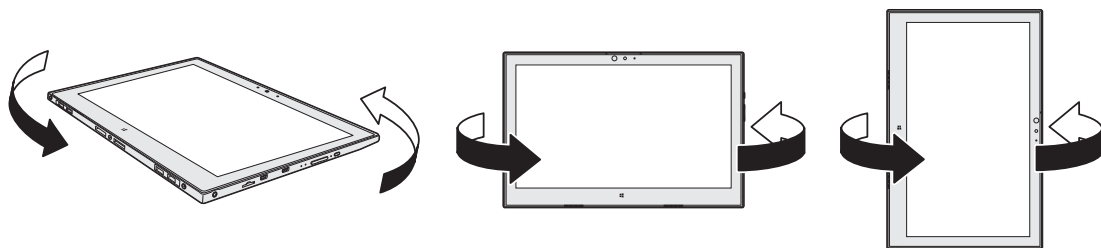
12 有線LANについて

LANケーブルの使用にあたって

- LANケーブルは市販のものを使用してください。
- LANケーブルをキーボードドックのLANコネクタに接続した状態で、LANケーブルを引っ張ったり、キーボードドックの移動をしないでください。LANコネクタが破損するおそれがあります。
- LANインターフェースを使用するとき、Gigabit Ethernet（1000BASE-T）は、エンハンスドカテゴリ5（CAT5e）以上のケーブルを使用してください。
Fast Ethernet（100BASE-TX）は、カテゴリ5（CAT5）以上のケーブルを使用してください。
Ethernet（10BASE-T）は、カテゴリ3（CAT3）以上のケーブルが使用できます。

13 コンパスセンサーについて

- コンパスセンサーの精度は、タブレットのみ、またはキーボードドックを接続した状態で、タブレットスタイルでの使用にあわせて最適化されています。地図ソフトウェアなどコンパスセンサーを使用する場合は、タブレットまたはタブレットスタイルでコンパスセンサーを補正してください。コンパスセンサーを使うソフトウェアを起動し、タブレットまたはタブレットスタイルで水平と垂直（縦向きと横向き）それぞれ1回あたり5秒を目安に3回まわしてからお使いください。



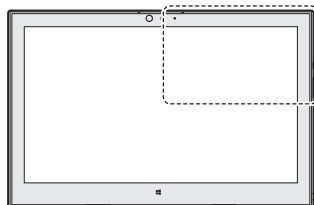
一度の補正作業で、正しく補正されない場合があります。この場合は、さらに数回追加してまわして補正しなおすようにしてください。

電車や自動車の車内、ビルの内部や周辺など使用環境によっては、方位を正確に検出できない場合があります。

コンパスセンサーをご使用の場合は、これらの場所を避けてください。

タブレットの右上部分には、磁石を近づけないでください。

コンパスセンサーが正しく動作しない場合があります。



14 GPSについて

- GPS 機能搭載モデルでは、GPSが使用できません。
- GPS や測定場所の状態により、現在地が表示できない可能性があります。現在地の情報は、端末側から位置情報を得ており、その情報の精度によって現在地が検出できない可能性があります。具体的には、以下のような場所や状態では、現在地がずれたり、検出できない可能性があります。
 - ・ 建物の中や直下
 - ・ かばんや箱の中
 - ・ 密集した樹木の中
 - ・ アンテナ前面部に障害物（人や物）がある場合
 - ・ 地下やトンネル、地中、水中
 - ・ ビル街や住宅密集地
 - ・ 高圧線の近く
 - ・ 大雨、雪などの悪天

15 TPMについて

TPMの操作にあたって

- 本製品を修理・保守に出した場合、本製品内のデータは保証いたしません。TPM を使用している場合に、本製品を保守・修理に出す際は、バックアップしておいてください。バックアップしたメディアは、安全な場所に保管してください。データのバックアップに関しては、当社はいっさいの責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本製品を修理・保守に出した場合、搭載されているTPMに障害がなくてもメイン基板が交換される場合があります。
- TPMでは、最新のセキュリティ機能を提供しますが、データやハードウェアの完全な保護を保証してはおりません。本機能を利用したことによる、いかなる障害、損害に関して、いっさいの責任は負いかねますので、ご了承ください。
- 管理者権限を持たないユーザーがBIOSセットアップのTPMに関する項目を操作できないように設定することをおすすめします。

16 東芝サインログオンについて

- 「東芝サインログオン」は本人の認証・照合を保証するものではありません。
- 「東芝サインログオン」の使用または使用不能から生じる付随的な損害（記憶内容の変化・消失、事業利益の損失、事業の中断など）に関して当社はいっさいの責任を負いかねますので、ご了承ください。
- 当社は、以下に関していっさいの責任を負いかねますので、ご了承ください。
 - ・ 付属の説明書の記載内容を守らないことにより生じた不便または損害
 - ・ 当社が関与しない接続機器、ソフトウェアとの組み合わせによる不具合、またはその結果生じた不便または損害
 - ・ 何らかの原因による登録・照合に関する不動作。および、不動作に起因する損害。

6

記録メディアについて

記録メディアを使う前に、次の内容をよく読んでください。

1 microSD メモリカードを使うにあたって

1 microSD メモリカードの操作にあたって

- microSD メモリカードにアクセス中は、電源を切ったり、microSD メモリカードを取り出したり、本製品を動かしたりしないでください。データやmicroSD メモリカードが壊れるおそれがあります。
- microSD メモリカードは無理な力を加えず、静かに挿入してください。正しくセットされていない場合、本製品の動作が不安定になったり、microSD メモリカードが壊れるおそれがあります。
- スリープ中は、microSD メモリカードを取り出さないでください。データが消失するおそれがあります。
- microSD メモリカードのコネクタ部分（金色の部分）には触れないでください。静電気で壊れるおそれがあります。
- microSD メモリカードを取り出す場合は、必ずシステム上で使用停止の手順を行ってください。データが消失したり、microSD メモリカードが壊れるおそれがあります。
- 本製品を持ち運ぶときは、必ずSD カードスロットからmicroSD メモリカードを取り出してください。SD カードスロットやmicroSD メモリカードが破損するおそれがあります。

2 microSD メモリカードを使う前に

- すべてのmicroSDメモリカードの動作を保証するものではありません。
- microSDメモリカードは、SDMIの取り決めに従って、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐための著作権保護技術を搭載しています。
そのため、ほかのパソコンなどで取り込んだデータが著作権保護されている場合は、本製品でコピー、再生することはできません。SDMIとはSecure Digital Music Initiativeの略で、デジタル音楽データの著作権を守るための技術仕様を決めるための団体のことです。
- 著作権保護技術CPRMを使用するには、著作権保護技術CPRMに対応しているアプリケーションが必要です。
- 著作権保護技術SeeQVaultを使用するには、著作権保護技術SeeQVaultに対応しているmicroSDメモリカードとアプリケーションが必要です。
- あなたが記録したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- microSDメモリカードは、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐSDMIに準拠したデータを取り扱うことができます。メモリの一部を管理データ領域として使用するため、使用できるメモリ容量は表示の容量より少なくなっています。

microSDメモリカードのフォーマットについて

- 再フォーマットする場合は、microSDメモリカードを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤーなど）で行ってください。
Windows上（エクスプローラー）でmicroSDメモリカードのフォーマットを行わないでください。デジタルカメラやオーディオプレーヤーなどほかの機器で使用できなくなる場合があります。
- 再フォーマットを行うと、そのmicroSDメモリカードに保存されていた情報はすべて消去されます。一度使用したmicroSDメモリカードを再フォーマットする場合は注意してください。

2 記録メディアの廃棄・譲渡について

記録メディア（microSDメモリカード、USBフラッシュメモリなど）を廃棄・譲渡する際には、書き込まれたデータが流出しないよう、適切な方法で消去することをおすすめします。初期化、削除、消去などの操作などを行っても、データの復元ツールで再生できる場合もありますので、十分ご確認ください。
データ消去のための専用ソフトや、記録メディア専用のシュレッダーも販売されています。

* CyberLink SeeQVault Player 搭載モデルのみ

本製品で「CyberLink SeeQVault Player」を使用する場合は、次の内容をご確認の上、ご使用ください。

- 「CyberLink SeeQVault Player」は特定デバイスに含まれる映像ファイルの再生に関する著作権保護技術SeeQVaultに対応したアプリケーションです。
- 「CyberLink SeeQVault Player」を使用するときは、ほかのアプリケーションを終了させてください。また、ほかのアプリケーションを起動させたり、不要な操作は行わないでください。再生が止まるなど、正常に動作しない場合があります。
- 使用するコンテンツによっては、コマ落ちや音飛び、または映像と音声のずれ（同期ずれ）が発生する場合があります。
- ほかのアプリケーションで映像の再生中は、「CyberLink SeeQVault Player」で映像の再生をしないでください。映像の再生が正しく動作しない場合があります。
- 映像再生時は、電源コードとACアダプターの接続をおすすめします。省電力機能が働くと、スムーズな再生ができないことがあります。バッテリー駆動で再生するときは電源プランで「バランス」を選択してください。
- 「CyberLink SeeQVault Player」で映像の再生中は、スクリーンセーバーは起動しません。また、自動で休止状態やスリープの状態には移行しません。
- 「CyberLink SeeQVault Player」の起動中は、表示自動停止機能が動作しません。
- 「CyberLink SeeQVault Player」の起動中は、スリープ、休止状態を実行しないでください。
- 「CyberLink SeeQVault Player」の起動中は、コンピューターのロック状態に移行する操作（**FN** + **F1** キーを押す）をしないでください。
- 「CyberLink SeeQVault Player」は、パレンタルコントロール（視聴制限）の機能はありません。
- 「CyberLink SeeQVault Player」の起動中にWindows ユーザーの切り替えを行わないでください。
- 「CyberLink SeeQVault Player」で再生している映像をテレビや外部ディスプレイでご覧になるには、HDCP 対応のHDMI[®]入力端子を搭載している、テレビや外部ディスプレイが必要です。

テレビや外部ディスプレイに映像を表示するときは、アプリケーションを起動する前にあらかじめ表示装置を切り替えてください。再生している映像は、本体ディスプレイまたは本製品に接続したテレビや外部ディスプレイのみに表示できます。複製表示（本体ディスプレイと、テレビまたは外部ディスプレイの2つの表示装置それぞれに同じ映像を表示すること）は、正しく表示できない場合があります。

参照▶ 本製品の画面をテレビや外部ディスプレイに映す
「4章 **3** テレビや外部ディスプレイを接続する」

- 「CyberLink SeeQVault Player」の起動中は、解像度の切り替えを行わないでください。
- 「CyberLink SeeQVault Player」の起動中は、表示装置の切り替えを行わないでください。

- 「CyberLink SeeQVault Player」でSeeQVault対応デバイスが認識されない場合は、一度デバイスを取りはずしてから再度接続し、[デバイスの更新] ボタンをタップしてください。その他の注意については、「CyberLink SeeQVault Player」のヘルプを参照してください。

* TOSHIBA Media Player by sMedio TrueLink+ 搭載モデルのみ

本製品で「TOSHIBA Media Player by sMedio TrueLink+」を使用する場合は、次の内容をご確認の上、ご使用ください。

- 再生時は、電源コードとACアダプターの接続をおすすめします。省電力機能が働くと、スムーズな再生ができないことがあります。バッテリー駆動で再生するときは電源プランで「バランス」を選択してください。
- 「TOSHIBA Media Player by sMedio TrueLink+」を使用する時は、画面の解像度を1,280 × 800以上に設定してください。
- 「TOSHIBA Media Player by sMedio TrueLink+」で再生中は、電源オプションで設定した時間になっても自動的にスリープ、休止状態、電源オフ状態になりません。
- 「TOSHIBA Media Player by sMedio TrueLink+」で映像再生中や写真のスライドショー実行中は、自動的にディスプレイオフしません。
- 「TOSHIBA Media Player by sMedio TrueLink+」で映像再生中や写真のスライドショー実行中は、スクリーンセーバーに切り替わりません。
- Resolution+ 機能は本体ディスプレイに合わせて調整を行います。外部ディスプレイに接続して視聴する場合はResolution+ 機能をオフに設定してください。
- ご購入のモデルによっては、映像再生時のResolution+ 機能をご利用になれません。映像および写真再生時にResolution+ 機能をご利用可能な場合は、「TOSHIBA Media Player by sMedio TrueLink+」の設定画面のResolution+ 機能を設定する項目に、「ビデオ/写真の品質を向上させる」と表示されています。「写真の品質を向上させる」と表示されている場合は、写真再生時のみResolution+ 機能をご利用できます。
- ご使用の環境によっては、高画質な映像の再生において、コマ落ちや音飛び、または映像と音声のずれ（同期ずれ）が発生する場合があります。Resolution+ 機能をオフにすると、これらの現象が改善する場合があります。
- 「TOSHIBA Media Player by sMedio TrueLink+」でライブラリ画面に表示されるコンテンツは、自動的にリフレッシュされません。コンテンツをリフレッシュするには、アプリコマンドのリフレッシュボタンをタップします。
- ファイルをOneDriveにアップロード中にスリープ、休止状態、シャットダウン、再起動が発生すると、アップロードが正しく完了しません。
- 「TOSHIBA Media Player by sMedio TrueLink+」は、DRMで保護されているコンテンツの再生はサポートしていません。Resolution+ 機能をオンにして、DRMで保護されているコンテンツを再生しようとする、アプリケーションが終了することがあります。
- 写真閲覧時の「SNS用に保存 (Resolution+ オン)」機能は、現在のResolution+ の設定 (オン/オフ/デモ) にかかわらず、オンの状態で保存されます。また、画像はSNS投稿用のサイズ (幅/高さのうち長辺が2,048ピクセル) で保存されるため、保存された画像を閲覧した場合、元の画像をResolution+ オンで閲覧したときと異なって見えることがあります。

- 本ソフトウェアにおいて第三者が提供するSNSをご利用いただく場合、各サービス提供者の利用規約およびその他規約が適用されます。当社は、第三者により提供されるサービスおよびこれに関する事項について、いっさいの責任を負いません。
また、各サービスの内容は予告なく変更・終了する場合があります。
- 「TOSHIBA Media Player by sMedio TrueLink+」はDMSをサポートしていません。
- タスクバー上の「TOSHIBA Media Player by sMedio TrueLink+」のボタンにマウスカーソルを合わせた際に表示されるプレビュー上のメディアボタンにより、動画／音楽／スライドショーの再生や一時停止などの操作ができます。
動画／スライドショーの操作は、「TOSHIBA Media Player by sMedio TrueLink+」が前面に表示されている場合のみ行えます。
音楽の操作は、「TOSHIBA Media Player by sMedio TrueLink+」が前面に表示されていない場合でも行えます。
なお、本機能はOSのバージョンによってはサポートされない場合があります。
- ご使用のバージョンによって操作画面や手順が異なる場合があります。操作手順については「TOSHIBA Media Player by sMedio TrueLink+」のヘルプを確認してください。
- 「TOSHIBA Media Player by sMedio TrueLink+」を起動中は、表示装置の切り替えを行わないでください。

詳しくは、「TOSHIBA Media Player by sMedio TrueLink+」のヘルプを参照してください。

記録メディアへの書き込み、本体のSSDへの書き出しを行うときは、次の注意をよく読んでから使用してください。守らずに使用すると、書き込み/書き出しに失敗するおそれがあります。また、本製品へのショックなど本体異常や、記録メディアの状態などによっては処理が正常に行えず、書き込み/書き出しに失敗することがあります。

■書き込み/書き出しを行うにあたって

- バッテリー駆動で使用中に書き込みを行うと、バッテリーの消耗などによって書き込みに失敗するおそれがあります。必ず電源コードとACアダプターを使用して本製品を電源コンセントに接続してご使用ください。
- 書き込みを行うときは、本製品の省電力機能が働かないようにしてください。また、電源オフ/スリープ/休止状態/再起動を実行しないでください。
- ウィンドウを開く、ユーザーを切り替える、画面の解像度の変更など、本製品の操作は行わないでください。
- microSDメモ리카ードのセット/取り出しや、周辺機器の取り付け/取りはずしを行わないでください。

参照 ▶ 「2章 本製品の基本操作を覚えよう」

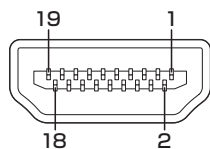
参照 ▶ 「4章 周辺機器を使って機能を広げよう」

- 本製品から、携帯電話およびほかの無線通信装置を離してください。
- 次に示すような、ライティングソフトウェア以外のソフトウェアは終了させてください。
 - ・ 音楽や映像の再生アプリケーション
 - ・ スクリーンセーバー
 - ・ ウイルスチェックソフト
 - ・ ディスクのアクセスを高速化する常駐型ユーティリティ
 - ・ モデムなどの通信アプリケーション などソフトウェアによっては動作の不安定やデータの破損の原因となるので、使用しないことを推奨します。
- microSDメモ리카ード、USBフラッシュメモリ、USB接続などのハードディスクドライブなど、本体のSSD以外の記憶装置にあるデータを書き込むときは、データをいったん本体のSSDに保存してから書き込みを行ってください。
- LANを経由する場合は、データをいったん本体のSSDに保存してから書き込みを行ってください。
- 本製品に衝撃や振動を与えないでください。
- 重要なデータについては、書き込み終了後、必ずデータが正しく書き込まれたことを確認してください。
- 書き込みに失敗した記録メディアの損害については、当社はいっさいその責任を負いません。また、記憶内容の変化・消失など、記録メディアに保存した内容の損害および内容の損失・消失により生じる経済的損害といった派生的損害については、当社はいっさいその責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

1 HDMI[®] (micro) 出力端子

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	Hot Plug Detect	ホットプラグディテクト	I
2	Reserved	予約	
3	TMDS Data2+	TMDSデータ (2+)	O
4	TMDS Data2 Shield	TMDSデータ (2) シールド	
5	TMDS Data2-	TMDSデータ (2-)	O
6	TMDS Data1+	TMDSデータ (1+)	O
7	TMDS Data1 Shield	TMDSデータ (1) シールド	
8	TMDS Data1-	TMDSデータ (1-)	O
9	TMDS Data0+	TMDSデータ (0+)	O
10	TMDS Data0 Shield	TMDSデータ (0) シールド	
11	TMDS Data0-	TMDSデータ (0-)	O
12	TMDS Clock+	TMDSクロック (+)	O
13	TMDS Clock Shield	TMDSクロックシールド	
14	TMDS Clock-	TMDSクロック (-)	O
15	Reserved	予約	
16	GND	グラウンド	
17	SCL	シリアルクロック信号	O
18	SDA	シリアルデータ信号	I/O
19	+5V	電源	

コネクタ図

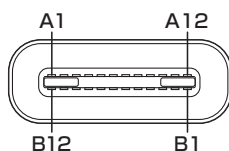


信号名 : -がついているのは、負論理値の信号です
 信号方向 (I) : タブレットへの入力
 信号方向 (O) : タブレットからの出力

2 USB Type-C インターフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
A1	GND	グラウンド	
A2	SSTX1+	USB3.1 送信プラスデータ	0
A3	SSTX1-	USB3.1 送信マイナスデータ	0
A4	VBUS	+5V	
A5	CC1	モード設定	
A6	D1+	USB2.0 プラスデータ	I/O
A7	D1-	USB2.0 マイナスデータ	I/O
A8	Reserved	予約	
A9	VBUS	+5V	
A10	SSRX2-	USB3.1 受信マイナスデータ	I
A11	SSRX2+	USB3.1 受信プラスデータ	I
A12	GND	グラウンド	
B1	GND	グラウンド	
B2	SSTX2+	USB3.1 送信プラスデータ	0
B3	SSTX2-	USB3.1 送信マイナスデータ	0
B4	VBUS	+5V	
B5	CC2	モード設定	
B6	D2+	USB2.0 プラスデータ	I/O
B7	D2-	USB2.0 マイナスデータ	I/O
B8	Reserved	予約	
B9	VBUS	+5V	
B10	SSRX1-	USB3.1 受信マイナスデータ	I
B11	SSRX1+	USB3.1 受信プラスデータ	I
B12	GND	グラウンド	

コネクタ図



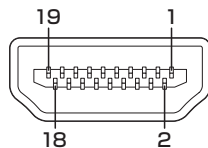
信号名 : -がついているのは、負論理値の信号です
 信号方向 (I) : タブレットへの入力
 信号方向 (O) : タブレットからの出力

3 HDMI[®] 出力端子

* キーボードドック付属モデルのみ

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	TMDS Data2+	TMDSデータ (2+)	0
2	TMDS Data2 Shield	TMDSデータ (2) シールド	
3	TMDS Data2-	TMDSデータ (2-)	0
4	TMDS Data1+	TMDSデータ (1+)	0
5	TMDS Data1 Shield	TMDSデータ (1) シールド	
6	TMDS Data1-	TMDSデータ (1-)	0
7	TMDS Data0+	TMDSデータ (0+)	0
8	TMDS Data0 Shield	TMDSデータ (0) シールド	
9	TMDS Data0-	TMDSデータ (0-)	0
10	TMDS Clock+	TMDSクロック (+)	0
11	TMDS Clock Shield	TMDSクロックシールド	
12	TMDS Clock-	TMDSクロック (-)	0
13	Reserved	予約	
14	Reserved	予約	
15	SCL	シリアルクロック信号	0
16	SDA	シリアルデータ信号	I/O
17	GND	グラウンド	
18	+5V	電源	
19	Hot Plug Detect	ホットプラグディテクト	I

コネクタ図



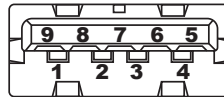
信号名 : -がついているのは、負論理値の信号です
 信号方向 (I) : キーボードドックへの入力
 信号方向 (O) : キーボードドックからの出力

4 USB3.0 インターフェース

* キーボードドック付属モデルのみ

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	VBUS	+5V	
2	D-	USB2.0 マイナスデータ	I/O
3	D+	USB2.0 プラスデータ	I/O
4	GND	グラウンド	
5	StdA_SSRX-	USB3.0 受信マイナスデータ	I
6	StdA_SSRX+	USB3.0 受信プラスデータ	I
7	GND_DRAIN	グラウンド	
8	StdA_SSTX-	USB3.0 送信マイナスデータ	O
9	StdA_SSTX+	USB3.0 送信プラスデータ	O

コネクタ図



信号名 : -がついているのは、負論理値の信号です
 信号方向 (I) : キーボードドックへの入力
 信号方向 (O) : キーボードドックからの出力

5 RGB インターフェース

* キーボードドック付属モデルのみ

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	CRV	赤色ビデオ信号	O
2	CGV	緑色ビデオ信号	O
3	CBV	青色ビデオ信号	O
4	Reserved	予約	
5	GND	グラウンド	
6	GND	グラウンド	
7	GND	グラウンド	
8	GND	グラウンド	
9	+5V	電源	
10	GND	グラウンド	
11	Reserved	予約	
12	SDA	シリアルデータ信号	I/O
13	HSYNC	水平同期信号	O
14	VSYNC	垂直同期信号	O
15	SCL	シリアルクロック信号	O

コネクタ図



高密度D-SUB 3列15ピンメス

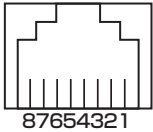
信号方向 (I) : キーボードドックへの入力
 信号方向 (O) : キーボードドックからの出力

6 LAN インターフェース

* キーボードドック付属モデルのみ

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	BI_DA+	送受信データA (+)	I/O
2	BI_DA-	送受信データA (-)	I/O
3	BI_DB+	送受信データB (+)	I/O
4	BI_DC+	送受信データC (+)	I/O
5	BI_DC-	送受信データC (-)	I/O
6	BI_DB-	送受信データB (-)	I/O
7	BI_DD+	送受信データD (+)	I/O
8	BI_DD-	送受信データD (-)	I/O

コネクタ図



87654321

信号名 : -がついているのは、負論理値の信号です

信号方向 (I) : キーボードドックへの入力

信号方向 (O) : キーボードドックからの出力

瞬時電圧低下について

この装置は、一般社団法人 電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策のガイドラインを満足しております。しかし、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合を生じることがあります。

電波障害自主規制について

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

VCCI-B

参照 ▶ 「Q 本製品の近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい」 について 「9章 **3** Q&A集」

FCC Information (**FC**) と EU Declaration of conformity (**CE**) のマークがタブレット背面の型番と製造番号の箇所に表示されている場合は、各規格に対応しています。

「FCC information」について

FCC notice "Declaration of Conformity Information"

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

WARNING : Only peripherals complying with the FCC rules class B limits may be attached to this equipment. Operation with non-compliant peripherals or peripherals not recommended by TOSHIBA is likely to result in interference to radio and TV reception. Shielded cables must be used between the external devices and the computer's USB3.1 Type-C Gen1 port, HDMI® Micro port, as well as the external RGB monitor port, Universal Serial Bus (USB 3.0) ports and HDMI® port on the TOSHIBA Keyboard Dock. Changes or modifications made to this equipment, not expressly approved by TOSHIBA or parties authorized by TOSHIBA could void the user's authority to operate the equipment.

FCC conditions

This device complies with Part 15 of the FCC Rules.

Operation is subject to the following two conditions:

1. This device may not cause harmful interference.
2. This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Contact

Address : TOSHIBA America Information Systems, Inc.
9740 Irvine Boulevard
Irvine, California 92618-1697

Telephone : (949) 583-3000

EU Declaration of Conformityについて



This product is carrying the CE-Mark in accordance with the related European Directives. Responsible for CE-Marking is TOSHIBA EUROPE GMBH, Hammfelddamm 8, 41460 Neuss, Germany. The complete and official EU Declaration of Conformity can be found on TOSHIBA's web site

<http://epps.toshiba-teg.com> on the Internet.

CE compliance

This product is labelled with the CE Mark in accordance with the related European Directives, notably RoHS Directive 2011/65/EU and Electromagnetic Compatibility Directive 2004/108/EC for the notebook and the electronic accessories including the supplied power adapter, the Radio Equipment and Telecommunications Terminal Equipment Directive 1999/5/EC in case of implemented telecommunication accessories and the Low Voltage Directive 2006/95/EC for the supplied power adapter. Furthermore the product complies with the Ecodesign Directive 2009/125/EC (ErP) and its related implementing measures.

This product and the original options are designed to observe the related EMC (Electromagnetic Compatibility) and safety standards. However, TOSHIBA cannot guarantee that this product still observes these EMC standards if options or cables not produced by TOSHIBA are connected or implemented. In this case the persons who have connected/implemented those options/cables have to provide assurance that the system (PC plus options/cables) still fulfils the required standards. To avoid general EMC problems, the following guidance should be noted:

- Only CE marked options should be connected/implemented
- Only best shielded cables should be connected

Working environment

This product was designed to fulfil the EMC (Electromagnetic Compatibility) requirements to be observed for so-called “Residential, commercial and light industry environments”. TOSHIBA do not approve the use of this product in working environments other than the above mentioned “Residential, commercial and light industry environments”.

For example, the following environments are not approved:

- Industrial Environments (e.g. environments where a mains voltage of 380 V three-phase is used)
- Medical Environments
- Automotive Environments
- Aircraft Environments

付録

Any consequences resulting from the use of this product in working environments that are not approved are not the responsibility of TOSHIBA.

The consequences of the use of this product in non-approved working environments may be:

- Interference with other devices or machines in the near surrounding area.
- Malfunction of, or data loss from, this product caused by disturbances generated by other devices or machines in the near surrounding area.

Therefore TOSHIBA strongly recommend that the electromagnetic compatibility of this product should be suitably tested in all non-approved working environments before use. In the case of automobiles or aircraft, the manufacturer or airline respectively should be asked for permission before use of this product.

Furthermore, for general safety reasons, the use of this product in environments with explosive atmospheres is not permitted.

12

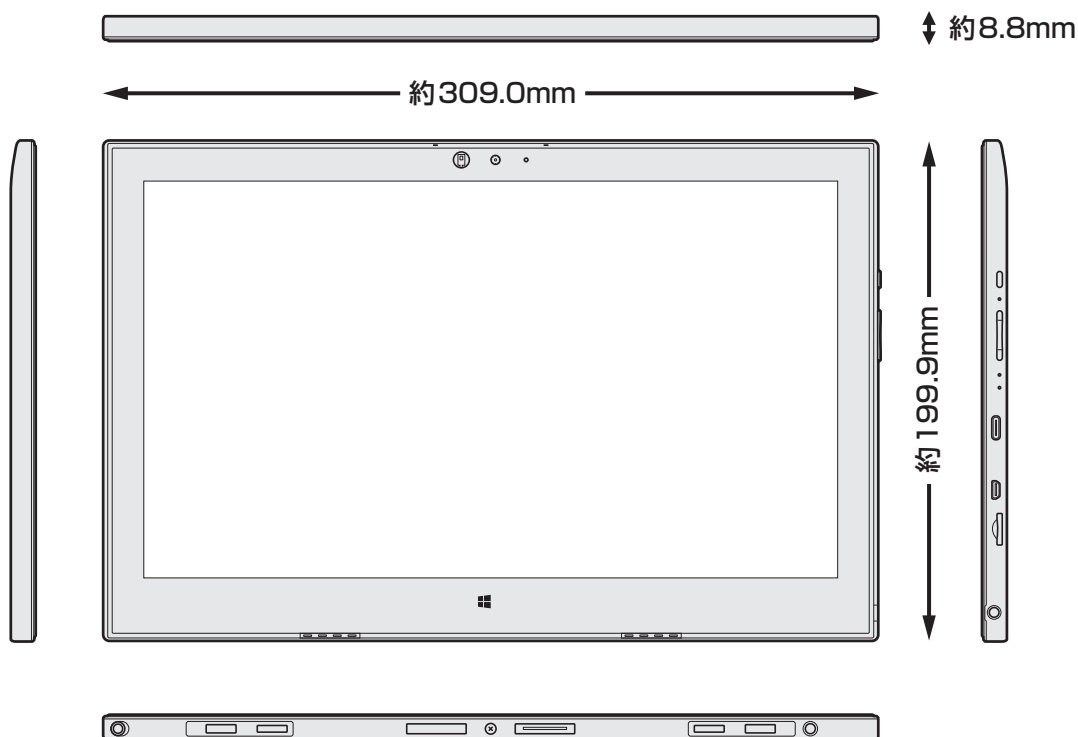
外形寸法図／仕様

タブレットの外形寸法図とキーボードドックの仕様は、次のとおりです。

ご購入のモデルの詳しい仕様については、『****（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を確認してください。

1 タブレットの外形寸法図

* 数値は突起部を含みません。



2 キーボードドックの仕様について

* キーボードドック付属モデルのみ

製品名	キーボードドック
環境条件*1	温度：5℃～35℃ 湿度：20%～80%（ただし、結露しないこと）
外形寸法 （突起部含まず）	約309.0（幅）×213.3（奥行）×21.0（高さ）mm
質量	セカンドバッテリー内蔵モデルの場合：約780g セカンドバッテリーを内蔵していないモデルの場合：約700g

* 1 環境条件に示している温度範囲は、性能を保証するものではありません。

- * 無線LAN機能については、無線LAN機能搭載モデルのみ対象となります。
- * 5GHzの無線LANについては、IEEE802.11a、IEEE802.11acのいずれかをサポートしているモデルのみ対象となります。
- * Bluetooth[®]機能については、Bluetooth[®]機能搭載モデルのみ対象となります。

1 無線LANの規格

無線LAN（無線LANモジュール）には通信の通信速度や使用している周波数帯によって、複数の規格が存在します。

本製品には、IEEE802.11a、IEEE802.11b、IEEE802.11g、IEEE802.11n、IEEE802.11acのすべて、もしくはその一部に準拠した無線LANが搭載されています。

本製品が対応している規格については、「本節 **7** 無線LANモジュールの確認」または『****（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を確認してください。

本書では、搭載された無線LANの種類によって説明が異なる項目があります。

■ 無線LANの仕様

無線周波数帯	IEEE802.11a, IEEE802.11n, IEEE802.11ac	5GHz (5150-5350MHz、および5470-5725MHz)
	IEEE802.11b, IEEE802.11g, IEEE802.11n	2.4GHz (2400-2483MHz)
変調方式	IEEE802.11a, IEEE802.11g, IEEE802.11n, IEEE802.11ac	直交周波数分割多重方式（OFDM方式）
	IEEE802.11b	直接拡散方式（DSSS方式）

無線LANアクセスポイントや無線機器と通信を行うには、どちらも同じ規格に準拠している必要があります。

2 無線LANのサポートする周波数帯域

無線LANがサポートする5GHz帯および2.4GHz帯のチャンネルは、国/地域で適用される無線規制によって異なる場合があります（表「無線IEEE802.11 チャンネルセット」参照）。

■無線IEEE802.11 チャンネルセット

- 5GHz帯：5150-5350MHz および、5470-5725MHz
（IEEE802.11a、IEEE802.11n、IEEE802.11acの場合）

	チャンネルID	周波数
W52	36	5180
	40	5200
	44	5220
	48	5240
W53	52	5260
	56	5280
	60	5300
	64	5320
W56	100	5500
	104	5520
	108	5540
	112	5560
	116	5580
	120	5600
	124	5620
	128	5640
	132	5660
	136	5680
	140	5700

アクセスポイント側のチャンネル（W52/W53/W56）に合わせて、そのチャンネルに自動的に設定されます。



- W52、W53は電波法令により屋外で使用することはできません。
- インフラストラクチャ通信でのアクセスポイントへの接続は、Ch1～Ch13、Ch36、Ch40、Ch44、Ch48、Ch52、Ch56、Ch60、Ch64、Ch100、Ch104、Ch108、Ch112、Ch116、Ch120、Ch124、Ch128、Ch132、Ch136、Ch140で使用できます。

- 2.4GHz帯：2400-2483MHz (IEEE802.11b/g、IEEE802.11nの場合)

チャンネルID	周波数
1	2412
2	2417
3	2422
4	2427
5	2432
6	2437
7	2442
8	2447
9	2452
10	2457
11	2462
12	2467
13	2472



- インフラストラクチャ通信は、Ch1～Ch13で使用できます。
-

3 Bluetooth®の仕様

ワイヤレス通信	通信方式	Bluetooth® Specification Ver.4.1
	無線周波数帯	2.4GHz (2402~2480MHz)
	変調方式	周波数ホッピング方式 2値FSK

4 使用上のご注意

日本では、本製品を第二世代小電力データ通信システムに位置付けており、その使用周波数帯は2,400MHz~2,483.5MHzです。この周波数帯は、移動体識別装置（移動体識別用構内無線局および移動体識別用特定小電力無線局）の使用周波数帯2,427MHz~2,470.75MHzと重複しています。

この周波数では電子レンジなどの産業・科学・医療機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ラインなどで使用されている免許を要する移動体識別用の構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局など（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万が一、この機器と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかにこの機器の使用チャンネルを変更するか、使用場所を変えるか、または機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
3. その他、電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、東芝PCあんしんサポート 使いかた相談窓口へお問い合わせください。

5 無線特性

無線LANおよびBluetooth®の無線特性は、製品を購入した国/地域、購入した製品の種類により異なる場合があります。

多くの場合、無線通信は使用する国/地域の無線規制の対象になります。国/地域によって使用が規制されています。無線ネットワーク機器は、無線免許の必要ない5GHzおよび2.4GHz帯で動作するように設計されていますが、国/地域の無線規制により無線ネットワーク機器の使用に多くの制限が課される場合があります。

無線機器の通信範囲と転送レートには相関関係があります。無線通信の転送レートが低いほど、通信範囲は広くなります。

メモ

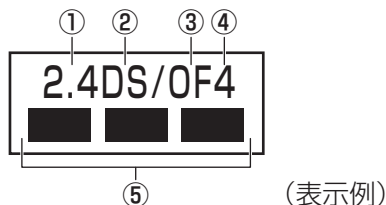
- アンテナの近くに金属面や高密度の固体があると、無線デバイスの通信範囲に影響を及ぼすことがあります。
- 無線信号の伝送路上に無線信号を吸収または反射し得る「障害物」がある場合も、通信範囲に影響を与えます。

6 現品表示、JEITAロゴ表記について

□ 無線LAN

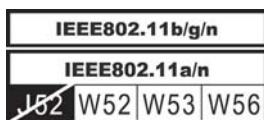
■ 現品表示

本製品または無線LANモジュールには、次に示す現品表示が記載されています。



- ① 2.4 : 2,400MHz帯を使用する無線設備を表す。
- ② DS : 変調方式がDS-SS方式であることを示す。
- ③ OF : 変調方式がOFDM方式であることを示す。
- ④ 4 : 想定される与干渉距離が40m以下であることを示す。
- ⑤ ■ ■ ■ : 2,400MHz～2,483.5MHzの全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味する。

■ JEITAロゴ表記について

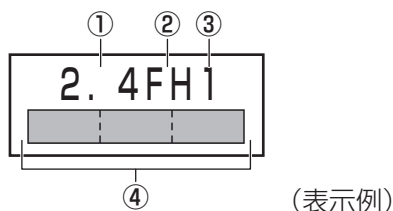


5GHz帯無線LANは、W52/W53/W56チャンネルをサポートしています。

□ Bluetooth®

■ 現品表示




本製品またはBluetooth®モジュールには、次に示す現品表示が記載されています。



- ① 2.4 : 2,400MHz帯を使用する無線設備を表す。
- ② FH : 変調方式がFH-SS方式であることを示す。
- ③ 1 : 想定される与干渉距離が10m以下であることを示す。
- ④ ■■■■■ : 2,400MHz～2,483.5MHzの全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避不可であることを意味する。

7 無線LANモジュールの確認

本製品に搭載された無線LANモジュールの種類は、「デバイス マネージャー」を使って確認できます。

- 1 [スタート] ボタン () をタップする
- 2 [すべてのアプリ] → [Windows システム ツール] → [コントロール パネル] をタップする
- 3 [ ハードウェアとサウンド] → [ デバイス マネージャー] をタップする
[デバイス マネージャー] 画面が表示されます。
- 4 [ネットワーク アダプター] をダブルタップする
アダプター名が表示されます。
- 5 アダプター名を確認する
アダプター名が示すモジュールは、次のようになります。
 - 「Intel(R) Dual Band Wireless-AC 8260」の場合
IEEE802.11a (W52/W53/W56)、IEEE802.11b、IEEE802.11g、IEEE802.11n および IEEE802.11ac (W52/W53/W56) に対応したモジュールです。
また、Bluetooth® 機能も搭載しています (Bluetooth® ワイヤレステクノロジー Ver4.1 に対応しています。)

メモ

- Wi-Fi® 準拠、WPA™/WPA2™ 対応、128bit WEP 対応、256bit AES 対応、TKIP 対応。

8 機器認証について

本製品は、電波法および電気通信事業法の認証を受けた無線設備である場合と、認証を受けた無線設備を搭載している場合があります。

いずれの場合も本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありません。

ただし、以下の行為は電波法の規定に抵触するおそれがありますので、十分にご注意ください。

- 無線設備として認証を受けている場合：本製品を分解・改造して使用すること
- 認証を受けた無線設備を搭載している場合：
組み込まれた無線設備をほかの機器へ流用すること
(本製品に組み込まれた無線設備は、本製品に実装して使用することを前提に、小電力データ通信システムの無線局として工事設計の認証を取得しているため)

認証番号などに関する情報は、「dynabook.com」をご覧ください。

9 お知らせ

無線製品の相互運用性

■無線LAN

本製品に搭載されている無線LANは、Direct Sequence Spread Spectrum (DSSS) / Orthogonal Frequency Division Multiplexing (OFDM) 無線技術を使用する無線LAN製品と相互運用できるように設計されており、次の規格に準拠しています。

- Institute of Electrical and Electronics Engineers (米国電気電子技術者協会) 策定の IEEE802.11 Standard on Wireless LANs (Revision a/b/g/n/ac) (無線LAN標準規格 (版数 a/b/g/n/ac))

■Bluetooth[®]

本製品に搭載されているBluetooth[®]は、Frequency Hopping Spread Spectrum (FHSS) 無線技術を使用するBluetooth[®] ワイヤレステクノロジーを用いた製品と相互運用できるように設計されており、次の規格に準拠しています。

- Bluetooth[®] Special Interest Group 策定のBluetooth[®] Specification Ver.4.1
- Bluetooth[®] Special Interest Groupの定義するBluetooth[®] ワイヤレステクノロジーの Logo認証



- 本製品はすべてのBluetooth[®] ワイヤレステクノロジーを用いた機器との接続動作を確認したものではありません。ご使用にあたっては、Bluetooth[®] ワイヤレステクノロジーを用いた機器対応の動作条件と接続の可否情報を取扱元にご確認ください。

また下記の取り扱い上の注意点があります。

- (1) Bluetooth® Version 1.0B 仕様のBluetooth® ワイヤレステクノロジーを用いた機器とは互換性がありません。
- (2) 2.4GHz帯の無線LANが近距離で使用されていると通信速度の低下または通信エラーが発生する可能性があります。
- (3) Bluetooth®と無線LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いのBluetooth®、無線LANのいずれかの使用を中止してください。

健康への影響

本製品に搭載されている無線LANおよびBluetooth®は、ほかの無線製品と同様、無線周波の電磁エネルギーを放出します。しかしその放出エネルギーは、携帯電話などの無線機器と比べるとはるかに低いレベルにおさえられています。

本製品に搭載されている無線LANおよびBluetooth®の動作は無線周波に関する安全基準と勧告に記載のガイドラインにそっており、安全にお使いいただけるものと考えております。この安全基準および勧告には、学会の共通見解と、多岐にわたる研究報告書を継続的に審査、検討している専門家の委員会による審議結果がまとめられています。

ただし周囲の状況や環境によっては、建物の所有者または組織の責任者が無線LANおよびBluetooth®の使用を制限する場合があります。次にその例を示します。

- 飛行機の中で無線LANおよびBluetooth®を用いた装置を使用する場合
- ほかの装置類またはサービスへの電波干渉が認められるか、有害であると判断される場合

個々の組織または環境（空港など）において無線機器の使用に関する方針がよくわからない場合は、無線通信機能をONにする前に、個々の組織または施設環境の管理者に対して、本製品の使用可否について確認してください。

規制に関する情報

本製品に搭載されている無線LANのインストールと使用に際しては、必ず製品付属している説明書に記載されている製造元の指示に従ってください。本製品は、無線周波基準と安全基準に準拠しています。

10 Regulatory statements

● General

This product complies with any mandatory product specification in any Country/ Region where the product is sold. In addition, the product complies with the following.

● European Union (EU) and EFTA

This equipment complies with the R&TTE directive 1999/5/EC and has been provided with the CE mark accordingly.

● Canada - Industry Canada (IC)

This device complies with RSS 210 of Industry Canada.

Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause interference, and (2) this device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of this device.

L' utilisation de ce dispositif est autorisée seulement aux conditions suivantes : (1) il ne doit pas produire de brouillage et (2) l' utilisateur du dispositif doit être prêt à accepter tout brouillage radioélectrique reçu, même si ce brouillage est susceptible de compromettre le fonctionnement du dispositif.

The term "IC" before the equipment certification number only signifies that the Industry Canada technical specifications were met.

● USA - Federal Communications Commission (FCC)

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy. If not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation.

If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by tuning the equipment off and on, the user is encouraged to try and correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the distance between the equipment and the receiver.
- Connect the equipment to outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

TOSHIBA is not responsible for any radio or television interference caused by unauthorized modification of the devices included with this Bluetooth® Card from TOSHIBA, or the substitution or attachment of connecting cables and equipment other than specified by TOSHIBA.

The correction of interference caused by such unauthorized modification, substitution or attachment will be the responsibility of the user.

Caution: Exposure to Radio Frequency Radiation.**■ Wireless LAN**

The radiated output power of the Wireless LAN is far below the FCC radio frequency exposure limits. Nevertheless, the Wireless LAN shall be used in such a manner that the potential for human contact during normal operation is minimized.

In the usual operating configuration, the distance between the antenna and the user should not be less than 20cm. Please refer to the PC user's manual for the details regarding antenna location.

The installer of this radio equipment must ensure that the antenna is located or pointed such that it does not emit RF field in excess of Health Canada limits for the general population; consult Safety Code 6, obtainable from Health Canada's website

www.hc-sc.gc.ca/

■ Bluetooth®

The radiated output power of the Bluetooth® Card from TOSHIBA is far below the FCC radio frequency exposure limits. Nevertheless, the Bluetooth® Card from TOSHIBA shall be used in such a manner that the potential for human contact during normal operation is minimized. The antenna(s) used in this device are located at the upper/lower edge of the LCD screen, and this device has been tested as portable device as defined in Section 2.1093 of FCC rules when the LCD screen is rotated 180 degree and covered the keyboard area. In addition, Bluetooth® has been tested with Wireless LAN transceiver for co-location requirements. This device and its antenna(s) must not be co-located or operating in conjunction with any other antenna or transmitter.

The installer of this radio equipment must ensure that the antenna is located or pointed such that it does not emit RF field in excess of Health Canada limits for the general population; consult Safety Code 6, obtainable from Health Canada's website

www.hc-sc.gc.ca/

● Taiwan

Article 12 Without permission granted by the NCC, any company, enterprise, or user is not allowed to change frequency, enhance transmitting power or alter original characteristic as well as performance to a approved low power radio-frequency devices.

Article 14 The low power radio-frequency devices shall not influence aircraft security and interfere legal communications; If found, the user shall cease operating immediately until no interference is achieved.

The said legal communications means radio communications is operated in compliance with the Telecommunications Act.

The low power radio-frequency devices must be susceptible with the interference from legal communications or ISM radio wave radiated devices.

● Europe

■ Wireless LAN

Restrictions for Use of 2.4GHz Frequencies in European Community Countries

België/ Belgique:	For private usage outside buildings across public grounds over less than 300m no special registration with IBPT/BIPT is required. Registration to IBPT/BIPT is required for private usage outside buildings across public grounds over more than 300m. For registration and license please contact IBPT/BIPT. Voor privé-gebruik buiten gebouw over publieke grond over afstand kleiner dan 300m geen registratie bij BIPT/IBPT nodig; voor gebruik over afstand groter dan 300m is wel registratie bij BIPT/IBPT nodig. Voor registratie of licentie kunt u contact opnemen met BIPT. Dans le cas d'une utilisation privée, à l'extérieur d'un bâtiment, au-dessus d'un espace public, aucun enregistrement n'est nécessaire pour une distance de moins de 300m. Pour une distance supérieure à 300m un enregistrement auprès de l'IBPT est requise. Pour les enregistrements et licences, veuillez contacter l'IBPT.
Deutschland:	License required for outdoor installations. Check with reseller for procedure to follow. Anmeldung im Outdoor-Bereich notwendig, aber nicht genehmigungspflichtig. Bitte mit Händler die Vorgehensweise abstimmen.
France:	Restricted frequency band: only channels 1 to 7 (2400 MHz and 2454 MHz respectively) may be used outdoors in France. Bande de fréquence restreinte : seuls les canaux 1-7 (2400 et 2454 MHz respectivement) doivent être utilisés endroits extérieur en France. Vous pouvez contacter l'Autorité de Régulation des Télécommunications (http://www.art-telecom.fr) pour la procédure à suivre.
Italia:	License required for indoor use. Use with outdoor installations not allowed. E'necessaria la concessione ministeriale anche per l'uso interno. Verificare con i rivenditori la procedura da seguire.
Nederland	License required for outdoor installations. Check with reseller for procedure to follow. Licentie verplicht voor gebruik met buitenantennes. Neem contact op met verkoper voor juiste procedure.

To remain in conformance with European spectrum usage laws for Wireless LAN operation, the above 2.4GHz channel limitations apply for outdoor usage. The user should use the Wireless LAN utility to check the current channel of operation. If operation is occurring outside of the allowable frequencies for outdoor use, as listed above, the user must contact the applicable national spectrum regulator to request a license for outdoor operation.

11 使用できる国／地域について

海外で無線通信機能を使用する場合は、使用される国／地域の無線規格を取得している必要があります。

無線規格を取得している国／地域に関する情報は、「dynabook.com」をご覧ください。

また、無線規格を取得していない国／地域では、本製品の無線通信機能をOFFにしてください。

参照▶ 無線通信機能のOFFについて「3章 **2** 無線LANを使う」

OpenSSLについて

LICENSE ISSUES

The OpenSSL toolkit stays under a dual license, i.e. both the conditions of the OpenSSL License and the original SSLeay license apply to the toolkit. See below for the actual license texts. Actually both licenses are BSD-style Open Source licenses. In case of any license issues related to OpenSSL please contact openssl-core@openssl.org.

OpenSSL License

Copyright (c) 1998-2011 The OpenSSL Project. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgment:
"This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (<http://www.openssl.org/>)"
4. The names "OpenSSL Toolkit" and "OpenSSL Project" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission. For written permission, please contact openssl-core@openssl.org.
5. Products derived from this software may not be called "OpenSSL" nor may "OpenSSL" appear in their names without prior written permission of the OpenSSL Project.
6. Redistributions of any form whatsoever must retain the following acknowledgment:
"This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (<http://www.openssl.org/>)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OpenSSL PROJECT "AS IS" AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE OpenSSL PROJECT OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com). This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

Original SSLeay License

Copyright (C) 1995-1998 Eric Young (eay@cryptsoft.com) All rights reserved.

This package is an SSL implementation written by Eric Young (eay@cryptsoft.com).

The implementation was written so as to conform with Netscapes SSL.

This library is free for commercial and non-commercial use as long as the following conditions are aheared to. The following conditions apply to all code found in this distribution, be it the RC4, RSA, lhash, DES, etc., code; not just the SSL code. The SSL documentation included with this distribution is covered by the same copyright terms except that the holder is Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

Copyright remains Eric Young's, and as such any Copyright notices in the code are not to be removed.

If this package is used in a product, Eric Young should be given attribution as the author of the parts of the library used.

This can be in the form of a textual message at program startup or in documentation (online or textual) provided with the package.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement:
"This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com)"
The word 'cryptographic' can be left out if the routines from the library being used are not cryptographic related :-).
4. If you include any Windows specific code (or a derivative thereof) from the apps directory (application code) you must include an acknowledgement:
"This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY ERIC YOUNG "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

The licence and distribution terms for any publically available version or derivative of this code cannot be changed. i.e. this code cannot simply be copied and put under another distribution licence [including the GNU Public Licence.]

FreeTypeについて

The FreeType Project LICENSE

2006-Jan-27

Copyright 1996-2002, 2006 by
David Turner, Robert Wilhelm, and Werner Lemberg

□ Introduction

The FreeType Project is distributed in several archive packages; some of them may contain, in addition to the FreeType font engine, various tools and contributions which rely on, or relate to, the FreeType Project.

This license applies to all files found in such packages, and which do not fall under their own explicit license. The license affects thus the FreeType font engine, the test programs, documentation and makefiles, at the very least.

This license was inspired by the BSD, Artistic, and IJG (Independent JPEG Group) licenses, which all encourage inclusion and use of free software in commercial and freeware products alike. As a consequence, its main points are that:

- We don't promise that this software works. However, we will be interested in any kind of bug reports. ('as is' distribution)
- You can use this software for whatever you want, in parts or full form, without having to pay us. ('royalty-free' usage)
- You may not pretend that you wrote this software. If you use it, or only parts of it, in a program, you must acknowledge somewhere in your documentation that you have used the FreeType code. ('credits')

We specifically permit and encourage the inclusion of this software, with or without modifications, in commercial products.

We disclaim all warranties covering The FreeType Project and assume no liability related to The FreeType Project.

Finally, many people asked us for a preferred form for a credit/disclaimer to use in compliance with this license. We thus encourage you to use the following text:

Portions of this software are copyright (C)<year> The FreeType Project (www.freetype.org). All rights reserved.

Please replace <year> with the value from the FreeType version you actually use.

☐ Legal Terms

0. Definitions

Throughout this license, the terms `package`, `FreeType Project`, and `FreeType archive` refer to the set of files originally distributed by the authors (David Turner, Robert Wilhelm, and Werner Lemberg) as the `FreeType Project`, be they named as alpha, beta or final release.

`You` refers to the licensee, or person using the project, where `using` is a generic term including compiling the project's source code as well as linking it to form a `program` or `executable`.

This program is referred to as `a program using the FreeType engine`.

This license applies to all files distributed in the original FreeType Project, including all source code, binaries and documentation, unless otherwise stated in the file in its original, unmodified form as distributed in the original archive.

If you are unsure whether or not a particular file is covered by this license, you must contact us to verify this.

The FreeType Project is copyright (C) 1996-2000 by David Turner, Robert Wilhelm, and Werner Lemberg. All rights reserved except as specified below.

1. No Warranty

THE FREETYPE PROJECT IS PROVIDED `AS IS' WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. IN NO EVENT WILL ANY OF THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY DAMAGES CAUSED BY THE USE OR THE INABILITY TO USE, OF THE FREETYPE PROJECT.

2. Redistribution

This license grants a worldwide, royalty-free, perpetual and irrevocable right and license to use, execute, perform, compile, display, copy, create derivative works of, distribute and sublicense the FreeType Project (in both source and object code forms) and derivative works thereof for any purpose; and to authorize others to exercise some or all of the rights granted herein, subject to the following conditions:

- Redistribution of source code must retain this license file (`FTL.TXT`) unaltered; any additions, deletions or changes to the original files must be clearly indicated in accompanying documentation. The copyright notices of the unaltered, original files must be preserved in all copies of source files.
- Redistribution in binary form must provide a disclaimer that states that the software is based in part of the work of the FreeType Team, in the distribution documentation. We also encourage you to put an URL to the FreeType web page in your documentation, though this isn't mandatory.

These conditions apply to any software derived from or based on the FreeType Project, not just the unmodified files. If you use our work, you must acknowledge us. However, no fee need be paid to us.

3. Advertising

Neither the FreeType authors and contributors nor you shall use the name of the other for commercial, advertising, or promotional purposes without specific prior written permission.

We suggest, but do not require, that you use one or more of the following phrases to refer to this software in your documentation or advertising materials: `FreeType Project', `FreeType Engine', `FreeType library', or `FreeType Distribution'.

As you have not signed this license, you are not required to accept it. However, as the FreeType Project is copyrighted material, only this license, or another one contracted with the authors, grants you the right to use, distribute, and modify it.

Therefore, by using, distributing, or modifying the FreeType Project, you indicate that you understand and accept all the terms of this license.

4. Contacts

There are two mailing lists related to FreeType:

- freetype@nongnu.org

Discusses general use and applications of FreeType, as well as future and wanted additions to the library and distribution.

If you are looking for support, start in this list if you haven't found anything to help you in the documentation.

- freetype-devel@nongnu.org

Discusses bugs, as well as engine internals, design issues, specific licenses, porting, etc.

Our home page can be found at

<http://www.freetype.org>